

山口部	山口市	宇都部	吉敷郡秋穂町	防府市	德山市	熊毛郡平生町	岩國市	大島郡小松町	大津郡深川村	萩市	下關市	厚狹郡船木町
山口部	山口市	宇都部	吉敷郡秋穂町	防府市	德山市	熊毛郡平生町	岩國市	大島郡小松町	大津郡深川村	萩市	下關市	厚狹郡船木町
山口部	山口市	宇都部	吉敷郡秋穂町	防府市	德山市	熊毛郡平生町	岩國市	大島郡小松町	大津郡深川村	萩市	下關市	厚狹郡船木町

山口部	山口市	宇都部	吉敷郡秋穂町	防府市	德山市	熊毛郡平生町	岩國市	大島郡小松町	大津郡深川村	萩市	下關市	厚狹郡船木町
山口部	山口市	宇都部	吉敷郡秋穂町	防府市	德山市	熊毛郡平生町	岩國市	大島郡小松町	大津郡深川村	萩市	下關市	厚狹郡船木町
山口部	山口市	宇都部	吉敷郡秋穂町	防府市	德山市	熊毛郡平生町	岩國市	大島郡小松町	大津郡深川村	萩市	下關市	厚狹郡船木町

〔支會例〕

山口部	山口市	宇都部	吉敷郡秋穂町	防府市	德山市	熊毛郡平生町	岩國市	大島郡小松町	大津郡深川村	萩市	下關市	厚狹郡船木町
山口部	山口市	宇都部	吉敷郡秋穂町	防府市	德山市	熊毛郡平生町	岩國市	大島郡小松町	大津郡深川村	萩市	下關市	厚狹郡船木町
山口部	山口市	宇都部	吉敷郡秋穂町	防府市	德山市	熊毛郡平生町	岩國市	大島郡小松町	大津郡深川村	萩市	下關市	厚狹郡船木町

山口部	山口市	宇都部	吉敷郡秋穂町	防府市	德山市	熊毛郡平生町	岩國市	大島郡小松町	大津郡深川村	萩市	下關市	厚狹郡船木町
山口部	山口市	宇都部	吉敷郡秋穂町	防府市	德山市	熊毛郡平生町	岩國市	大島郡小松町	大津郡深川村	萩市	下關市	厚狹郡船木町
山口部	山口市	宇都部	吉敷郡秋穂町	防府市	德山市	熊毛郡平生町	岩國市	大島郡小松町	大津郡深川村	萩市	下關市	厚狹郡船木町

店轄統	店	理	代	店轄統
日本銀行 京城代理店	臺花澎屏高臺嘉南彰臺新桃宜基淡	東港湖東雄南義投化中竹園蘭隆水	臺	日本銀行 臺北代理店
	臺東鹿臺東街 花蓮港臨花蓮港街 高雄州澎湖郡馬公街 高雄州屏東市 高雄州高雄市 臺南州臺南市 臺南州嘉義市 臺中州南投郡南投街 臺中州彰化市 臺中州臺中市 新竹州新竹市 新竹州桃園郡桃園街 臺北州宜蘭郡宜蘭街 臺北州基隆市 臺北州淡水郡淡水街	臺	臺北市	

沖繩縣
宮古郡平良村
八重山郡石垣村

店	理	代
羅城元成春新鎮平海晉釜鎮大順光木全群大公清仁	南津山鏡川州浦壤州州山海邱天州浦州山田州州川	朝
鮮	京畿道仁川府 忠清北道清州郡清州面 忠清南道公州郡公州面 忠清南道大田郡大田面 全羅北道群山府 全羅北道全州郡全州面 全羅南道木浦府 全羅南道光州郡光州面 全羅南道順天郡順天邑 慶尙北道大邱府 慶尙南道昌原郡鎮海面 慶尙南道釜山府 慶尙南道晉州郡晉州面 黃海道海州郡海州面 平安南道平壤府 平安南道鎮南浦府 平安北道新義州府 江原道春川郡春川面 咸鏡南道咸興郡咸興面 咸鏡南道元山府 咸鏡北道咸津郡咸津面 咸鏡北道鏡城郡羅南面	

〔文會例〕

〔文會例〕

●日本銀行代理店ノ上海開設方ノ件

○會計課長移牒官會二百十五號 昭和十三年十月二十六日
收支ヲ執行スル部局長
日本銀行代理店ノ上海開設方大藏省理財局長ヨリ別紙寫ノ通牒有之タルニ付右御了知相成度此段移牒ス
(別紙寫)

○大藏省理財局長通牒藏理第三千三百三十四號 昭和十三年十月十八日
國庫金並政府有價證券ヲ取扱フ日本銀行代理店ヲ今般中華民國上海ニ設置シ昭和十三年十月二十四日ヨリ之ガ取扱ヲ爲サシムルコトニ相成候ニ付此段及通牒候也
追而本件ハ官報ニ告示ノ手續ヲ探ラザルニ付御合置相成度、尙日本銀行ニ於テハ右代理店開設ノ日タル昭和十三年十月二十四日ヨリ杭州、蘇州及南京ニ右代理店ノ派出所ヲ開設シ同代理店事務ヲ補助セシムル趣ニ付申添候

●日本銀行代理店設置方ノ件

○大藏省理財局長通牒藏理第五千二百五十四號 昭和十三年十二月二十一日
文部大臣官房會計課長
國庫金並政府有價證券ヲ取扱フ日本銀行代理店ヲ今般中華民國徐州及廣東ニ設置シ昭和十四年一月一日ヨリ之ガ取扱ヲ爲サシムルコトニ相成候ニ付此段及通牒候也

店	理	代	店轄統
公北佳牡海承錦齊哈安鐵奉遼	主安木丹拉承德州齊々哈爾濱東縣嶺天陽	滿洲國遼陽 滿洲國奉天 滿洲國鐵嶺 滿洲國安東 滿洲國哈爾濱 滿洲國齊々哈爾濱 滿洲國錦州 滿洲國承德 滿洲國海拉爾 滿洲國牡丹江 滿洲國佳木斯 滿洲國北安鎮 滿洲國公主嶺	日本銀行 新京代理店 新京

備考
●印ハ鐵道ニ關スル收支金ニ限リ取扱ヲ爲ス特設代理店ナリ

第三章 出納 第一節 通則

追而本件ハ官報ニ告示ノ手續ヲ探ラザルニ付御合置相成度

●日本銀行上海代理店ノ派出所設置方ノ件

○會計課長移牒官會二百四十九號 昭和十四年一月十日 中央氣象臺長

日本銀行上海代理店ノ派出所ヲ漢口及九江ニ設置方大藏省理財局長ヨリ別紙寫ノ通牒有之タルニ付此段移牒ス

○大藏省理財局長通牒第五千四百三十三號 昭和十三年十二月二十

六日 會計課長

今般日本銀行總裁ヨリ中支漢口及九江ニ同行上海代理店ノ派出所ヲ設置シ明年一月一日ヨリ國庫金ノ出納及政府有價證券ノ受拂ニ關スル事務ノ

ニ限リ取扱ヲ可致旨届出有之候ニ付此段及通牒候也

●日本銀行代理店派出所設置方ノ件

○會計課長移牒官會三十一號 昭和十四年二月二十四日 中央氣象臺

日本銀行代理店派出所設置方ニ關シ大藏省理財局長ヨリ別紙寫ノ通牒有之タルニ付此段移牒ス

○大藏省理財局長通牒第六百五號 昭和十四年二月三日 會計課長

今般日本銀行總裁ヨリ支那河北省保定及河南省新鄉ニ同行石家莊代理店

派出所ヲ、山西省臨汾及運城ニ同行太原代理店派出所ヲ設置シ來ル二月十五日ヨリ國庫金ノ出納及政府有價證券ノ受拂ニ關スル事務ノミニ限リ取扱ヲ可致旨届出有之候ニ付此段及通牒候也

●郵便官署ヲシテ歳入金ノ受入及歳出金ノ替替拂渡ニ關スル事務ヲ取扱ハシムルノ件

○勅令第六號 大正四年一月二十八日 改正 大正十一年第六號

郵便官署ハ各官廳ノ歳收スル歳入金ノ受入及日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ノ所在地ニ於テ仕拂ヲ要スル歳出金ノ替替拂渡ニ關スル事務ヲ取扱フコトヲ得其ノ範圍及取扱ニ關スル規程ハ逡信大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

附則 本令ハ大正四年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (大正十一年勅令第六十六號) 本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●郵便官署ヲシテ歳入金ノ受入及歳出金ノ替替拂ヲ取扱ハシムル件ニ關スル規程

○大藏省令第一號 大正四年一月二十八日 改正 大正四年第一號、一〇年第二號、一一年第二號、昭和六年第一號、九年第一號、一三年第六號、一五年第三號

大正四年勅令第六號ニ依リ郵便官署ヲシテ歳入金ノ受入及歳出金ノ替替拂

〔文會例〕

ヲ取扱ハシムル件ニ關スル規程左ノ通相定ム

第一條 大正四年勅令第六號ニ依リ郵便官署ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得ル歳入金ノ受入及歳出金ノ替替拂ハ左ニ掲タルモノニ限ル

一 稅務署ノ直接歳收スル國稅金

二 北海道廳、府縣、稅務署、稅務監督局ノ收納スル國庫ノ諸收入金

三 收入官吏カ日本銀行(本店、支店又ハ代理店)ヲ謂フ以下同シ)ニ拂込ムヘキ前項三號ノ收入金

三ノ二 專賣官署ノ收入官吏カ日本銀行ニ拂込ムヘキ煙草專賣ニ關スル收入金

三ノ三 保險院簡易保險局ノ收入官吏カ日本銀行ニ拂込ムヘキ簡易保險健康相談ニ關スル收入金

四 市町村カ日本銀行ニ送付スヘキ國稅金

四ノ二 徵收義務者(國稅徵收法ノ規定ニ依リ市町村ニ於テ徵收スル場合ヲ除ク以下同シ)カ日本銀行ニ拂込ムヘキ國稅金

五 日本銀行所在地外ニ於テ債主ニ支拂ヲ要スル歳出金

第二條 歳入徵收官(分掌官ヲ含ム以下同シ)ハ其ノ在勤廳所在地ノ道廳府縣管内ニ在ル納人ニ對シ前條第一號乃至第二號ノ二ノ國稅金又ハ諸收入金ヲ徵收セムトスルトキハ納人ニ對シ第一號書式ノ納稅告知書又ハ第二號書式ノ納稅告知書ヲ發スルコトヲ得但シ歳入徵收官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ郵便局ヲ特ニ指定スルコトヲ得

納人カ前項ノ道廳府縣管外ニ在ルトキハ其ノ所在地又ハ最寄ノ郵便局ヲ

第三條 出納 第一節 通則

指定スヘシ但シ歳入徵收官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ他ノ郵便局ヲ指定スルコトヲ得

歳入徵收官在勤廳所在地ノ道廳府縣管内ニ在ル納人ニシテ當該道廳府縣管外ノ郵便局ニ歳入金ヲ納付セムトスルトキハ前項ヲ準用ス

第三條 國稅滯納者ニ對シテ督促狀ヲ發スル場合ニ於テハ第三號及第四號書式ノ納付書ヲ督促狀ニ添付スヘシ但シ收稅官吏ノ納稅告知書ヲ發シタル税金ニ付テハ第三號書式ノ納付書ヲ添付スルコトヲ要セス

健康保險ニ關スル諸收入金ノ滯納者ニ對シテ督促狀ヲ發スル場合ニ於テハ第四號書式ノ納付書ヲ督促狀ニ添付スヘシ

第四條 納人前二條ノ納稅告知書、納入告知書又ハ納付書ヲ受ケタルトキハ現金ニ納稅告知書、納入告知書又ハ納付書ヲ添ヘ指定ノ場所ニ納付スヘシ

第五條 收入官吏カ領收シタル收入金ハ第五號書式ノ現金拂込書ニ依リ所屬歳入徵收官在勤廳所在地ノ道廳府縣管内ニ在ル便宜ノ郵便局ニ拂込ムコトヲ得但シ專賣官署及保險院簡易保險局ノ收入官吏カ領收シタル收入金ハ其ノ在勤廳所在地ノ道廳府縣管内ニ在ル便宜ノ郵便局ニ拂込ムコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ出納官吏事務規程第十八條乃至第二十條ノ規定ニ拘ハラス其ノ領收シタル金額ハ毎日之ヲ取據メ翌日限之ヲ拂込ムヘシ

第六條 市町村ニ對シ稅務署ノ發付スル納額通知書ニ指定スヘキ國稅金ノ送付場所ニ付テハ第二條ノ規定ヲ準用ス

市町村ハ其ノ徵收シタル國稅金ニ第六號書式ノ送付書ヲ添ヘ前項指定ノ場所ニ送付スヘシ

第三章 出納 第一節 通則

第六條ノ二 徵收義務者ハ其ノ徵收シタル國税金ニ第六號ノ二書式ノ拂込書並ニ所定ノ徵收高計算書及明細書ヲ添ヘ其ノ所在地ノ道廳府縣管内ニ在ル便宜ノ郵便局ニ拂込ムコトヲ得但シ歳入徵收官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ豫メ拂込郵便局ヲ指定スルコトヲ得

第七條 郵便局ニ於テ納入又ハ市町村ヨリ領收シタル國税金又ハ諸收入金ニ付テハ歳入徵收官ハ取纏郵便局ヨリ送付スル領收濟通知書ニ依リ徵收簿ニ收入濟額ヲ登記スヘシ

第七條ノ二 郵便局ニ於テ徵收義務者ヨリ領收シタル國税金ニ付テハ歳入徵收官ハ取纏郵便局ヨリ送付スル領收濟通知書及徵收高計算書ニ依リ徵收簿ニ測定濟額及收入濟額ヲ登記スヘシ

第八條 收入官吏ハ第五條ニ依リ郵便局ニ拂込タル金額ハ日本銀行ニ拂込タル金額ト區別シテ現金拂込仕譯書ヲ作成シ歳入徵收官ニ報告スヘシ

第九條 歳入徵收官ハ前條ノ報告ニ依リ徵收報告書現金拂込仕譯欄ニ登記シ郵便局出納官吏ノ取扱ヒタル現金振替拂込仕譯ニ付テハ前月迄拂込未済及差引翌月へ越高ヲ收入官吏ノ現金拂込仕譯中各相當欄ノ次ニ外書登記スヘシ

第十條 日本銀行ハ取纏郵便局出納官吏ヨリ第七號書式ノ各應歳入金振替拂込書ニ歳入金振替證券ヲ添ヘ拂込ヲ受ケタルトキハ歳入ニ受入ノ手續ヲ爲スヘシ

日本銀行ハ前項ノ振替證券ニ依リ日本銀行本店ニ振替廻送ノ計算ヲ爲シ振替證券ハ之ヲ日本銀行本店ニ送付スヘシ

〔文會例〕

第十一條 日本銀行本店ハ前條歳入金振替證券ヲ貯金局出納官吏ニ提出シ該證券金額ニ相當スル小切手ノ交付ヲ受ケ日本銀行ヨリ振替廻送受入ノ計算ヲ爲スヘシ

第十一條ノ二 支出官ハ日本銀行所在地外ニ於テ債主ニ對シ其ノ所在地又ハ最寄ノ郵便局ヲシテ現金ノ支拂ヲ爲サシムルコトヲ得朝鮮、臺灣、樺太、關東州、滿洲、青島及天津ニ在ル支出官（以下單ニ朝鮮等ノ支出官ト謂フ）内地ノ債主ニ支拂ヲ爲ス場合亦同シ

第十二條 支出官前條ノ規定ニ依リ支拂ヲ爲サシムルトキハ其ノ振出ス小切手ノ裏面ニ受取人ノ住所、氏名及何地郵便局ニ於テ支拂ヲ要スル旨ヲ記載シ之ヲ其ノ小切手ノ支拂店ニ送付シ第八號書式ノ郵便局報歳出金支拂通知書ヲ債主ニ送付スヘシ但シ朝鮮等ノ支出官ニ在リテハ該通知書中ノ取纏郵便局ニハ逕信大臣ノ指定スル郵便局ヲ記載シ欄外餘白ニ「特扱」ノ印ヲ押捺スルモノトス

第十三條 日本銀行前條ノ小切手ヲ受ケタルトキハ第九號書式ノ各應歳出金繰替拂案内書ヲ作成シ之ヲ指定ノ拂渡郵便局ニ送付スヘシ但シ朝鮮、臺灣、樺太、關東州、滿洲、青島及天津ニ在ル日本銀行（以下單ニ朝鮮等ニ在ル日本銀行ト謂フ）ハ該繰替拂案内書ノ送付ト同時ニ適宜ノ通知書ヲ日本銀行本店ニ送付スヘシ

第十四條 日本銀行ハ取纏郵便局ヨリ各郵便局ニ於ケル繰替拂渡濟ノ郵便局報歳出金支拂通知書並日計表正本ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ歳出金ノ計算及日本銀行本店ヨリ振替廻送ノ計算ヲ爲シ之ニ相當スル振

〔文會例〕

サル歳出金仕拂通知書ノ支拂ニ付之ヲ準用ス

本令施行ノ際現存スル用紙ハ當分ノ内之ヲ取繕ヒ使用スルコトヲ得

第一號書式 用紙寸法各片縱六寸 輪廓寸法各片縱四寸五分

第何號	何年度	納人	住所	何年何期分	何稅	稅務署
大藏省主管	租稅					
一金何程						

印附日收領 (目)

第何號	何年度	納人	住所	何年何期分	何稅	稅務署
大藏省主管	租稅					
一金何程						
一納付場所						
何年何月何日						

何年何月何日 日本銀行本店、支店、代理店、日本銀行本店、支店、代理店、何稅務署又ハ何府縣道廳管内郵便局一又ハ何府縣道廳管内郵便局長

官氏 名印

印附日收領 (目)

第三章 出納 第一節 通則

替拂證券ヲ作成シ取纏郵便局ニ送付スヘシ

前項ノ郵便局報歳出金支拂通知書ニシテ第十二條但書ノ規定ニ依ルモノナルトキハ日本銀行本店ハ之ヲ朝鮮等ニ在ル日本銀行ニ送付スヘシ

第十四條ノ二 日本銀行國庫金取扱規程第三十三條及第四十條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十五條 日本銀行本店ハ貯金局出納官吏ヨリ第十四條振替拂證券ニ預託金拂込書ヲ添ヘ振替拂込ノ請求ヲ受ケタルトキハ之カ振替ノ計算ヲ爲シ歳出ヲ取扱ヒタル日本銀行ニ對シ振替廻送拂出ノ計算ヲ爲スヘシ

第十六條 朝鮮等ニ在ル日本銀行第十四條第二項ノ規定ニ依リ送付ヲ受ケタル郵便局報歳出金支拂通知書ハ之ヲ調査シテ前條ノ手續ヲ爲シ日本銀行本店トノ間ニ於ケル振替受拂ノ手續ヲ爲スヘシ

第十七條 本令ニ定ムルモノヲ除クノ外支出官ノ郵便局ヲシテ現金ノ支拂ヲ爲サシムル場合ノ取扱手續ニ付テハ支出官事務規程第九條乃至第十二條、第十四條、第十五條、第十七條及第二十九條乃至第三十六條ノ規定ヲ準用ス

附則 本令ハ大正四年一月一勅令第六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (大正十一年大藏省令第二十一號) 本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

支出官事務規程第四十條及第四十一條ノ規定ハ本令施行前其ノ支拂ヲ了セ

第三章 出納 第一節 通則

領收通知書

第何號	何年度	納人	住所	稅務署名
大藏省主管	租	稅	何	何
一金何程	何年何期分	何	何	何
何日本銀行 何 店團				
何稅務署收入官吏 何 氏 名團				
何郵便局出納官吏又ハ何郵便局出納官吏所屬出納員 何 氏 名團				
取經郵便局				
印附日收領				

領收證書

第何號	何年度	納人	住所	稅務署名
大藏省主管	租	稅	何	何
一金何程	何年何期分	何	何	何
何日本銀行 何 店團				
何稅務署收入官吏 何 氏 名團				
何郵便局出納官吏又ハ何郵便局出納官吏所屬出納員 何 氏 名團				
取經郵便局				
印附日收領				

備考
一 收入傳票領收通知書領收證書用紙ノ金額年度科目取經郵便局名等ハ總テ納稅告知書發行者ニ於テ記入スルモノトス
二 地方分與稅分與金特別會計歲入金ニ付テハ「大藏省主管」ノ上ニ

〔文會例〕

領收證書

第何號	何年度	納人	住所	名
大藏省主管	取	取	何	何
一金何程	何年何期分	何	何	何
但何々(收入ノ目的ヲ記載ス)				
何日本銀行 何 店團				
何應收入官吏 何 氏 名團				
何郵便局出納官吏又ハ何郵便局出納官吏所屬出納員 何 氏 名團				
取經郵便局				
印附日收領				

領收通知書

第何號	何年度	納人	住所	名
大藏省主管	取	取	何	何
一金何程	何年何期分	何	何	何
但何々(收入ノ目的ヲ記載ス)				
何日本銀行 何 店團				
何應收入官吏 何 氏 名團				
何郵便局出納官吏又ハ何郵便局出納官吏所屬出納員 何 氏 名團				
取經郵便局				
印附日收領				

備考

一 收入傳票領收通知書領收證書用紙ノ金額年度科目取經郵便局名等ハ總テ納稅告知書發行者ニ於テ記入スルモノトス
二 用紙ハ下方ノ一邊ヲ著色(健康保險ニ關スル諸收入金ニ付テハ赤其ノ他ハ青)スルモノトス

第三章 出納 第一節 通則

收入傳票

第何號	何年度	納人	住所	名
大藏省主管	取	取	何	何
一金何程	何年何期分	何	何	何
何日本銀行 何 店團				
何應收入官吏 何 氏 名團				
何郵便局出納官吏又ハ何郵便局出納官吏所屬出納員 何 氏 名團				
取經郵便局				
印附日收領				

納告知書

第何號	何年度	納人	住所	名
大藏省主管	取	取	何	何
一金何程	何年何期分	何	何	何
但何々(收入ノ目的ヲ記載ス)				
何日本銀行本店、支店又ハ代理店(日本銀行本店、支店又ハ代理店)收入官吏官氏名又ハ何府縣道何郵便局				
何府縣道何郵便局				
何年何月何日 發行者 官 氏 名團				
印附日收領				

第二號書式
一 欄ヲ設ケ「地方分與稅分與金特別會計」ト記載スルモノトス
二 清酒、濁酒、白酒、味淋及燒酎ニ對スル酒類造石稅ニ付テハ本
書中何年何期分トアルヲ何年度何期分トスルモノトス
三 用紙ハ下方ノ一邊ヲ著色(青)スルモノトス
四 用紙寸法各片 縱六寸 輪廓寸法各片 縱四寸五分 橫四寸 橫三寸三分

收入傳票

第何號	何年度	納人	住所	名
大藏省主管	租	稅	何	何
一金何程	何年何期分	何	何	何
何年何期分 稅 (目)				
印附日收領				

納付書

第何號	何年度	納人	住所	名
大藏省主管	租	稅	何	何
一金何程	何年何期分	何	何	何
何年何月何日 何年何月何日限 何 稅 (目)				
一 指定納期日 何年何月何日限				
一 納付場所 日本銀行本店、支店又ハ代理店(日本銀行本店、支店又ハ代理店)何稅務署又ハ何府縣道何郵便局				
何年何月何日 發行者 官 氏 名團				
印附日收領				

第三號書式 用紙寸法各片 縱六寸 輪廓寸法各片 縱四寸五分 橫四寸 橫三寸三分
三 健康保險ニ關スル諸收入金ニ付テハ「大藏省」ハ「厚生省」ニ「經常臨時」ハ「健康保險特別會計」トシ領收通知書ノ金額ノ下ニ「但何々(收入ノ目的ヲ記載ス)」ト記入スルモノトス

第三章 出納 第一節 通則

第何號	何年度	納人	住所	氏名
大藏省主管	租	稅	何	稅務署
一金何程	何年何期分	何	稅	務署
[日本銀行 何 店圍]				
[何稅務署收入官吏 何 名圍]				
[何郵便局出納官吏又ハ何郵便局出納官吏所屬出納員 何 名圍]				
取纏郵便局				
印附日收領				

第何號	何年度	納人	住所	氏名
大藏省主管	租	稅	何	稅務署
一金何程	何年何期分	何	稅	務署
[日本銀行 何 店圍]				
[何稅務署收入官吏 何 名圍]				
[何郵便局出納官吏又ハ何郵便局出納官吏所屬出納員 何 名圍]				
取纏郵便局				
印附日收領				

備考
 一 收入傳票領收濟通知書及領收證書用紙ノ金額年度科目取纏郵便局名等ハ納付書作成ノ時總テ記入スルモノトス
 二 地方分與稅分與金特別會計歳入金ニ付テハ「大藏省主管」ノ上ニ一欄ヲ設ケ「地方分與稅分與金特別會計」ト記載スルモノトス

[文會例]

第何號	何年度	納人	住所	氏名
大藏省主管	雜收入	免許及手数料	何	稅務署
一金何程	何	何	稅	務署
[日本銀行 何 店圍]				
[何稅務署收入官吏 何 名圍]				
[何郵便局出納官吏又ハ何郵便局出納官吏所屬出納員 何 名圍]				
取纏郵便局				
印附日收領				

備考
 一 收入傳票領收濟通知書及領收證書用紙ノ金額年度科目取纏郵便局名等ハ納付書作成ノ時總テ記入スルモノトス
 二 督促手数料ニシテ租稅ト所屬年度ノ同一ナルモノハ第三號書式ノ納付書中ニ科目金額ヲ並記兼用シ本書式ノ納付書ヲ省略スル

第三章 出納 第一節 通則

第何號	何年度	納人	住所	氏名
大藏省主管	雜收入	免許及手数料	何	稅務署
一金何程	何	何	稅	務署
[日本銀行 何 店圍]				
[何稅務署收入官吏 何 名圍]				
[何郵便局出納官吏又ハ何郵便局出納官吏所屬出納員 何 名圍]				
取纏郵便局				
印附日收領				

第何號	何年度	納人	住所	氏名
大藏省主管	雜收入	免許及手数料	何	稅務署
一金何程	何	何	稅	務署
[日本銀行 何 店圍]				
[何稅務署收入官吏 何 名圍]				
[何郵便局出納官吏又ハ何郵便局出納官吏所屬出納員 何 名圍]				
取纏郵便局				
印附日收領				

第四號書式
 三 清酒、濁酒、白酒、味淋及燒酎ニ對スル酒類造石稅ニ付テハ本書中何年何期分トアル何年度何期分トスルモノトス
 四 地租ハ稅目ノ左傍ニ「(田租)」又ハ「(田以外ノ地租)」ト記載スルモノトス
 五 同一納期ノ田租及田以外ノ地租ハ之ヲ並記シ其ノ左傍ニ合計額ヲ掲記スルモノトス
 六 用紙ハ下方ノ一邊ヲ著色(青)スルモノトス
 輪廓寸法各片 縱四寸五分 橫四寸

第何號	何年度	納人	住所	氏名
大藏省主管	取扱廳名	拂込人	何	稅務署
一金何程	何	何	稅	務署
[日本銀行 何 店圍]				
[何稅務署收入官吏 何 名圍]				
[何郵便局出納官吏又ハ何郵便局出納官吏所屬出納員 何 名圍]				
取纏郵便局				
印附日收領				

第何號	何年度	納人	住所	氏名
大藏省主管	取扱廳名	拂込人	何	稅務署
一金何程	何	何	稅	務署
[日本銀行 何 店圍]				
[何稅務署收入官吏 何 名圍]				
[何郵便局出納官吏又ハ何郵便局出納官吏所屬出納員 何 名圍]				
取纏郵便局				
印附日收領				

第五號書式
 三 コトヲ得用紙ハ下方ノ一邊ヲ著色(健康保險ニ關スル諸收入金ニ付テハ赤其ノ他ハ青)スルモノトス
 四 健康保險ニ關スル諸收入金ニ付テハ「大藏省」ハ「厚生省」ニ「雜收入」ハ「健康保險收入」ニ「免許及手数料」ハ「雜收入」ニ「何稅務署」ハ「何廳」ト記入スルモノトス
 輪廓寸法各片 縱六寸 橫四寸
 輪廓寸法各片 縱四寸五分 橫三寸三分

第何號	何年度	歳入徴收官 官氏名
大藏省主管	取扱廳名	拂込人 何廳主任收入官吏又ハ分任收入官吏 官氏名
一金何程	「何郵便局出納官吏又ハ何郵便局出納官吏所屬出納員 官氏名」	
取據郵便局		
印附日收領		

第何號	何年度	歳入徴收官 官氏名
大藏省主管	取扱廳名	拂込人 何廳主任收入官吏又ハ分任收入官吏 官氏名
一金何程	「何郵便局出納官吏又ハ何郵便局出納官吏所屬出納員 官氏名」	
取據郵便局		
印附日收領		

備考
一 拂込傳票領收濟通知書領收證書用紙ノ金額年度及歳入徴收官拂

第何號	何年度	何市町村
大藏省主管	租稅	何稅務署
一金何程	何年何期分 稅 (目)	
何年何月何日		
印附日收領		

第何號	何年度	何市町村
大藏省主管	租稅	何稅務署
一金何程	何年何期分 稅 (目)	
「何郵便局出納官吏又ハ何郵便局出納官吏所屬出納員 官氏名」		
取據郵便局		
印附日收領		

送人官氏名取據郵便局名等ハ總テ收入官吏ニ於テ記入スルモノトス

二 地方分與稅分與金特別會計歳入金ニ付テハ「大藏省主管」ノ上ニ一欄ヲ設ケ「地方分與稅分與金特別會計」ト記載スルモノトス

三 用紙ハ下方ノ一邊ヲ著色(健康保險ニ關スル諸收入金及簡易保險健康相談ニ關スル收入金ニ付テハ赤其ノ他ハ青)スルモノトス

四 專賣官署又ハ保險院簡易保險局ノ收入官吏ノ分ニ付テハ各片金額ノ下ニ專賣局作業收入又ハ簡易生命保險收入ト記入シ領收濟通知書ニ取據郵便局ヲ記入スルノ外其ノ下ニ拂込郵便局ヲ記入スルモノトス

五 健康保險ニ關スル諸收入金及簡易保險健康相談ニ關スル收入金ニ付テハ「大藏省」ハ「厚生省」ト記入スルモノトス

第六號書式 用紙寸法各片 縱六寸 横四寸 論廓寸法各片 縱四寸五分 横三寸三分

第何號	何年度	何市町村
大藏省主管	租稅	何稅務署
一金何程	何年何期分 稅 (目)	
印附日收領		

第何號	何年度	何市町村
大藏省主管	租稅	何稅務署
一金何程	何年何期分 稅 (目)	
「何郵便局出納官吏又ハ何郵便局出納官吏所屬出納員 官氏名」		
印附日收領		

備考
一 送付傳票領收濟通知書領收證書用紙ノ金額年度科目及取據郵便局名等ハ總テ市町村ニ於テ記入スルモノトス

二 地方分與稅分與金特別會計歳入金ニ付テハ「大藏省主管」ノ上ニ一欄ヲ設ケ「地方分與稅分與金特別會計」ト記載スルモノトス

三 地租ノ稅目ノ左傍ニ「田租」又ハ「田以外ノ地租」ト記載スルモノトス

四 同一納期ノ田租及田以外ノ地租ハ之ヲ並記シ其ノ左傍ニ合計額ヲ掲記スルモノトス

五 用紙ハ下方ノ一邊ヲ著色(青)スルモノトス

第三章 出納 第一節 通則

第六號ノ二書式 用紙寸法各片縦六寸 輪廓寸法各片縦四寸五分 横四寸 横三寸三分

第何號	何年度	拂込人	住所
大藏省主管	租	何	氏
税金	稅	稅務署	名
一金 何程			
何年何月分			
何 稅(目)			
印附日收領			
何年何月何日			

第何號	何年度	拂込人	住所
大藏省主管	租	何	氏
税金	稅	稅務署	名
一金 何程			
何年何月分			
何 稅(目)			
印附日收領			
何年何月何日			

〔文會例〕

第七號書式 用紙寸法各片縦六寸 輪廓寸法各片縦四寸五分 横四寸 横三寸三分

第何號	何年度	歳入徴收官	官 氏 名
大藏省主管	取	撥	廳 名
一金 何程			
但爲替貯金局渡振替證券ヲ以テ拂込ノ分			
何年何月何日			
何郵便局出納官吏 名 官 氏 氏 氏			
名 官 氏 氏 氏			

- 一 本書ノ年度ハ拂込ノ日ヲ以テ區別シ記入スルモノトス
- 二 拂込人官公署公法人又ハ私法人其他ノ團體ナルトキハ官公署名 法人名又ハ團體名ヲ肩書シ代表者氏名ヲ記載スルモノトス
- 三 所定ノ徴收高計算書ヲ本書式ニ附屬セシメントスルトキハ本書 式一片ノ寸法ニ依リ領收済通知書ト領收證書トノ間ニ附屬セシ ムルモノトス
- 四 用紙ハ下方ノ一邊ヲ著色(青)スルモノトス

〔文會例〕

第三章 出納 第一節 通則

書知通済收領

第何號	何年度	拂込人	住所
大藏省主管	租	何	氏
税金	稅	稅務署	名
一金 何程			
何年何月分			
何 稅(目)			
印附日收領			
何年何月何日			

書證收領

第何號	何年度	拂込人	住所
大藏省主管	租	何	氏
税金	稅	稅務署	名
一金 何程			
何年何月分			
何 稅(目)			
印附日收領			
何年何月何日			

備考

一 拂込傳票領收済通知書領收證書用紙ノ金額年度科目及取纏郵便 局名等ハ總テ徴收義務者ニ於テ記入スルモノトス

書知通済收領

第何號	何年度	歳入徴收官	官 氏 名
大藏省主管	取	撥	廳 名
一金 何程			
但爲替貯金局渡振替證券ヲ以テ拂込ノ分			
何年何月何日			
日本銀行何店 取纏郵便局			

書證收領

第何號	何年度	歳入徴收官	官 氏 名
大藏省主管	取	撥	廳 名
一金 何程			
但爲替貯金局渡振替證券ヲ以テ拂込ノ分			
何年何月何日			
日本銀行何店			

備考

一 領收済通知書領收證書用紙ノ金額年度歳入徴收官官氏名取撥廳 名拂込出納官吏官氏名取纏郵便局名等ハ拂込出納官吏ニ於テ總

第三章 出納 第一節 通則

- 一 地方分與稅分與金特別會計歳入金ニ付テハ「大藏省主管」ノ上ニテ記入スルモノトス
- 二 地方分與稅分與金特別會計「ト記載スルモノトス」ニ付テハ「大藏省」ハ「厚生省」ト記入スルノ外其ノ下ニ「健康保險特別會計」ヲ記入スルモノトス
- 三 健康保險ニ關スル諸收入金ニ付テハ「大藏省」ハ「厚生省」ト記入スルノ外其ノ下ニ「健康保險特別會計」ヲ記入スルモノトス

第八號書式 備考

- 一 用紙寸法 縦五寸二分 輪廓寸法 縦四寸六分 横六寸三分
- 二 トシテ左方ニ八分ノ綴代ヲ設ケヘシ
- 三 用紙ハ「印刷局」紙若ハ永久保有ニ耐ユル用紙ヲ用フヘシ
- 四 官廳又ハ公共團體等ノ收入ト爲ルヘキモノハ宛名ニ官廳名又ハ公共團體名等ヲ記入シテ發行スヘシ
- 五 領收證ニ收入印紙ノ貼用ヲ要スルモノハ其ノ貼用場所ニ「要印紙」ノ印ヲ押捺スヘシ

〔文會例〕

注意事項

- 一 受取人ハ表面領收證ノ部ニ年月日及住所ヲ記入シ記名捺印スヘシ但シ官吏公吏ニ在リテハ官廳名又ハ公共團體名等ヲ肩書シ官職名ヲ記シ記名捺印スヘシ
- 二 受取人ノ印章ハ請求書ニ押捺シタルモノト同一ノモノニ限ル
- 三 受取人カ代理人ヲ以テ現金支拂ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ本人ニ於テ本書刷込ノ委任狀ニ相當ノ事項ヲ記載シ記名捺印スルカ又ハ別ニ委任狀ヲ差出スヘシ此ノ場合ニ於テハ代理人ハ本書ニ代理人タルノ肩書ヲ附シ記名捺印スヘシ
- 四 受領金額五圓以上ノモノハ規定ノ收入印紙ヲ貼附消印スヘシ但シ營業ニ關セサルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 五 小切手振出ノ日附ヨリ六十日ヲ過クルトキハ支拂上特別ノ手續ヲ要スルニ付可成同期限内ニ支拂ヲ請求スヘシ
- 六 本書ヲ亡失シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ拂渡郵便局ニ通知シ支拂ノ停止ヲ請求スヘシ

委任狀

表面金額ノ受取方ヲ

「住」ニ委任候也

「何」

「大正」何年「何」月「何」日

「某」

第三章 出納 第一節 通則

領收證 郵便局振出金支拂通知書

前記ノ金額領收候也

【大正】何年「何」月「何」日

受取人

住所

「何」

「某」

拂渡日附印	指定拂渡郵便局	「何」郵便局
	取讓郵便局	「何」郵便局
	第「何」號	「何」年度「何」會計
	「何」省 主管	「何」廳
小切手振出日附	【大正】何年「何」月「何」日	
小切手番號	第「何」號	
金額氏名表番號	第「何」號	
小切手ヲ宛テタル日本銀行名	日本銀行本店（何地支店又ハ代理店）	
	「何」宛	前記ノ金額指定拂渡郵便局ニ於テ受領セララルヘシ
	「何」氏 官氏名「何」	「何」廳 支出官
	【大正】何年「何」月「何」日	金

（注意） 受取人ハ裏面ノ注意事項ヲ熟覽スヘシ

（裏面）

各廳歳出金繰替拂案内書

第九號書式 用紙寸法 縦四寸五分 横六寸五分

【大正】何年「何」月「何」日

日本銀行「何」店「何」

指定拂渡郵便局名

「何」郵便局御中

下記ノ金額規定ノ手續ヲ履行シ現金拂渡相成度候也

年度會計	小切手振出廳名	小切手番號	受取人住所	受取人氏名	金額

〔文會例〕

●郵便官署ヲシテ取扱ハシムル歳入事務取扱

方

○大藏省訓令第五號 大正四年二月十三日

本年一、大藏省令第一號ニ依リ郵便官署ヲシテ取扱ハシムル歳入事務取扱方左ノ通心得ヘシ

- 一 租税外諸收入金ニ付(金庫)ヲ納付場所ニ指定セントスルトキハ歳入徴收官在勤處所在地ヲ出納區域トスル(金庫)ニ限ルモノトス
- 二 收入官吏ノ領收シタル現金ノ拂込ヲ爲スヘキ(金庫)ニ付テモ亦前項ニ同シ但シ前項以外ノ(金庫)ニ拂込ヲ爲スヲ便宜トスルトキハ該(金庫)ニ對シ振替回送ノ請求ヲ爲スヘシ
- 三 大正四年一、逓信省令第八號第四條ニ依リ取纏郵便局ニ於テ(金庫)ニ對シ振替拂込ヲ爲シタル後歳入金ノ附屬年度所管廳又ハ歳入徴收官ノ誤謬ヲ發見シタルトキハ歳入徴收官又ハ收入官吏ハ(明治二十四年五月當省令第十一號)及明治三十一年七月當省訓令第四十八號ノ手續ニ準シ取纏郵便局ニ對シ誤謬訂正ノ請求ヲ爲スヘシ

●郵便官署ニ於ケル各廳歳入金及歳出金取扱

規則

○逓信省令第八號 大正四年一月二十八日

大正七年第三五號、九年第九八號、一二年第一六號、昭和三年第六四號、六年第一六號、九年第四八號、一三年第七七號、一五年第一一六號

- 行ニ送付セムトスルトキハ前條ノ例ニ依リ送付書又ハ拂込書ニ徴收高計算書(徴收義務者ニ限ル)及現金ヲ添ヘ郵便局ニ差出シ其ノ領收證書ヲ受取ルヘシ但シ專賣官署及保險院簡易保險局ノ收入官吏ハ其ノ在勤廳ト同一ノ道廳府縣内ニ在ル任意ノ郵便局ニ就キ拂込ヲ爲スコトヲ得
- 第四條 郵便局ニ於テ前二條ニ依リ現金ヲ受入レタルトキハ其ノ通知書及徴收高計算書ヲ取纏郵便局ニ送付スヘシ
- 取纏郵便局ニ於テハ受入郵便局ヨリ送付ニ係ル通知書及徴收高計算書ヲ取纏メ通知書ニ日計表ヲ附シ徴收高計算書ト共ニ當該歳入ヲ徴收スル官吏ニ送付シ且別記書式ニ依リ受入金額ニ相當スル歳入金振替證券ヲ發行シ之ヲ取扱店タル日本銀行ニ送付シ受入金拂込ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第五條 前條ノ振替證券ニ對シテハ日本銀行本店ノ請求ニ依リ貯金局ニ於テ其ノ振替計理ヲ爲スヘシ
- 第六條 日本銀行所在地外ニ於テ支拂ヲ受クヘキ債主歳出金ノ拂渡ヲ受ケムトスルトキハ支出官ヨリ送付ヲ受ケタル郵便局歳出金支拂通知書ニ受領年月日及住所氏名ヲ記入シ受領證明ノ上之ヲ拂渡郵便局ニ差出スヘシ
- 郵便局ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ支拂通知書ヲ日本銀行ヨリ送付ニ係ル各廳歳出金繰替拂案内書ニ對照シタル上之カ拂渡ヲ爲スヘシ
- 第七條 前條ニ依リ郵便局ニ於テ歳出金ノ拂渡ヲ爲シタルトキハ其ノ未拂通知書ヲ取纏郵便局ニ送付スヘシ
- 取纏郵便局ニ於テハ拂渡郵便局ヨリ送付ニ係ル支拂通知書ヲ取纏メ之ニ日計表ヲ附シ當該日本銀行ニ送付シ之ニ對スル代リ金振替證券ヲ受取

第三章 出納 第一節 通則

第一條 大正四年勅令第六號ニ依リ郵便官署ニ於テ取扱フ歳入金ノ受入及歳出金ノ繰替拂渡ハ左ニ掲クルモノニ限ル

- 一 稅務官署ノ直接徴收スル國稅金
- 二 北海道、府縣及稅務官署ノ收納スル國庫ノ諸收入金
- 二ノ二 北海道廳及府縣(東京府ニ在リテハ警視廳)ニ於テ收納スル健康保險ニ關スル諸收入金
- 三 收入官吏カ日本銀行(本店、支店又ハ代理店)ヲ謂フ以下同シ)ニ送付スヘキ前三號ノ收入金
- 三ノ二 專賣官署ノ收入官吏カ日本銀行ニ送付スヘキ煙草專賣ニ關スル收入金
- 三ノ三 保險院簡易保險局ノ收入官吏カ日本銀行ニ送付スヘキ簡易保險健康相談ニ關スル收入金
- 四 市町村カ日本銀行ニ送付スヘキ國稅金
- 四ノ二 徴收義務者(國稅徵收法ノ規定ニ依リ市町村ニ於テ徴收スル場合ヲ除ク以下同シ)カ日本銀行ニ送付スヘキ國稅金
- 五 日本銀行所在地外ニ於テ債主ニ支拂フ要スル歳出金
- 第二條 前條第一號乃至第二號ノ二ノ國稅金及諸收入金ヲ國庫ニ納付セムトスル者ハ歳入ヲ徴收スル官吏ニ於テ其ノ納付場所ヲ特ニ限定シタル場合ヲ除ク外其ノ歳入ヲ徴收スル官吏ノ在勤廳ト同一ノ道廳府縣内ニ在ル任意ノ郵便局ニ就キ之カ納付ヲ爲スコトヲ得
- 納人前項ノ納付ヲ爲サムトスルトキハ歳入ヲ徴收スル官吏ノ發シタル令書ニ現金ヲ添ヘ郵便局ニ差出シ其ノ領收證書ヲ受取ルヘシ
- 第三條 市町村、徴收義務者又ハ收入官吏其ノ領收シタル歳入金ヲ日本銀行

〔文會例〕

〔文會例〕

- ルヘシ
- 貯金局ニ於テハ前項ノ代リ金振替證券ニ依リ日本銀行本店ヨリ其ノ代リ金ノ振替受入ヲ爲スヘシ
- 第八條 郵便局歳出金支拂通知書發行ノ日ヨリ六十日以内ニ債主ヨリ拂渡ノ請求ナキトキハ郵便局ハ繰替拂案内書ヲ所屬日本銀行ニ送付スヘシ
- 前項ノ期間經過後ニ於テ債主ヨリ拂渡ノ請求アルモ拂渡郵便局ハ當該日本銀行ヨリ繰替拂案内書ノ再送ヲ受クルニアラサレハ之カ拂渡ヲ爲サス
- 第九條 債主ニ於テ郵便局歳出金支拂通知書ヲ亡失シタルトキハ金額、番號、所屬年度、小切手ヲ當テラレタル日本銀行名、拂渡郵便局名、支拂通知書ヲ發行シタル官廳名ヲ記載シタル届書ヲ拂渡郵便局ニ差出スヘシ
- 拂渡郵便局ニ於テ前項ノ届書ヲ受ケタルトキハ之ヲ當該日本銀行ニ廻付スヘシ
- 第十條 債主ニ於テ支出官ヨリ再發行ニ係ル郵便局歳出金支拂通知書ノ送付ヲ受ケタル場合ノ拂渡ニ付テハ第六條ノ規定ヲ準用ス

附則

本令ハ大正四年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

(別記)

歳入金振替証券第 號

年度	大 正							年度	
所屬	日本銀行(何)店							計所月	月分
在野區名								算	
振替銀行名								十	十
振替口座								萬	千
口數								百	十
金額								十	十
								圓	錢
								厘	

上記ノ通本日歳入徴收官へ受入通知済ニ付本券引換ニ該金額貯金局ニ於テ日本銀行本店へ振替拂込相成度候也

郵便局長氏名印 

貯金局長殿

●郵便官署ヲシテ歳入金ノ受入ヲ爲サシムルノ特例ニ關スル件

○大藏、逓信省令 昭和六年十二月三日
大正四年大藏省令第一號第一條ニ定ムル歳入金ノ外收入官吏ノ日本銀行ニ
同 年逓信省令第八號第一條

〔文令例〕

端數計算法準用ノ件

第六條 本法ハ北海道府縣郡市町村其ノ他勅令ヲ以テ指定シタル公共團體ノ收入及仕拂ニ關シテ之ヲ準用ス

第七條 本法ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第八條 明治四十年法律第三十一號ハ之ヲ廢止ス但シ本法施行前納入ノ告知ヲ爲シ又ハ仕拂ノ命令ヲ發シタルモノニ付テハ仍其ノ效力ヲ有ス

●國庫出納金端數計算法第五條第二項ニ依ル命令ノ件

○勅令第五十六號 大正五年三月三十一日
國庫ノ收入及仕拂中左ニ掲クル種目ニハ國庫出納金端數計算法ヲ適用セス

- 一切手及印紙類賣下代金
- 没入金、沒收金及犯罪ニ基ク追徵金
- 法令ニ依リ當然國庫ニ歸屬スル收入金
- 貨幣交換差金
- 外國貨幣ヲ基礎トスル收入金及仕拂金
- 缺損補填金
- 切手貯金拂込金

●公共團體ノ收入及仕拂ニ關シ國庫出納金

第三章 出納 第一節 通則

本令ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

拂込ムヘキ國庫ノ收入金ハ當分ノ内大正四年勅令第六號ニ依リ逓信大臣ノ指定スル郵便官署ヲシテ之カ取扱ヲ爲サシムルコトヲ得
前項ノ取扱ニ關シテハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外大正四年大藏省令第一號及同年逓信省令第八號ノ規定ヲ準用ス

●國庫出納金端數計算法

○法律第二號 大正五年一月二十九日
第一條 國庫ノ收入金又ハ支拂金ニシテ一錢未満ノ端數アルトキハ其ノ端數ハ之ヲ切捨ツ其ノ全額一錢未満ナルトキハ之ヲ一錢トス
第二條 國稅ノ課稅標準額ノ算定ニ付テハ前條ノ規定ヲ準用ス命令ヲ以テ指定スル國稅ノ課稅標準額ニシテ一圓未満ノ端數アルトキハ其ノ端數ハ之ヲ切捨ツ
第三條 分割シテ收入シ又ハ仕拂フ金額ニアリテハ其ノ總額ニ付第一條ノ規定ヲ準用ス
第四條 分割シテ收入又ハ仕拂フ爲ス場合ニ於テ分割金額一錢未満ナルトキ又ハ之ニ一錢未満ノ端數ヲ生シタルトキハ其ノ分割金額又ハ端數ハ最初ノ收入金又ハ仕拂金ニ之ヲ合算ス但シ地租ノ分割額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
第五條 賣藥印紙稅及郵便切手ヲ以テ納ムル郵便料金ニ付テハ本法ヲ適用セス
法律ニ別段ノ定アルモノノ外本法ヲ適用セサルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定

〔文令例〕

端數計算法準用ノ件

○勅令第二百九號 大正五年八月二十三日
大正九年第四三六號、一二年第五五號、一三年第三〇一號、昭和二年第三四號、六年第三二號、一二年第二八四號

第一條 國庫出納金端數計算法第六條ノ規定ニ依リ公共團體ヲ指定スルコト左ノ如シ

- 市制第六條ノ市ノ區
- 水利組合
- 北海道土功組合
- 健康保險組合
- 朝鮮ノ道、地方費、府、邑、面、郡島學校費、學校組合及水利組合
- 臺灣ノ州、廳地方費、市街庄及水利組合
- 樺太ノ市町村

第二條 國庫出納金端數計算法第六條ノ公共團體ノ收入及仕拂中左ニ掲クル種目ニハ同法ヲ準用セス

- 法令ニ依リ當然公共團體ニ歸屬スル收入金
- 貨幣交換差金
- 外國貨幣ヲ基礎トスル收入金及仕拂金
- 缺損補填金

本令ハ大正五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (大正十一年勅令第五十五號)
本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三章 出納 第一節 通則

附則 (昭和六年勅令第三十二號)
本令ハ昭和六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●國庫出納金算計算法適用方

○内務省會計課通牒官第三八號 大正五年四月十四日
首記ノ件ニ關シ左記ノ通決定相成候條右ニ依リ御取扱相成度
一、高等官々等俸給令ニ依ル年俸ノ如キハ支拂フヘキ總額ト云フヲ得
サルニ付第四條ノ適用ナク月割又ハ日割ニ依ル現支給額ニ付第一
條ヲ適用シ其端數ヲ切捨ツヘキコト
二、官舎貸渡規則第四條ニ依リ取立ツル官舎宿代ニ付テモ亦前項ニ同
シ

●政府ノ債務ニ對シ差押命令ヲ受ケル場合
ニ於ケル會計上ノ規程

○勅令第二百六十一號 明治二十六年十二月

第一條 政府ヲ第三債務者トシテ發スル差押命令ハ左ノ四項ニ掲タルモノ
ノ外(仕拂命令官)ニ宛テ之ヲ發スルモノトス
〔仕拂命令官〕既ニ現金前渡ノ〔仕拂命令〕又ハ〔仕拂請求書〕ヲ發シタル場
合ニ於テハ現金前渡ヲ受ケタル官吏ニ向テ差押命令ヲ發スルモノトス但
シ記名公債元利ニ對スル差押命令ハ公債元利ノ仕拂ヲ取扱フ銀行ニ向テ
發スルモノトス
出納官吏カ繰替拂ヲ爲ス歳出金ニ對スル差押命令ハ其ノ繰替拂ヲ命令ス
ル官吏ニ向テ發スルモノトス

〔文會例〕

預金、保管金、供託金ニ對スル差押命令ハ(中央金庫)ニ係ルモノハ(金
庫出納役)ニ(本支金庫)ニ係ルモノハ關係ノ(金庫出納役代理人)ニ向テ
發スルモノトス但シ出納官吏ノ保管ニ係ル歳入歳出外現金ニ對スル差押
命令ハ當該出納官吏ニ向テ發スルモノトス

第二條 繼續收入ノ債權差押ノ場合ニ於テ關係官廳又ハ(金庫)ニ變更アル
トキハ甲官吏又ハ(甲金庫)ノ受ケル差押命令ハ乙官吏又ハ(乙金庫)ニ於
テ之ヲ承繼スルモノトス

第三條 差押債權者差押命令送達ノ通知ヲ受ケタルトキ緊急ノ場合ニ於テ
ハ仕拂ヲ執行スヘキ(金庫)又ハ出納官吏ニ向ヒ假リニ仕拂ノ停止ヲ求ム
ルコトヲ得

第四條 (仕拂命令、仕拂請求書、集合仕拂命令、集合仕拂請求書及現金引
出切符)ヲ政府ノ債權者ニ交付シタル後差押命令ヲ受ケタルトキハ當該
〔仕拂命令官〕又ハ出納官吏ハ速ニ(金庫)ニ向テ差押金額ノ仕拂ヲ停止ス
ヘシ

繰替拂ヲ命令スル官吏カ繰替拂ノ命令ヲ發シタル後差押命令ヲ受ケタル
トキハ速ニ出納官吏ニ向テ差押金額ノ仕拂ヲ停止スヘシ
第五條 差押ヘラレタル金額ヲ裁判所ノ命令ニ依リ差押債權者ニ仕拂フヲ
要スルトキハ當該〔仕拂命令官〕、郵便貯金ノ原簿ヲ管掌スル官署ノ長、

〔文會例〕

リ各所定ノ機關ニ對シ之ヲ送達スヘキ旨規定セララルモノ右ハ大正十一年四
月會計制度改正ニ伴ヒ保管金、預金、供託金ノ差押ニ關シ日本銀行ハ國ノ
代表機關タルコトヲ得ス從テ差押命令ノ送達ヲ受ケルノ權能無之モノト認
メラレ候前記勅令ハ會計制度改正ノ際改正ヲ要スヘキ管ノ處ノ内容及形
式ニ付考究ヲ要スヘキ事項有之未タ其ノ成案ヲ得ルニ至ラサルモノニ有之
候モ右成案迄暫定的ニ左記ノ通解釋シテ御取扱相成候條執行裁判所ニ御通
牒相煩度此段申進候也

記

明治二十六年勅令第二百六十一號中上欄ノ事項ニ付テハ下欄記載ノ通處理
セラレ度

第一條第四項
預金、保管金、供託金ニ對スル差
押命令ハ(中央金庫)ニ係ルモノハ
〔金庫出納役〕ニ、(本支金庫)ニ係
ルモノハ關係ノ(金庫出納役代理
人)ニ向テ發スルモノトス

預金、保管金及供託金ニ對スル差
押命令ハ左ノ區分ニ依リ送達スル
モノトス但シ出納官吏ノ保管ニ係
ルモノハ當該出納官吏ニ送達スル
モノトス
一、預金部預金ニ付テハ預金ノ擔
當者タル當該官廳ノ取扱主任
官ニ
二、保管金ニ付テハ當該保管金ノ
取扱官廳ニ於ケル取扱主任官
ニ
三、供託金ニ付テハ供託ヲ爲シタ
ル供託局長又ハ供託出張所長
ニ
〔金庫〕ハ之ヲ「日本銀行」トシテ取扱
フモノトス

繰替拂ヲ命令スル官吏、出納官吏、銀行又ハ(金庫)ニ於テ仕拂ノ手續ヲ
爲スヘシ
第六條 配當要求ノ送達又ハ民事訴訟法第六百七條ノ命令ヲ受ケタル場合
ニ於テハ當該〔仕拂命令官〕、郵便貯金ノ原簿ヲ管掌スル官署ノ長、繰替
拂ヲ命令スル官吏、出納官吏、銀行又ハ(金庫)ニ於テ供託ノ手續ヲ爲ス
ヘシ
第七條 差押金額ノ仕拂停止、仕拂執行又ハ供託ニ關スル手續ハ大藏大臣
之ヲ定ムヘシ
第八條 假差押命令ノ場合ニ於テハ本令ヲ準用ス

●政府ノ債務ニ對シ差押命令ヲ受ケル場合
會計上ノ規程ニ關スル件

第九條 本令ハ明治二十七年一月一日ヨリ施行ス

○會計課長移牒 昭和二年九月二日
直轄部局長
○大藏次官通牒計第五百五十七號 昭和二年八月二十二日
文部次官
政府ノ債務ニ對シ差押命令ヲ受ケル場合會計上ノ規程ニ關シ別紙ノ通司法
省ニ通牒致置候條御了知相成度爲念及御通牒候也
(別紙)
○大藏次官通牒計第五百五十七號 昭和二年八月二十二日
司法次官
政府ヲ第三債務者トスル差押命令ハ明治二十六年勅令第二百六十一號ニ依
第三章 出納 第一節 通則

第三章 出納 第一節 通則

●貨幣交換差減金ニ關スル件

○會計課長通牒發會三百五號 昭和八年八月二十三日

直轄部局長(帝國大學ヲ除ク)

今般實學(校)特別會計ニ於ケル貨幣交換差減金支出ハ當省ニ於テ取扱フコト、相成候ニ付テハ本件支出ニ關シ實學(校)ニ於テ支拂フヘキ外貨拂ニ關スル證據事項承知致度候條爾後右支拂ノ都度該證據書類寫實課宛御提出相成度此段通牒候也

追而本件ハ差増ノ有無ニ不拘本年度ニ於テ已ニ支拂タル分モ御提出相成度

●貨幣交換差増減整理手續ニ關スル件

○會計課長移牒 昭和八年八月九日

今般大藏大臣ヨリ別紙ノ通牒有之タルニ付移牒ス

追而官立大學特別會計及學校及圖書館特別會計ノ差減ニ付テハ文部大臣官房會計課長ニ於テ日本銀行ノ請求ヲ俟テ之カ補填ノ爲資金ヲ交付シ差増ノ場合ハ日本銀行ノ通知ヲ俟テ部長ニ於テ當該會計課入ニ組入ルルコトト相成タルニ付左様御了知相成度

(參考) 昭和八年七月四日付勅令第一八二號、第一八三號(昭和八年七月五日官報)

(追而書ハ帝國大學ノ分ニハ除ク)

(別紙) ○大藏大臣通牒發會第五百五十一號 昭和八年七月十八日

外國貨幣等ヲ基礎トスル國庫金ノ出納上換算價格ノ差異ニ依リ差増減ヲ生

シタル場合ニ於テハ從來一般會計ニ於テ整理シ來リタル處昭和八年度ヨリハ各會計毎ニ區分整理スルコトト相成候ニ付之カ手續別紙ノ通牒定メ日本銀行ニ通牒致候條御了知ノ上一般會計ニ屬スルモノニ在リテハ從來ノ如ク大藏省ニ於テ、特別會計ニ屬スルモノニ在リテハ當該特別會計ニ於テ差減ニ付テハ日本銀行ノ請求ヲ俟テ之カ補填ノ爲資金ヲ交付シ、差増ノ場合ニ於テハ日本銀行ノ通知ヲ俟テ當該會計課入ニ組入ルルコトニ御取計ヒ相成度此段及通牒候也

追テ特別會計ニ屬スルモノノ日本銀行ニ於テ整理ノ實行上必要有之候條差減ノ場合資金交付ノ支出官及差増ノ場合歳入組入ノ歳入徵收官御指定ノ上其ノ所管、會計名、取扱廳名、支出官又ハ歳入徵收官ノ官氏名ヲ日本銀行本店ニ御通知置相成候條致度申添候

貨幣交換差増減整理手續

第一條 外國貨幣、外國貨幣拂爲替券、金銀地金等ヲ基礎トスル國庫金ノ出納上換算價格ノ差異ニ依リ差増減ヲ生シタルトキハ本手續ニ依リ之ヲ整理スヘシ

第二條 日本銀行ニ於テ外國貨幣ヲ基礎トスル各省海外拂經費差金ノ爲爲替取組上生シタル差増減ニ對シ日本銀行國庫金取扱規程第三十九條ニ依リ之カ取扱ヲ爲ス場合ニ於テハ

一 差減額ハ振替金トシテ整理シ置キ一般會計ニ基クモノニ付テハ大藏省ニ、特別會計ニ基クモノニ付テハ當該特別會計ニ請求シ資金ノ交付ヲ受ケ之ヲ補填シ

二 差増額ハ一般會計ニ基クモノニ付テハ當該年度大藏省所管大藏省歳入(貨幣交換差増ノ科目、歳入徵收官大藏大臣官房會計課長)へ、特別

(文會例)

會計ニ基クモノニ付テハ當該年度、當該特別會計歳入(貨幣交換差増ノ科目、所管大臣ノ指定シタル歳入徵收官)へ納付ノ手續ヲ爲スヘシ

第三條 左記各號ニ掲クル差増減ニ付テハ前條ニ準シ之カ取扱ヲ爲スヘシ

一 外國貨幣、外國貨幣拂爲替券、金銀地金等賣却ノ爲生スル差増減

二 外國貨幣ヲ以テ受入レタル歳入金ノ拂込又ハ外國貨幣ヲ基礎トスル返納金ニシテ換算率ノ差異ニ依ル差増減

第四條 左記各號ノ場合ニ於テハ大藏大臣ノ通達ニ依リ振替金中「貨幣交換差増」又ハ「貨幣交換差減」ノ内課科目ヲ設ケ差増減ヲ區分整理スルモノトス

一 政府海外拂經費ニシテ在外指定預金ヨリ振替ノ爲差増減ヲ生シタルトキ

二 在外指定預金、外國貨幣、金銀地金等ノ保有價格引直又ハ國庫内移替ノ爲差増減ヲ生シタルトキ

前項ノ場合ニ於テハ年度末ニ於テ各會計毎ニ區分シ一箇年度分ヲ集計シ其ノ結果

一 差減トナリタルトキハ第二條第一號ニ準シ資金ノ交付ヲ受ケ之ヲ補填シ

二 差増トナリタルトキハ第二條第二號ニ準シ編入ノ手續ヲ爲シ手續済ノ上ハ其ノ旨所屬會計ニ報告スヘシ

第五條 支出官ニ於テ外國貨幣ヲ基礎トシ小切手ヲ發行スル場合ニ於ケル換算率ハ必要ノ都度之ヲ定ム

(參考)

●豫算上ノ外國貨幣換算率ニ關スル件

第三章 出納 第一節 通則

(文會例)

○内務省會計課長通牒發會第三十六號 昭和三年七月二十一日

改正 昭和五年七月會計課長通牒發會第三十五號

外國貨幣制度改正ニ依リ改定セラレタル邦貨換算率純分比價左記ノ通ニ付御了知相成度

國名	貨幣名稱	單位	日本金貨ニ換算價格(純分比價)
佛蘭西	法	一	〇・〇七九
佛蘭西	ソール	一	〇・八〇二

追テ本改正ハ本年六月二十五日ヨリ施行セラレタルモノニ有之夫以前ニ金法ヲ以テ有效ニ契約セラレタル國際的支拂ニハ適用セサル儀ニ付此段申添候

(參考)

●外國貨幣換算價格ノ件

○内務大臣官房會計課長通牒發會第一號 昭和五年一月三十日

改正 昭和五年第二八號、第三四號、第六號第一三號、第三四〇號

支出官事務規程第二十條ノ規程ニ依リ外國貨幣換算價格ハ別紙ノ通純分比價ニ改定來ル二月一日ヨリ實施ノ旨大藏省ヨリ通牒有之候條及移牒候也

(別紙)

國名	名稱	單位	純分比價
英國	磅	一	九・七六三
米國	弗	一	二・〇〇六

獨	佛	伊	瑞	白	埃	和	瑞	芬	丁	西	埃	露	亞	秘	墨	智	ウ	印
國	國	國	國	國	國	國	國	國	國	國	國	國	國	國	國	國	國	國
ライ	法	法	義	義	義	義	義	義	義	義	義	義	義	義	義	義	義	
ヒス	マル	ク	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	
〇・四七八	〇・〇七九	〇・一〇六	〇・三八七	〇・二七九	〇・二八二	〇・八〇六	〇・五三八	〇・〇五一	〇・五三八	〇・三三七	〇・〇九九	一・〇三二〇	一・九三五	〇・五六二	一・〇〇〇	〇・二四四	二・〇七四	〇・七三二

〔文會例〕

關	東	印	度	マ	ニ	ラ	ベ	チ	カ	ル	ソ	ン	フ	ロ	リ	ン
海	峽	植	民	地	佛	領	印	度	支	那	葡	萄	牙	エ	ス	ク
〇・八〇六	一・〇〇三	〇・八八八	一・一三九	〇・七八六	〇・〇八九	〇・〇八九	〇・〇八九	〇・〇八九	〇・〇八九	〇・〇八九	〇・〇八九	〇・〇八九	〇・〇八九	〇・〇八九	〇・〇八九	〇・〇八九

〔參考〕

●金貨國幣以外ノ外國貨幣換算價格ノ件

○内務省會計課長通牒會第十一號 昭和十年四月九日
 支出官事務規程第二十條ノ規定ニ依ル金貨國幣以外ノ外國貨幣換算價格昭和十年度分左記ノ通決定相成候旨大藏省ヨリ通牒有之候ニ付及移牒候也

追テ支出官事務規程第二十條ニ依リ外國貨幣ヲ基礎トスル金額支拂ノ爲振出ス小切手ト雖時々ノ相場ニ依リ換算價格ヲ定ムルモノニ付テハ左記換算率ハ關係ナキコト勿論ニ付爲念申添候

換算率

國名	名	稱	單位	換算價格
中華民國	元	(壹銀)	一	一・一四二
伯刺西爾	紙幣	ミル	レ	〇・二七二

〔文會例〕

●仕拂ヲ委任シタル一般會計ニ屬スル諸費ニ關シ歲入歲出外ノ出納ヲ要スルトキ取扱官吏ノ件

○會計課長通牒 明治二十九年四月二日

直轄各部長

今般費校(部)へ委任相成候一般會計ニ屬スル臨時歲出新費(及設備費)ニ關シ入札保證金等歲入歲出外ノ出納ヲ要スルモノハ貴校(部)ニ於ケル同出納官吏ヲシテ一般會計ニ屬スルモノト特別會計ニ屬スルモノトノ區別ヲ爲サス合一ニ御取扱ハセ可相成候ニ有之候條爲念此段及通知候也

●關稅定率法第七條第十號ノ適用方ニ關スル件

○文部次官通牒官會百三十三號 大正十五年八月十四日
 ○大藏次官照會藏稅第一千四百二十七號 大正十五年六月二十四日
 關稅定率法第七條第十號ノ適用方ノ件ニ關シ大藏次官ヨリ別紙寫ノ通照會有之タルニ付右様御了承ノ上御處理相成度此段申進ム
 (別紙)

●金錢利割稱呼

○大藏省達乙第二十一號 明治十一年五月二日

府 縣

今般於當省金錢利割稱呼ノ義左ノ通相定メ候條各廳ニ於テモ官金取扱上右ノ稱呼相用可申此旨相達候事
 利割稱呼左ノ如シ

第三章 出納 第一節 通則

割 利ノ首位即チ元高十分ノ稱
分 割十分ノ稱即チ元高百分ノ稱
厘 分十分ノ稱即チ元高千分ノ稱
毛 厘十分ノ稱即チ元高萬分ノ稱

(參 考)

●國庫五入ニ關スル例規清減ノ件

○内務省會計課通牒官第五十六號 明治四十年五月二十七日

所 管 官 廳

明治五年太政官布告第三六三號貨幣出納例則第二則毛位四拾五入法ハ本年法律第三十一號ニ依リ自然消滅ニ歸シタル旨其筋ヨリ通知有之候間此段及通牒候也
追テ四拾五入ニ依リ既ニ整理済ノ分ハ其儘御差置相成可然爲念申添候也

●支那事變ニ際シ現役又ハ應召學生生徒及派遣、應召軍人ノ子弟タル學生生徒ノ取扱方ニ關スル件

○次官通牒發番百四十九號 昭和十二年十月二十五日

- 直轄學校校長
- 公立大學校長
- 公立高等學校校長
- 公立專門學校校長
- 實業專門學校(含ム)

〔文會例〕

人ヲシテ後顧ノ憂ナカラシムルコトハ刻下極メテ緊要ノ事ト認メラルルニ付左記事項ニ關シ適當ナル措置ヲ講シ萬遺憾ナキヲ期セラレ度此段依命及通牒

記

- 一、教職員タル者ハ克ク其ノ重責ニ鑑ミ愈々自奮自勵以テ一層其ノ職務ニ精勵シ益々國民精神ノ振作ニ力ムベキコト
- 二、教職員ニシテ、應召者アル場合ハ同僚職員ヲシテ努メテ之カ職務ヲ分擔セシムルコト
- 三、派遣應召ノ軍人ノ子弟タル學生生徒ノ授業料ノ減免其ノ他學業ノ繼續ニ付テハ、適當ナル方法ヲ考慮スルコト
- 四、學生生徒ノ氣風ノ振作ニ留意スルト共ニ時局ニ鑑ミ其ノ風紀ノ肅正ヲ圖リ苟モ浮華遊惰ニ流レザル様力ムルコト
- 五、學生生徒ノ辯論會其ノ他ノ集會、學校新聞、校友會雜誌及學生生徒ノ組織スル諸團體ニ付テハ、時局ニ鑑ミ特ニ之カ言動、内容ニ注意ヲ拂ヒ、思想傾向ニ留意シ其ノ指導ヲ講ラザルコト
- 六、學生生徒ニ對シテハ學科教授ノ際、其ノ他適當ナル機會ニ於テ時局ニ關スル講話等ヲ行ヒ以テ其ノ認識ヲ深メ卒先恤兵輸軍等ノコトニ參加協力シ國民精神ノ昂揚ニ力メシムルコト

●損傷兌換銀行券引替規則

○官報(日本銀行廣告) 明治四十三年五月十七日
今般大藏大臣ノ認可ヲ得損傷兌換銀行券引替規則左ノ通相定メ來ル六月一日ヨリ實施ス毀損兌換銀行券交換規則ハ右實施ノ日ヨリ廢止ス

第三章 出納 第一節 通則

今次ノ事變ニ關シ本年七月三十一日發番一〇四號通牒ノ次第モ有之現役又ハ應召ノ學生生徒及派遣應召軍人ノ子弟タル學生生徒ノ取扱方ニ付テハ夫々適當ニ處理相成居ルコトト被存モ特ニ左記事項御留意ノ上萬遺憾ナキヲ期セラレ度此段依命及通牒

記

- 一、現役又ハ應召ノ學生生徒ニ對シテハ左ノ通取扱フコト
 - (一)服役又ハ應召ノ期間中ハ休學等ノ取扱ヲナシ授業料等ノ免除ヲナスコト
 - (二)服役滿期又ハ召集解除ノ場合ハ原學年以下ニ復シ修學セシメ授業料等ハ月割ヲ以テ納付セシムルコト
 - (三)右復學者ノ進級及卒業ニ付キテハ出席日數ニ多少ノ不足ヲ生ズル場合ト雖モ事情ニ依リテハ平素ノ成績補講追試驗若ハ見込點等ヲ以テ特別ノ取扱ヲ爲スヲ妨グズ但シ此ノ場合ニ於テハ豫メ本省ノ承認ヲ經ルコト
 - 二、派遣及應召軍人ノ子弟タル學生生徒ノ授業料減免ニ付キテハ其ノ父兄等學費出資者ノ應召ニ依リ學費支辨ニ困難ヲ來シタル者ニ付其ノ事情ニ應ジ授業料等ノ免除若ハ減額ヲナスコト
 - 三、前二項ハ學則ノ規定ニ關ラズ之ヲ實施スベキコト
- 次官通牒發番百四十九號 昭和十二年七月三十一日

- 直轄學校、公立大學、高等學校、專門學校、實業專門學校校長

今同ノ北支事變ニ關シテハ去ル七月十二日付通牒スル所アリタルモ事變ノ推移ニ鑑ミ國民界ツテ愈々奉公ノ精神ヲ振作昂揚スルト共ニ派遣應召ノ軍

〔文會例〕

- 第一條 汚損若ハ毀傷シタル兌換銀行券ハ日本銀行本店、支店、出張所又ハ損傷兌換銀行券引換事務代理店ニ於テ此規則ニ據リ無手数料ニテ之ヲ引換フヘシ
 - 第二條 兌換銀行券裏面ヲ具備シタルモノニシテ其ノ三分ノ二以上ヲ存スルモノハ券面金額ノ全額、五分ノ二以上ヲ存スルモノハ券面金額ノ半額ヲ以テ之ヲ引換フヘシ
 - 第三條 細裂ノ小片ヲ合シ其各片相吻合シ若ハ吻合セスト雖モ同一兌換銀行券ノ紙片ナルコトヲ認メ得ルモノハ前條ヲ適用スヘシ
 - 第四條 第二條乃至第三條ニ該當スルモノト雖モ兌換銀行券ノ紙質色彩ノ變化其他ノ原因ニ依リ眞偽ノ鑑定シ難キモノ及第一條ノ取扱店ニ於テ其券面ニ穿孔ヲ施シタル形跡アルモノ若ハ其疑アルモノハ之ヲ引換ヘス
- 諸證書ニ用ユル印章ノ件
- 會計檢査院回答 明治十六年十二月十九日
- 人民相互ノ諸證書ニ實印ヲ用ユル等ノ儀ニ付テハ豫テ公布ノ趣モ有之候處於當省金錢ノ領收及ヒ上納ノ爲其ノ本人ヨリ差出候證書面印章ノ儀ハ別ニ準據スヘキ成規モ無之ニ付從來人民ヨリ差出候分ハ實印商用印店判ノ内共ノ一ヲ定メ捺用セシメ官吏備員等ニ在テハ實印又ハ花押小印ノ内便宜相用來候處右ニテ實際差支ノ有無問合ニ對シ檢査上差支無之旨回答アリ

●官印寸法ニ關スル件

○閣令第五號 明治三十一年八月十二日
明治八年太政官第百十號達ヲ左ノ通改正ス

第三章 出納 第一節 通則

公務ニ關シ長官或ハ主任ノ名ヲ以テ上申下達及往復スル書類ニ用キル印章ハ勅任官ハ方九分(曲)奏任官ハ方七分(尺)判任官ハ方六分(尺)トシ官名ノミヲ彫刻スヘシ但シ現ニ使用ノ分ハ改刻スルニ及ハス

●直轄各部使用印章調製方ノ件

○文部書記官通牒 明治二十六年十月二十六日

直轄各部長

貴(學)(校)(館)(部)ニ於テ使用可相成印章及主長等ノ用ニヘキ官印ノ儀ハ從來本省ヨリ交付相成候處自今其ノ交付ヲ止メ貴(學)(校)(館)(部)ニ於テ新調修理スヘキ事ニ相成候條右印章變更ノ節ハ其ノ時時印鑑相添御開申可相成命ニ依リ此段及御通達候也

●會計主任官印ノ件

○會計課長通牒 明治二十六年十二月二十六日

直轄各部長

明治二十七年一月以降貴學、校、部、館ニ會計主任ヲ置カルヘキニ就テハ會計主任ヲシテ收入官吏、現金前渡ヲ受クル官吏、歳入歳出外ノ出納官吏、物品會計官吏ノ職ニ當ラシムル場合ニ於テハ便宜ノ爲會計主任ノ官印ヲ調製シ前記ノ數職ニ對シ捺印セシメラレ差支無之ト存候此段爲念及御通達候也

●外國人ノ署名捺印ニ關スル件

○法律第五十號 明治三十二年三月十日

〔文會例〕

東京科學博物館	東京市下谷區上野公園竹之臺
中央氣象臺	東京市麴町區大手町
海洋氣象臺	神戸市神戶區中山手通七丁目
高層氣象臺	茨城縣筑波郡小野川村
緯度觀測所	岩手縣膽澤郡水澤町
維新史料編纂事務局	文部省內
體育研究所	東京市澁谷區代々木西原町
帝國學士院	東京市下谷區上野恩賜公園地
學術研究會議	東京市下谷區上野恩賜公園地
國民精神文化研究所	東京市品川區上大崎長者丸
東京帝國大學	東京市本郷區本富士町
傳染病研究所	東京市芝區白金臺町
航空研究所	東京市目黒區駒場町
京都帝國大學	京都市左京區吉田町
東北帝國大學	仙臺市片平丁
九州帝國大學	福岡縣粕屋郡箱崎町
北海道帝國大學	札幌市北八條西五丁目

第三章 出納 第一節 通則

改正 大正一五年第七一號
第一條 法令ノ規定ニ依リ署名、捺印スヘキ場合ニ於テハ外國人ハ署名スルヲ以テ足ル

捺印ノミヲ爲スヘキ場合ニ於テハ外國人ハ署名ヲ以テ捺印ニ代フルコトヲ得

第二條 削除

附則

第三條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治三十二年勅令第三百二十七號ヲ以テ明治三十二年七月十七日ヨリ施行)

附則 (大正十五年四月法律第七十一號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和四年五月勅令第五百五號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行)

(備考)

明治四〇年勅令第九四號ヲ以テ本法ヲ樺太ニ施行

●商法中署名スヘキ場合ニ關スル件

○法律第十七號 明治三十三年二月二十六日

商法中署名スヘキ場合ニ於テハ記名捺印ヲ以テ署名ニ代フルコトヲ得

●收支ヲ取扱フ部局一覽

昭和十四年六月現在

文部省	東京市麴町區霞ヶ關三丁目四番地
文部本局	文部省內
文部學局	文部省內
大阪帝國大學	大阪市北區中之島四丁目
名古屋帝國大學	名古屋市東區西二葉町
東京商科大学	東京府北多摩郡谷保村
神戸商業大學	神戸市灘區高羽嘉太夫新田
新潟醫科大學	新潟市旭町通一番町
岡山醫科大學	岡山市岡
千葉醫科大學	千葉市矢作
金澤醫科大學	金澤市下鶴間町
長崎醫科大學	長崎市川里町
熊本醫科大學	熊本市本莊町
東京文理科大學	東京市小石川區大塚窪町
廣島文理科大學	廣島市東千田町
東京工業大學	東京市目黒區大岡山
東京女子高等師範學校	東京市小石川區大塚町
奈良女子高等師範學校	奈良市北魚屋西町
東京農業教育專門學校	東京市目黒區駒場町
盛岡高等農林學校	盛岡市上田

第三章 出納 第一節 通則

鹿兒島高等農林學校	鹿兒島市上荒田町
上田蠶絲專門學校	上田市常入
東京高等蠶絲學校	東京市瀧野川區西ヶ原町
京都高等蠶絲學校	京都市上京區大將軍坂田町
鳥取高等農業學校	鳥取市外吉方村
三重高等農林學校	津市上濱町
宇都宮高等農林學校	宇都宮市外平石村峯
岐阜高等農林學校	岐阜縣稻葉郡那加村
宮崎高等農林學校	宮崎市船塚町
千葉高等園藝學校	千葉縣東葛飾郡松戸町
東京高等農林學校	東京府北多摩郡府中町
長崎高等商業學校	長崎市片淵町
山口高等商業學校	山口市
小樽高等商業學校	小樽市綠町
名古屋高等商業學校	名古屋市南區瑞穂町
福島高等商業學校	福島縣信夫郡清水村
大分高等商業學校	大分市上野

〔文會例〕

彦根高等商業學校	彦根市中島町
和歌山高等商業學校	和歌山市關戸
橫濱高等商業學校	橫濱市中區清水ヶ丘
高松高等商業學校	高松市宮脇町
高岡高等商業學校	高岡市古定塚
第一高等學校	東京市目黒區駒場町
第二高等學校	仙臺市北六番丁
第三高等學校	京都市左京區吉田二本松町
第四高等學校	金澤市仙石町
第五高等學校	熊本市黒髮町
第六高等學校	岡山市國富
第七高等學校造士館	鹿兒島市山下町
第八高等學校	名古屋市南區瑞穂町
新潟高等學校	新潟市西大畑町
松本高等學校	松本市縣町
山口高等學校	山口市
松山高等學校	松山市持田町

水戸高等學校	水戸市東原町
山形高等學校	山形市小白川町
佐賀高等學校	佐賀縣佐賀郡本庄村
弘前高等學校	弘前市富田町
松江高等學校	島根縣八束郡川津村
東京高等學校	東京市中野區榮町通
大阪高等學校	大阪市住吉區王子町
浦和高等學校	浦和市
福岡高等學校	福岡市大坪町一丁目
静岡高等學校	静岡市大岩町二丁目
高知高等學校	高知市小津
姫路高等學校	姫路市新在家
廣島高等學校	廣島市皆賀町二丁目
富山藥學專門學校	富山市奥田
熊本藥學專門學校	熊本市大江町九品寺
京都高等工藝學校	京都市左京區松ヶ崎御所海道町
名古屋高等工業學校	名古屋市昭和區御器所町

〔文會例〕

熊本高等工業學校	熊本市黒髮町
米澤高等工業學校	米澤市元中馬口勞町
桐生高等工業學校	桐生市天神町
橫濱高等工業學校	橫濱市中區大岡町
廣島高等工業學校	廣島市千田町
金澤高等工業學校	金澤市上野本町
仙臺高等工業學校	仙臺市南六軒丁
明治專門學校	戶畑市中原
東京高等工業學校	東京市芝區西芝浦一丁目
神戸高等工業學校	神戸市須磨區水笠通一丁目
濱松高等工業學校	濱松市廣澤町
德島高等工業學校	德島市常三島町
長岡高等工業學校	長岡市學校町三丁目
福井高等工業學校	福井縣吉田郡西藤島村
山梨高等工業學校	甲府市元柳町
秋田鐵山專門學校	秋田市手形
室蘭高等工業學校	室蘭市中島町

第三章 出納 第一節 通則

盛岡高等工業學校	盛岡市仁王第一地割字内丸
多賀高等工業學校	日立市助川町
大阪高等工業學校	堺市耳原町
宇部高等工業學校	宇部市鶴之島
新居濱高等工業學校	新居濱市宮
久留米高等工業學校	久留米市旭町
東京高等商船學校	東京市深川區越中島町
神戸高等商船學校	兵庫縣武庫郡本庄村
富山商船學校	富山縣射水郡新湊
鳥羽商船學校	三重縣志摩郡鳥羽町
大島商船學校	山口縣大島郡小松町
鹿兒島商船學校	鹿兒島市下荒田町
函館高等水産學校	北海道龜田郡龜田村
東京外國語學校	東京市麴町區大手町一ノ七
大阪外國語學校	大阪市天王寺區上本町八丁目
東京高等齒科醫學校	東京市本郷區湯島三丁目
東京美術學校	東京市下谷區上野公園西四軒寺跡

第二節 收入

●諸收入收納取扱規程

○大藏省訓令第二十七號 明治三十三年四月六日

- 第一條 審視廳北海道廳府縣稅關及稅務監督局及稅務署ニ於テ收納スル國稅外ノ諸收入ハ大藏省主管トシテ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外此規程ニ依リ取扱フヘシ
- 第二條 歳入徵收官ハ諸收入ヲ徵收セントスルトキハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外十五日以内ニ於テ適宜納期日ヲ定メ各納人ニ對シ別記書式ノ納入告知書ヲ發スヘシ但シ納人ヲシテ收入官吏ニ即納セシムル場合ニ於テハ納入告知書ヲ發スルコトヲ要セス
- 第三條 歳入徵收官ハ其所屬部長ニ委任シテ諸收入收納事務ヲ分掌セシムルコトヲ得
- 第四條 納入告知書ハ納人ヲシテ納金ヲ納付スルトキ之ヲ添付セシムヘシ
- 第五條 歳入徵收官ハ納金ヲ其期限内ニ納付セサル者アルトキハ直チニ督促シ尙ホ完納ニ至ラサルトキハ速ニ相當ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第六條 歳入徵收官ハ徵收簿ニ據リ徵收報告書ヲ調製シ歳入金月計突合表ヲ添ヘ翌月十五日迄ニ大藏省ニ送付スヘシ
- 北海道、府縣管下ノ所屬部署長ニシテ歳入徵收官タル者又ハ稅務署長ノ提出スル徵收報告書ハ北海道廳、府縣又ハ稅務監督局ヲ經由スヘシ
- 前項ノ場合第一項ニ依ル徵收報告書並歳入金月計突合表ハ翌月五日迄ニ經由廳ヘ送付スヘシ

第三章 出納 第二節 收入

東京音樂學校	東京市下谷區上野公園西四軒寺跡
東京盲學校	東京市小石川區雜司ヶ谷町
東京聾啞學校	東京市小石川區指ヶ谷町
帝國圖書館	東京市下谷區上野公園西四軒寺跡

〔文會例〕

- 第七條 北海道廳長官、府縣知事、稅務監督局長前條ノ徵收報告書ヲ受ケタルトキハ徵收報告書ニ準シタル集計書ヲ添付シ前條第一項ノ期限迄ニ大藏省ニ送付スヘシ
- 第八條 諸收入ノ徵收事務ニ關スル取扱手續及帳簿報告等ノ書式ハ適宜之ヲ定ムヘシ
- 第九條 削除

附則 (昭和十年大訓第十號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ納入告知書ニ付テハ昭和十一年三月三十一日迄ハ仍從前ノ書式ニ依ルコトヲ得 (別記省略)

●文部省主管諸收入收納取扱規程

○文部大臣訓令 明治三十三年四月十二日

改正 大正一二年、昭和三年一號、五年二號

- 第一條 文部省主管諸收入ハ此ノ規程ニ依リ取扱フヘシ
- 第二條 文部大臣官房會計課長又ハ收納事務ノ委任ヲ受ケタル直轄部署長又ハ其ノ支部長ハ諸收入ヲ徵收セントスルトキハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外十五日以内ニ於テ適宜納期日ヲ定メ各納人ニ對シ納入告知書ヲ發スヘシ但シ納人ヲシテ收入官吏ニ即納セシムル場合ニ於テハ納入告知書ヲ發スルコトヲ要セス
- 第三條 納入告知書ハ納人ヲシテ納金ヲ納付スルトキ之ヲ添付セシムヘシ

大臣官房會計課
大臣官房建築課
直轄 各部

第三章 出納 第二節 收入

第四條 歳入徴收官ハ納金ヲ其ノ納期限内ニ完納セサル者アルトキハ直ニ督促シ尙ホ完納ニ至ラサルトキハ速ニ相當ノ手續ヲ爲スヘシ
第五條 收入官吏ハ毎月現金拂込仕譯書ヲ調製シ歳入徴收官ニ報告スヘシ
第六條 歳入徴收官ヨリ文部省ニ送付スル徴收報告書ハ歳入金月計對照表ヲ添ヘ翌月七日迄ニ之ヲ發送スヘシ但文部本省歳入徴收官ニ於テ徴收報告書ヲ調製スル期日ハ文部大臣官房會計課長之ヲ定ムヘシ
第七條 削除
第八條 諸收入ノ徴收事務ニ關スル取扱手續及帳簿報告等ノ書式ハ適宜之ヲ定ムヘシ

●徴收事務ヲ直轄各部長ヘ委任ノ件

○文部大臣訓令子會甲四十八號 明治三十三年四月十三日
改正 大正一二年 直轄部局長

當省主管諸收入中左ノ各項ニ依リ其ノ徴收事務ヲ直轄部局長ニ委任シ明治三十三年度ヨリ施行ス
一 小切手ノ振出ヲ委任シタル部局長ニ屬スルモノハ當該部局長
二 直轄學校及圖書館ニ屬スルモノハ收支ヲ執行スル當該部局長
三 實業教員養成所ニ屬スルモノハ之ヲ管理スル當該部局長
前項諸收入ノ徴收上收入官吏ヲ要スルトキハ當該部局長會計主任ノ職ニ在ル者ヲ以テ之ニ充ツヘシ本件ニ關スル從前ノ訓令ハ之ヲ廢止ス

●帝國大學並官立大學歳入徴收ニ關スル件

○文部大臣訓令發會五十三號 大正十一年三月三十一日
帝國大學並官立大學ノ歳入徴收官ニ於テ其ノ所屬ノ歳入ヲ徴收セントスルトキハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外明治三十三年四月十二日訓令文部省主管諸收入收納取扱規程ニ依リ取扱フヘシ
附則
本令ハ大正十一年度分ヨリ之ヲ施行ス

●政府ト私人トノ債務ノ相殺アリタル場合ニ於ケル歳入徴收官ノ事務取扱方

○大藏省訓令第十五號 大正十一年四月一日 歳入徴收官

政府ト私人トノ債務ノ相殺アリタルトキハ其ノ相殺額ニ付テハ歳入徴收官ハ納入告知書(支出官納)ヲ支出官ニ送付スヘシ
前項ノ場合ニ於テ政府ノ收納スヘキ金額ニシテ相殺額ニ超過スルトキハ其ノ超過額ニ對シテハ一般歳入徴收ノ例ニ依リ納入告知書ヲ納入ニ交付シ納入ノ手續ヲ爲サシムヘシ
附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十四年大藏省訓令第二十六號ハ之ヲ廢止ス

●大藏省所管一般會計歳入徴收官指定

○大藏省達第二號 大正十一年四月一日
改正 大正一三年大藏省達第三號、一四年第二號、昭和九年第二號、一〇年第一號、一二年第一號、第三號

〔文會例〕

附則 (昭和十二年大藏省達第三號)

本達ハ昭和十一年十二月十七日ヨリ之ヲ適用ス
大正十一年四月大藏省達第三號ハ之ヲ廢止ス

- 大藏省達第五號 大正十四年六月六日
大藏省所管一般會計歳入徴收官左ノ通定ム
營繕管財局總務部長
- 大藏省達第一號 昭和五年一月十五日
外務次官

●大藏省所管國有財産整理資金特別會計歳入徴收官指定(抄)

○大藏省達第一號 昭和九年九月四日
改正 昭和十一年第二號、一二年第二號、第四號、第五號
大藏省所管歳入各處

大正十五年六月大藏省達第一號大藏省所管國有財産整理資金特別會計歳入徴收官左ノ通改正ス
文部大臣官房會計課長
中央氣象臺長
海洋氣象臺長

●證券ヲ以テスル歳入納付ニ關スル件

第三章 出納 第二節 收入

- 大藏省所管一般會計歳入徴收官左ノ通相定ム
内閣書記官長 樞密院書記官長
印刷局長 〔國勢院總裁〕
大藏大臣官房會計課長 〔同官房臨時建築課長〕
〔臨時議院建築局經理部長〕 造幣局長
專賣局長官 地方專賣局長
稅關長 稅務監督局長
稅務署長 釀造試驗所長
朝鮮總督府事務官 同道知事
臺灣總督府州知事 同廳長
關東局司政部長 樺太廳長官
南洋廳內務部長 會計檢査院書記官
行政裁判所長官 審視總監
貴族院書記官長 衆議院書記官長
北海道廳長官 同支廳長
同管林區署長 同土木事務所長
同治水事務所長 同築港事務所長
同農事試驗場長 同水産試驗場長
同工業試驗場長 同鮭鱒孵化場長
府縣知事 東京府八丈支廳長
同小笠原支廳長 長崎縣對馬支廳長
鳥根縣隱岐支廳長 鹿兒島縣大島支廳長
沖繩縣宮古支廳長 同八重山支廳長

第三章 出納 第二節 收入

○法律第十號 大正五年三月七日

第一條 租稅其ノ他ノ政府ノ歳入ハ命令ノ定ムル所ニ依リ證券ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得但シ印紙又ハ郵便切手ヲ以テ納付スヘキモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二條 前條ノ規定ニ依リ納付シタル證券ニ付支拂ナカリシ時ハ命令ヲ以テ定メタル場合ニ限リ初ヨリ納付ナカリシモノト看做ス此ノ場合ニ於ケル證券ノ處分ニ付テハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 本法ニヨリ證券ヲ受領シタル市町村ハ證券ニ屬スル權利ヲ行使シ現金ヲ國庫ニ送附スル責任アルモノトス但シ命令ノ定ムル所ニ依リ證券ヲ國庫ニ送付スルコトヲ得

第四條 本法中市町村ニ關スル規定ハ法令ニ依リ租稅其ノ他ノ政府ノ歳入ヲ徵收シ其ノ徵收金ヲ國庫ニ送付スヘキ責任アル者ニ之ヲ準用ス

附則 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (大正六年一月一日ヨリ施行大正五年十二月勅令第二十五號)

支拂場所カ受領者ノ拂込又ハ送付ヲ爲ス日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ノ所在地ニ在ルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二條 證券ヲ呈示期間内又ハ有効期間内ニ呈示シ支拂ヲ請求シタル場合ニ於テ支拂ノ拒絶アリタルトキハ歳入ハ初ヨリ納付ナカリシモノト看做ス

第三條 前條ノ場合ニ於テハ出納官吏、日本銀行又ハ市町村ハ納人ニ對シ運滞ナク書面ヲ以テ證券ノ支拂ナカリシ旨及其ノ證券ノ還付ヲ請求スヘキ旨ヲ通知スヘシ

第四條 前項ノ通知書ヲ發シタル日又ハ第二項ノ公告ヲ爲シタル日ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ納人ハ證券ノ還付ヲ請求スルコトヲ得ス

第五條 出納官吏、日本銀行又ハ市町村ノ受領シタル證券ノ取扱ニ關シテハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ル

第六條 證券ヲ以テ納付シ得ル歳入ノ種目ハ主管大臣之ヲ定ム

第七條 大藏大臣ハ證券ノ金額、種類又ハ納付場所ニ依リ其ノ納付ニ關シテ制限ヲ加フルコトヲ得

主管大臣ハ前項ノ規定ニ依リ大藏大臣ノ定メタルモノノ外主管歳入ノ納付ニ付更ニ制限ヲ加フルノ必要アリト認ムルトキハ大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ムルコトヲ得

第三章 出納 第二節 收入

(注意) 本法ハ之ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行ス (大正五年十二月二十一日勅令第二十五號)

歳入納付ニ使用スル證券ニ關スル件

○勅令第二十五號 大正五年十二月二十一日

改正 大正一年第一號、一五年第二九四號、昭和九年第三九五號第五條、一二年第六八五號

第一條 大正五年法律第十號ニ依リ租稅其ノ他ノ歳入ノ納付ニ使用スルコトヲ得ル證券ハ左ニ掲クルモノニシテ其ノ金額ノ納付金額ヲ超過セサルモノニ限ル但第二號ノ場合ニ於テ資本利子稅ヲ課セラルモノノ納付スヘキ資本利子稅ニ相當スル金額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一 小切手又ハ一覽拂ノ爲替手形ニシテ無記名式又ハ記名持參人拂ノモノ

二 無記名國債證券ノ利札ニシテ支拂期ノ到達シタルモノ

三 宮内省ノ仕拂命令又ハ保管金引出切符ニシテ納人ノ爲發行シタルモノ

四 郵便通常爲替證券ニシテ歳入ヲ納付スヘキ官署、日本銀行、市町村ヲ受取人ト爲シタルモノ又ハ郵便小爲替證券ニシテ歳入ヲ納付スヘキ官署、日本銀行、市町村ヲ受取人ト指定シ若ハ受取人ヲ指定セサルモノ

前項ノ證券ニシテ呈示期間若ハ有効期間ノ滿了ニ近ツキタルモノ又ハ支拂不確實ナリト認ムルモノハ出納官吏、日本銀行又ハ市町村其ノ受領ヲ拒絶スルコトヲ得

〔文會例〕

地方長官前項ノ申請書ヲ受ケタルトキハ事實ヲ調査シ意見ヲ具シテ主管大臣ニ送付スヘシ

第八條 本令中市町村ニ關スル規定ハ法令ニ依リ租稅其ノ他ノ歳入ヲ徵收シ其ノ徵收金ヲ國庫ニ送付スヘキ責任アル者ニ之ヲ準用ス

第九條 本令中主管大臣ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、關東州ニ在リテハ滿洲國駐劄特命全權大使、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官之ヲ行フ但シ第六條第二項ノ場合ニ於テハ主管大臣ヲ經由スルコトヲ要ス

本令中地方長官ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳支廳長之ヲ行フ

附則 本令ハ大正六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス 明治三十八年勅令第三十四號ハ之ヲ廢止ス

歳入納付ニ使用スル證券ニ關スル制限

○大藏省令第三十號 大正五年十二月二十一日

改正 大正一年第三四號、一五年第三二號

第一條 政府ノ振出シタル小切手ハ其ノ振出日附ヨリ一年ヲ經過セサルモノニシテ且裏書禁止ノ旨ノ記載ナキモノナルコトヲ要ス

前項以外ノ小切手ハ左ニ掲クル銀行ニ宛テタルモノニシテ且振出人ニ於テ支拂拒絶證書ノ作成ヲ免除シタルモノナルコトヲ要ス

一 特別ノ法律ニ依リ設立セラレタル銀行(本店及支店)

二 手形交換所ニ加入シタル銀行(當該本店若ハ支店ニ限ル第

三號乃至第五號之ニ依リ)

二一七

第三章 出納 第二節 收入

- 三 國庫金出納事務ノ取扱ニ付日本銀行ノ代理店タル銀行
 - 四 道府縣本金庫ノ事務ヲ取扱フ銀行
 - 五 朝鮮ノ道金庫、臺灣ノ州金庫、廳地方費金取扱所又ハ關東州ノ地方費現金取扱所ノ事務ヲ取扱フ銀行
 - 六 第二號乃至第五號ニ該當スル銀行ノ所在地ニ在ル同一銀行ノ支店
- 第二條** 第一條第二項ノ規定ニ依ル小切手ハ左記各號ノ一ニ該當スル場合ヲ除クノ外其ノ一通ノ金額又ハ一口ノ歳入納付ニ使用スル其ノ合計金額百圓以上ナルトキハ支拂銀行ノ支拂保證アルモノナルコトヲ要ス
- 一 日本銀行本店、支店又ハ國庫金出納事務ノ取扱ニ付日本銀行ノ代理店タル銀行ニ宛テタルモノニシテ之ヲ日本銀行ニ納付スルトキ
 - 二 歳入納付ノ告知ヲ爲ス官署ニ於テ支拂保證アルコトヲ要セサル旨ノ承認ヲ與ヘタルトキ
- 歳入納付ノ告知ヲ爲ス官署ハ保證人又ハ擔保物アル歳入ニシテ其ノ告知額ヲ納付スルモ直チニ保證證書又ハ擔保物ノ返還ヲ要セサルモノニ限り前項第二號ノ承認ヲ與フルコトヲ得
- 第三條** 爲替手形ハ日本銀行本店、支店又ハ國庫金出納事務ノ取扱ニ付日本銀行ノ代理店タル銀行(當該本店若ハ支店ニ限ル)ニ宛テタルモノニシテ振出人ニ於テ支拂拒絕證書ノ作成ヲ免除シタルモノナルコトヲ要ス
- 第四條** 爲替手形ハ日本銀行ニ歳入ヲ納付スル場合ノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス
- 第五條** 無記名國債證券ノ利札ニシテ資本利子税法第五條第一號ノ規定ニ依リ資本利子税ヲ課セラレサルモノハ日本銀行其他ノ利子支拂場所ニ歳入ヲ納付スル場合ノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス

〔文會例〕

本令ハ大正六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●大藏省主管ノ歳入ハ證券ヲ以テ納付スルコトヲ得ルノ件

- 大藏省令第三十一號 大正五年十二月二十一日
- 改正 大正一年第三五號
- 第一條 大藏省主管ノ歳入ハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外總テ證券ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得
 - 第二條 政府以外ノ者ノ振出シタル小切手又ハ爲替手形ハ左ニ掲クル歳入ノ納付ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス
 - 一 科料及過料
 - 二 間接國稅犯則者納金及間接國稅犯則者處分費納金
 - 三 關稅法九十四條ノ規定ニ依ル納金
 - 第三條 郵便局ニ於テ取扱フ歳入ハ左ニ掲クル證券ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得ス
 - 一 政府以外ノ者ノ振出シタル小切手ニシテ納付スヘキ郵便局所在地ノ手形交換所ニ加入セサル銀行ニ宛テタルモノ但シ其ノ手形交換所ニ加入セル銀行ノ所在地ニ在ル同一銀行ノ支店ニ宛テタルモノヲ除ク
 - 二 郵便爲替證書ニシテ納付スヘキ郵便局以外ノ郵便局ヲ拂渡郵便局トシテ指定シタルモノ
 - 三 政府以外ノ者ノ振出シタル小切手又ハ郵便爲替證書以外ノ證券ニシテ其ノ支拂場所カ納付スヘキ郵便局ノ所在地ニ在ラサルモノ

〔文會例〕

- 第四條** 町村又ハ戸長ニ於テ徵收スル歳入ハ政府以外ノ者ノ振出シタル小切手ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得ス但シ左ニ掲クル町村ノ徵收スル歳入ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 一 市又ハ區ニ接續スル町村
 - 二 大正五年大藏省令第三十號第一條ニ掲ケタル銀行ノ不在地タル町村
- 附則
本令ハ大正六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●證券ヲ以テスル歳入納付ニ關スル法律施行細則

行細則

- 大藏省令第三十二號 大正五年十二月二十一日
- 改正 大正一年第三六號、一五年第三二號
- 第一條 證券ヲ以テ租稅其ノ他ノ歳入金ヲ納付セムトスル者ハ其ノ證券ノ裏面ニ記名捺印シ指定ノ場所ニ之ヲ納付スヘシ納稅告知書、納入告知書、納付書又ハ拂込通知書ノ交付ヲ受ケタル者ニ在リテハ之ヲ添附スルコトヲ要ス
 - 第二條 無記名國債證券ノ利札ハ當該利札ニ對スル資本利子税ニ相當スル金額ヲ控除シタルモノヲ以テ納付金額ト爲スヘシ但資本利子税法第五條第一號ノ規定ニ依リ資本利子税ヲ課セラレサルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス
 - 第三條 出納官吏(出納員ヲ含ム以下同シ)、日本銀行又ハ市町村(北海道及沖繩縣ノ臺灣ノ區長ヲ含ム以下同シ)ニ於テ證券ヲ受領シタルトキハ歳入金ノ領收證書、歳入

第三章 出納 第二節 收入

〔文會例〕

徵收官ニ對スル領收濟報告書又ハ領收濟通知書ニ「證券受領」ノ印章ヲ捺捺スヘシ歳入金ノ一部分ヲ證券ヲ以テ受領シタル場合ニ於テハ其ノ證券金額ヲ附記スルコトヲ要ス

第一號様式

「何官署」「何市町村」扱

字體 楷書
寸法 曲尺 縱一寸
橫五分

第二號様式

用紙適宜 輪廓寸法 曲尺 縱四寸五分
橫三寸五分

證券仕譯書		第 號	
種	類	枚 數	券 面 金 額
小 切 手	手 札		
國 債 證 券	省 命 令 符 號 替 書		
官 署 出 納 官 引 郵 證	官 署 出 納 官 引 郵 證		
合 計			
年 月 日		何 官 署 出 納 官 氏 名 印	
何 官 署 出 納 官 氏 名 印		何 市 町 村 長 氏 名 印	

第三章 出納 第二節 收入

備考

- 一 本書記載事項ニ訂正ヲ加ヘタルトキハ出納官吏又ハ市町村長其ノ認印ヲ押捺スルモノトス
- 二 本書ハ正副二通ヲ作り副本ハ拂込預託又ハ送付金額ニ對スル日本銀行ノ領收證書ヲ添附シ置クモノトス
- 三 國債證券ノ利札ニシテ第一條ノ二ニ該當スル場合ニ於テハ券面金額欄ニ納付金額ヲ記載シ資本利子税ニ相當スル金額ヲ外書スルモノトス

第三號様式

小切手ヲ以テ納付スル場合ニハ
支拂銀行ノ支拂保證ヲ要セス
〔何官署〕

字體 楷書
寸法 適宜

●大正五年大藏省令第三十二號第一條ノ規定ニ關スル件

○大藏省主計局長通牒 大正六年四月
客年當省令第三十二號第一條ノ規定ニ關シ今般別紙甲號ノ通照會有之乙號ノ通回答致候ニ付念爲此段及通牒候也

(別紙)
(甲 號)
○司法省會計課長照會會甲第七十九號 大正六年三月

〔文會例〕

ニ該當スルモノヲ除クノ外之ヲ郵便局ニ拂込又ハ送付スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ大正四年大藏省令第一號第一條、第五條、第六條、第八條及大正五年大藏省令第三十二號第三條ノ規定ニ準據スルモノトス

前項ニ依リ拂込又ハ送付ヲ爲シタル證券ニシテ支拂ナカリシカ爲郵便局ヨリ返付ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ受領證書ヲ郵便局ニ送付スヘシ

第二條 證券ノ受拂ニ關スル現金出納簿ノ記帳方ハ左記各號ニ依ルヘシ

一 證券ヲ納人ヨリ受領シタルトキ又ハ其ノ證券ヲ日本銀行若ハ郵便局ニ拂込ミタルトキハ之カ受拂ヲ登記スルモノトス但シ摘要欄内ニ「證券」ノ文字ヲ附記シテ現金ト區分スルコトヲ要ス

受領證券中證券ヲ以テスル歳入納付ニ關スル法律施行細則第一條ノ二本文ニ該當スルモノニ付テハ摘要欄内ニ「國債利札」ノ文字ヲ附記シテ拂込額ヲ區分記載スルコトヲ要ス

二 大正五年大藏省令第三十二號第五條ニ依リ領收済額ヲ取消シタルトキハ其ノ日ニ於テ受ノ欄ニ當該金額ヲ朱書登記スルモノトス但シ日本銀行又ハ郵便局ヨリ領收済額取消ノ通知ヲ受ケタルモノナルトキハ受拂ノ各欄ニ登記スルコトヲ要ス

第三條 市町村ニ於テ大正五年大藏省令第三十二號第五條ニ依リ領收額ヲ取消シタルトキハ歳入金收納簿ノ當該納人ノ口座ニ其ノ金額事由及年月日ヲ朱書登記スルモノトス

第四條 歳入徴收官ニ對スル出納官吏又ハ日本銀行ノ領收済額取消報告書ニハ年度、科目、金額、事由其ノ他必要ナル事項ヲ記載スヘシ出納官吏又ハ市町村ニ對スル日本銀行ノ領收済額取消通知書ニ付亦同シ

第五條 出納官吏又ハ日本銀行ハ證券ニ關スル仕譯簿ヲ備ヘ納人別ニ證券

第三章 出納 第二節 收入

二二〇

大正五年十二月二十日貴省令第三十二號第一條ニ證券ヲ以テ租税其他ノ歳入金ヲ納付セントスル者ハ其ノ證券ノ裏面ニ記名捺印シ指定ノ場所ニ納付スヘク規定相成居候處當省部内ニ於ケル歳入金ニシテ爲替券ヲ以テ納付シ來タルモノハ概ネ記名捺印無之ヲ一々返戻シ記名捺印セシムル如キハ煩ニ堪ヘスシテ實行上頗ル困難ニ有之候就テハ右規定ハ是等記名捺印無キ爲替券ノ如キモ納付ヲ認メサル趣旨ニ候ヤ否至急御意見承知致度

(乙 號)

○大藏省主計局長回答 大正六年四月
右ハ納人ヲシテ證券ノ裏面ニ記名捺印セシムルヲ本則トスルハ勿論ニ候ヘ共其ノ趣旨トスル所納付證券ニ對シ支拂拒絶アリタルカ爲之ヲ還付スル場合ニ於テ其ノ證券ガ果シテ納人ノ納付ニ係ルモノナル哉否ニ關シ紛爭ヲ生スルノ虞アルヘキヲ顧慮シ豫メ之ヲ防止スルノ精神ニ外ナラサル次第ニ付其ノ虞レナシト認メラルル場合ニ於テハ必ズシモ還付スルヲ要セス其ノ儘之ヲ領收シ當該出納官吏ニ於テ便宜其ノ氏名ヲ記入シ取扱差支ナキ義ト御承知相成度

●證券ヲ以テスル歳入納付ニ關スル法律實施ニ付取扱方

○大藏省訓令第十三號 大正五年十二月二十一日
改正 大正一一年第一六號、一五年第一七號

證券ヲ以テスル歳入納付ニ關スル法律實施ニ付取扱方左ノ通心得ヘシ

第一條 北海道廳府縣、稅務監督局及稅務署ノ出納官吏又ハ市町村ニ於テ受領シタル證券ハ大正五年大藏省令第三十一號第三條第一號乃至第三號

〔文會例〕

ノ種類、記號、番號、金額、振出人及支拂人ノ氏名其ノ他必要ナル事項ヲ記載シ其ノ受入、支拂請求、拂込又ハ還付ノ年月日ヲ記入整理シ證券ニ關スル一切ノ受拂ノ顛末ヲ明瞭ナラシムヘシ

市町村ニ於ケル受領證券仕譯簿ノ記帳整理方ハ前項ノ規定ニ準據スルモノトス

出納官吏又ハ市町村ヨリ拂込又ハ送付ヲ受ケタルモノニ付テハ郵便局ノ出納官吏及日本銀行ハ第一項ノ記入整理ヲ省略スルコトヲ得

證券ヲ以テスル歳入納付ニ關スル法律施行細則別表第二號書式備考三八無記名國債證券ノ利札ヲ受領シタル場合ニ於ケル仕譯簿ノ記帳方ニ付之ヲ準用ス

●文部省主管ノ歳入ハ證券ヲ以テ納付スルコトヲ得ルノ件

○文部省令第三號 大正六年三月一日
改正 大正一一年第一四號

文部省主管ニ屬スル一般會計及特別會計ノ歳入ハ帝國大學、官立大學及醫學專門學校附屬醫院ニ於ケル外來患者ノ診察料、藥價、手術料、治療料及雜品代ヲ除ク外證券ヲ以テ納付スルコトヲ得

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (大正一一年第十四號)

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

(參考)

●證券ヲ以テスル歳入納付ニ關スル法律施行細則ノ規定ニ關スル件

二二二

第三章 出納 第二節 收入

○内務省會計課通牒官第三十三號 大正六年四月十四日
標記ノ件ニ關シ別紙甲號照會ニ對シ乙號ノ通回答相成候ニ付爲念及御
通牒候

(別紙)

(甲號)

○司法大臣官房會計課照會 大正六年三月二十四日
大正五年十二月貴省令第三十二號第一條ニ證券ヲ以テ租稅其ノ他ノ歳
入金ヲ納付セントスル者ハ其ノ證券ノ裏面ニ記名捺印シ指定ノ場所ニ
納付スヘク規定相成居候處當省部内ニ於ケル歳入金ニシテ爲替券等ヲ
以テ納付シ來ルモノハ概ネ記名捺印無之ヲ一々返戻シ記名且ツ捺印
セシムル如キハ煩ニ堪ヘスシテ實行上頗ル困難事ニ有之候就テハ右規
定ハ是等記名捺印無キ爲替券ノ如キモ納付ヲ認メサル趣旨ニ候ヤ否至
急御意見承知致度此段及御照會候也

(乙號)

○大藏省主計局回答 大正六年四月六日
三月二十四日附會甲第七九號ヲ以テ客年當省令第三十二號第一條ノ
規定ニ關シ御照會ノ趣了承右ハ納人ヲシテ證券ノ裏面ニ記名捺印セシ
ムルヲ本則トズルハ勿論ニ候ヘ共其ノ趣旨トスル所納付證券ニ對シ支
拂拒絶等アリタルカ爲之ヲ還付スル場合ニ於テ其ノ證券カ果シテ納人
ノ納付ニ係ルモノナル哉否ニ關シ紛爭ヲ生スルノ虞アルヘキヲ顧慮シ
兼メ之ヲ防止スルノ精神ニ外ナラサル次第ニ付其ノ虞ナシト認メラレ
場合ニ於テハ必スシモ還付スルヲ要セス其儘之ヲ領收シ當該出納官
吏ニ於テ便宜其ノ氏名ヲ記入シ取扱差支ヘナキ候ト御承知相成度省議
ヲ經此段及御回答候也

明治四十年勅令第三百四十二號
明治四十二年勅令第四十一號

●收入印紙ヲ以テ手数料ヲ納ムルトキ印紙
貼付方

○大藏省令第五十一號 明治三十八年十一月十六日
改正 大正九年第一號
收入印紙ヲ以テ手数料ヲ納ムルトキハ其金額ニ相當スル印紙ヲ願書其他ノ
書類ニ貼付スヘシ

(參考)

●登錄稅又ハ手数料トシテ納ムル收入印紙ノ消印ニ關スル件

○通信省令第三十五號 明治四十四年十月
收入印紙ヲ以テ登錄稅又ハ手数料ヲ納ムル者ハ書類ニ貼付シタル印紙
ニ消印ヲ爲サスシテ當該官廳ニ差出スヘシ當該官廳ハ其ノ員數ノ正當
ナルヲ認メタル後書類ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニ掛ケ黒肉ヲ用ヒテ鮮明
ニ消印ヲ押捺スヘシ但シ納人ニ於テ自己ノ便宜上消印ヲ爲スハ之ヲ妨
ケス

附則

明治三十二年四月通信省令第十四號ハ之ヲ廢止ス

●國庫ヨリ支給セラルル一時恩給又ハ之ニ
類スル退職給與等ニ對スル第二種所得稅
徵收手續ノ件

第三章 出納 第二節 收入

●印紙ヲ以テスル歳入金納付ニ關スル件

○勅令第九十號 大正九年六月二十四日

改正 大正一二年第二三六號、第二八八號、昭和九年第三九五號

第一條 政府ニ納ムヘキ手数料、罰金、科料、過料、刑事追徵金、訴訟費
用、非訟事件費用及少年法第六十一條ノ規定ニ依リ徵收スル費用ハ印紙
ヲ以テ之ヲ納メシムルコトヲ得但シ印紙ヲ以テ納メシムルコトヲ得ヘキ
手数料ノ種目ハ主務大臣、朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺
灣總督、關東局所管地域ニ在リテハ滿洲國駐劄特命全權大使、南洋羣島
ニ在リテハ南洋羣島長官之ヲ定ム

第二條 法令ニ依リ印紙ヲ以テ租稅其ノ他ノ政府ノ歳入金ヲ納ムルトキハ
收入印紙ヲ用フヘシ

收入印紙ノ形式ハ大藏大臣之ヲ定ム

第三條 收入印紙ハ郵便局所、郵便切手賣捌所又ハ收入印紙賣捌所ニ於テ
之ヲ賣捌ク賣捌ニ關スル規程ハ通信大臣、朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣
ニ在リテハ臺灣總督、關東局所管地域ニ在リテハ大使、南洋羣島ニ在リテ
ハ南洋羣島長官、關東廳所轄地域以外ノ支那ニ在リテハ外務大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

明治三十年勅令第四百五十二號

明治三十一年勅令第四百十號

明治三十二年勅令第二十六號

明治三十二年勅令第五十六號

明治三十八年勅令第二百二十七號

〔文會例〕

〔文會例〕

○會計課長移牒官會二百二號 昭和十三年十月十四日

收支ヲ執行スル各部署長

國庫ヨリ支給セラルル一時恩給又ハ之ニ類スル退職給與等ニ對スル第二種
所得稅徵收手續ニ關シ大藏次官ヨリ別紙寫ノ通依頼有之タルニ付右御了知
相成度依命此段移牒ス

追テ右大藏次官通牒中追書ノ協議ヲ爲サルル場合ハ本省ヲ經由セラレ度
(別紙寫)

○大藏次官通牒藏稅第三千四百四十八號 昭和十三年九月二十日

所得稅法ノ改正ニ依リ一時恩給又ハ之ニ類スル退職給與ニ對シ所得稅ヲ
課セラルルコトニ相成候處國庫ヨリ支給セラルル之等ノ給與ニ對スル所
得稅ニ付テハ大體別紙徵收手續ニ依リ取扱フコトニ致度ニ付其ノ旨貴管
下支出官ニ對シ御通達方可然御配慮相成度此段及御依頼候也

追テ別紙徵收手續ニ依リ難キ事例生ジタル場合ハ其ノ都度當省主稅局
ニ御協議相成候様致度爲念申添候

(別紙)

●國庫ヨリ支給セラルル一時恩給又ハ之ニ類スル退職給與等
ニ對スル第二種所得稅徵收手續

昭和十三年四月大藏省主稅局

一 所得稅法第三條ノ第二種丙ノ所得ハ一時恩給又ハ之ニ類スル退職給
與ニハ退職ニ際シ支給セラルル賞與及手當等一切ノ給與ヲ含ムモノ
トス

二 一時恩給又ハ之ニ類スル退職給與ニシテ死亡ニ因リ支給ヲ受クルモ
ノナルトキハ課稅セザルモノトス

第三章 出納 第二節 收入

- 三 一時恩給又ハ之ニ類スル退職給與ニシテ支給應(一時恩給ニ付テハ退職當時ノ勤務處)ガ税法施行地ニ在ルトキハ假令現實ノ支拂ガ税法施行地外ニ在ルモ所得税法ニ依リ課税スルモノトス
- 四 一時恩給又ハ之ニ類スル退職給與ニシテ支給應(一時恩給ニ付テハ退職當時ノ勤務處)ガ朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋羣島ニ在ルトキハ假令現實ノ支拂ガ税法施行地ニ在ルモ所得税法ニ依リ課税セザルモノトス(此ノ場合ハ各當該地ノ第二種丙ノ所得トス)
- 五 第二種丙ノ所得ハ一時恩給及退職ニ際シ支給セラレル賞與及手當等一切ノ給與ヲ合算シ(支給應ガ二以上ナルトキハ之ヲモ合算シ)其ノ合計額ヨリ五千圓ヲ控除シテ計算スルモノトス
- 六 前項ノ場合ニ於テ一時恩給ト一時恩給以外ノ給與トハ便宜之ヲ區別シ先ツ一時恩給以外ノ給與ニ付左記方法ニ依リ税金ヲ計算シテ之ヲ徴收スルモノトス
 - (一) 各處(外地ノ各處ヲ除ク)ニ於テ退職者ニ支給スベキ一時恩給以外ノ給與アルトキハ成ルベク速ニ之ヲ決定シ其ノ支出官ヨリ其ノ發令年月日、支給額ヲ退職者ノ勤務處(兼務處アルトキハ本務處)ノ支出官ニ通報スルコト
 - (二) 勤務處ノ支出官ハ前號ノ通報ニ依ルノ外退職者ヨリ申告ヲ徵スル等各處ノ支給額ヲ調査シ一應其ノ合計額ヨリ五千圓ヲ控除シタル額ニ所得税法第二十二條ノ税率ヲ適用シテ税金ヲ算出シ之ヲ其ノ應ノ支出額ヨリ差引キ支出官事務規程第二十六條ノ二ニ依リ處理スルト共ニ税金引去濟ノ旨ヲ關係支出官ニ通報スルコト
 - (三) 前號ノ場合ニ於テ勤務處ノ支給額ガ徵收スベキ税額ニ達セザルトキハ徵收スベキ税額ヲ各處ノ支給額ニ按分シ其ノ按分額及支給總額ヲ關係支出官ニ通報スルコト

〔文會例〕

付スルコト

九 貯金局ニ於テ前項第手續ノ書類ノ送付ヲ受ケタルトキハ直ニ税金徵收ノ手續ヲ爲スモノトス

〔文會例〕

第二種丙ノ所得税ニ關スル通報書						
昭和 年 月 日 支出官 氏名						
内閣恩給局長殿						
退職年月日	職當時	給與額	五千圓控除	差引額	税額	備考
退職年月日	職當時	給與額	五千圓控除	差引額	税額	備考
摘要						
一時恩給						
計						
内勤務處ニ於テ徵收済ノ税額						
差引徵收ヲ要スル税額						
昭和 年 月 日 内閣恩給局長殿						

※印ハ勤務處支出官ニ於テ記入スルモノトス

第三章 出納 第二節 收入

二二四

- (四) 各處ノ支出官前號ノ通報ヲ受ケタルトキハ其ノ應ノ支給額ニ付テハ出官事務規程第二十六條ノ二ニ依リ處理スルコト
- (五) 各處ノ支出官ハ第二號ノ税金引去濟ノ通報又ハ第三號ノ按分額ノ通報ヲ受ケタル迄ハ給與額ノ支出ヲ留保シ置クコト
- 七 退職者ガ一時恩給ヲ受ケル者ナルトキハ勤務處(兼務處アルトキハ本務處)ノ支出官ハ左記事項ヲ恩給ノ決定官處ニ通報スルモノトス(別紙様式)
 - (一) 第六項第二號又ハ第四號ニ依リ税金ヲ徵收シタルモノニ付テハ受給者ノ住所氏名、退職年月日並ニ一時恩給以外ノ給與額、徵收税額及徵收年月日
 - (二) 一時恩給以外ノ給與額五千圓以下ナル爲第六項第二號又ハ第四號ニ依リ税金ノ徵收ヲ爲サザリシモノニ付テハ受給者ノ住所氏名、退職年月日及一時恩給以外ノ給與額但シ一時恩給額ト合算シ五千圓ニ達セザルト明瞭ナルモノヲ除ク
 - (三) 通報書ハ一時恩給請求書ニ添附送付スルコト
 - (四) 恩給裁定官處ニ於テ前項ノ通報ヲ受ケタルトキハ左記ニ依リ取扱フモノトス但シ一時恩給以外ノ給與トノ合算額ガ五千圓以下ナルモノヲ除ク
 - (一) 一時恩給ト一時恩給以外ノ給與トノ合算額ヨリ五千圓ヲ控除シタル額ニ所得税法第二十二條ノ税率ヲ適用シ徵收スベキ税額ヲ算出スルコト
 - (二) 勤務處ニ於テ既ニ徵收シタル税金アルトキハ前號ノ税額ヨリ之ヲ控除シタル殘額ヲ以テ徵收スベキ税額トスルコト
 - (三) 前二號ニ依リ定マリタル徵收スベキ税額ハ其ノ算出ノ基礎ト共ニ第七項ノ通報書ニ追記シ之ヲ恩給裁定通知書ニ添附シテ貯金局ニ送

(參照)

第二種丙ノ所得税額速算表

所得	税率	控除額
自一〇〇、〇〇〇以上	三〇	六一、〇〇〇、〇〇〇
自一〇〇、〇〇〇	二〇	一一、〇〇〇、〇〇〇
自二〇、〇〇〇	一〇	一、〇〇〇、〇〇〇
自一〇、〇〇〇	一〇	一、〇〇〇、〇〇〇
自一〇〇、〇〇〇以下	一〇	一、〇〇〇、〇〇〇

算出方法 所得金額(即チ支給總額ヨリ五千圓ヲ控除シタル金額)ニ當該欄ノ「税率」ヲ乘ジテ得タル金額ヨリ當該欄ノ「控除額」ヲ控除シタル金額ヲ以テ徵收スベキ税額トス

●恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則

- 勅令第四百三十九號 大正十二年十月九日
- 改正 昭和二年第三五八號、七年第三七五號、九年第三三三號
- 第一條 内閣恩給局長ハ國庫ヨリ府縣其ノ他國庫以外ノ經濟ニ對シ請求スベキ各經濟別恩給金額分擔額ヲ前年四月一日ヨリ其ノ年三月三十一日迄

二二五

第三章 出納 第二節 收入

ノ間ニ於ケル恩給支給義務額ニ依リ調査シ各經濟毎ニ仕譯書一通ヲ作製シ毎年七月三十一日迄ニ分擔金額ノ請求ヲ爲スヘキ當該經濟ニ對シ仕譯書一通ヲ添附シタル恩給金額分擔請求通知書ヲ發シ同時ニ仕譯書一通ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二條 府縣其ノ他國庫以外ノ經濟前條ノ規定ニ依リ恩給金額分擔請求通知書ノ送付ヲ受ケタルトキハ翌年三月三十一日迄ニ其ノ分擔額ヲ日本銀行ニ拂込ムヘシ

第三條 府縣其ノ他國庫以外ノ經濟ハ國庫ニ對シ請求スヘキ恩給金額分擔額ヲ前年四月一日ヨリ其ノ年三月三十一日迄ノ間ニ於ケル恩給支給義務額ニ依リ調査シ仕譯書ヲ作製シ之ヲ恩給金額分擔請求書ニ添附シ毎年七月三十一日迄ニ内閣恩給局長ニ送付スヘシ

第四條 大藏大臣前條ノ恩給金額分擔請求書ノ送付ヲ受ケタルトキハ翌年三月三十一日迄ニ其ノ分擔額ヲ當該經濟ニ交付スヘシ

第五條 府縣其ノ他國庫以外ノ經濟ハ國庫以外ノ他ノ經濟ニ對シ請求スヘキ恩給金額分擔額ヲ前年四月一日ヨリ其ノ年三月三十一日迄ノ間ニ於ケル恩給支給義務額ニ依リ調査シ仕譯書ヲ作製シ之ヲ恩給金額分擔請求書ニ添付シ毎年七月三十一日迄ニ分擔金額ノ請求ヲ受クヘキ經濟ニ送付スヘシ

第六條 前條ノ恩給金額分擔請求書ノ送付ヲ受ケタル經濟ハ翌年三月三十一日迄ニ其ノ分擔額ヲ之ヲ請求ヲ爲シタル當該經濟ニ交付スヘシ

第七條 國庫ト府縣其ノ他國庫以外ノ經濟トノ間又ハ國庫以外ノ經濟相互

〔文會例〕

第十一條 文官又ハ教育職員ニシテ國庫ヨリ俸給(又ハ給料)ノ支給ヲ受ケサル者ノ恩給法第五十九條ノ規定ニ依リ國庫ニ納付スヘキ金額ハ俸給(又ハ給料)ノ支拂ヲ爲ス際其ノ支拂ヲ爲ス當該官吏又ハ吏員之ヲ控除スヘシ

前項ノ規定ニ依リ國庫納金ヲ控除シタル者ハ其ノ計算ヲ明ニシタル仕譯書ヲ作成シ毎翌月五日迄ニ之ヲ歳入徴收官ニ報告スヘシ但シ歳入徴收官ノ指定シタル者ニ在リテハ前項ノ控除額ニ仕譯書ヲ添附シ毎翌月十日迄ニ之ヲ歳入徴收官ノ定ムル出納官吏ニ納付スヘシ

第十二條 教育職員、警察監獄職員又ハ待遇職員ニシテ國庫ヨリ俸給(又ハ給料)ノ支給ヲ受ケサル者ノ恩給法第五十九條ノ規定ニ依リ府縣其ノ他國庫以外ノ經濟ニ納付スヘキ金額ハ俸給(又ハ給料)ノ支拂ヲ爲ス際其ノ支拂ヲ爲ス當該官吏又ハ吏員之ヲ控除スヘシ

第十三條 轉任、轉職、待命、休職又ハ死亡等ニ因リ過渡俸給(又ハ給料)ノ返納ヲ要スルトキハ前三條ノ規定ニ依リ控除シタル納金額ヲ算出シタル場合ニ適用セラレタル割合ヲ其ノ過渡俸給(又ハ給料)額ニ乗シタル金額ヲ返納者ニ於テ控除スヘシ

第十四條 國庫ヨリ恩給ヲ給スルモ俸給ヲ給セサル公務員ニ俸給ヲ給スル經濟カ恩給法第十八條第一項ノ規定ニ依リ國庫ニ納付スヘキ金額ハ毎年四月十日及十月十日迄ニ其ノ前六月分ヲ日本銀行ニ拂込ムヘシ

第十五條 府縣其ノ他國庫以外ノ經濟ヨリ恩給ヲ給スルモ俸給ヲ給セサル公務員ニ俸給ヲ給スル經濟カ恩給法第十八條第二項ノ規定ニ依リ國庫以

第三章 出納 第二節 收入

間ニ於ケル分擔ノ請求ヲ爲ストキ普通恩給、扶助料、一時恩給又ハ一時扶助料ノ裁定ヲ爲シタル官廳ハ裁定後直ニ普通恩給、扶助料、一時恩給又ハ一時扶助料ノ分擔請求ヲ受クヘキ經濟ニ當該公務員ノ履歷書ヲ添付シ其ノ裁定ノ要項ヲ通知スヘシ

第八條 内閣恩給局長以外ノ官廳カ國庫ヨリ支給スヘキ恩給ノ裁定ヲ爲シタルトキハ當該公務員ノ履歷書ヲ添付シ直ニ其ノ要項ヲ内閣恩給局長ニ通知スヘシ

第九條 内閣恩給局長カ國庫以外ノ經濟ヨリ支給スヘキ普通恩給、扶助料、一時恩給又ハ一時扶助料ノ裁定ヲ爲シタルトキハ當該公務員ノ履歷書ヲ添付シ直ニ其ノ要項ヲ當該經濟ニ通知スヘシ

第十條 前二條ノ規定ニ依リ通知シタル裁定ノ要項ニ變更ヲ生シタル場合ニ於テハ前二條ノ規定ニ準シ之ヲ通知スヘシ

第十一條 於テハ履歷書ノ添付ヲ要セス

第十二條 文官、下士官以上ノ軍人、教育職員、警察監獄職員又ハ待遇職員ニシテ國庫ヨリ俸給(又ハ給料)ノ支給ヲ受ケタル者ノ恩給法第五十九條ノ規定ニ依リ國庫ニ納付スヘキ金額ハ俸給(又ハ給料)ノ支拂ヲ爲ス際支出官之ヲ控除スヘシ但シ出納官吏俸給(又ハ給料)ノ支拂ヲ爲ス場合ニ於テハ當該出納官吏之ヲ控除スヘシ

第十三條 前項ノ規定ニ依リ控除シタル金額ヲ歳入ニ組入レムトスル場合ニ於テハ當該支出官カ歳入徴收官トシテ徴收ノ手續ヲ爲スヘシ

〔文會例〕

第十四條 外ノ經濟ニ納付スヘキ金額ハ毎年四月十日及十月十日迄ニ其ノ前六月分ヲ當該經濟ニ交付スヘシ

第十五條 府縣其ノ他國庫以外ノ經濟ヨリ恩給ヲ給スルモ俸給ヲ給セサル公務員ニ恩給ヲ給スル經濟ニ對シ恩給法第十八條第三項ノ規定ニ依リ國庫ヨリ交付スル金額ハ當該經濟カ恩給法第十八條第二項ノ規定ニ依リ納金ヲ收入シタル年度ノ翌年度ニ於テ之ヲ交付スルモノトス

第十六條 本令施行ニ關シ必要ナル規定ハ其ノ收入支出ニ關スルモノニ付テハ大藏大臣、其ノ他ノ事項ニ關スルモノニ付テハ内閣總理大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

一 官吏遺族扶助法納金收入規則

一 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退職料及遺族扶助料法納金收入規則

一 明治四十五年勅令第七十一號

本令施行前内閣總理大臣以外ノ官廳カ裁定シタル國庫支辨ノ年金額恩給、退職料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノニシテ本令施行ノ際現ニ其ノ權利ノ存續スルモノニ付テハ當該裁定官廳ハ遲滞ナク裁定ノ要項ヲ内閣恩給局長ニ通知スヘシ

附則

第九條ノ規定ハ前項ノ恩給、退職料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノニ付之ヲ準用ス

附則 (昭和七年勅令第三百七十五號)

第三章 出納 第二節 收入

本令ハ昭和七年四月一日以後ノ裁定ニ係ル恩給ニ付之ヲ適用ス但シ昭和七年四月一日以後昭和八年一月三十一日迄ノ裁定ニ係ル增加恩給及一時金タル恩給ニ付履歴書ヲ添付スベキ場合ニ於テハ其ノ原本ヲ添付スルヲ以テ足ル

●恩給金額分擔及國庫納金收入等事務取扱

細則

○大藏省令第三十號 大正十二年十二月七日

改正 昭和二年舊四〇號、九年第五號

- 第一條 恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第一條ニ規定スル恩給金額分擔請求通知書ハ別紙第一號書式ニ依リ仕譯書ハ第二號書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ
- 恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第三條及第五條ニ規定スル恩給金額分擔請求書及仕譯書ハ前項ニ規定スル恩給金額分擔請求通知書及仕譯書ニ準シ之ヲ調製スヘシ
- 第二條 恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第十條第一項ノ出納官吏國庫納金ヲ控除シタル場合ニ於テハ收入官吏トシテ總テ其ノ規定ニ依リ整理スヘシ
- 第三條 恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第十一條第二項ノ規定ニ依リ仕譯書ハ出納官吏事務規程附屬第五號書式ニ準シ之ヲ調製スヘシ
- 第三條ノ二 恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第十一條第二項但書

〔文會例〕

定ニ依ル收入金ハ大藏省主管トシ諸收入收納取扱規程ニ依リ之カ整理ヲ爲スヘシ

附則

本令ハ恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則施行ノ日ヨリ之ヲ適用ス左ノ大藏省訓令ハ之ヲ廢止ス

官吏遺族扶助法納金收入規則取扱順序

大正十一年大藏省訓令第二十三號

附則 (昭和九年三月大藏省令第五號)

本令ハ昭和九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式

恩給金額分擔請求通知書

一金

右大正何年分恩給金額分擔額及請求候條國庫ニ送付相成度別紙仕譯書添附及通知候也

年 月 日

何廳官職氏名宛

内閣恩給局長

第三章 出納 第二節 收入

ノ規定ニ依リ出納官吏ニ納付セシムルコトヲ指定シ得ルハ當該俸給(又ハ給料)ノ支拂ヲ爲ス官吏又ハ吏員カ歳入徵收官ノ所在地又ハ最寄ニ在勤スル場合ニシテ歳入徵收官在勤廳ニ在ル歳入徵收官ノ定ムル出納官吏ニ之カ納付ヲ爲サシムル場合ニ限ル

第四條 收入官吏前條ノ規定ニ依リ國庫納金ノ納付ヲ受ケタルトキハ所定ノ現金領收證書ヲ交付シ現金出納簿ノ登記報告等其ノ規定ニ依リ整理ス

第五條 恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第十三條ノ規定ニ依リ過渡俸給(又ハ給料)ノ返納ヲ要スルトキハ其ノ過渡俸給(又ハ給料)額中ヨリ返納者ニ於テ控除スヘキ金額ヲ控除シタル殘額ニ付返納告知書ヲ發シ返納ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第六條 恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第十四條ノ規定ニ依リ當該公務員ニ俸給ヲ給スル經濟ヨリ國庫ニ納付スヘキ金額ニ付テハ歳入徵收官ハ其ノ計算ヲ明ニシタル適宜ノ報告書ヲ發シ一般歳入金徵收ノ例ニ依リ當該經濟ニ對シ納入告知書ヲ發シ日本銀行ニ納付ノ手續ヲ爲サシム

第七條 恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第十五條ノ規定ニ依リ當該公務員ニ俸給ヲ給スル經濟ヨリ國庫以外ノ經濟ニシテ恩給ヲ給スル者ニ納付スヘキ金額ニ付テハ其ノ計算ヲ明ニシタル書類ヲ添付シ當該經濟ノ定ムル規定ニ從ヒ交付ノ手續ヲ爲スヘシ

第八條 恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第十一條及第十四條ノ規

前項ノ規定ハ恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第十一條第二項本文ノ規定ニ依リ報告アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第九條 恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第十五條ノ規定ニ依リ當該公務員ニ俸給ヲ給スル經濟ヨリ國庫以外ノ經濟ニシテ恩給ヲ給スル者ニ納付スヘキ金額ニ付テハ其ノ計算ヲ明ニシタル書類ヲ添付シ當該經濟ノ定ムル規定ニ從ヒ交付ノ手續ヲ爲スヘシ

第十條 恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第十一條及第十四條ノ規

前項ノ規定ハ恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第十一條第二項本文ノ規定ニ依リ報告アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第十一條 恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第十五條ノ規定ニ依リ當該公務員ニ俸給ヲ給スル經濟ヨリ國庫以外ノ經濟ニシテ恩給ヲ給スル者ニ納付スヘキ金額ニ付テハ其ノ計算ヲ明ニシタル書類ヲ添付シ當該經濟ノ定ムル規定ニ從ヒ交付ノ手續ヲ爲スヘシ

第十二條 恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第十一條及第十四條ノ規

前項ノ規定ハ恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第十一條第二項本文ノ規定ニ依リ報告アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第十三條 恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第十五條ノ規定ニ依リ當該公務員ニ俸給ヲ給スル經濟ヨリ國庫以外ノ經濟ニシテ恩給ヲ給スル者ニ納付スヘキ金額ニ付テハ其ノ計算ヲ明ニシタル書類ヲ添付シ當該經濟ノ定ムル規定ニ從ヒ交付ノ手續ヲ爲スヘシ

第十四條 恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第十一條及第十四條ノ規

前項ノ規定ハ恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第十一條第二項本文ノ規定ニ依リ報告アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第十五條 恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第十五條ノ規定ニ依リ當該公務員ニ俸給ヲ給スル經濟ヨリ國庫以外ノ經濟ニシテ恩給ヲ給スル者ニ納付スヘキ金額ニ付テハ其ノ計算ヲ明ニシタル書類ヲ添付シ當該經濟ノ定ムル規定ニ從ヒ交付ノ手續ヲ爲スヘシ

〔文會例〕

何年分

普通恩給、扶助料、一時恩給、一時扶助料

恩給金額分擔請求仕譯書

第二號書式

何廳 何職

考	備	額	金	要	摘
		圓			文官
		0			何某外何名ノ分
		0			軍人
		0			何某外何名ノ分
		0			警察監獄職員
		0			何某外何名ノ分
		0			教育職員
		0			何某外何名ノ分
		0			待遇職員
		0			何某外何名ノ分
		0			合計

備考 仕譯書ハ普通恩給、扶助料、一時恩給、一時扶助料ニ分テ之ヲ記載スヘシ

●恩給法納金ニ關スル件(其ノ一)

○會計課長移任官會百六十五號 昭和十年九月二十七日

恩給法納金ニ關シ別紙甲號三重縣知事ヨリ大藏省宛照會乙號ノ通同省主計

直轄部局長

第三章 出納 第二節 收入

局長ヨリ回答ノ旨通牒有之タルニ付爲念移牒ス
 (甲號)
 恩給法納金ニ關シ左記ノ通牒義相生シ候條至急何分ノ義回示相成度此段及
 照會候也

記

- 一、改正恩給法施行前ヨリ在職シ無納金(現在迄俸給増額ナシ)又ハ百分ノ一(増額)ヲ納金セル警部補、警部ニ轉シタル場合ニ俸給ニ變動ナキトキハ恩給法附則第九條ニ該當セサルヲ以テ納金率ニ異動ナキモノト解シ可然哉或ハ恩給法第二十六條第四號但書ノ規定ニヨリ退職ト看做シ恩給法附則第九條ノ規定ヲ適用シ翌月ヨリ凡テ百分ノ二ノ納金ヲ徵收スヘキヤ
- 一、公立小學校訓導ヨリ公立中等學校教諭又ハ視學ニ轉シタル場合俸給額ニ變動ナキトキハ前項前段ニ準シ取扱差支ヘナキヤ

(乙號)

本年六月十三日附會第一〇九四號ヲ以テ當省主稅局長宛御照會相成候俸給ニ變動ナク轉官職シタル者ノ恩給法納金ニ關スル件了承右ハ左記ニ依リ御取扱相成度依命及回答候也

記

- 一、改正恩給法施行前ヨリ在職シ無納金ノ警部補カ警部ニ轉シタル場合ニハ昭和八年法律第五十號改正前ノ規定ニ依リ其ノ俸給額ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ徵收シ又右改正法ノ規定ヲ適用シ一度國庫納金ヲ開始シタル警部補カ警部ニ轉居シタル場合ニ於テハ改正法附則ヲ適用スヘキモノニ非サルヲ以テ直チニ改正法ノ規定ヲ適用シ其ノ俸給額ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ徵收スヘキモノトス
- 二、恩給法改正法律施行後始メテ公立小學校訓導ヨリ公立中學校教諭又ハ視學ニ轉シタル場合ニ於テハ前項前段ニ準シ取扱フヘキモノトス

〔文會例〕

●恩給法納金ニ關スル件 (其ノ二)

○内閣通牒恩發第三百四十五號 昭和十年九月二十七日
 左記ノ場合ハ昭和八年法律第五十號改正前ノ規定ニ依リ其ノ俸給額ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ徵收スルコトニ局議決定候條貴廳管下ノ關係廳ニハ貴廳ヨリ可然御通達方御取計相成度此段通牒候也
 追テ本件ハ大藏省ト協議濟ニ付爲念申添候

記

- 一、警部補昭和八年ノ恩給法中改正法律施行前ヨリ在職シ施行後俸給ヲ昇給セラレズシテ警部ニ轉ジタル場合
- 二、恩給法第五十九條第三項但書ニ揭グル教育職員ガ昭和八年ノ恩給法中改正法律施行前ヨリ在職シ施行後俸給ヲ昇給セラレズシテ同條同項本文ノ教育職員ニ轉ジタル場合

●國庫納金歳入科目ノ件

○會計課長移牒官會三百六十號 大正十二年十月二十三日
 直轄部局長

○大藏省主計局長通牒第一萬一千五百四十四號 大正十二年十月十八日
 恩給法改正ニ伴ヒ收入スヘキ大正十二年大正十二年十月以降ノ國庫納金ハ左記歳入科目ニ依リ整理相成度右及通牒候也

科	目
歳入	經常部
款	目

〔文會例〕

取計煩度照會旁此段依頼ニ及フ

●恩給法納金ヲ特別會計歳入トシテ收入スルノ件

○會計課長通牒發會百七十號 昭和六年四月一日
 大學(學校及圖書館)特別會計所屬官吏ノ納付スヘキ恩給法納金ハ從來一般會計歳入トシテ收入セラレタル處昭和六年度豫算ヨリ當特別會計ニ於テ收入セラレタル處昭和六年度豫算ヨリ當特別會計ニ於テ收入スルコトニナリタルヲ以テ貴學(校)(館)所屬恩給法納金ハ大學(學校及圖書館)特別會計歳入トシテ收入スヘキモノナルニ依リ御了知相成度而シテ右恩給法納金ハ歳出ニ於ケル恩給負擔金ノ財源ニ充ツヘキモノナルヲ以テ併セテ御含ミ相成度爲念右通牒ス

●歳入年度等誤謬ノ場合訂正手續

○大藏省令第三十八號 大正十一年四月五日
 第一條 歳入徵收官ハ出納官吏、郵便局又ハ日本銀行ニ於テ現金收納後納稅告知書、納入告知書、拂込通知書、納付書又ハ送付書ニ記載セル年度、所管、會計名、經常臨時部別又ハ款項ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ當該年度所屬歳入金ノ受入ヲ爲シ得ル期間出納官吏、取納郵便局又ハ日本銀行ニ之カ訂正ヲ請求スルコトヲ得
 第二條 前條ノ場合ニ於テ其ノ歳入金ニシテ郵便局ノ取扱ニ係リ其ノ誤謬ヲ發見シタルトキ既ニ日本銀行ニ振替拂込ヲ了シタル後ナルトキハ歳入

第四款 雜收入

第一項 恩給法納金	第一目 文官納金	第二目 教育職員納金	第三目 待遇職員納金	第四目 國庫以外經濟納金

〔文會例〕

●國庫納金歳入年度ニ關スル件

○會計課長回答大高會六號 大正十四年五月二十三日
 四月二十三日付大高第一四一號ヲ以テ御照會ニ係ル國庫納金歳入年度區分ノ件ハ會計規則第一條第三號ニ依リ大正十四年度ノ歳入トシテ處理致スヘキモノト御了知相成度此段回答ス

○大阪高等學校長照會大高百四十一號 大正十四年四月二十三日
 大正十四年三月分俸給ニ屬スル國庫納金支出小切手ヲ四月ニ於テ振出シタル場合ノ國庫納金歳入年度ハ大正十四年度ナリヤ右ハ大正十三年四月本件ト同一事件ニ對シ國庫納金ハ十二年歳入ニ收入ノ實例アリテ此扱方ハ舊會計規則第一條第二號(現行規則モ條文變更ナシ)ニ該當ストノ大藏省議ニ基キタル所ニシテ前記十四年三月分國庫納金歳入ニ付テモ同様ニ心得先般提出ノ現計調中大正十三年歳入調定並收入見込額ニ金六錢計上致置愈本月十七日小切手振出シタル處日本銀行大阪支店ニ於テハ大正十四年度歳入トシテ取扱ハレ十二年度ノ前例ハ誤謬ナル由申出ニ付テハ國庫納金歳入年度區分方貴見拜承致度就テハ十四年度ノ方正當ナラハ現計調訂正方可然御

第三章 出納 第二節 收入

第三章 出納 第二節 收入

徵收官ハ直ニ日本銀行當該店ニ對シ前條ノ手續ヲ爲スヘシ
第三條 歳入徵收官出納官吏、取繕郵便局又ハ日本銀行ヨリ誤謬訂正済ノ
報告ヲ受ケタルトキハ該報告書ニ依リ其ノ訂正シタル月ニ於テ徵收簿ヲ
訂正シ其ノ事由ヲ領收簿ノ報告書又ハ通知書ニ記載スヘシ
前項ノ記入ヲ爲シタルトキ既ニ其ノ月ノ計算締切後ナルトキハ訂正ヲ爲
シタル月ノ徵收報告書ニ其ノ事由ヲ附記スヘシ
第四條 甲廳歳入徵收官誤テ乙廳所管歳入金ヲ徵收シタル場合ニ於テハ甲
乙兩廳歳入徵收官連署ノ上關係出納官吏、取繕郵便局又ハ日本銀行ニ對
シ之カ更正ヲ請求スヘシ
前三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第五條 歳入徵收官當該年度出納閉鎖前歳入年度誤謬ノ訂正ヲ了セサル場
合又ハ出納閉鎖後歳入年度ノ誤謬ヲ發見シタルトキハ誤謬ノ儘据置整理
シ其ノ事由及金額ヲ記載シ歳入事務管理廳ヲ經由シテ之ヲ大藏大臣ニ報
告スヘシ

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

(參考)

●租税及諸收入過誤納下戻金ノ件

○大藏大臣通達 明治二十七年七月二日
從來租税及諸收入過誤納下戻ノ科目ヨリ拂戻シタルモノヲ總テ過誤納
ト稱ヘ來リ候處自今右解釋ヲ改メ過誤納トハ收入ノトキヨリ過誤ノモ
トニ限リ收入ノトキハ正當ニシテ後ニ至リ事故ノ爲メ返戻ヲ要スルモ
ノノ如キハ過誤ニアラサルコトニ決定候ニ付明治二十六年歳以降歳入
決算ハ右區分ニ依リ整理相成度此段及御通達候也

見人ノ請求書ニ戶籍取扱上責任アル者(郡、區、市、町、村長等)ノ證明書ヲ添付スヘシ

●一般會計所屬ノ過渡金ヲ誤リテ特別會計ノ歳入ニ收入シタルモノハ更ニ定額ニ戻入スルヲ得サル件

○大藏大臣回答 明治三十五年六月三十日
○文部大臣照會 明治三十五年六月二十六日
一般會計所屬ノ過渡金ニシテ定額ヘ戻入スヘキヲ誤テ特別會計ノ歳入ニ收
納シタルモノノ整理方ニ關シ本省大臣ヨリ照會ノ處右特別會計ノ歳入ヲ一
般會計ノ歳入ニ訂正スルハ格別一旦收納シタル歳入ヲ取消シ更ニ之ヲ定額
ニ戻入スルコトハ相成ラサル儀ト大藏大臣ヨリ回答アリタリ

●歳入歳出外現金ニシテ所屬省ナキモノハ内務省主管ノ件

○内務省訓令第六百八十七號 明治二十三年十月十六日
警 視 廳
北 海 道 廳
府 縣
出納官吏現金取扱ニ係ル身元保證金ノ儀ハ其取扱フ金種ニ依リ各其主
管ノ省ヘ申出ツヘシ
但歳入歳出外ノ現金ニシテ何レノ省ニモ屬セサルモノハ當省ノ主管
ト心得ヘシ

●甲乙廳間ニ於ケル歳入金取扱方

第三章 出納 第二節 收入

(參考)
●諸拂戻及缺損補填金諸拂戻金仕拂要求書々式
○内務省庶務局通牒官第四百七十七號 明治二十七年四月十一日
衛生試驗所

諸拂戻及缺損補填金諸拂戻金仕拂要求書々式明治二十七年四月一日以
降別紙之通り改正候旨大藏大臣官房第四課長ヨリ申越候間此段及通牒
候也
(別紙)

諸拂戻金仕拂要求書

何年度歳入

何年何月何日收入済

何々(款)何々(項)何々(目)

何府何國何郡、區何村何番地 現住地

一金何圓也

代理人ナルトキハ正當債
債主何某 主何某代理ト肩書スヘシ

但何々(歳入ノ目的)何々(事由及計算ノ基ク所)詳記スヘシニ由
リ過(誤)納ノ分但別紙正當債主(又ハ代理人)ノ拂戻請求書何葉添
付ス

右之通候也

何年 何月 何日

何年 何月 何日

何年 何月 何日

何年 何月 何日

何年 何月 何日

何年 何月 何日

何年 何月 何日

何年 何月 何日

何年 何月 何日

何年 何月 何日

何年 何月 何日

何年 何月 何日

何年 何月 何日

何年 何月 何日

何年 何月 何日

何年 何月 何日

何年 何月 何日

何年 何月 何日

何年 何月 何日

何年 何月 何日

何年 何月 何日

何年 何月 何日

何年 何月 何日

何年 何月 何日

何年 何月 何日

何年 何月 何日

何年 何月 何日

何年 何月 何日

何年 何月 何日

何年 何月 何日

何年 何月 何日

何年 何月 何日

何年 何月 何日

何年 何月 何日

何年 何月 何日

何年 何月 何日

何年 何月 何日

何年 何月 何日

何年 何月 何日

何年 何月 何日

何年 何月 何日

何年 何月 何日

何年 何月 何日

何年 何月 何日

何年 何月 何日

何年 何月 何日

何年 何月 何日

何年 何月 何日

何年 何月 何日

何年 何月 何日

何年 何月 何日

第三章 出納 第二節 收入

拂命令又ハ雜部引出切符ヲ發行シ其(仕拂通知書又ハ雜部保管金仕拂通知書)ヲ納入告知書ニ添ヘ甲官廳ニ送付スルコト
四 「仕拂命令及雜部引出切符」等ニ對スル權利者又ハ第一項收入官吏ニ納付スル場合ノ外ハ總テ納入告知書發行官吏トスルコト(仕拂命令書)ハ官廳宛發行スヘキ事トナル四十二年會計課通牒官第一二號)

●歳入調定済額收入未整理ノモノノ取扱方

○大藏省訓令第六十八號 明治二十四年八月十七日
改正 明治二十五年第二九號、二六年第七二號、三六年第三號

歳入徴收官
收入官吏
〔金庫出納役〕

各年度歳入調定済額ニシテ翌年度(七月三十一日)迄ニ收入整理ヲ了セサルモノ取扱方左ノ通り心得ヘシ
第一 甲年度ニ調定シタル歳入金ニシテ乙年度(六月三十日)迄ニ收入ヲ了セサルモノハ之レヲ甲年度ノ收入未済トシテ其ノ金額ヲ乙年度ノ調定済額ニ繰越スヘシ
第二 甲年度ト記載シタル納額告知書ヲ以テ乙年度七月一日以後現金ヲ金庫ニ納入スルモノアルトキハ金庫ハ之レヲ乙年度歳入トシテ受領シ其ノ納額告知書及ヒ之レニ接続セル領收證及通知書ニ乙年度ノ押印ヲ爲スヘシ
第三 歳入徴收官ニ於テ金庫ヨリ乙年度七月一日以後甲年度納額告知書ニ依リ納付シタル歳入金領收済ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ乙年度所屬トシテ取扱フヘシ
收入官吏ニ於テ乙年度七月一日以後甲年度納額告知書ニ依リ歳入金ヲ領

〔文會例〕

收シタルトキハ之ヲ乙年度所屬トシテ取扱フヘシ
第四 歳入徴收官第一項ノ繰越ヲ爲シタルトキハ左ノ書式ニヨリ各年度歳入調定済額收入未済翌年度繰越額計算表ヲ製シ之レヲ歳入ノ事務管理廳ヘ差出スヘシ
第五 歳入徴收官ニ於テ前項ノ計算書ヲ歳入ノ事務管理廳ニ送付スルトキハ同時ニ甲年度所屬徴收簿ノ締切ヲナシ而シテ乙年度徴收簿當該科目調定済額ノ欄ヘ前年度ヨリ繰越トシテ其ノ員額ヲ記載スヘシ
但シ收入官吏ニ於テ甲年度所屬ノ歳入金ヲ乙年度六月三十日以前ニ受領シ之レヲ七月一日以後金庫ヘ拂込ミタルモノアルトキハ金庫ハ之レヲ乙年度所屬トシテ取扱フヘシ

第六 出納官吏現金取扱規則第十七條ニ據リ收入官吏ヨリ送付セル甲年度歳入金ノ監守證ニ對シテ二十二年大藏省訓令第七十三號第二項ニ依リ金庫ヨリ派出シ乙年度七月一日以後取付ヲ爲シタル現金及ヒ前項但書ノ歳入金ハ金庫ニ於テ之レヲ乙年度ノ歳入ニ組込ミ歳入金各廳内簿ハ別ニ口座ヲ設ケ頭主管廳ノ次(甲年度所屬)ト記入シ又歳入金月計對照表ハ別紙ニ調製シ廳名欄内主管廳ノ次(甲年度所屬)ト記載スヘシ
但シ本項收入金ハ各金庫毎月出納内譯書各金庫毎月出納計算書及毎年度出納計算書ニ於テモ「甲年度所屬」トシ別項ニ掲載スヘシ
第七 前項ノ場合ニ於テ金庫ヨリ派出スル受取人ノ携帶スヘキ領收證書年度欄内ニハ乙年度トシ該證書適宜ノ場所ヘ甲年度所屬ノ分ト記入スヘシ但シ本項ノ領收證書ヲ收入官吏ヘ交付スルハ乙年度七月一日以後ニ於テ現金ヲ領收スル場合ニ限ルモノトス
備考 會計規則第五條ニ依リ期日ノ變更サレタルコトニ注意ヲ要ス

〔文會例〕

(印ハ朱)

某年度歳入經常部 (臨時部)
某省所管 調定済額收入未済翌年度繰越額計算表
明治何年六月三十日

科 目	項 目	繰 越 額		事 由
		原 額	調 定 額	
何	何	0	0	何々ノ事由ニ由リ收入未済ニ付繰越
何	何	0	0	何々ノ事由ニ由リ同上
	小計	0	0	
	何	0	0	何々
	合計	0	0	
明治何年	何月何日	何歳	何日	何氏名
何廳	何官	何歳	何日	何氏名

第三章 出納 第二節 收入

(参考)

●不納賦損處分ニ係ル債權保存方ノ件

○司法省會計課長通牒會出甲第五百二十五號 明治二十六年三月三日
從來刑事裁判費及經費過誤拂ニ係ル歳入返納金ノ類ニ不納賦損ノ儀何出ニ對シ認可相成候處何書中ニ「棄損云々」ノ文意アリ申ニハ債權ヲ拋棄セシモノノ如ク思惟セラルル向ナキニアラスト雖モ抑モ不納賦損ナルモノハ歳入調定額處理ノ一方法ニシテ債權ヲ拋棄セシモノニアラス他日納人ノ資力ヲ有シタルトキハ徴收スヘキハ勿論ニ付時効等ニ依リ消滅セシ場合ハ格別然ラサル以上ハ債權ヲ保存スヘキ筋ニ候條此段豫テ及通牒候也

●〔札幌農學校〕土地貸下料未納金棄却相成ラサル件

○會計課長通牒 明治三十三年十一月二十日
貴校明治二十九年及三十一年度土地貸下料未納金棄却ノ儀聽許相成難キ旨本日指令相成候處從來右等ノ場合ニ於テ聽許ノ先例有之候ヘ共右ノ別ニ據ルヘキ法令モ無之不應當ノ儀ニ付自今右等ノ料金ハ棄却スルヲ得サルコトニ決定相成候條依命此段及御通牒候也
○指令 明治三十三年十一月二十日
明治三十三年八月六日札幌農會第九九號稟請土地貸下料未納金棄却ノ件聽許シ難シ
○札幌農學校稟請札幌農會第九十九號 明治三十三年八月六日

當校明治二十九年年度以降三十一年度ニ至ル所屬各農場耕地及宅地貸下料
確定額ノ内別記調書ノ分ハ未收入ニ屬シ爾來緩急本人ハ勿論保證人等ニ就
キ夫々嚴談督促相加ヘ候得共納人ノ資力無之ノミナラス既ニ所在不分明等
ノモノ有之到底徵收ノ途無之ト被認候條此際特別ノ御詮議ヲ以テ夫々棄却
御處分相成候様仕度此段稟請候也

●歲出支拂未済金歳入組入等ニ關スル件

○會計課長移藤官會三十一號 大正十四年二月十八日
○大藏大臣通牒藏計第四十八號 大正十四年二月四日
出納官吏事務規程第三十五條、第三十六條又ハ保管金取扱規程第四條ノ二
ノ規定ニ依リ支拂未済金額ニ相當スル資金ヲ歳入ニ組入ルル場合ハ一般會
計ニ係ルモノハ總テ大藏省所管取扱廳大藏大臣官房會計課歳入徵收官大藏
大臣官房會計課長ノ取扱フ一般會計歳入ニ又特別會計ニ係ルモノハ所管大
臣ノ指定スル歳入徵收官ノ取扱フ當該會計歳入ニ組入ルヘク當該支拂未済
金ニ對スル償還金支拂ハ一般會計ニ在リテハ大藏省所管歳出諸支出金償還
金ヨリ特別會計ニアリテハ當該會計歳出諸支出金償還金ヨリ支出スルコト
トシ之カ償還順序ハ客年六月十一日藏第五八八六號通牒小切手支拂未済金
償還順序内規ニ依リ御取扱相成度仍出納官吏事務規程第三十九條、第四十
條及第五十六條ニ規定スル隔地ノ債主又ハ出納官ニ送金ノ爲預託金支拂通
知書ヲ送付シタル場合又ハ保管金取扱規程第八條ニ規定スル保管金他店拂
ノ爲保管金支拂通知書ヲ交付シタル場合ニ於テ其ノ小切手振出日附ヨリ一
年ヲ經過シ當該資金ヲ歳入ニ組入及償還請求ニ對スル支拂ヲ爲ス場合モ總
テ前段ニ準シ御處理相成候様仕度此段及御通牒候也

ニ科目ノ設置方上申スヘキ義ナルヤ或ハ亦一般會計ノ官有物貸下料ノ科目
ニ依リ整理スヘキ義ニモ可有之哉何分ノ義併セテ御回示相成度右照會候也
(乙 號)

○臨時國有財産整理部長回答藏第七千四百二十八號 大正十一年六月三十日
本月十日經第五三八號ヲ以テ雜種財産ノ賣拂代金及同貸付料ノ收入手續ニ
付御照會相成候處右ハ左記ノ通御取扱相成度此段及回答候也

記
一 雜種財産賣拂代金ノ收納ニ關スル納入告知書及報告書ノ記載方ニ付テ
ハ御見込ノ通尙同納入告知書書式中「大藏省主管」トアル欄劃ニハ「大藏
省所管」ト記載スルコト
二 「同貸付料」ニ付テハ一般會計所屬歳入經常部官業及官有財産收入ノ
款、官有物貸下料ノ項、地所貸付料ノ目ニテ整理スルコト

●雜種財産ノ管理ニ伴フ收入ヲ國有財産整
理資金特別會計歳入ト爲スノ件

○大藏大臣通牒藏計第五百八十三號 昭和三年三月六日

文部大臣

雜種財産ノ管理ヲ爲スニ伴ヒ生スル收入例之貸付料、使用料、辨償金又ハ
下草拂下代等ハ從來總テ國有財産ノ整理處分ニ因ル收入ニアラストシテ一
般會計ノ歳入ニ收納スルコトニ相成居候處今般之等ノ收入ニ付テハ別紙ノ
通り決定致候ニ付貴省ニ於テ之ニ該當スルモノ有之候ハハ該收入ハ昭和三
年度ヨリ國有財産整理資金特別會計ノ歳入ニ收納スルコトニ御取扱相成度
此段及通牒候也

追而資金前渡官吏カ出納官吏事務規程第三十五條ノ規定ニ依リ報告スヘ
キ支拂未済金ニ關スル報告書ハ本文ノ區分ニ依リ歳入徵收官ニ保管金拂
渡ノ爲ニ振出シタル小切手ニ對スルモノニ付テハ取扱主任官ヨリ出納官
吏事務規程第三十五條ノ規定ニ準シ當該官廳ノ長ヲ經由シテ歳入徵收官
ニ報告セシメラレ度申添候

●雜種財産ノ賣拂代金及同貸付料ノ收入手
續ニ關スル件

○大藏省臨時國有財産整理部長通牒藏第七千四百二十八號 大正十一年六月三十日
文部大臣官房會計課長

今般仙臺稅務監督局長ヨリ雜種財産ノ賣拂代金及同貸付料ノ收入手續ニ關
シ別紙甲號ノ通照會有之乙號ノ通回答致置候條其ノ趣旨ニ依リ御取扱相成
度此段及通牒候也

(別紙)

(甲 號)

○仙臺稅務監督局長照會經第五百三十八號 大正十一年六月十日
國有財産整理資金特別會計ノ收入手續上雜種財産ノ賣拂ニ對スル代金ノ收
入ニ關シテハ明治三十三年四月貴省訓令第二十七號諸收入收納取扱規程ニ
據ルコトト被存候處該納入告知書及報告書々式(經常(臨時)トアル欄劃
ニハ「國有財産整理資金特別會計」ト記載シ可然尙亦雜種財産貸付料ハ同
様特別會計ニ屬スルモノト認ムルモ本年六月貴省訓令第二十五號國有財産
整理資金歳入科目表ニヨルトキハ該當科目ノ設置ナキヲ以テ必要ニ應シ更

追テ該收入ニ關スル歳入科目ハ昭和三年度ノ初頭ニ於テ官報ヲ以テ告示
ノ見込ニ有之候尙右收入ニ關シテハ貴省所管部局長ニ對シ可然御取計相
成度申添候

(別紙)

雜種財産ノ管理ヲ爲スニ伴ヒ生スル收入例之貸付料、使用料、辨償金又
ハ下草拂下代等ハ從來總テ國有財産ノ整理處分ニ因ル收入ニアラストシ
テ一般會計ノ歳入ニ收納スルコトニ相成居候處右ノ内將來整理處分ヲ目
的トスル雜種財産ニシテ之カ處分ヲ爲スニ至ル迄之カ管理行為トシテ當
該財産ノ用途ニ從ヒ一時之ヲ貸付又ハ其ノ下草ヲ刈取ルカ如キコトヲ爲
スニ當リ生スル收入ハ整理處分ヲ目的トスル國有財産ノ管理ニ因ル收入
トシテ特別會計法第二條ノ附屬雜收入ト認メラル而テ此ノ事ハ整理處
分ヲ目的トスル雜種財産ノ管理ニ要スル費用カ國有財産整理資金特別會
計ニ於テ負擔セララルト相反映スルモノナリ依テ雜種財産ノ管理ヨリ生
スル收入ハ之ヲ國有財産整理資金特別會計法第三條ニ該當スルモノトシ
昭和三年度ヨリ同會計ニ收納スルコトト致度

●學校敷地内枯樹拂下代處分方

○會計課長回答 明治二十六年二月二日

○第一高等中學校會計主務官照會 明治二十六年一月二十五日
學校敷地ニ植付アル樹木ニシテ從來官有財産ニ屬スルモノ及新規購入植付
ケタルモノ等ノ内枯木トナリ之ヲ拂下タルトキハ該枯木ハ學校資産タル土
地ニ屬スル故ヲ以テ其ノ代金ハ直ニ資金部歳入ニ組入ルヘキカ將々通常ノ
歳入即チ不用品拂下代ニ收入スル方至當ナルヤト照會ニ對シ後段御意見

ノ通リト回答セリ

●政府ヨリ賣拂ノ代金ノ延納ニ關スル件

○勅令第三百七十四號 大正十年八月八日

改正 大正十一年第一三三號、昭和九年第三九五號、一二年第六八五號

政府ニ於テ物件ヲ賣拂フトキハ擔保トシテ國債ヲ提供セシメ代金ノ延納ヲ許スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ擔保ノ必要ナシト認ムルトキハ特ニ擔保ノ提供ヲ免除スルコトヲ得

延納ヲ許スコトヲ得ル場合、延納期間及擔保ヲ免除スルコトヲ得ル場合ニ關シテハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム但シ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、關東州ニ在リテハ滿洲國駐劄特命全權大使、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官所管大臣ヲ經由シ大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

附則

本令ハ大正十年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

明治三十五年勅令第二百一十一號

明治四十年勅令第六十五號

明治四十一年勅令第二百六十九號

明治四十二年勅令第二百五十五號

明治四十二年勅令第二百十八號

明治四十二年勅令第三百十八號

明治四十三年勅令第十一號

明治四十三年勅令第二百四號

明治四十四年勅令第二百二十一號

大正二年勅令第二百八十二號

大正五年勅令第九十四號(帝國大學資金所屬森林ノ產物及製品賣拂代金延納ニ關スル件)

本令施行前提供シタル國債以外ノ擔保ハ本令施行ノ日ヨリ五年ヲ限リ本令ノ規定ニ拘ラス仍其ノ效力ヲ有ス

●國有林野產物及製品賣拂代金延納規則

○農林省令第十號 昭和十四年一月二十八日

第一條 營林局署長又ハ國有林產物販賣所長ハ本規則ノ定ムル所ニヨリ國有林野又ハ其ノ產物若ハ製品ノ賣拂代金ノ延納ヲ許可スルコトヲ得

第二條 賣拂代金ノ延納ハ左ニ掲グル場合ニ限リ之ヲ許可スルコトヲ得

一 公共團體若ハ社寺ニ賣拂フ場合ニシテ賣拂代金一口三百圓以上又ハ地元住民ニ賣拂フ場合ニシテ賣拂代金一口二百圓以上ナルトキ

二 戰時(戰爭ニ準ズル事變ノ際ヲ含ム)召集若ハ徵集ヲ受ケタル者ノ家族、戰死者ノ遺族又ハ戰傷病者若ハ其ノ家族ニシテ授産ノ要アルモノニ對シ之ガ授産ノ爲必要ナル產物又ハ製品ヲ賣拂フトキ

三 非常災害ニ際シ罹災者ノ救済ニ必要ナル產物又ハ製品ヲ賣拂フトキ

四 前各號以外ノ場合ニシテ賣拂代金一口五百圓以上ナルトキ

第三條 賣拂代金ノ延納期間ハ左ノ各號ニ依リ營林局署長又ハ國有林產物販賣所長之ヲ定ム

〔文會例〕

●傳染病研究所ニ於テ製造販賣スル痘苗血

清類ノ賣拂代金延納ニ關スル件

○文部省令第三十一號 大正十一年十月二十六日

傳染病研究所ニ於テ製造販賣スル痘苗血清類ノ賣拂代金ハ擔保トシテ參百圓以上ノ國債ヲ提供セシメ擔保額ニ達スルマテテラ限度トシテ三月以内延納ヲ許可スルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●京都帝國大學化學研究所製品拂下代金延納

ニ關スル件

○次官裁定 昭和二年八月八日

化學研究所ニ於ケル製品ノ拂下代金ハ一口五百圓以上ノ場合ニ限リ擔保トシテ國債ヲ提供セシメ六ヶ月以内延納ヲ許可スルコトヲ得

(參考)

●帝室下賜金輸入輸出外現金トシテ取扱方及運送費支辨方

○内務省庶務局通牒庶甲第七十八號 明治二十七年五月三十日

北 海 道 廳 府 縣

罹災人民恤救ノ爲帝室ヨリ下賜ニ保ル金員ハ自今歲入歲出外ノ現金トシテ出納官吏ニ保管出納セシメ而シテ配分等ノ爲メ要スル運送費ハ(廳費)ヲ以テ支辨セラレ可然依命此段及通牒候也

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
大正十年農商務省令第二十八號ハ之ヲ廢止ス
本令施行前締結セル國有林野又ハ其ノ產物若ハ製品ノ賣拂契約ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

●帝國大學資金所屬森林ノ產物又ハ製品ノ賣拂代金延納ニ關スル件

○文部省令第四十三號 大正十年十月二十五日

帝國大學資金所屬森林ノ產物又ハ製品ノ賣拂代金ハ一口五百圓以上ノ場合ニ限リ擔保トシテ國債ヲ提供セシメ一年以内延納ヲ許可スルコトヲ得

附則

本令ハ大正十年九月一日ヨリ之ヲ適用ス

●寄附金受領報告事項ニ關スル件

○會計課長通牒 昭和六年四月十七日
大學並學校ノ獎學寄附金(帝國學士院ノ學術研究獎勵寄附金)受領ノ報告事
項ハ從來區々ニ互リ往復ヲ重ヌル場合モ不尠ニ付爾今左記事項ヲ具シ御報
告相成度此段通牒ス
追テ新ニ寄附金ノ管理方法ヲ定ムルトキハ大臣ノ認可ヲ要スルニ付御了
知相成度申添フ

記

- 一、寄附金額(有價證券ハ證券名、額面及時價)
一、寄附金受領年月日
一、寄附者ノ住所、身分、氏名
一、寄附ノ目的並條件
一、寄附金ノ名稱アルモノハ其ノ名稱
一、寄附金ノ管理方法
一、寄附金ノ取扱等ニ關シ新ニ規程ヲ設ケタルモノハ其ノ規程
一、寄附金ノ收入科目

●支那事變ニ關スル國防獻品ヲ目的トスル
寄附金ノ出納保管ニ關スル件

○勅令第五百八十五號 昭和十二年十月九日
朕支那事變ニ關スル國防獻品ヲ目的トスル寄附金ノ出納保管ニ關スル件ヲ
裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

〔文會例〕

大正十一年度大藏省所管國有財産整理資金特別會計歲入科目表

Table with 3 columns: 款 (Category), 項 (Sub-category), 目 (Item). Row 1: 一、國有財産整理資金 (National Property Management Funds), 國有財産賣拂代 (National Property Disposal Fees), 立木竹拂下代 (Timber and Bamboo Disposal Fees).

●國有財産整理資金特別會計ノ收入科目變

更ニ關スル件

○會計課長移牒官會百七十三號 昭和十年九月十八日
國有財産整理資金特別會計ノ收入科目變更ノ件ニ關シ別紙寫ノ通大藏次
官ヨリ通知有之タルニ付依命此段移牒ス
(別紙寫)

○大藏次官通知藏督第六百九十一號 昭和十年九月三日
從來國有財産整理資金特別會計ノ歲入ト相成ルヘキ工作物ノ賣拂代ヲ收納
スヘキ科目ニ關シテハ土地ト共ニ賣拂フ場合ハ土地拂下代ニ其ノ他ハ總テ
建物拂下代ノ目ニテ整理シ來リ候處今般右取扱方ヲ左記ノ通變更致候ニ付
追而貴省管下國有財産整理資金特別會計歲入徵收官ニ對シ夫々右取扱通
達方御取計相成度申添候

記

一、土地ト分離シ得サルモノハ土地拂下代ノ目ニテ整理ノコト

第三章 出納 第二節 收入

陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ支那事變ニ關スル國防獻品ヲ目的トスル寄附金ノ
出納保管ヲ爲スコトヲ得
附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●國有財産整理資金歲入科目ト一般會計歲
入科目トノ編入區分ノ件

○大藏通知藏一萬一千七百九十號 大正十一年十一月二十四日
國有財産整理資金特別會計歲入徵收官
今般十月二十四日訓令第三一號ヲ以テ國有財産整理資金收入ニ立木竹拂下
代ノ目設置相成候處右ハ整理スヘキ土地ノ處分ト分離シテ立木竹拂下ク
ル場合、公共用財産又ハ公用財産タル土地ノ上ニ存スル立木竹ヲ特ニ整理
ノ目的ヲ以テ處分スル場合等國有財産ノ整理處分ニ依ル收入ヲ整理スルノ
必要ニ出テタルモノニシテ公共用財産又ハ公用財産タル土地ノ上ニ存スル
輕微ナル枯損木竹又ハ障害木竹ノ拂下代ハ從來通一般會計物品拂下代ノ目
ニ整理スル義ニ候條御了知相成度爲念此段及通知候也
追テ建物以外ノ工作物ヲ拂下クル場合ニ於テハ土地ト共ニ拂下クルモノ
ヲ除クノ外總テ建物拂下代ノ目ニ整理スル義ニ付爲念申添候
(參照)
○大藏省訓令第三十一號 大正十一年十月二十四日
大藏省所管歲入徵收官
大正十一年度當省所管國有財産整理資金特別會計歲入科目中船舶拂下
代ノ末位ニ左ノ科目ヲ追加ス

〔文會例〕

〔文會例〕

二、建物ト分離シ得サルモノハ建物拂下代ノ目ニテ整理ノコト
三、其ノ他ハ總テ工作物拂下代ノ目ニテ整理ノコト

●官用地内官舎貸渡ノトキ借地料收納方

○太政官達第五十二號 明治九年五月十二日
院省〔使〕廳
官用地内ニ有之官舎貸渡候借地料ノ儀ハ其地方廳ニ於テ取調候管ニ付貸
渡候都度該廳へ通知可致且收入候借地料ノ儀ハ期限ノ通其地方廳へ送付可
致此旨相達候事
但從前貸渡有之分モ本文ノ通可取計事

●國有地内官舎敷地料徵收ニ關スル件

○會計課長移牒官會十三號 昭和十年二月十三日
國有地内官舎敷地料徵收ニ關スル件ニ關シ大藏次官ヨリ別紙寫ノ通通牒有
之タルニ付御了知相成度此段移牒ス
追而官舎貸渡内規別表掲記ニ係ル官吏居住ノ官舎敷地料ニ付テハ徵收ニ
及ハサル儀ニ付御了知相成度
(別紙寫)

昭和六年三月法律第二十八號ニ依リ昭和七年太政官布告第百二十號地所名
稱區別ハ廢止セラレタル後ニ於ケル國有地ノ官舎敷地料徵收ノ可否ニ付疑
義ヲ生シタル趣ヲ以テ照會シ來レルモノ有之候へ共右太政官布告ノ廢止ハ
只單ニ從來ノ地所名稱區別及地租條例ヲ綜合統一シタル地租法ノ制定ニ伴
フモノニシテ國有地ノ官舎敷地料ニ關シ從來ノ取扱ヲ變更スル意義ハ毫モ
存セサルモノナルニ付一般國有財産ノ管理ヲ規定シタル國有財産法ノ精神

第三章 出納 第二節 收入

ニ則リ從來通貨地料ヲ徵收スヘキモノト被存候條及御了知相成度此段爲念
御通候也

土地區劃整理換地清算金ノ收入ニ關スル件

○大藏大臣通牒第千二百三十六號 昭和二年七月二十九日
國有財産整理資金歳入徵收官
東京市及横濱市ニ於ケル國有地カ土地區劃整理施行地區ニ編入セラレ其ノ
換地ニ關聯シテ清算金ヲ交付セラルル場合右清算金ハ國有財産整理資金特
別會計法第二條ニ規定セル國有財産ノ整理處分ニ因ル收入トシテ御取扱相
成度此段及通候也

外國貨幣又ハ爲替券ヲ以テ「金庫」ニ納付
ヲ要スル場合報告方

○會計課長移牒 明治三十七年二月八日 直轄學校
○大藏大臣通牒往第千二百五十二號 明治三十七年二月四日 文部大臣
概算渡又ハ前渡金ノ仕拂殘若クハ其他ノ返納ニシテ外國貨幣又ハ爲替券ヲ
以テ「金庫」ニ納付ヲ要スル場合ハ其告知書ニ外國貨幣又ハ爲替券面額ヲ傍
記發行シ同時ニ右返納ノ基ク計算書ヲ添ヘ當省ヘ御報告相成度此段及御通
知候也
〔文會例〕

右大藏大臣通牒ニ基キ本省ニテ之ヲ取極メ大藏大臣ニ報告ノ旨移牒セ

外國貨幣又ハ爲替券ヲ以テ國庫ニ返納金
納付方

○會計課長移牒官會四百十二號 大正十一年七月十八日
概算渡又ハ前渡金ノ仕拂殘若クハ其他ノ返納ニシテ外國貨幣又ハ爲替券
ヲ以テ國庫ニ納付方ニ關シ別記ノ通移牒ス
〔別記〕
○大藏省會計課長照會第千六百六十三號 大正十一年七月七日
概算渡又ハ前渡金ノ仕拂殘若クハ其他ノ返納ニシテ外國貨幣又ハ爲替券ヲ
以テ國庫ニ納付ヲ要スル場合ハ其告知書ニ外國貨幣又ハ爲替券面額ヲ傍
記發行ト同時ニ右返納ノ基ク計算書ヲ添ヘ當省ヘ報告方ニ付テハ明治三
十七年二月四日附往第一二五二號ヲ以テ既ニ御通知済ニ有之候モ爾來右報
告遲延ノ向不跡整理上差支有之候ニ付該告知書發行ト同時ニ必ス御報告相
成候致度
右照會候也
〔參考〕
○國債ノ買入銷却ヲ爲ス場合ニ於テ仕拂期ノ開始セル附
屬利札ニ關スル件
○大藏省理財局長通牒第千八百八十五號 大正八年二月
商工大臣官房會計課長

從來各官廳ノ請求ニ依リ國債ノ買入銷却ヲ爲ス場合ニ於テ其賣渡照會
書ニ買入ルヘキ證券ノ附屬利札ノ仕拂期記載シアルモノハ其儘利札ノ
引渡ヲ受ケ來リ候處自今證券引渡ノ際(運送ニ付スル場合ニ於テハ其
ノ發送ノトキ)既ニ利子仕拂期ノ開始シタル附屬利札ハ賣渡照會書ノ
記載如何ニ關セス總テ之ヲ除外シ引渡ヲ受ケサルコトニ省議決定致候
條右様御了知相成度此段及通候也

政府ニ對シ擔保トシテ提供シタル國債證
券ノ附屬利札取扱方ノ件

○大藏省理財局長通牒第千八百八十九號 昭和二年九月十二日 文部大臣官房會計課
政府ニ對シ擔保トシテ提供シタル國債證券ノ附屬利札收取方ニツキ別紙甲
號ノ通司法省ニ照會致候處別紙乙號ノ通回答ニ接シ候條爾今擔保提供者ノ
履行遲滯後ニ支拂期ノ到來セル利札ハ之ヲ收取シ原債務ニ充當スル様致度
省議ヲ經此段及御通候也
追テ遲滯ニ陥ラサル以前ニ於テモ擔保力ヲ增加スヘキ含ヲ以テ相手方ノ
承認ヲ得支拂期到來ノ利札ヲ附屬ノママ保留スルノ取計ヲ爲スヲ妨ケサ
ル儀ニ候條爲念申添候
〔別紙〕

(甲號)
○大藏省理財局長照會第百五十二號 大正十五年三月三十一日
政府ニ對シ擔保トシテ提供セル國債證券ノ利札收取ニ關スル件
政府ニ對シ租稅又ハ賣下代金ノ延納其ノ他擔保ニ供シタル國債證券ニツキ

第三章 出納 第二節 收入

〔文會例〕

〔文會例〕

擔保提供者カ履行遲滯ニ陥リタル時以後ニ利拂期ノ到來スル利札ハ之ヲ收
取シ當該官廳ニ於テ納稅其ノ他ノ原債務ニ充當シ得ルモノナルヤ否ヤ疑義
相生シ候ニ付至急何分ノ御回示相煩度右及御照會候也
〔乙號〕
○司法省民事局長回答民事第二千六百一號 大正十五年四月六日
本年三月三十一日藏理第五〇二號御照會ニ係ル件ハ差押手續ヲ要セス當該
官廳ニ於テ納稅其ノ他ノ原債務ニ充當シ得ル儀ト思考致候此段及回答候也

時効ニ依ル保管金歳入へ編入ノ件

○會計課長移牒官會四百三十八號 大正十二年十二月六日
元金庫ニ寄託セル保管金ニシテ保管證書ヲ發セサル分期滿失効トナリ歳入
へ編入ヲ要スルモノハ是迄國庫大臣ヨリ其ノ時々令達書ヲ發シ之ニ依リ日
本銀行(各地取扱店)ニ於テ歳入ニ組入ル手續ノ處右ハ自今其ノ時々令
達ヲ省略シ同行(同上)ニ於テ時効調書ニ依リ直ニ歳入ニ組入ルルコトニ改
正相成候間御了知相成度依命此ノ段及通候也

政府ノ所得ニ歸シタル政府保管有價證券
ノ換價方法並歳入納付又ハ資金組入手續
ノ件

○會計課長移牒官會百七十三號 大正十二年六月五日
○大藏大臣通牒第千二百七號 大正十二年五月二十九日 文部大臣
第一條 政府保管有價證券取扱規程第二十條ノ規定ニ依リ取扱官廳ヨリ政

第三章 出納 第二節 收入

府ノ所得ニ歸シタル有價證券ノ報告ヲ受ケタル主務官廳ハ本手續ニ依リ該有價證券ヲ換價シ換價金額ヲ歳入ニ納付又ハ資金ニ租入ノ手續ヲ爲ス

第二條 取扱官廳ヨリ報告ヲ受ケタル有價證券ニシテ既ニ償還期ノ開始セ

ルモノニ付テハ證券ノ種類ニ依リ取扱官廳ヲシテ左ノ取扱ヲ爲サシムヘ

一 國債證券ニ付テハ取扱官廳ヲシテ政府保管有價證券受託證書又ハ政

府保管有價證券振込済通知書ニ理由ヲ記載シ出納官吏ヲシテ現金拂込

書又ハ預託金拂込書ヲ添付セシメ有價證券ノ寄託店タル日本銀行ニ提

出セシムルコト

二 國債證券以外ノ有價證券ニ付テハ政府保管有價證券受託證書又ハ政

府保管有價證券振込済通知書ニ事由ヲ記載シ日本銀行ヨリ證券ノ拂渡

ヲ受ケ該證券ニ對スル償還金受領ノ手續ヲ爲シタル後出納官吏ヲシテ

該金額ヲ日本銀行ニ拂込マシムルコト

第三條 前條ノ規定ハ有價證券トシテ取扱ヒタル利札ニシテ支拂期ノ開始

セルモノニ付テハ準用ス

第四條 主務官廳取扱官廳ヨリ報告ヲ受ケタル國債證券ニ付買入銷却方

請求セムトスルトキハ其ノ證券ノ名稱、記號、額面及附屬利札ニ於ケル

支拂期(何年何月何日)以降利札附屬ト記載スルコト)並證券ヲ引渡スヘ

キ日本銀行名ヲ記載シタル書面ニ買入銷却ヲ要スル事由及擔保又ハ保證

ニ充用シタルモノナルトキハ其ノ擔保額又ハ保證額、政府ノ所有ニ歸シ

タル年月日並最低買渡價格ヲ附記シ之ヲ大藏省ニ提出スヘシ但シ引渡ス

ヘキ國債證券ハ引渡當時利子支拂期未開始ノ附屬利札ノ完備セルモノニ

〔文會例〕

〔文會例〕

國債證券賣渡方ニ關シ別紙甲號ノ通山林局長ノ照會ニ對シ乙號ノ通大藏省理財局長ヨリ回答有之候ニ付爲念此段及御通知候也

(別紙)

(甲號)

○農商務省山林局長照會 大正三年二月三日

當省所管國有林野及產物製品賣拂代金延納ノ擔保ニ充用セシムル國債

證券ハ明治四十一年勅令第二百八十七號ニ依リ其ノ債權金額ヲ賣拂代

金ト同額ニ止メ候ニ付買受人カ納金ノ義務ヲ果ササル場合ニ於テ該證

券ヲ公賣ニ付スルモ擔保額ヲ償フニ足ラス而カモ其ノ不足額ハ容易ニ

追徴シ得ヘキ見込ナキトキハ明治四十二年法律第九號ニ基キ債權金額

ヲ以テ該證券ノ買入方御承諾ヲ得度存居候處從來ニ於ケル貴局ノ御取

扱ニ依リハ處分ノ基ク法規ニ公賣ノ文字明記ナキモノハ該法律ノ適用

ナシトノ御解釋ナルヤニ承知致候得共國有林野、產物及製品賣拂代金

延納規則第十一條ニハ「拂受人契約ニ定メタル期限ニ代金ヲ納付セサ

ルトキハ其ノ擔保品ノ全部又ハ一部ヲ賣却云々」ノ規定有之右規定ニ

基キ公賣ヲ要スル場合ニ於テ該法律ノ適用ヲ受クルハ至當ノ様被存候

若シ貴見ノ如シトセハ現今ノ如ク公債市價低落ノ場合ニ於テハ賣買價

格ニ比シ一割乃至二割ノ缺損ヲ生スルコトナリ收入充實上支障不尠

ノミナラス今後擔保品ノ提供ニ當リ安シテ國債證券ヲ充用セシムル

ヲ得サル不都合相生シ候間尙御審議ノ上本件ノ國債ニ付テハ債權金額

ヲ以テ買入相成候様御配慮相煩度此段及照會候也

(乙號)

○大藏省理財局長回答 大正三年三月

行スル) 大藏省證券ニシテ償還期ノ開始セルモノハ取扱廳ニ於テ保管

證書裏面ニ事由ヲ記載シ現金拂込書ヲ添附シ收入官吏ヨリ取扱(金庫

(金庫常設派出所ヲ除ク)ニ提出候ハハ取扱(金庫)ニ於テ償還金ヲ受

領シ拂込書指定ノ歳入ニ編入スヘキ旨(金庫出納役)へ令達候極大藏大

臣ヨリ通知有之候條御承知相成度依命此段及通牒候也

(參考)

●政府ニ對スル保證金其ノ他ノ擔保ニ供シタル國債買

入ノ場合處理方

○內務次官通牒藏甲第三百三十六號 明治四十二年四月十六日

今般法律第九號ヲ以テ政府ニ對スル保證金其他ノ擔保ニ供シタル國債

ノ買入銷却ノ件公布相成候處右ハ公賣ニ付スルモ擔保額ヲ償フニ足ラ

ス而モ其不足額ハ容易ニ追徴シ得ヘキ見込ナキ時ニ限リ國債整理基金

豫算ノ許ス限度ニ於テ該證券ヲ買入レ銷却シ以テ國庫ノ損失ヲ避ケン

トスルノ趣旨ニ出テタルモノニ候條自今該法律ニ依リ證券ノ買入銷却

ヲ必要トスル場合ハ其事由ヲ詳具シ豫(臨時國債整理局)ト御協議相

成度旨大藏省ヨリ申越有之候條此段及通牒候也

(北海道廳東京府長崎縣島根縣鹿兒島縣沖繩縣ノ分ニハ左ノ追書ヲ加

フ)

追テ御所管官廳ヘハ貴官ヨリ右ノ主旨御通達相成度此段申添候也

(參考)

●國債證券賣渡方ニ關スル件

○農商務大臣官房會計課長通知乙一第三百八十一號 大正三年三月

第三章 出納 第二節 收入

本年二月三日附山第一三一號國有林野及產物製品賣拂代金延納ノ擔保ニ充用シタル國債證券賣渡方ニ關シ御照會相成候處右ハ明治四十二年法律第九號ヲ適用スヘキ限リニハ無之ト存候ヘ共明治四十一年勅令第二百八十七號ニ依リタルモノハ國債證券買入銷却法ニ依リ額面金額ヲ以テ買入銷却方可取計見込ニ有之候省議ヲ經此段及回答候也

●官吏職務上刑事裁判ノ證人トシテ出廷ノトキ旅費日當收納方

○太政官達第五十七號 明治十七年六月十三日
(官吏職務上ニ係ル刑事裁判ノ證人トシテ裁判所ニ出頭スル時ハ「治罪法」ニ依リ旅費日當ヲ請求スルコトヲ得ルト雖モ被告事件無罪又ハ免訴トナリタル時ハ請求セサル儀ト心得ヘシ)(明治二十八年法律第三號刑法附則第五十條改正ト共ニ本文ハ消滅セルモ但書ノ事項ニ就テハ變更ナシ)
但旅費日當ヲ請求シタル時其金額ハ雜收入トシテ大藏省ヘ納付スヘシ右相違候事

●貸費者死亡ノ時ハ貸費金返納ニ及ハサル件

○文部大臣裁定 明治二十九年五月
貸費ヲ受ケタル者死亡シタルトキハ之ヲ返納スルニ及ハス

●授業料等領收證ノ件ニ付注意方

○會計課長通牒 明治二十七年四月二十七日

直轄各部長

〔文會例〕

授業料等收入官吏領收證ノ件ニ付本日訓令有之候處右ハ從來ノ如キ領收證ヲ交付スルハ頗ル手数ナルノミナラス之レカ爲メ已ムヲ得ス教官等ヲシテ學生生徒ノ總代トナシ現金ノ受授ヲナサシメ校規上出納官吏ノ資格ナキ者ヲシテ公金ヲ取扱ハシムル形跡ヲ存スルモノ有之會計法規上適當ナラサルニ依リ書式ニ改正ヲ加ヘラレタル儀ニ有之候付テハ從來總代ヲ置キタルモノハ自今之ヲ廢止シ學生生徒ヲシテ各自ニ納金ヲナサシムル様致度將又附屬校園ノ如キ生徒ノ幼年ナル等ニ依リ事實上教官等ヲ經由セシムル必要アル場合ニ於テモ該教官等總代トナサス單ニ取次ヲナサシムルニ止ムル様致度命ニ依リ此段及御通牒候也

●召集解除學生ニ對スル授業料免除ノ件

○會計課長回答京會二號 昭和十三年四月十六日
四月四日付京高置發會第三號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件事情誠ニ同情ニ價スルモ前年度ノ授業料收入ヲ以テ本年度ニ效力ヲ及ボサシムルコトハ會計事務處理上不可能ナルベク又次官通牒ノ趣旨ヨリモ稍々行過グルノ感アリ尤モ本年度ニ於テ新ナル事情ニ因リ授業料ヲ免除セラル、向ハ格別ト思料セラル右御了承相成度

○京都高等置發學校長照會京高置發會第三號 昭和十三年四月四日
本校製絲科第二學年某儀昨十二年十一月八日事變ノ爲召集セラレ出征中ノ處今般召集解除セラレタル爲復學スル事ト相成候次第ナルガ本人ハ昨年ノ授業料第一期第二期分共納付済ノ者ニ有之候普通ノ場合ニ於テ今學年初ヨリ復學スルトセバ本校規則第四十七條ニ依リ授業料ヲ納付セシムベキハ當然ト存候ヘ共今回ノ如ク事變ノ爲應召シタルニ因リ原額ニ止マリ然モ前ニ

〔文會例〕

同學年ニ於ケル授業料完納セル場合更ニ納付セシムルハ聊カ酷ノ様ニモ考ヘラレ候間昨年十月二十五日附發專一四九號文部次官ノ通牒ノ次第モ有之(直接其御通牒ニ免除ノ明文ハ無之候ヘ共)御趣旨ヲ酌ミ特ニ前年納付ノ授業料ヲ以テ本年ニ效力ヲ及サシメ更メテ徵收セザルコト、致度候處差支無之候也折返シ御回報相煩度此段及御照會候也

●市町村其他法人ノタメニ發スル納入告知

書發行方

○官報 明治四十二年六月八日
〔仕拂命令仕拂通知書及金額氏名表〕並ニ納入告知書ヲ市町村其他法人ノタメニ發スル場合ハ宛名ニ法人名ヲ記載發行差支ナキヤトノ馬政局長官官房會計課長ノ照會ニ對シ來意ノ通取扱ヒ然ルヘキ旨大藏大臣官房會計課長ヨリ回答セリ

第三節 支出

●當分ノ内資金前渡、前金拂若ハ概算拂ヲ爲シ又ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ル場合ニ關スル件

○勅令第五百八十四號 昭和十二年十月九日

改正 昭和十四年第三〇七號、第七一五號、一五年第二六一號

第一條 政府ハ當分ノ内陸海軍官衙ニ於ケル左ニ掲グル經費ニ限リ主任ノ官吏ヲシテ現金支拂ヲ爲サシムル爲其ノ資金ヲ當該官吏ニ前渡スルコトヲ得

- 一 工事又ハ物件ノ製造若ハ買入ニ要スル經費
 - 二 勞力ノ供給ヲ請負フ者ニ支拂フベキ經費
 - 三 俸給、旅費及手當
- 會計規則第五十八條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ資金ヲ前渡スル場合ニ之ヲ準用ス

第二條 政府ハ當分ノ内備船料ノ前金拂又ハ概算拂ヲ爲スコトヲ得

第三條 政府ハ當分ノ内左ニ掲グル場合ニ於テハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

- 一 陸軍造兵廠、陸軍航空工廠、陸軍糧秣廠、陸軍被服廠、陸軍衛生材料廠、陸軍製絨廠、海軍工廠、海軍航空技術廠、海軍技術研究所、海軍火藥廠、海軍燃料廠、海軍軍需部、要港部軍需部、要港部工作部及水路部ニ於テ作業上必要ナル物品ノ買入ヲ爲シ又ハ製造、修理若ハ加工ヲ爲サシムルトキ
- 二 陸軍兵器廠、陸軍航空廠、陸軍航空技術研究所、陸軍經理部、陸軍

第三章 出納 第三節 支出

〔文會例〕

- 運輸部、臨時陸軍東京經理部、海軍省經理局、海軍經理部、要港部經理部及前號ニ掲グル海軍官衙ニ於テ兵器、彈藥、船舶輸送用補助物件、陣中用品、經營需品、港用品、工作機械器具、燃料及其ノ材料ノ買入ヲ爲シ又ハ製造、修理若ハ加工ヲ爲サシムルトキ
 - 三 軍需動員演習ノ爲必要アル場合ニ於テ物品ノ買入ヲ爲シ又ハ製造若ハ加工ヲ爲サシムルトキ
 - 四 軍備充實ニ伴フ工事ヲ請負ハシメ又ハ之ニ要スル材料ノ買入ヲ爲ストキ
 - 五 前號ニ掲グルモノヲ除クノ外臨時陸軍東京經理部及海軍建築部ニ於テ土木建築ノ材料ノ買入ヲ爲ストキ
 - 六 飛行場ノ地均其ノ他ノ土木工事ヲ地元市町村其ノ他之ニ準ズベキモノニ請負ハシムルトキ
 - 七 昭和十二年法律第九十二號及同法ニ基ク命令ノ定ムル所ニ依リ現ニ需給關係ノ調整ヲ爲シ居ル物品ノ買入又ハ賣拂ヲ爲ス場合ニシテ各省大臣特ニ必要アリト認ムルトキ
 - 八 價格等統制令第七條ノ規定ニ依ル價格ノ額ノ指定アル物件ノ買入若ハ賣拂ヲ爲ス場合、同條ノ規定ニ依ル貨賃料ノ額ノ指定アル物件ノ買付若ハ借入ヲ爲ス場合又ハ同條ノ規定ニ依ル加工賃ノ額ノ指定アル物品ノ加工ニ付契約ヲ爲ス場合ニシテ各省大臣特ニ必要アリト認ムルトキ
- 前項第四號ノ場合ニ於テハ所管大臣豫メ大臣協議スルコトヲ要ス
前項ノ協議ヲ遂ゲタルトキハ大臣直ニ之ヲ會計検査院ニ通知スベシ

附則

第三章 出納 第三節 支出

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●支出官事務規程

○大藏省令第一號 大正十一年一月十一日

改正 大正一五年第六號、昭和元年第一號、八年第三二號、九年第七號、一三年第五四號、第五九號、一五年第三三號

第一章 總則

第一條 支出官ハ本令ノ定ムル所ニ依リ支出ニ關スル事務ヲ處理スヘシ

第二條 支出官ハ支拂豫算ニ依リ定メラレタル日本銀行(本店)支店又ハ代理店ヲ謂フ以下同シ)ヲ以テ其ノ振出ス小切手ノ支拂店ト爲スヘシ

第三條 支出官ノ更迭アリタルトキハ各省大臣ハ直ニ大藏大臣及小切手ノ支拂店ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

各廳長官又ハ都局長ヲ支出官トスル場合ニ於テ其ノ更迭ヲ官報ニ掲載シタルトキハ前項ノ通知ヲ要セス但シ至急支拂ヲ要スル場合又ハ特ニ各廳長官若ハ都局長以外ノ者ヲ以テ支出官トスル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第四條 會計規則第四十二條ノ規定ニ依リ代理官ノ任免アリタルトキハ前條第一項ノ規定ニ準シ之カ通知ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條 支出官及其ノ代理官ハ照數ノ用ニ供スル爲其ノ印鑑ヲ小切手ノ支拂店ニ送付スヘシ

第六條 支出官特別會計支拂元受高ノ内ヲ翌年度ノ支拂元受高ニ組入ヲ要スルトキハ其ノ旨ヲ小切手ノ支拂店ニ請求スヘシ

第七條 支出官特別會計支拂元受高ノ内ヲ當該會計ノ他ノ支出官ノ支拂元受高ニ轉換ヲ要スルトキハ其ノ旨ヲ小切手ノ支拂店ニ請求シ振替受拂ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第十四條 前條ノ場合ニ於テ數人ノ債主ニ對シ同一支出科目ヨリ支拂ヲ爲サムトスルトキハ其ノ合計額ヲ券面金額トスル小切手ヲ振出スコトヲ得

第十五條 前二條ノ場合ニ於テ支出官ハ債主ノ爲最便利ナリト認ムル日本銀行ヲ支拂場所ト爲スヘシ但シ運輸交通不便ナル地方ニ在ル債主ノ請求ニ依リ其ノ住所又ハ居所ニ送金ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキハ其ノ住所又ハ居所ヲ支拂場所ニ指定スルコトヲ得

第十六條 支出官第十三條又ハ第十四條ノ手續ヲ爲シタルトキハ第四號書式ノ歳出金支拂通知書ヲ債主ニ送付スヘシ但シ前條但書ノ規定ニ依リ支拂場所ヲ指定シタル場合ニ於テハ歳出金支拂通知書ニ代ヘ適宜ノ通知書ヲ債主ニ送付シ電信送金ノ場合ニ於テハ電信ヲ以テ其ノ旨ヲ通知スルモノトス

第十七條 支出官歳出金支拂通知書ノ送付ヲ爲シタル後債主ヨリ該通知書ヲ添ヘ支拂場所變更ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ相當ノ事由アリト認メタルトキハ歳出金支拂通知書ニ記載セル支拂場所ヲ訂正シ之ヲ債主ニ返付シ直ニ其ノ旨ヲ小切手ノ支拂店ニ通知スヘシ

第十八條 支出官電信送金ノ通知ヲ爲シタル後債主ヨリ支拂場所變更ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ支拂未済ナルコトヲ確メタルトキハ前條ノ規定ニ準シ電信ヲ以テ之カ變更ノ手續ヲ爲スヘシ

第十九條 支出官外國ニ在ル債主ニ對シ邦貨ヲ基礎トスル金額ノ支拂ヲ爲サムトスルトキハ其ノ振出ス小切手ノ裏面ニ第五號書式ノ記入ヲ爲シ之ヲ小切手ノ支拂店ニ交付シ直ニ其ノ旨ヲ債主ニ通知スヘシ但シ電信送金

第三章 出納 第三節 支出

第七條ノ二 支出官ノ事務取扱ニシテ特別ノ事情ニ因リ本令ニ依リ難キモノニ付テハ特例ヲ設クルコトヲ得

第八條 本令中各省大臣ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、關東州ニ在リテハ(關東長官)、南洋羣島ニ在リテハ南洋廳長官之ヲ行フ

第二章 小切手ノ振出

第一節 總則

第九條 支出官ハ其ノ振出ス小切手ニ支拂金額、支拂店名及受取人ノ氏名ト共ニ其ノ小切手ノ持參人カ支拂ヲ受クルコトヲ得ヘキコト、振出ノ年月日、振出地及支拂地ヲ記載スルノ外年度、所管、會計名、經常臨時部別、款項及番號ヲ附記スヘシ

第十條 官廳、出納官吏又ハ日本銀行ヲ受取人トシテ振出ス小切手ハ之ヲ記名式トシ之ニ指圖禁止ノ旨ヲ記載スヘシ

前項ノ小切手金額ニシテ振替拂込ヲ要スルモノナルトキハ表面餘白ニ「要振替」ノ印ヲ捺捺スヘシ

第十一條 支出官受取人ニ小切手ヲ交付シ支拂ヲ了シタルトキハ之カ領收證書ヲ發スヘシ

第十二條 支出官本章ノ規定ニ依リ小切手ヲ振出シタルトキハ其ノ都度第一號書式ノ小切手振出通知書ヲ小切手ノ支拂店ニ送付スヘシ

第二節 隔地者ニ支拂ヲ爲サシムル爲振出ス小切手

第十三條 支出官小切手ノ支拂店所在地外ニ在ル債主ニ支拂ヲ爲サムトスルトキハ其ノ振出ス小切手ノ裏面ニ第二號書式ニ依リ債主ノ住所氏名及支拂場所等ヲ記載シ之ヲ小切手ノ支拂店ニ交付スヘシ

ノ場合ニ於テ必要アリト認メタルトキハ電信ヲ以テ其ノ旨ヲ通知スルモノトス

第二十條 支出官外國ニ在ル債主ニ對シ外國貨幣ヲ基礎トスル金額ノ支拂ヲ爲サムトスルトキハ別ニ定ムル外國貨幣換算價格ニ依リ換算シタル邦貨額ヲ券面金額トスル小切手ヲ振出シ其ノ裏面ニ第六號書式ノ記入ヲ爲シ之ヲ小切手ノ支拂店ニ交付シ前條ノ規定ニ準シ債主ニ通知ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十一條 第十四條第一項ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テハ其ノ小切手ノ裏面ニ第六號ノ二書式ニ依リ記入ヲ爲シ第六號ノ三書式ノ金額氏名表ヲ添付スヘシ

第二十二條 本節ノ規定ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外支出官小切手ノ支拂店所在地外ニ在ル出納官吏ニ資金ヲ交付スル場合ニ之ヲ準用ス

第三節 國庫内移換ノ爲ニ振出ス小切手

第二十二條 支出官他ノ會社ニ資金繰入ノ爲歳出ヲ支出セムトスル場合ニ振出ス小切手ハ之カ繰入ヲ要求スル當該官廳ヲ受取人トシ其ノ裏面ニ歳入年度、所管、會計名及取扱廳名其ノ他必要ナル事項ヲ記載シ之ヲ小切手ノ支拂店ニ交付シ振替拂込ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第二十三條 前條ノ場合ニ於テ其ノ振替ニ依リ受入済ノ旨ヲ當該官廳及當該支拂元受高ノ計算ヲ爲ス日本銀行ニ至急通知スルノ必要アルトキハ其ノ旨ヲ記載シ別ニ「要電信通知」ノ印ヲ捺捺スヘシ

第四節 俸給又ハ給料支拂、國庫納金、健康保險料被保險者負擔金、相殺及所得稅納付ノ爲ニ振出ス小切手

第二十四條 支出官恩給法上ノ公務員(軍人ニ在リテハ下士官以上ノ軍人

第三章 出納 第三節 支出

ニ限ルニ俸給又ハ給料ノ支拂ヲ爲ス爲振出ス小切手ハ其ノ俸給又ハ給料額ヨリ國庫納金額ヲ控除シタル殘額ヲ券面金額トスヘシ
支出官ハ前項ノ小切手ノ振出ト同時ニ國庫納金額ヲ券面金額トシ當該官廳ヲ受取人トスル小切手ヲ振出シ且表面餘白ニ「國庫納金」ノ印ヲ捺捺シ其ノ裏面ニ歳入年度、所管、會計名及取扱職名ヲ記載シ之ヲ小切手ノ支拂店ニ交付シ振替拂込ノ手續ヲ爲サシムヘシ
第二十四條ノ二 前條ノ規定ハ支出官カ健康保險法施行令第九十八條ノ規定ニ依リ被保險者ノ負擔スヘキ保險料ヲ其ノ支拂ヘキ報酬ヨリ控除スル場合ニ之ヲ準用ス但シ前條第二項中「國庫納金」トアルハ「健康保險料被保險者負擔金」トス

第二十五條 支出官民法ノ規定ニ依リ政府ノ債務ノ一部ニ付私人ノ債務トノ間ニ相殺アリタル場合ニ振出ス小切手ハ政府ノ支拂金額ヨリ相殺額ヲ控除シタル殘額ヲ券面金額トスヘシ
支出官ハ前項ノ小切手ノ振出ト同時ニ相殺額ニ相當スル金額ヲ券面金額トシ歳入所屬ノ當該官廳ヲ受取人トスル小切手ヲ振出シ且表面餘白ニ「相殺額」ノ印ヲ捺捺シ之ヲ當該相殺額ニ對スル納入告知書ニ添附シ小切手ノ支拂店ニ交付シ振替拂込ノ手續ヲ爲サシムヘシ
第二十六條 政府ノ收納スヘキ金額カ相殺額ト同額ナルトキ又ハ之ヲ超過スルトキハ支出官ハ其ノ相殺額ニ付前條第二項ノ手續ニ準シ小切手ヲ振出シ其ノ收納スヘキ金額ノ相殺額ヲ超過シタルモノニ付テハ其ノ超過額及相殺ノ相手方氏名ヲ歳入徵收官ニ報告スヘシ

第二十六條ノ二 支出官俸給、給料、歳費、年金、恩給、賞與及退職給與並ニ此等ノ性質ヲ有スル給與ノ支拂ヲ爲ス爲振出ス小切手ハ其ノ給與額

第五章 雜則

第二十九條 支出官其ノ振出シタル小切手又ハ第二十七條ニ規定スル返納告知書ニ記載セル年度、所管、會計名、經常臨時部別又ハ款項ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ翌年度五月三十一日迄ニ小切手ノ支拂店ニカ訂正ヲ請求スルコトヲ得

第三十條 支出官第十三條、第十九條乃至第二十二條及第二十四條ノ小切手裏面ノ記載事項ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ小切手ノ支拂店ニ對シカ訂正ノ請求ヲ爲スヘシ
前項ノ規定ハ第十四條ニ規定スル金額氏名表中金額以外ノ誤謬訂正ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十一條 支出官歳出金支拂通知書ノ記載事項中金額以外ノモノニ付誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ之カ訂正ヲ爲スコトヲ得
支出官前項ノ訂正ヲ爲サルトキハ受取人ヲシテ該歳出金支拂通知書ヲ提出セシメ相當ノ訂正ヲ爲シ之ヲ受取人ニ返付スヘシ

第三十二條 支出官第十六條ノ規定ニ依リ受取人ニ送付シタル歳出金支拂通知書ニシテ受取人ノ受領前亡失シ日本銀行ニ於テ其ノ支拂未済ナルコトヲ確メタルトキハ之カ支拂ヲ停止セシメ更ニ歳出金支拂通知書ヲ調製シ表面餘白ニ「再發行」ノ印ヲ捺捺シ之ヲ受取人ニ送付シ其ノ旨ヲ小切手ノ支拂店ニ通知スヘシ

第三十三條 支出官受取人ノ受領前亡失シタル歳出金支拂通知書ニ依リ日本銀行既ニ支拂ヲ爲シタルコトヲ確メタルトキハ事情ヲ詳具シタル書面ヲ所管大臣ヲ經由シ大藏大臣ニ送付スヘシ
支出官大藏大臣ヨリ支拂ヲ爲スヘキ旨ノ通知ヲ受ケタルトキハ前條ノ規定ニ準シ之カ支拂ニ必要ナル手續ヲ爲スヘシ

第三十四條 受取人支出官ヨリ送付ヲ受ケタル歳出金支拂通知書ヲ亡失シ

第三章 出納 第三節 支出

ヨリ分類所得稅額（關東州、朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ在リテハ一時恩給ニ類スル退職給與ニ對スル第二種所得稅額トス以下同シ）ヲ控除シタル殘額ヲ券面金額トスヘシ
支出官ハ前項ノ小切手ノ振出ト同時ニ分類所得稅額ヲ券面金額トシ歳入所屬ノ當該官廳ヲ受取人トスル小切手ヲ振出シ且表面餘白ニ「分類所得稅」ノ印ヲ捺捺シ之ニ所得稅法施行細則第一條（關東州、朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ在リテハ其ノ當該法規）ニ定ムル拂込書、計算書及明細書ヲ添附シ小切手ノ支拂店ニ交付シ振替拂込ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第三十條 定額戻入
第二十七條 支出官會計規則第八十二條ノ規定ニ依リ經費ノ定額ニ戻入ヲ爲サルトキハ返納人ニ對シ第七號書式ノ返納告知書ヲ發スヘシ
前項ノ場合ニ於テ返納人小切手ノ支拂店以外ノ日本銀行ニ拂込ヲ爲シタルトキ至急ニ定額戻入ヲ要スルモノニ付テハ當該告知書ノ表面餘白ニ「電信戻入」ヲ朱書スヘシ

第二十八條 支出官日本銀行統轄店又ハ特取扱代理店ヨリ支拂濟ニ係ル小切手振出通知書ヲ添へ歳出金月計突合表又ハ歳出支拂未済繰越金月計突合表ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ證明ノ上五日內ニ之ヲ統轄店又ハ特取扱代理店ニ返付スヘシ但シ相違アル點ニ付テハ其ノ事由ヲ附記スルモノトス
前項ノ規定ニ依リ統轄店ニ返付スル場合ニ於テハ小切手ノ支拂店ヲ經由スヘシ

【文會例】

タルトキハ直ニ支拂場所タル日本銀行ニ支拂停止ノ請求ヲ爲シ且支拂未済ナルトキハ當該日本銀行ヲ經由シ支出官ニ届出ツヘシ
前項ノ届書ニハ歳出金支拂通知書ニ記載シタル金額、番號、年度、發行官廳及支拂場所ヲ記載スヘシ

第三十五條 支出官前條ノ届書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ支拂ヲ要スルモノト認メタルトキハ第三十二條ノ規定ニ準シ之カ支拂ニ必要ナル手續ヲ爲スヘシ

第三十六條 第三十三條ノ規定ハ受取人ノ亡失シタル歳出金支拂通知書ニ依リ既ニ支拂ヲ受ケタル者アル場合ニ付之ヲ準用ス
第三十七條 支出官歳出金月計突合表又ハ歳出支拂未済繰越金月計突合表ニ證明ヲ爲シタル後其ノ證明ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ事由ヲ記載シテ證明ヲ爲シ之ヲ日本銀行統轄店又ハ特取扱代理店ニ送付スヘシ
前項ノ規定ニ依リ統轄店ニ送付スル場合ニ於テハ小切手ノ支拂店ヲ經由スヘシ

附則

第三十八條 本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
第三十九條 左ノ大藏省令ハ之ヲ廢止ス
前金渡概算渡ノ返納金ヲ定額ニ戻入ルル取扱規程
明治二十三年大藏省令第十七號
明治二十三年大藏省令第二十七號
明治三十四年大藏省令第十二號
仕拂命令等盜難又ハ亡失ノ場合ニ關スル取扱手續
第四十條 歳出金仕拂通知書ニシテ本令施行前其ノ支拂了セサルモノハ從前ノ手續ニ依リ日本銀行ニ於テ本令施行後一年間之カ支拂ヲ取扱ハシム

第五號書式 (邦貨ヲ基礎トスル外國送金ノ場合ニ)

表面ノ金額ハ何貨ニ換ヘ何國何地何某ヘ送金(電信)ヲ要ス
官印出

備考 外國人ノ氏名及外國ノ地名ハ成ルヘク其ノ地ノ原語ヲ記入ス

第六號書式 (外國貨幣ヲ基礎トスル外國送金ノ場合)

表面ノ金額ハ何貨何程ニ換ヘ何國何地何某ヘ送金(電信)ヲ要ス
官印出

備考 外國人ノ氏名及外國ノ地名ハ成ルヘク其ノ地ノ原語ヲ記入ス

第六號ノ二書式 (邦貨又ハ外國貨幣ヲ基礎トスル外國送金ノ場合ニ於ケル小切手裏面記載例)

表面ノ金額ハ金額氏名表ニ記載ノ通送金(電信)ヲ要ス
大正何年何月何日 金額氏名表 「支出官氏名」
小切手第何號 何省所管
大正何年何月何日 何省所管

番 號	受 取 人 名		金 額	外 貨 額	備 考
	住 所	氏 名			
一					第三號書式備考ハ本表ノ副製ニ付之ヲ適用ス
二					第五號及第六號ノ書式記載例ハ本書式ノ記載方ニ付之ヲ準用ス

備考 一 第三號書式備考ハ本表ノ副製ニ付之ヲ適用ス
二 第五號及第六號ノ書式記載例ハ本書式ノ記載方ニ付之ヲ準用ス

注意事項

- 一 受取人ハ表面領收證ノ部ニ年月日及住所ヲ記入シ記名捺印スヘシ但シ官吏ハ公吏ニ在リテハ官廳名又ハ公共團體名等ヲ肩書シ官職名ヲ記シ記名捺印ス
- 二 受取人ノ印章ハ請求書ニ押捺シタルモノト同一ノモノニ限ル
- 三 受取人ハ代理人ヲ以テ現金支拂ノ請求ヲ爲サトスルトキハ本人ニ於テ本書委任欄内ニ相當ノ事項ヲ記載シ記名捺印スルカ又ハ別ニ委任狀ヲ差出スヘシ此ノ場合ニ於テハ代理人ハ本書ニ代理人タルノ肩書ヲ附シ記名捺印ス
- 四 受領金額五圓以上ノモノハ規定ノ收入印紙ヲ貼附消印スヘシ但シ營業ニ關セサルモノハ此ノ限ニ在ラズ
- 五 小切手振出ノ日附ヨリ一箇年ヲ過クルトキハ日本銀行ハ本書ニ對シ之カ支拂ヲ爲ササルモノトス
- 六 本書ヲ亡失シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ拂渡ヲ受ケルキ日本銀行ニ通知シ支拂ノ停止ヲ請求スヘシ

収入印紙 委任狀

表面金額ノ受取方ニ委任致候也
住 所
何
大正何年何月何日

〔封筒裏〕

第七號書式

返納告知書

大正何年何月何日

第何號 大正何年何月何日

何省所管	何	會計	歳出何部
(款)		(項)	
金			

上記ノ金額大正何年何月何日迄ニ日本銀行本店支店又ハ代理店ニ拂込マレ

大正何年何月何日 「支出官官氏名」

「何 某」宛 定額戻入店 日本銀行何店

通知書

大正何年何月何日

第何號 大正何年何月何日

何省所管	何	會計	歳出何部
(款)		(項)	
金			

上記ノ金額定額ニ戻入済

大正何年何月何日 日本銀行何店

「支出官官氏名」宛

返納人 「何 某」 領收店 日本銀行何店

領收證書

大正何年何月何日

第何號 大正何年何月何日

何省所管	何
(款)	
金	

上記ノ金額領收候也

大正何年何月何日 日本銀行何店

返納人 「何 某」 宛

備考 一 用紙寸法 縦五寸六分 横三寸八分 輪廓寸法 縦四寸五分 横三寸三分

二 金額、番號、年度、所管廳名及科目ハ支出官ニ於テ記入スルモノトス
三 返納金ニシテ外國貨幣、外國貨幣拂爲替券又ハ邦貨拂爲替券ニ係ルモノナルトキ又既ニ之ヲ本邦貨幣ニ交換シタルモノナルトキハ返納金額ノ傍ニ「此何貨何程」ト記載スヘシ

●〔仕拂命令官〕變更ノ際一時其ノ事務ヲ取扱フ者ノ氏名通知方

○大藏大臣照會 明治三十四年十月十二日
自今〔仕拂命令官〕變更ノ際後任者若任迄前任者又ハ他ノ官吏ヲシテ一時仕拂命令ヲ發セシメラルトキハ左ノ書式ニ倣ヒ通知相成度旨大藏大臣ヨリ照會アリ

仕拂命令官變更通知

何年何月何日任免ス	前任者	官氏名
但何年何月マテ(或ハ後任者若任迄)前任者(又ハ何官氏名)ヲシテ繼續仕拂命令ヲ發セシム	後任者	官氏名

右通知候也
年 月 日

何 大 臣

大藏大臣宛
(注意) 支出官事務規程第三條參照

●〔仕拂命令官〕ノ變更ニシテ官報ヘ掲載ノ分ハ大藏省ヘ通知ヲ要セサル件

○大藏大臣通知 明治三十年十月十四日
〔仕拂命令官〕變更ノ節ハ其都度御通知ニ依リ〔金庫〕(令達致來候處官報發出張ノ爲其職務代理ヲ置キタル場合ハ實際出張不在トナリタル時ヨリ其職務移轉スヘキニ付單ニ官報掲載ノ日ニ依リ其變更ヲ御認メ相成候テハ事實ト觀シ自然〔金庫〕トノ關係上差支ヲ生スヘキニ付自今出張代理ノ場合ハ總テ實際代理ヲ爲スヘキ日ヲ定メ其代理ノ解ケタルトキモ同様御通知可致候條右ニテ御差支無之候ハ、其旨〔金庫〕(令達相成度此段更ニ及御照會候也)

〔文會例〕

○文部大臣照會會甲千四百八號 明治三十六年十月一日
當省所管〔仕拂命令官〕變更ノ節ニ於ケル處理方ニ付及御協議置候處部局長出張ノ爲其職務代理ヲ置キタル場合ハ實際出張不在トナリタル時ヨリ其職務移轉スヘキニ付單ニ官報掲載ノ日ニ依リ其變更ヲ御認メ相成候テハ事實ト觀シ自然〔金庫〕トノ關係上差支ヲ生スヘキニ付自今出張代理ノ場合ハ總テ實際代理ヲ爲スヘキ日ヲ定メ其代理ノ解ケタルトキモ同様御通知可致候條右ニテ御差支無之候ハ、其旨〔金庫〕(令達相成度此段更ニ及御照會候也)

○大藏大臣回答

本月一日付會甲一四〇八號ヲ以テ〔仕拂命令官〕出張不在ノ節代理官任命ノ場合ニ於テ官報ニヨリ其變更ヲ認メス通知ニヨリ處理スヘキ義ニ付御照會ノ趣了承右ハ實際不得止義ト認メ其旨〔金庫〕(令達致置候條此段及御照會候也)

(參照)

○支出官事務規程第三條

支出官ノ更迭アリタルトキハ各省大臣ハ直ニ大藏大臣及小切手ノ支拂店ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ
各廳長官又ハ部局長ヲ支出官トスル場合ニ於テ其ノ更迭ヲ官報ニ掲載シタルトキハ前項ノ通知ヲ要セス但シ至急支拂ヲ要スル場合又ハ特ニ各廳長官若ハ部局長以外ノ者ヲ以テ支出官トスル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

●臨時設備費使用方會計検査院ヘ回答ノ件

○會計課長回答 明治四十五年三月十五日

第三章 出納 第三節 支出

據テ致候義ト存候ニ付自今右ニ依リ取扱可申候條此段及御通知候也
但至急ヲ要スル場合又ハ官報ヘ掲載セサル分ハ從前ノ通其都度御通知有之度候也

●〔仕拂命令官〕出張ノ爲代理ヲ置キタルトキ通知方

○會計課長通牒 明治三十六年十月六日
〔仕拂命令官〕變更ノ節ハ官報發任及辭令欄内ヘ掲載ノ分ニ限リ別ニ報告通知等ノ手續ヲ爲サス〔金庫〕ニ於テハ官報ニ依リ其變更ヲ認メ處理スルコトニ相成居候處〔仕拂命令官〕出張ノ爲其出張中職務代理ヲ置カルル場合ハ實際出張不在トナリタル時ヨリ其職務移轉スヘキヲ以テ單ニ官報ニ依リ其變更ヲ認メ難ク候ニ付爾後出張代理ノ場合ハ實際代理ヲ爲スヘキ日ヲ定メ其代理ノ解ケタルトキモ同様左記書式ニ依リ報告相成度當省ハ該報告ニ依リ大藏省ヘ通知シ大藏省ハ其旨〔金庫〕(令達相成候事ニ協議濟ニ有之候此段及御通牒候也)
追而部局長交迭ニ付〔仕拂命令官〕ノ變更ハ從前ノ通官報ニ依リ〔金庫〕ニ於テ直ニ其變更ヲ認メ處理候義ニ付別ニ御報告ニ及ハス尙又一時内部ノ事務代理ノ如キハ〔仕拂命令官〕ノ變更ニハ無之候爲念申添候

(左記)

校長(館長)(學長)(何々)出張ニ付何年何月何日ヨリ	代理官氏名
歸屬ニ付何年何月何日ヨリ	校長(館長)(學長)(何々)氏名

〔文會例〕

臨時設備費使用方ノ儀ニ付當省次官ニ御問合ノ趣了承當省ニテハ設備費中ヨリ廣告料等ハ支出セサル見込ニ有之候尤設備ヲ要スル學校ノ成立セサル以前ニアリテハ當該學校ノ經費ヨリ之ヲ支出スルノ途ナキニヨリ已ヲ得設備費中ヨリ支出スヘキ場合可有之ト存シ候此段及御回答候也

●外國逆爲替差減金支辨方

○會計課長照會會計坤六百十二號 明治三十三年十一月二十一日
外國貨幣ヲ以テ仕拂ヲ要スルトキハ金貨純分ノ比價ニ依リ換算シ之カ爲替差金ハ國庫ノ負擔ニ屬スル儀ニ有之候處急速仕拂ヲ要スル等ノ爲豫メ横濱正金銀行ノ逆爲替信任狀ヲ債主ニ送付シ置キ逆爲替ニ依リ支拂ヲナストキ若クハ逆爲替信任狀ヲ送付セサルモ債主ノ都合ニ依リ直チニ逆爲替ヲ取組タル場合ニ於ケル爲替差減モ均シク外國貨幣ヲ基トシタル爲替上ノ差金ニ付國庫ノ負擔ニ屬スル儀ト存候就テハ右貨幣交換差減ハ通常爲替ノ場合ト同シク貴省及金庫間ニテ御整理有之候哉又豫備金ヲ以テ豫算ニ補充可相成儀ニ候哉右場合ニ於ケル取扱手續承知致度候條何分ノ御回報有之度此ノ段及御照會候也

○大藏省主計局長回答 明治三十四年二月二十八日

客年十一月二十八日付會計坤六一二號ヲ以テ外國逆爲替差金ニ關スル件御照會之趣了承右ハ貴省經費ヲ以テ支辨スヘキモノニシテ從テ豫備金補充可相成筋ニ無之ト被存候此ノ段及御回答候也

●支出官事務規程第二十條ノ外國貨幣換算價格ニ關スル件

第三章 出納 第三節 支出

○大藏次官通牒理第四十四號 昭和十二年一月二十九日
 瑞西法ノ換算價格ニ付テハ支出官事務規程第二十條ノ外國貨幣換算價格
 (別表一、金貨ノ部)中瑞西國ノ分ニ記載セルモノノ外條約、規約等ニ依リ
 一九三六年九月瑞西法切下前ノ瑞西金法(之ト同價值ナル國際聯盟ノ金法
 ノ含ム)ヲ以テ定メラレタル債額ノ支拂ニ使用スヘキ瑞西法ニ限リ一法ニ
 付邦貨〇圓二七四ト定メ一月二十九日ヨリ實施可致依命此段及通牒候也
 追而支出官事務規程第二十條ニ依リ本換算價格ヲ適用スヘキ瑞西貨ヲ基
 礎トスル債額支拂ノ爲小切手ノ振出ヲ要スル場合ニハ昭和七年七月一日
 附藏計第五六九號通牒ニ基キ當省ト協議ノ上實行相成度爲念申添候也

●外貨拂小切手ノ振出方ニ關スル件

○會計課長移牒官會百十四號 昭和七年七月二日
 ○大藏次官通牒藏計第五百六十九號 昭和七年六月三十日
 支出官事務規程第二十條ノ規定ニ依ル小切手振出方ニ關シ大藏次官ヨリ別
 紙寫ノ通牒有之タルニ付此段移牒ス
 追テ通牒後段ニ記載ノ協議ヲ要スルモノニ付テハ至急御提出相成様致度
 (別紙)
 支出官事務規程第二十條ノ規定ニ依リ外國貨幣ヲ基礎トスル金額ノ支拂ノ
 爲メノ小切手ノ振出ニ付テハ爲替相場激變ノ今日其ノ科目及金額等ヲ限定
 スルノ必要有之追テ之ニ關シ貴省所管ノ經費ニ付協議可致ニ付右協議成立
 迄ハ貴省所管内各支出官ニ於テ支出官事務規程第二十條ニ依ル小切手ヲ振
 出ササル様御處置相成度尙至急ヲ要スル爲右協議成立ヲ待チ難キモノアル
 場合ニ於テハ特ニ當該費目及金額等ニ付事由ヲ具シ御協議相成度此段及通

希 臘	葡 萄 牙	海峽殖民地	暹 羅	マニラ	蘭領東印度	印 度	ウルグエー	智 利	墨 西 哥	佛領印度支那	秘 露	亞爾然丁	露 國	埃 及	西 班 牙	丁 抹
ドラクマ	エスクード	弗	チカル	ペソ	フロリン	留比	ベソ	ベソ	ベソ	ピアストル	ソール	ベソ	チエルボネツツ	ピアスター	ペセタ	クローナ
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
〇〇二七	〇〇八九	一一三九	〇八八八	一〇〇三	〇八〇六	〇七三二	二〇七四	〇二四四	〇九五二	〇七八六	〇五六二	一六八〇	一〇三二〇	〇〇九九	〇三八七	〇五三八
〇〇二七	〇〇八九	〇〇八九	〇〇八九	〇〇三	〇〇六	〇〇三二	〇〇七四	〇〇四四	〇〇五二	〇〇八六	〇〇六二	〇〇八〇	〇〇三二〇	〇〇九九	〇〇八七	〇〇三八

第三章 出納 第三節 支出

候也

●支出官事務規程第二十條ノ規定ニヨル外 國貨幣換算價格表

昭和十三年四月三十日現在

國名	名	稱	單位	換算價格	備考
國	名	名	單位	換算價格	備考
英 國	磅	磅	一	九七六三	純分比價
米 國	弗	弗	一	二〇〇六	
加 奈 陀	ライヒスマルク	ライヒスマルク	一	〇四七八	
獨 國	法	法	一	〇〇七九	
佛 國	法	法	一	〇一〇六	
伊 國	法	法	一	〇二七四	
瑞 國	法	法	一	〇二〇一	
白 耳 義	ベ	ベ	一	〇二八二	
奧 國	志	志	一	〇八〇六	
和 國	フ	フ	一	〇五三八	
瑞 典	ク	ク	一	〇〇五一	
芬 蘭	マルカ	マルカ	一	〇〇五一	

〔文會例〕

中華民國	元 (壹銀)	一	一〇四三
伯刺西爾	紙幣ミルリス	一	〇二三一
亞爾然丁	紙幣ベソ	一	〇八五二
滿洲國	國幣圓	一	一〇〇〇

●支出官事務規程第二十條ノ規定ニヨル金 貨國貨幣以外ノ外國貨幣換算價格ニ關スル件

○大藏次官通牒理第五百一號 昭和十三年三月三十一日
 支出官事務規程第二十條ノ規定ニ依ル金貨國貨幣以外ノ外國貨幣換算價格
 昭和十三年度分別紙ノ通り定メラレ候ニ付此段依命及通牒候也
 追テ支出官事務規程第二十條ニ依リ外國貨幣ヲ基礎トスル金額支拂ノ爲
 振出ス小切手ト雖時價相場ニ依リ換算價格ヲ定ムルモノニ付テハ別紙換
 算率ハ關係ナキコト昭和九年五月十日附藏理第三四八號追書ト同趣旨ニ
 付爲念申添候也
 (別紙)

國名	名	稱	單位	換算價格
中華民國	元	元 (上海)	一	一〇〇四三
伯刺西爾	紙幣ミルリス	紙幣ミルリス	一	〇二三一

亞爾然丁	紙幣	ベソ	一	〇・八五二
墨西哥	ソ	一	〇・九五二	
滿洲國	幣	圓	一	一・〇〇〇

●郵便官署ヲシテ臨時歳出金ノ繰替拂渡ニ
關スル事務ヲ取扱ハシムルノ件

○勅令第三百六號 昭和七年十月六日

昭和七年十月一日又ハ昭和十一年十月一日東京市ニ編入セラレタル地域ニ在ル郵便官署ハ當分ノ間該地域ニ於テ支拂ヲ要スル各歳出金ノ繰替拂渡ニ關スル事務ヲ編入前ノ例ニ依リ取扱フコトヲ得

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
附則 (昭和十一年十月勅令第三百八十號)
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●昭和七年勅令第三百六號ニ依リ郵便官署
ヲシテ臨時歳出金ノ繰替拂渡ノ取扱ニ關
スル件

○大藏省令第二十六號 昭和七年十月六日
昭和七年勅令第三百六號ニ依リ郵便官署ヲシテ臨時歳出金ノ繰替拂渡ヲ取

(注意)

本件繰替拂ハ日本銀行所在地以外ニ於テ支拂ヲナス場合ニ限ル

●郵便官署ニ於ケル歳出金繰替拂ノ件

○内務省會計課通牒官第三十七號 大正四年四月二十一日
本年勅令第六號ニ依リ郵便官署ノ取扱フヘキ歳出金ノ繰替拂ハ(金庫)所在地外ニ於テ支拂ヲ爲スモノニ限リ從テ(金庫) (仕拂命令)ヲ宛テ振替拂ヲナスヘキ(金)ノ存在スル市町村ノ郵便局ハ(仕拂命令)ニ於テ之ヲ指定スルコトヲ得サルノ法意ニ有之候處往々是等ノ郵便局ヲ指定シテ(仕拂命令)ヲ發スル向有之趣ニテハ其筋ヨリ注意方通牒ノ次第有之候條右御了知相成度候

●政府力第三債務者トシテ差押ヘラレタル
債務額ノ仕拂停止仕拂執行及供託ニ關ス
ル手續

○大藏省令第二號 明治二十七年二月七日

第一條 (仕拂命令)ニ於テ裁判所ノ命令ニ據リ差押金額ノ仕拂ヲ要スルトキハ(仕拂命令)又ハ(仕拂請求書)並(案内仕拂命令)又ハ(案内仕拂請求書)ニ何ノ誰ノ差押債權者何ノ誰渡ト記入シ(仕拂命令)又ハ(仕拂請求書)ヲ差押債權者ニ交付スヘシ
第二條 歳出金ノ繰替拂ヲ命令スル官吏ニ於テ裁判所ノ命令ニ據リ差押金額ノ仕拂ヲ要スルトキハ歳出金繰替拂證券又ハ同通知書ニ(何ノ誰

扱ハシムルノ件ニ關シテハ大正四年大藏省令第一號ヲ準用シ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●昭和七年勅令第三百六號ニ依リ郵便官署
ニ於テ取扱フ歳出金ノ繰替拂渡事務ニ關
スル件

○逓信省令第四十四號 昭和七年十月六日
昭和七年勅令第三百六號ニ依リ郵便官署ニ於テ取扱フ歳出金ノ繰替拂渡事務ニ付テハ大正四年逓信省令第八號ヲ準用ス
本令ハ公布ノ日ヨリ施行ス

●郵便官署ノ取扱フヘキ歳出金ノ繰替拂ハ
〔金庫〕所在地外ニ於テ仕拂ヲナスモノニ
限ル件

○會計課長移牒 大正四年四月二十六日 直轄各部
○大藏省主計局通牒 大正四年四月十六日 文部大臣
本年勅令第六號ニ依リ郵便官署ノ取扱フヘキ歳出金ノ繰替拂ハ(金庫)所在地外ニ於テ仕拂ヲ爲ス物ニ限リ從テ(金庫) (仕拂命令)ヲ宛テタル金庫ナルト(振替拂)ヲ爲ス金庫ナルト(間ハ)ノ所在スル市町村内ノ郵便局ハ(仕拂命令)ニ於テ之ヲ指定スルコトヲ得サルノ法意ニ有之候處往々是等ノ郵便局ヲ指定シテ仕拂命令ヲ發スル向有之今般爲替貯金局長ヨリ通牒ノ次第モ有之候條右誤解無之様貴省所管仕拂命令官ニ對シテ一般ニ御訓示相成度此段及通牒候也

(文會例)

ノ差押債權者何ノ誰渡ト記入シ之ヲ差押債權者ニ交付スヘシ但シ歳出金繰替拂證券又ハ同通知書ヲ發行セサル場合ニ於テハ繰替拂證券ニ本文ノ記入ヲ爲シ之ヲ出納官吏ニ交付スヘシ
第一條ノ三 郵便貯金ノ原簿ヲ管掌スル官署ノ長ニ於テ裁判所ノ命令ニ據リ差押金額ノ仕拂ヲ要スルトキハ郵便貯金拂出證書ニ(何ノ誰ノ差押債權者何ノ誰渡)ト記入シ之ヲ差押債權者ニ交付スヘシ
第二條 政府力差押債權者ニ仕拂フヘキ金額ニシテ政府ノ債權者ニ仕拂フヘキ金額ノ一部分ナルトキハ其ノ(仕拂命令)又ハ(仕拂請求書)歳出金繰替拂證券同通知書又ハ同傳票ヲ各別ニ發行シ差押債權者ニ交付スヘキモノハ前條ノ如ク記入スヘシ
第三條 第二條ノ場合ニ於テ(官吏遺族扶助法)納金ノ差引ヲ要スルトキハ政府ノ債權者ニ對シ發行スル(仕拂命令)仕拂請求書、歳出金繰替拂證券、同通知書又ハ同傳票ニ於テスヘシ
第四條 出納官吏又ハ記名公債元利ノ仕拂ヲ取扱フ銀行ニ於テ裁判所ノ命令ニ據リ差押金額ノ仕拂ヲ要スルトキハ差押債權者ヨリ適宜ノ領收證書(公債元利拂)場合ニ於テハ公債證書又ハ利札トモ)ヲ發シ其ノ差押金額ヲ仕拂フヘシ
第五條 (金庫出納役又ハ其ノ代理人)ニ於テ裁判所ノ命令ニ據リ差押ヘラレタル預金保管金供託金ノ仕拂ヲ要スルトキハ差押債權者ヨリ(明治二十六年大藏省令第十九號第九條)ノ領收證書(差押債權者之ヲ調)及預金通帳又ハ(同年大藏省令第二十號第十條)ノ保管證書(第十二條)ノ拂渡證書又ハ(明治三十二年大藏省令第六號第九條)ノ請求書及受領證(第十三條)ノ拂渡證書等ヲ提出セシメ總テ預金保管金供託金拂戻ノ例ニ據リ其

差押金額ヲ仕拂フヘシ

第六條 【金庫出納役又ハ其ノ代理人】カ差押債權者ニ仕拂フヘキ金額ニシテ差押ヘラレタル保管金ノ一部分ナルトキハ【明治二十六年大藏省令第二十號第十二條第十五條】ノ順序ニ準據シ差押債權者ヲシテ拂渡證書又ハ保管證書分割ノ手續ヲ爲サシメタル上其ノ差押金額ノ仕拂フ爲スヘシ

第六條ノ二

出納官吏ニ於テ裁判所ノ命令ニ據リ差押ヘラレタル保管金ノ仕拂ヲ要スルトキハ政府ノ債權者ニ交付シアル保管金額收證書ヲ差押債權者ヨリ提出セシメタル上差押金額ノ仕拂フ爲スヘシ

第六條ノ三

出納官吏カ差押債權者ニ仕拂フヘキ金額ニシテ郵便貯金、郵便爲替金又ハ郵便取立金ナルトキハ政府ノ債權者ニ交付シアル郵便貯金通帳、郵便貯金拂出證書、郵便爲替證書又ハ郵便取立金取立済通知書ヲ差押債權者ヨリ提出セシメ貯金、爲替金又ハ取立金拂渡ノ例ニ依リ差押金額ノ仕拂フ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テ差押債權者ニ仕拂フヘキ金額カ郵便貯金拂出證書、郵便爲替證書又ハ郵便取立金取立済通知書ニ記載セル金額ノ一部分ナルトキハ適宜ノ領收證書ヲ徴シ差押金額ヲ差押債權者ニ仕拂ヒ郵便貯金拂出證書、郵便爲替證書、郵便取立金取立済通知書ノ裏面ニ「表記金額ノ内金何程ハ差押債權者何之誰ニ仕拂フ了ス」ト記入捺印シ之ヲ政府ノ債權者ニ交付スヘシ

第七條 差押債權者明治二十六年勅令第二百六十一號第三條ニ據リ【金庫】

【文會例】

付シアル【仕拂命令仕拂請求書通知書】(明治二十六年大藏省訓令第四)又ハ現金引出切符】ヲ差押債權者ヨリ提出セシメ之ニ同書式申何之誰渡ト

アル渡ノ文字ニ朱ノ二線ヲ劃シ其ノ下ニ「差押債權者何之誰渡」通知書ノ場合ニハ何某殿トアル何某ノ文字ニ朱ノ二線ヲ劃シ「何某ノ差押債權者何之誰」ト記入シ差押債權者ニ交付スヘシ

第十二條ノ二 歳出金ノ繰替拂ヲ命令スル官吏裁判所ノ命令ニ據リ第九條ノ二ノ仕拂停止ヲ爲シタル金額ヲ差押債權者ニ仕拂フコトヲ要スルトキハ政府ノ債權者ニ交付シアル歳出金繰替拂證書又ハ同通知書ヲ差押債權者ヨリ提出セシメ前條ノ例ニ依リ訂正ノ記入ヲ爲シ之ヲ差押債權者ニ交付スヘシ但シ繰替拂傳票ニ依リ出納官吏ヲシテ仕拂ハシムル場合ニ於テハ本文ニ準シ該傳票ニ訂正ノ記入ヲ爲スヘシ

第十三條 第十二條ノ場合ニ於テ差押債權者ニ仕拂フヘキ金額ニシテ【仕拂命令仕拂請求書通知書又ハ現金引出切符】ニ記載シタル金額ノ一部分ナルトキハ【仕拂命令仕拂請求書通知書又ハ現金引出切符】ノ裏面ニ「表面ノ金額内何程別ニ差押債權者何之誰ニ仕拂フヘシ」ト記入シ之ヲ政府ノ債權者ニ交付シ尙ホ第四號書式ニ據リ金庫ニ於テ差押金額ヲ受取ルヘキ證書ヲ調製シ之ヲ差押債權者ニ交付スヘシ

第十三條ノ二 第十二條ノ場合ニ於テ差押債權者ニ仕拂フヘキ金額ニシテ歳出金繰替拂證書又ハ同通知書ニ記載シタル金額ノ一部分ナルトキハ其ノ裏面ニ「表記金額ノ内金何程ハ差押債權者何之誰ニ仕拂フ要スルニ依リ別ニ歳出金繰替拂證書(又ハ同通知書)ヲ發行ス」ト記入捺印シ之ヲ政府ノ債權者ニ交付シ別ニ差押金額ニ對スル歳出金繰替拂證書又ハ同

又ハ出納官吏ニ向テ仕拂停止ヲ請求セントスルトキハ差押命令送達通知書ヲ添ヘ第一號書式ノ仕拂停止請求書ヲ【金庫】又ハ出納官吏ニ差出スヘシ

第八條 【金庫】又ハ出納官吏ニ於テ第七條ノ請求書ヲ受ケ其金額ノ既ニ仕拂済ナルトキハ直チニ請求書並差押命令送達通知書ヲ返付スヘシ但仕拂未済ナルトキハ差押命令送達通知書ノミ返付スルモノトス

第九條 【仕拂命令官】出納官吏既ニ【仕拂命令、仕拂請求書、集合仕拂命令、集合仕拂請求書又ハ現金引出切符】ヲ政府ノ債權者ニ交付シ若クハ【金庫】ニ送付シタル後差押命令ヲ受ケタルトキハ直チニ第二號書式ノ仕拂停止通知書ヲ【金庫】ニ送付スヘシ

第九條ノ二 歳出金ノ繰替拂ヲ命令スル官吏既ニ歳出金繰替拂證書又ハ同通知書ヲ政府ノ債權者ニ交付シ又ハ繰替拂傳票ヲ出納官吏ニ交付シタル後差押命令ヲ受ケタルトキハ第二號書式ニ準シ仕拂停止通知書ヲ調製シ遲滞ナク之ヲ出納官吏ニ交付スヘシ

出納官吏【現金引出切符】ヲ政府ノ債權者ニ交付シタル後前項ノ仕拂停止通知書ヲ受ケタルトキハ直チニ第二號書式ノ仕拂停止通知書ヲ【金庫】ニ送付スヘシ

第十條 【金庫】又ハ出納官吏ニ於テ前二條ノ仕拂停止通知書ヲ受ケ其ノ金額ノ既ニ仕拂済ナルトキハ直チニ其ノ旨ヲ附屬シテ通知書ヲ返付スヘシ

第十一條 仕拂停止ノ通知ヲ爲シタル後差押ノ解除アリタルトキハ其ノ通知ヲ發シタル官吏直チニ第三號書式ノ仕拂停止解除通知書ヲ【金庫】又ハ出納官吏ニ送付スヘシ

第十二條 仕拂命令官出納官吏裁判所ノ命令ニ據リ第九條ノ仕拂停止ヲ爲シタル金額ヲ差押債權者ニ仕拂フコトヲ要スルトキハ政府ノ債權者ニ交

【文會例】

通知書ヲ發行シ之ヲ差押債權者ニ交付スヘシ但シ繰替拂傳票ニ依リ出納官吏ヲシテ仕拂ハシムル場合ニ於テハ該傳票ノ金額及氏名ノ傍ニ「内金何程差押債權者何某渡」ト朱書シ之ヲ出納官吏ニ交付スヘシ

第十四條 第十二條第十三條ノ手續ヲ爲スニ當リ既ニ【現金引出切符】ノ無効トナリタルトキハ更ニ【現金引出切符】ヲ發行シ差押債權者ニ交付スヘシ

第十五條 【仕拂命令官】出納官吏第十二條ノ記入ヲ爲シタルトキハ第五號書式第十三條ノ記入ヲ爲シタルトキハ第六號書式ノ【仕拂通知書ヲ金庫】ニ送付スヘシ

第十五條ノ二 歳出金ノ繰替拂ヲ命令スル官吏第十二條ノ二及第十三條ノ二ノ記入ヲナシタルトキハ【仕拂通知書】ヲ調製シ遲滞ナク之ヲ出納官吏ニ送付スヘシ但シ繰替拂傳票ニ依リ出納官吏ヲシテ仕拂ハシムル場合ハ此ノ限リニアラス

第十六條 第七條第九條及第九條ノ二ノ規定ニ依リ仕拂停止ヲ爲シタル金額ハ第十一條ノ仕拂停止解除ノ通知又ハ第十五條若クハ第十五條ノ二ノ仕拂通知アルニアラサレハ仕拂ヲ爲スコトヲ得ス

第十七條 【金庫】又ハ出納官吏第十二條、第十三條及第十三條ノ二ノ記入アル【仕拂命令、仕拂請求書、通知書】、歳出金繰替拂證書、同通知書、【現金引出切符】又ハ證書ヲ以テ現金仕拂ノ請求ヲ受ケタルトキハ普通仕拂ニ關スル手續ヲ爲シタル上第十五條又ハ第十五條ノ二ノ通知書ト對査シ之カ仕拂ヲ爲スヘシ繰替拂傳票ニ依リ仕拂ヲ爲ス場合亦之ニ準ス

第十八條 【仕拂命令官】、出納官吏ニ於テ差押金額ノ供託ヲ要スルトキハ【仕拂命令、仕拂請求書、現金引出切符】又ハ現金ニ【明治三十二年大藏省令第六號附屬第一號書式ノ供託書】ヲ添ヘ【金庫】ニ送付シ其ノ旨執行

裁判所ニ通知スヘシ但供託受領證ハ當該「仕拂命令官」又ハ出納官吏ニ於テ之ヲ保管シ若シ執行裁判所ヘ送付ヲ要スルトキハ之ヲ裁判所ニ送付シ其ノ領收證書ヲ受クヘシ

第十八條ノ二 歳出金ノ繰替拂ヲ命令スル官吏ニ於テ差押金額ノ供託ヲ要スルトキハ供託スヘキ金額ニ對シテ歳出金繰替拂證券又ハ同傳票ヲ發行シ其ノ裏面若クハ餘白ニ「表(前)記ノ金額ハ何執行裁判所ノ命令ニ依リ「金庫」ヘ供託スル爲何出納官吏ニ拂渡ヲ要ス」ト記入捺印シ之ヲ出納官吏ニ交付スヘシ

第十八條ノ三 郵便貯金ノ原簿ヲ管掌スル官署ノ長ニ於テ差押金額ノ供託ヲ要スルトキハ供託スヘキ金額ニ對シテ郵便貯金拂出證書ヲ發行シ其ノ裏面ニ「表記ノ金額ハ何執行裁判所ノ命令ニ依リ金庫ヘ供託スル爲何局所出納官吏ニ拂渡ヲ要ス」ト記入捺印シ之ヲ出納官吏ニ交付スヘシ

第十八條ノ四 出納官吏前二條ノ歳出金繰替拂證券、同傳票又ハ郵便貯金拂出證書ヲ受ケタルトキハ現金ニ「明治三十二年大藏省令第六號附屬第一號書式ノ供託書」ヲ添ヘ「金庫」ヘ送付シ其ノ旨執行裁判所ヘ通知ノ手續ヲ爲スヘシ

第十八條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第十九條 第十八條及第十八條ノ二ノ供託スヘキ金額ニシテ政府ノ債權者ニ仕拂フヘキ金額ノ一部分ナルトキハ「仕拂命令、仕拂請求書、現金引出切符」、歳出金繰替拂證券又ハ同傳票ヲ各別ニ發行シ各其ノ所定ノ手續ヲナスヘシ

第二十條 差押金額ヲ供託シタル「仕拂命令官」、歳出金ノ繰替拂ヲ命令スル官吏、郵便貯金ノ原簿ヲ管掌スル官署ノ長、出納官吏ニ於テ取立命令

〔文會例〕

ニ送付シ其ノ領收證書ヲ發スヘシ
第二十三條 差押金額ヲ供託シタル銀行又ハ「金庫」ニ於テ取立命令ヲ受ケタル後配當ニ與カルヘキ各債權者連署ノ仕拂請求又ハ裁判所ノ命令アリタルトキハ第四條第五條差押金額仕拂ノ例ニ據リ供託金拂渡ノ手續ヲ爲スヘシ

(書式省略)
(參照) 明治二十六年十二月二十七日勅令第二六一號政府ヲ第三債務者トナス差押命令ノ件

● 隔地債主ニ對スル歳出金支拂通知書發送方ニ關スル件

○會計課長移譯官會百三十三號 大正十二年五月十四日 直轄各部
隔地債主ニ對スル支拂方ニ關シ別紙寫ノ通大藏大臣ヨリ通達有之タルニ依リ可然御處理相成度此ノ段移譯ス

○大藏大臣通譯第二十二號 大正十二年五月二日 文部大臣
隔地債主ニ對スル支拂ニ就テハ支出官事務規程第十三條、第十四條及第十六條又ハ大正四年大藏省令第一號第十一條ノ二及第十二條ニ規定スル處ニシテ之ニ依リ小切手ノ支拂店ニ於テハ指定ノ支拂場所ニ對シ支拂準備トシテ案內ヲ發スル手續ニ有之候處支拂店ニ於テハ小切手ノ振出シト同時ニ隔地債主ニ對シ歳出金支拂通知書又ハ郵便局發給出金支拂通知書ヲ發送スルカ故ニ未ダ案內ノ支拂場所ニ到達セサルニ先キ立テ債主ヨリ支拂ノ請求ヲ受ケ之ニ應スル事ヲ得ス支拂上ニモ亦債主ニ對シテモ紛カラサル不便ヲ與

ヲ受ケタル後配當ニ與カレヘキ各債權者連署ノ仕拂請求又ハ裁判所ノ命令アリタルトキハ供託金拂渡ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十一條 「仕拂命令官」、出納官吏ニ於テ差押金額ノ供託ヲ要スル場合ニシテ第九條ノ仕拂停止ヲ爲シタル後ナルトキハ第七號書式ノ政府ノ債權者ニ交付シアル「仕拂命令、仕拂請求書、通知書又ハ現金引出切符」ノ取消通知書ヲ「金庫」及政府ノ債權者ニ送付シタル上第十八條第十九條ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十一條ノ二 歳出金ノ繰替拂ヲ命令スル官吏ニ於テ差押金額ノ供託ヲ要スル場合ニシテ第九條ノ二ノ仕拂停止ヲ爲シタル後ナルトキハ第七號書式ニ準シ政府ノ債權者ニ交付シアル歳出金繰替拂證券、同通知書ノ取消通知書ヲ調製シ之ヲ出納官吏及政府ノ債權者ニ送付シタル後第十八條ノ二及第十九條ノ手續ヲナスヘシ但シ繰替拂傳票ニ依リ出納官吏ヨリ仕拂ハシムルモノナルトキハ同官吏ヨリ繰替拂傳票ヲ提出セシメタル後本文後段ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十一條ノ三 出納官吏ニ於テ差押金額ノ供託ヲ要スル場合ニシテ當該差押金額カ郵便貯金、郵便爲替金、郵便取立金ナルトキハ政府ノ債權者ニ交付シアル郵便貯金通帳、郵便貯金拂出證書、郵便爲替證券、郵便取立金取立通知書ヲ提出セシメタル後第十八條ノ四及第十九條ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十二條 銀行又ハ「金庫」ニ於テ差押金額ノ供託ヲ要スルトキハ其ノ現金ニ「明治三十二年大藏省令第六號附屬第一號書式ノ供託書」ヲ添ヘ「金庫」ニ送付シ其ノ旨執行裁判所ニ通知スヘシ但供託受領證ハ其ノ銀行又ハ「金庫」ニ保管シ若クハ執行裁判所ニ送付ヲ要スルトキハ之ヲ該裁判所

〔文會例〕

フルノ虞有之候ニ付支出官ニ於テ之レ等ノ事情ヲ參酌シ可成小切手振出ノ翌日、歳出金支拂通知書又ハ郵便局發給出金支拂通知書ヲ債主ニ發送セシムル様支出官ニ御示達相成度此ノ段及通譯候也

● 受取人ノ現金受領前亡失シタル歳出金支拂通知書ニ關スル件

○會計課長移譯官會百一號 大正十三年四月十一日 直轄部局長
受取人現金受領前亡失シタル支拂通知書ニ關シ大藏省主計局長ヨリ別紙寫ノ通達有之タルニ付此段移譯ス

○大藏省主計局長通譯第四千五百四十四號 大正十三年三月三十一日 會計課長
受取人ノ現金受領前亡失シタル支拂通知書ニ關シ別紙甲號ノ通達有之候處照會有之乙號ノ通達答致置候條該當事項ニ就テハ右ニ依リ御處理相成差支無之依命此段及御通譯候也

(別紙甲號)
○海軍省經理局照會經支第千二百二十一號 大正十三年二月十八日
遺般ノ震災ノ際横濱ニ於テ現金受領前支拂通知書ヲ亡失シタル旨ヲ再交付ヲ願出テタルモノ有之候處日本銀行橫濱代理店ニ於テハ書類焼失ノ爲右通知書ニ對シ支拂濟ナルヤ否ヤ不明ナル趣ニ有之候從テ支出官事務規程第三十二條ニ依リ再發行ハ不可能ニ候處右亡失ヲ事實ナリト認メ得ル場合ハ相當ナル第三者ヲシテ其ノ事實ヲ證明シ併セテ政府ニ損害ヲ被ラシムル事ナ

キ旨保證セシメ再發行ノ手續ヲ探リ差支無之候哉何分ノ御意見承知致度右照會ス

追テ本件ハ委託生徒手當ニシテ金額ハ貳拾參圓貳拾五錢ニ有之候
(別紙乙號)

○大藏省主計局長回答藏第四千五百四十四號 大正十三年三月三十一日

二月十八日附經支一一二一號ヲ以テ受取人ノ現金受領前亡失シタル歳出金支拂通知書再發行ノ件ニ關シ御照會ノ趣了承右ハ支拂店ニ於テ書類亡失ノ爲メ其ノ支拂済否不明ノ場合ト雖支拂店又ハ資金ヲ交付シタル日本銀行其ノ他第三者等ニ就キ精査ヲ遂ケ其ノ支拂未済ナル旨ヲ確認シ得ル場合ニ於テハ支拂店事務規程第三十四條及第三十五條ノ規定ニ準シ歳出金支拂通知書ヲ再發行シ債主ニ交付相成可然ト存候尤モ右ノ場合ニ於テハ他日二重拂トナルカ如キト絕對ニ無之様特ニ御留意相成度依命此段及御回答候也

追テ本件ニ依リ通知書ヲ再發行シタル場合ニ於テハ必ス表面餘白ニ「再發行」ノ朱印ヲ押捺交付相成度申副候

●小切手又ハ歳出金支拂通知書ニ對スル償還請求等ニ關スル件

○會計課長移牒官會百七十一號 大正十三年九月九日

○大藏大臣通牒藏第五千八百八十六號 大正十三年六月十一日

會計規則第五十五條第五十六條及出納官吏事務規程第三十七條第五十七條

直轄部局長
文部大臣

〔文會例〕

入徴收官ニ對スル報告書寫添附相成度

●拒絕證書令

○勅令第三百十六號 昭和八年十二月十三日

第一條 手形(爲替手形約束手形)及小切手ノ拒絕證書ハ公證人又ハ執達吏之ヲ作ル

第二條 拒絕證書ニハ左ノ事項ヲ記載シ公證人又ハ執達吏之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

一 拒絕者及被拒絕者ノ名稱
二 拒絕者ニ對スル請求ノ趣旨及拒絕者ガ其ノ請求ニ應セザリシコト拒絕者ニ面會スルコト能ハサリシコト又ハ請求ヲ爲スベキ場所カ知レサリシコト

三 請求ヲ爲シ又ハ之ヲ爲スコト能ハサリシ地及年月日
四 拒絕證書作成ノ場所及年月日
五 法定ノ場所外ニ於テ拒絕證書ヲ作ルトキハ拒絕者カ之ヲ承諾シタルコト

支拂人カ手形法第二十四條第一項ノ規定ニ依リ第二ノ呈示ヲ爲スヘキコトヲ請求シタルトキハ拒絕證書ニ其ノ旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第三條 拒絕證書ノ作成ハ手形若ハ小切手又ハ附箋ニ依リテ之ヲ爲ス拒絕證書ハ手形又ハ小切手ノ裏面ニ記載シタル事項ニ接續シテ之ヲ作り附箋ニ依ル場合ニ於テハ公證人又ハ執達吏其ノ接目ニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第四條 手形又ハ小切手ノ數通ノ複本又ハ原本及謄本ヲ呈示シタル場合ニ

- (ハ) 其ノ他償還請求ニ付必要ト認ムル書類
- 二 所管大臣前號ノ償還請求書及證書書類ヲ受ケタルトキハ之ヲ審査シ支出官又ハ出納官吏ヨリ提出ニ係ル書類全部ヲ添ヘ之カ支拂ヲ大藏大臣ニ請求スルコト
- 三 大藏大臣所管大臣ヨリ支拂請求ヲ受ケタルトキハ各證書書類ニ付再審査ヲ爲シ日本銀行ヨリ送付ニ係ル未済繰越金歳入組入報告書ト對照シ之カ支拂ヲ爲スコト但シ該報告書ニシテ歳入金ノ證書書類トシテ會計檢査院ニ送付後ナルトキハ歳入組入狀況ヲ日本銀行ニ照會スルコト
- 四 會計規則第六十九條第二項ノ規定ニ依ル債務ノ支拂ニ付テモ前各號ニ準ジ之カ支拂ヲ爲スコト
- 五 各特別會計ニ於ケル支出官又ハ出納官吏ノ振出シ又ハ發行シタル小切手歳出金支拂通知書ニ對スル償還ニ關シテハ前各號ニ準シ證書書類ヲ添附シ所管大臣ニ提出シ所管大臣ハ審査ノ上之カ支拂ヲ大藏大臣ニ請求シ大藏大臣ハ調査ノ上之カ支拂ヲ所管大臣ヲ經由シ當該會計ニ移牒シ債主ニ支拂ヲ爲サシムルコト

(備考)

●小切手又ハ支拂通知書ニ對スル償還請求又ハ再度支拂

ノ請求ニ對スル取扱方ニ關スル件

○司法省會計課長通牒會甲第八百四十六號 昭和六年六月二十九日
首題ノ件ニ關シテハ大正十三年七月五日司法省訓令會甲第二六六三號及大正十四年三月二十日同會甲第五三九號ヲ以テ訓令相成居候處右ノ外歳出金ニ付テハ歳入組入年度、年月日及會計名ヲ記載シタル銀行ノ證明書、保管金ニ付テハ償還請求書ニ歳入納付ノ旨ヲ記載シ大藏省歳

第三章 出納 第三節 支出

二七〇

於テ拒絕證書ヲ作ルトキハ其ノ作成ハ一通ノ複本若ハ原本又ハ附箋ニ依リ之ヲ爲スヲ以テ足ル

前項ノ規定ニ依リテ拒絕證書ヲ作りタルトキハ他ノ複本又ハ原本ニ其ノ旨ヲ記載シ公證人又ハ執達吏之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

第五條 手形法第六十八條第二項(同法第七十七條第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依ル拒絕證書ノ作成ハ手形ノ原本又ハ附箋ニ依リテ之ヲ爲ス

引受ノ一部ノ拒絕ニ因ル拒絕證書ノ作成ハ公證人又ハ執達吏ニ於テ手形ノ原本ヲ作り其ノ原本又ハ附箋ニ依リテ之ヲ爲ス

第六條 數人ニ對スル請求又ハ同一人ニ對スル數回ノ請求ニ付テハ一通ノ拒絕證書ヲ作りシムルヲ以テ足ル

第七條 拒絕證書ハ請求ヲ爲シタル場所ニ於テ之ヲ作ルコトヲ要ス但シ拒絕者ノ承諾アルトキハ他ノ場所ニ於テ之ヲ作ルコトヲ妨ケス

第八條 公證人又ハ執達吏カ拒絕證書ヲ作りタルトキハ其ノ原本ニ左ノ事項ヲ記載シ之ヲ其ノ役場ニ備フルコトヲ要ス

一 爲替手形約束手形又ハ小切手ノ別及番號アルトキハ其ノ番號
二 金額

ヲ六十日トス

第二條 日本及滿洲國以外ノ亞細亞洲ノ地域ニ於テ振出し日本内地ニ於テ支拂フベキ小切手ノ呈示期間ハ之ヲ六十日トス

本令ハ昭和九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●昭和十四年度ニ於ケル豫算ノ實行ニ當リ

物價對策ノ遂行ニ協力方ニ關スル件

○大藏次官通達官房秘甲第七十三號 昭和十四年五月二十二日

文部 次官

昭和十四年度豫算ノ實行ニ當リテハ今次閣議ニ於テ採擇セラレタル「物價統制ノ大綱」ノ趣旨ニ悖背スルコトナキ標格別ノ配意ヲ要スルコト勿論ノ義ニシテ特ニ同大綱ニ於テハ豫算ノ實行ニ當リ物資供給ノ實狀ニ適合セシムルノ要アルコト指摘セラレ居ル處之等情勢ノ變化ニ伴ヒ生スルコトアルヘキ不要ノ經費ニ付テハ嚴ニ之カ濫費ヲ避クルコトトシ曩ニ内閣總理大臣ヨリ訓令相成タル「昭和十四年度ニ於ケル豫算實行方ニ關スル件」末項ノ趣旨ニ依リ必ス之ヲ不用殘額トナス様致シ度右依命通達候也

○物價統制ノ大綱(抄)

需要供給ノ調整ニ關シテハ

昭和十四年度豫算ノ實行ニ當リテハ物資供給ノ實狀ニ適合セシムベキコト

昭和十五年以降ノ物資動員計畫ノ樹立並ニ政府豫算ノ編成ニ付テハ

第三章 出納 第三節 支出

三 振出人支拂人及支拂ヲ受ケ又ハ之ヲ受タル者ヲ指圖スル者ノ名稱

四 振出ノ年月日及振出地

五 満期及支拂地

六 支拂ノ爲指定セラレタル第三者豫備支拂人又ハ參加引受人アルトキハ其ノ名稱

拒絕證書カ滅失シタル場合ニ於テ利害關係人ノ請求アリタルトキハ前項ノ記載ヲ爲シタル原本ニ依リテ請求ヲ作り之ヲ利害關係人ニ交付スルコトヲ要ス此ノ原本ハ原本ト同一ノ效力ヲ有ス

本令ハ昭和九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●海外送金方

○會計課長通達 明治二十一年六月

直轄 部長

從來海外へ送金ヲ要スル際外務省ヲ經由スル場合モ有之候處今回同省ヨリ爾今受領者へ直チニ送金相成度若又宿所不明瞭ノ節ハ Care of Japanese Consulate 卜封狀へ記載相成候ハハ郵送差支ナキ旨通達ス

●小切手ノ呈示期間ノ特例ニ關スル件

○勅令第三百十七號 昭和八年十二月十三日

第一條 朝鮮臺灣樺太又ハ關東州ニ於テ振出し日本内地ニ於テ支拂フベキ小切手ノ呈示期間ハ之ヲ二十日トス

〔文會例〕

實行可能ノ限度ニ付正確ナル見透ヲ立ツベキコト

政府ノ消費ニ付テハ其ノ時間的地理的調整ニ注意シ發註及納期等ニ付一層適切ナル調整ヲ加フベキコト

國民貯蓄増加ノ重要性ヲ徹底的ニ國民ニ認識セシメ國民各層ニ對シ最大限度ノ貯蓄ヲ爲サシムル爲之ガ具體的方策ヲ確立スルコト

消費ノ合理化及節約ノ具體案確立並ニ其ノ勵行ニ際シテハ政府及ビ公共團體ハ特ニ之ガ率先垂範ノ實ヲ示スコト

物價統制ノ勵行其ノ他ニ關シテハ

戰時經濟ノ下ニ於テハ政府ノ物資購買ハ物價ノ大勢ヲ支配スルモノナルニ鑑ミ政府ハ其ノ購入ニ當リ單價ノ適正ナル調整ニ留意シ實踐ヲ以テ物價統制ノ勵行ニ付國民ニ範ヲ垂ルルコト

然而一般消費者ニ對シテハ政府ハ固ヨリ國民精神總動員中央聯盟其ノ他民間團體言論機關等ニ於テ一層ノ努力ヲナスコト

物價統制ハ國民各層ガ相當ノ犧牲ヲ負擔スルコトニ依リ遂行セラルルモノナルヲ以テ政府並ニ民間ニ於ケル指導的地位ニ在ル者ハ物心兩方面ニ率先的ニ實踐躬行スルコト

附記

需要ノ制限等ニ付テハ本大綱ニ基ク諸制度ノ實施前ト雖モ當該諸官廳ニ於テ速ニ適當ナル措置ヲ採ルコト

●文部省所管經費科目解説

○會計課長通達 昭和五年三月

收支ヲ執行スル部局長

二七一

第三章 出納 第三節 支出

目	節	解
備品費	機器	一 器具機械類其ノ他ノ設備品ニシテ其ノ性質形ヲ變スルコトナク比較的永久ノ使用ニ耐ユルモノ 二 取外シ裝置ノ燧爐、煙突、揚水唧筒、黑板等ノ類ハ本節ニ屬ス 商品見本等ノ類ハ本節ニ屬ス 短時日ニ損耗スルニ非ラサルモ其ノ性質永久使用ニ適セサルモノ又ハ器具機械トシテ整理シ難キモノノ例 風呂敷、書類、磁石、ダイヤモンド、チニール等ノ類ハ本節ニ屬ス 寫眞、官報、雜誌等ノ類ハ本節ニ屬ス 表裝等ノ類ハ本節ニ屬ス 板目紙、狀袋等ノ類ハ本節ニ屬ス インク、繪具、鉛筆、ペン先、ペン軸、チヨーク等ノ類ハ本節ニ屬ス 油脂等ノ類ハ本節ニ屬ス メートル料等ノ類ハ本節ニ屬ス 自動車用消耗品ハ本節ニ屬ス 前各節ニ屬セサル雜用ノ物品ノ例 教練用彈藥、事務用ノ藥品、
圖書及印刷費	圖書	寫眞、官報、雜誌等ノ類ハ本節ニ屬ス 表裝等ノ類ハ本節ニ屬ス 板目紙、狀袋等ノ類ハ本節ニ屬ス インク、繪具、鉛筆、ペン先、ペン軸、チヨーク等ノ類ハ本節ニ屬ス 油脂等ノ類ハ本節ニ屬ス メートル料等ノ類ハ本節ニ屬ス 自動車用消耗品ハ本節ニ屬ス 前各節ニ屬セサル雜用ノ物品ノ例 教練用彈藥、事務用ノ藥品、
消耗品	製本	寫眞、官報、雜誌等ノ類ハ本節ニ屬ス 表裝等ノ類ハ本節ニ屬ス 板目紙、狀袋等ノ類ハ本節ニ屬ス インク、繪具、鉛筆、ペン先、ペン軸、チヨーク等ノ類ハ本節ニ屬ス 油脂等ノ類ハ本節ニ屬ス メートル料等ノ類ハ本節ニ屬ス 自動車用消耗品ハ本節ニ屬ス 前各節ニ屬セサル雜用ノ物品ノ例 教練用彈藥、事務用ノ藥品、
	紙	寫眞、官報、雜誌等ノ類ハ本節ニ屬ス 表裝等ノ類ハ本節ニ屬ス 板目紙、狀袋等ノ類ハ本節ニ屬ス インク、繪具、鉛筆、ペン先、ペン軸、チヨーク等ノ類ハ本節ニ屬ス 油脂等ノ類ハ本節ニ屬ス メートル料等ノ類ハ本節ニ屬ス 自動車用消耗品ハ本節ニ屬ス 前各節ニ屬セサル雜用ノ物品ノ例 教練用彈藥、事務用ノ藥品、
	筆墨印内類	寫眞、官報、雜誌等ノ類ハ本節ニ屬ス 表裝等ノ類ハ本節ニ屬ス 板目紙、狀袋等ノ類ハ本節ニ屬ス インク、繪具、鉛筆、ペン先、ペン軸、チヨーク等ノ類ハ本節ニ屬ス 油脂等ノ類ハ本節ニ屬ス メートル料等ノ類ハ本節ニ屬ス 自動車用消耗品ハ本節ニ屬ス 前各節ニ屬セサル雜用ノ物品ノ例 教練用彈藥、事務用ノ藥品、
	薪炭油類	寫眞、官報、雜誌等ノ類ハ本節ニ屬ス 表裝等ノ類ハ本節ニ屬ス 板目紙、狀袋等ノ類ハ本節ニ屬ス インク、繪具、鉛筆、ペン先、ペン軸、チヨーク等ノ類ハ本節ニ屬ス 油脂等ノ類ハ本節ニ屬ス メートル料等ノ類ハ本節ニ屬ス 自動車用消耗品ハ本節ニ屬ス 前各節ニ屬セサル雜用ノ物品ノ例 教練用彈藥、事務用ノ藥品、
	瓦斯及電氣料	寫眞、官報、雜誌等ノ類ハ本節ニ屬ス 表裝等ノ類ハ本節ニ屬ス 板目紙、狀袋等ノ類ハ本節ニ屬ス インク、繪具、鉛筆、ペン先、ペン軸、チヨーク等ノ類ハ本節ニ屬ス 油脂等ノ類ハ本節ニ屬ス メートル料等ノ類ハ本節ニ屬ス 自動車用消耗品ハ本節ニ屬ス 前各節ニ屬セサル雜用ノ物品ノ例 教練用彈藥、事務用ノ藥品、
	自動車用品	寫眞、官報、雜誌等ノ類ハ本節ニ屬ス 表裝等ノ類ハ本節ニ屬ス 板目紙、狀袋等ノ類ハ本節ニ屬ス インク、繪具、鉛筆、ペン先、ペン軸、チヨーク等ノ類ハ本節ニ屬ス 油脂等ノ類ハ本節ニ屬ス メートル料等ノ類ハ本節ニ屬ス 自動車用消耗品ハ本節ニ屬ス 前各節ニ屬セサル雜用ノ物品ノ例 教練用彈藥、事務用ノ藥品、
	雜用品	寫眞、官報、雜誌等ノ類ハ本節ニ屬ス 表裝等ノ類ハ本節ニ屬ス 板目紙、狀袋等ノ類ハ本節ニ屬ス インク、繪具、鉛筆、ペン先、ペン軸、チヨーク等ノ類ハ本節ニ屬ス 油脂等ノ類ハ本節ニ屬ス メートル料等ノ類ハ本節ニ屬ス 自動車用消耗品ハ本節ニ屬ス 前各節ニ屬セサル雜用ノ物品ノ例 教練用彈藥、事務用ノ藥品、

二七二

通信運搬費	電話料	實驗費	各所修繕	內國旅費	給與	訓育費	體育設備費
電話加入料ノ類ハ本節ニ屬ス 保險料、荷造料、其ノ他運搬ニ要スル雜用物品ノ類ハ本節ニ屬ス 水、試験管、蒸發皿、硝子瓶、濾紙、モルモット(動物費ノナキ場合)等ノ類	運搬費	材料及雜品	各所修繕	內國旅費	賜託手當 贈與及謝金 慰勞金	訓育費	體育設備費
備帶其ノ他應急手當等ニ消耗スル物品ノ類ハ本節ニ屬ス							
一 國有財産ノ修繕、樹木ノ移植、補植手入費(修繕材料共)等ノ類 二 修繕用ノ「ペンキ」保存用ノ「リノリニウム」油ノ類ハ本節ニ屬ス 三 移轉、模倣替費ハ本費ヨリ支出ス 南滿洲、關東州、南洋行ノ旅費ハ本目ニ屬ス 外國人一時賜託ノ給料、殘務調理者ノ手當等ハ本節ニ屬ス 物品贈與、屍體解剖祭祀料等ノ類ハ本節ニ屬ス 賜託、履具、備人勉勵手當等ハ本節ニ屬ス 訓育上直接必要ナル諸經費ハ本目ニ屬ス 體育ニ關スル基本用費ハ本目ニ屬ス							

〔文會例〕

南滿洲旅費規則在外研究員規程ニ依リ支給スル死亡手當ハ本目ニ屬ス

學生費	生徒獎勵費	受託製品費	雜費	農林及演習費	動物費	道路費	水路費	諸手数料	職工獎勵諸費	雜用費	死亡手當
勉學獎勵費ハ本節ニ屬ス 被服ノ洗濯料等ノ類ハ本目ニ屬ス 本目中他ノ節ニ屬セサル直接本目ニ必要ナル諸費ハ本節ニ屬ス 人件費、物件費共本目ニ屬ス 儀式ニ關スル直接必要ナル諸費ハ本目ニ屬ス 一 動物購買、飼料、治療ニ關スル諸費 二 種付料、褥草代等ノ類ハ本節ニ屬ス 宿直及徹夜賄料、非常炊出賄費ノ類ハ本節ニ屬ス 道路維持費ハ本節ニ屬ス 水路維持費ハ本節ニ屬ス 一 物品取扱手数料ノ類 二 登記印紙代ノ類ハ本節ニ屬ス 職工勉勵手當ハ本節ニ屬ス 他ノ費目ニ屬セサル雜用費 例 ラヂオ聴取料、關稅(物品購入等ニシテ關稅ノミヲ支拂フ場合)ノ類ハ本節ニ屬ス 外國旅費規則南洋群島、關東州、											

第三章 出納 第三節 支出

備考

- 一 物品ノ修繕ハ當該費目ノ所屬トス
- 一 支出科目ヲ定ムルハ大體ニ於テ用途ニ從フ原則トス
- 一 解疏ノ必要ナシト認ムヘキモノハ之ヲ省ク

●國庫納金支出小切手振出方ニ關スル件

○會計課長移牒官會三百七十二號 大正十一年六月二十一日

直轄部局長

○大藏大臣通牒第六千七百八號 大正十一年六月十九日

文部大臣

支出官事務規程第二十四條ニ依リ國庫納金額ヲ券面額トシ當該官廳ヲ受取人トスル小切手ハ必スシモ俸給支拂ノ爲メ振出ス小切手一口毎ニ之ヲ發行スルノ要ナルカレク存候間適宜取極メ合計金額ヲ券面額トシ一日中一回又ハ數回ニ御振出相成度様致度日本銀行申出ノ次第モ有之此ノ段及通牒候也

●大藏大臣ノ承認ヲ經ルニ非サレハ他ノ費途ノ金額ヲ流用スルコトヲ得サル費途ノ件

二七三

第三章 出納 第三節 支出

○勅令第三百五號 大正十二年六月十三日
改正 昭和四年第三一〇號
左ノ名稱ノ費途ニハ大藏大臣ノ承認ヲ經ルニ非サレハ他ノ費途ノ金額ヲ流用スルコトヲ得ス

- 一 俸給
- 二 機密費
- 三 交際費
- 四 宴會費
- 五 接待費
- 六 渡切費
- 七 新營費
- 八 補助費
- 九 外國旅費

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●大藏大臣ノ承認ヲ經ルニ非サレハ他ノ費途ノ金額ヲ流用スルコトヲ得サル費途ノ機ニ付閣議決定ノ件

○内閣書記官長通牒閣大甲第六十四號 大正十二年六月十三日 文部大臣

大藏大臣ノ承認ヲ經ルニ非サレハ他ノ費途ノ金額ヲ流用スルコトヲ得サル費途ノ件ニ關シ左ノ通閣議決定相成候

置相成度此段及御通牒候也

●補助金又ハ獎勵金トシテ交付スヘキ費途ヲ流用セサルノ件

○大藏省主計局長通牒計第六百七十二號 大正十五年十二月十六日
貴省所管大正十四年度決算中補助費又ハ獎勵費ヨリ他ノ費途ニ流用シタルモノ有之候處補助金又ハ獎勵金トシテ交付スヘキ費途ハ之ヲ他ノ經費ニ流用スルハ法規ノ明文上禁止セサル所ナルモ經費ノ性質上適當ナラサルヲ以テ豫算編成ノ都合上特ニ之ヲ獨立ノ項トナス目以下ニ計上セル場合ニ於テモ經理ノ實際ニ於テ之ヲ他ノ費目ニ流用セサルヲ原則トシ止ムヲ得サル場合ニ於テハ大藏省ト協議ノ上實行スル慣例トナレルモノナルヲ以テ爾後特ニ御留意相成度此段及通牒候也

(備考)

●一項内ニ在ル補充科目ニシテ豫算ニ不足ヲ生シタルトキ流用支辨方

○内務省庶務課通牒第百五十四號 明治三十二年五月四日
一項内ニ在ル補充科目ニ於テ豫算ニ不足ヲ生シタルトキハ補充科目中交互流用支辨ノ上尙ホ不足ヲ生シタルトキ増額御請求ノ義ト御承知相成度此段及御通牒候也

●受託製品費ノ目流用ニ關スル件

○會計課長通牒 大正三年四月十八日

第三章 出納 第三節 支出

高等工業學校長

二七四

一 本件ニ關シ大藏大臣ノ承認ヲ經ルノ趣旨ハ豫メ流用ヲ受クヘキ費目及金額ニ付テ承認ヲ經ルコトヲ其ノ眼目トスルモノナルヲ以テ年度首等ニ於テ豫メ承認ヲ經タルトキハ流用ヲ爲シタル費目ノ名稱及其ノ金額ハ事後ノ報告ニ止ムルモ差支ナキコト
二 朝鮮總督府、臺灣總督府、關東廳、樺太廳及南洋廳ニ在リテハ其ノ特別ノ事情ニ鑑ミ大藏大臣ノ承認ハ成ルヘク之ヲ簡易ニスルコト
三 機密費又ハ交際費ニ其ノ他ノ費途ノ金額ノ流用ハ極メテ重大ナル事由アル場合ヲ除クノ外大藏大臣ニ於テ之カ承認ヲ與ヘサルコト

●營繕費其他ニ於テ目ヲ新設シ多大ノ金額ヲ流用セサル件

○大藏大臣通牒往第二千三百九十六號 明治三十八年 (商工) 大臣

從來豫算ノ執行上營繕費其他ニ於テ款項ノ目的ニ反セサル限リ目ヲ新設シテ流用ヲ爲スハ會計法ニ抵觸セストノ解釋ニ依リ取扱來候處會計検査院ニ於テハ右ハ豫算ニ見積ナキモノニシテ違法ナリトシ毎年度決算検査報告ニ掲ケタルモノ少カラス候尤モ會計検査院ニ於テモ此等目ノ新設ニ係ル事項中豫算ニ見積リアルモノニ多少關係アルカ又ハ緊急避クヘカラサルモノニシテ其金額モ亦比較的多大ナラサルモノ等ニ對シテハ相當酌ヲ加ヘ居候趣ニ有之元來豫算ニ見積ナキモノハ成ルヘク之ヲ施行セサル方適當ナルハ勿論ノコトニ有之候ノミナラス決算ニ於テ年々同一ノ取扱ニ付多少ノ論議ヲ生スルハ得策ニモ無之就テハ將來ニ於テハ目ヲ新設シ特ニ比較的多大ノ金額ヲ流用スルカ如キコトハ成ルヘク一般ニ見合セ候様致度ト存候間御命

〔文會例〕

高等工業學校長
東京美術學校長

從來豫算編製上項ニ於テ整理セラレタル實驗製品費ハ大正三年度以降校館費ノ項中ニ編入セラレ受託製品費ノ目ニ於テ整理スルコト相成候處元來該費目ハ別途整理ヲ要スルモノニ付止ヲ得サル理由ニ依リ他費目ヘ流用ヲ要スル場合ハ學校及圖書館出納事務取扱規程第十三條ノ規定ニ依ラス特ニ流用認可ノ申請相成度依命此段及通牒候也
追テ認可申請書ニハ其ノ事由ヲ詳記相成度尙流用ノ結果仕拂元金ニ不足ヲ生スル場合ニ於テ政府支出金ノ増額ハ詮議不相成候條爲念此段申添候也

●年功加俸及特別俸加給ヲ他ノ費途ヘ流用禁止ノ件

○會計課長移牒官會二百三十七號 大正十一年四月二十四日 直轄部局長

○大藏大臣通牒第三千九百三十號 大正十一年四月十一日 文部大臣
年功加俸及特別俸加給ノ俸給豫算ハ豫算編成ノ趣旨ニ依リ他ノ費途ヘ流用スルコトヲ得サル儀ト承知相成度此段及通牒候也

●生徒獎勵費ノ節使用ニ關スル件

○會計課長通牒神船會二十三號 大正十二年六月二十三日
今同ノ行政整理ニ因リ生徒實地研究費ヲ削除セラレタルヲ以テ生徒獎勵費

ノ節ヲ使用シ生徒學術實地研究費ノ補助ニ要スル經費ヲ支出致度旨神戸高等商船學校長ノ照會ニ對シ本日別紙ノ通回答シタルヲ以テ爲念右通牒ス

(別紙)

回答

六月十四日付會發第五號ヲ以テ生徒實地研究費支出ノ爲生徒獎勵費ノ節使用ニ關シ御照會アリタルモ右今同ノ行政整理ニ際シ生徒學術實地研究費ノ補助ハ廢止スルコトトシタル結果該費ヲ削除シタルモノニシテ是レヲ生徒獎勵費ヨリ支出スルハ種當ナラサルニ依リ同節使用ノ儀ハ詮議相成難キニ付御了知相成度右回答ス

●學生費ノ目流用ニ關スル件

○會計課長通牒發會三百號 大正十五年十二月七日

- 高等師範學校
- 高等商船學校
- 美術學校
- 音樂學校
- 實業學校
- 學堂學校

從來貴校發出豫算中學生費ハ學校及圖書館出納事務取扱規程第十四條ニ規定相成居候處休職俸リ他費目へ適宜流用セラレタルモ該費目ハ生徒ノ學費及獎勵費等ニシテ豫算ノ本旨ヨリ見ルモ之カ經理ニ際シ無制限ノ流用ヲナスカ如キハ種當ナラスト認メラルルニ付向後止ムヲ得サル理由ニ依リ他費目へ流用ヲ要スル場合ハ該規程ニ依ラス特ニ事由ヲ詳記シ流用認可ノ申請相成度依命右通牒ス

〔文會例〕

●調育費經理ニ關スル件

○文部次官通牒 昭和三年十一月二十日

改正 昭和六年

近時世相ニ鑑ミ學生生徒ノ調育ニ留意シ其ノ人格ヲ涵養スルト共ニ國民精神ヲ作興スルハ最モ緊要ノ急務ナルヲ認メ今般學生生徒ノ指導監督ヲ周到ナラシムル爲之ニ要スル經費ヲ支出セラレタル處右經費ノ内別途令達相成リタル調育費ハ師弟相互ノ情誼アル小集會其ノ他適當ノ施設ヲ講シ以テ兩者接觸ノ機會多カシメ行住坐臥ノ間ニ學生生徒ノ調化スルト共ニ其ノ趣味好尚思想ノ傾向生活ノ狀態等ヲ察知シ以テ指導調育ノ實ヲ舉ケントスルノ趣旨ニ於テ計上セラレタルモノナルヲ以テ之カ經理ニ關シテハ右趣旨ニ基キ左記御含ミノ上遺憾ナキ様致度右通牒ス

記

- 一、調育費ノ目ヨリ支出シ得ルモノハ上述ノ趣旨ニ副フモノニシテ一例ヲ舉ケレハ教授自宅其他ニ於ケル小集會ノ茶菓費排當費等ニ使用シ得ルモノトス
- 一、調育費ノ目へノ流用ハ他費目豫算施行ニ支障ナキ限り差支ナキモノトス
- 一、調育費ノ目ヨリ他費目へ流用スルコトヲ得サルモノトス

●科目使用之件

○會計課長通牒 明治四十年十月七日

- 直轄諸學校
- 圖書館長

仕拂豫算ノ配賦ナキ科目ニ付支出ヲ要スルトキハ大臣ノ認可ヲ受ケラルヘ

〔文會例〕

理スヘキ儀ト存候得共一應御意見承知致度旨照會シタルニ右ハ實際支出ノ科目ニ訂正整理可相成筋ト存候旨回答アリ

●戦死者慰靈祭費支出ニ關スル件

○會計課回答 昭和十三年六月十八日

日支事變戦死者慰靈祭費ノ用途ニ關シ御照會ノ趣了承右ハ校友會支辨ヲ豫當ナリト信シ候ヘ共、金額過大ナラズ並ニ回数頻繁ナラサル限り校館費支辨ニテモ差支無之ト存候尙雜費、調育費ノ何レノ目ヨリ支出スルヤハ貴官ニ於テ適宜裁量相成度右及回答候

○鹿兒島高等農林學校會計課照會 昭和十三年六月十五日

今回ノ日支事變ニ依リ戦死者タル當校ノ得業生慰靈祭ヲ校庭ニ於テ執行致候其際靈前ニ供進致候香花、酒饌、穀菜ノ類請求相受代金支拂致度候處右ハ

校館費—雜費—雜用費ノ節

支辨ト致ス方可然ト存候得共國ヨリ在學中ノ者ニモ無之唯母校タル緣故ノ存スル丈ニテ或ハ種當ヲ缺クテハ無之カト存候但國家ノ干城ニシテ戦死ハ公事ニ倒レタルモノナル以上公費ヲ以テ之ヲ弔フモ敢テ不當ニハ無之カト存候然シナガラ學校トシテ學生調育ヲ主タル目的トスルモノナルヲ以テ

校館費—調育費ノ目

支辨トスル方可ナラズヤト存候然シ其ノ何レトスルモ公費支辨ハ種當ナラズトスルヲ至當トスルヤ聊カ疑義有之候間御指示ニ預リ度勿論校友會支辨トスルハ別問題ニ有之候右差懸リタル事件ニ付折返シ何卒御回示願上候

キコトハ學校及圖書館出納事務取扱規程第十四條ニ規定相成居候處休職俸給、退官賜金、死亡賜金、賞與等ニシテ本省ノ發令ニ依リ當然支出ヲ要スルモノハ支出科目ノ既ニ設定セラレタルモノニ付テハ別ニ御稟請ヲ要セス直ニ使用相成可然候依命此段及通牒候也

●訴訟上ニ要スル費用ハ渾テ訴訟費ノ科目ヲ以テ處理ノ件

○大藏大臣通達乾第三千八百三十三號 明治二十四年八月

貴省御所管經費科目表中訴訟費ニ係ル解疏ノ義ハ去ル明治十九年三月中及御通達置候處來ル明治二十五年以降ハ訴訟上ニ關スル費用ハ渾テ訴訟費ノ科目ヲ以テ御處理可相成候此段及御通達候也

追テ明治十九年中及御通達置候處費ノ項雜費ノ目諸謝金ノ節中訴訟事件ニ係ル謝金ハ本文同様御取計可相成候此段申添候也

●概算及現金前渡金整理方

○會計課長通牒 明治二十五年九月二十三日

○大藏省主計局長回答 明治二十五年九月九日

直轄各部

去明治二十年九月二十九日附貴省御通牒ニ基キ明治二十二年以前ニ於ケル概算支出ノ未精算拂切金ハ決算ノ際目ニ更正ヲ要スルモノアルモ當初支出ノ科目ニ依リ整理スヘキ様相成居候處新會計法實施後即チ明治二十三年度以降ニ在テモ概算支出金若クハ現金前渡金ノ未精算ハ一旦拂切決算ヲ爲スニ依リ之カ精算ノ際目節ニ異動アルモ前項ト同ク當初支出ノ科目ニテ整

●電話架設ニ要スル經費支出ニ關スル件

○會計課長回答 大正十二年十月二十九日
十月十八日附會發第一〇五號何貴校寄宿舎ニ電話架設ニ要スル經費支出ノ儀ハ支障無之コトト存ス右回答ス

○神戸高等商船學校長照會發百五號 大正十二年十月十八日
現在本校電話裝置一座ハ蘆屋郵便局所管ニ屬シマスルカ寄宿舎ノ位置ハ之レカ所管ヲ異ニシテ御影郵便局ニ屬スル次第アリマス

本校ハ生徒全部ヲ寄宿舎ニ收容スルノ制度テアリマスカラ所屬職員モ同舎内ニ於テ執務ヲ致シマスル關係上電話裝置ノ必要カアリマス依テ之レカ特設方ヲ御影郵便局ヘ前年及本年兩度ニ申込テ致シタル處承認ヲ得ス右ハ不得已事由ノアルコトト被存マスカ本校ニテハ必要上屢々交渉ノ結果同局ヨリ電話規則第十一條第五號ニ基キ本校ヨリ建設費一五〇圓寄附金一一〇圓計金二六〇圓出金セハ建設可致旨通知カアリマシタ就テハ經常費校館費ヨリ之ヲ支出スルハ正當ナルヤ否疑義ヲ生シマシタカラ御高裁ヲ仰ク

(參照)

○電話規則(抄)

第十一條 左記各號ノ一ニ該當スル場合ニ於ケル電話ノ開通ハ申込登記ノ順番ニ依ラス之ヲ繰上ケルコトヲ得

- 一 官廳、公署及公益事業ノ用ニ供スルモノニシテ特急架設ノ必要アリト認メタルモノ
- 二 工事施行上ノ都合ニ依ルモノ
- 三 連接加入ノ申込
- 四 現ニ加入者タルモノ又ハ申込登記ノ順番ニ依リ開通スヘキ加入申

義モ有之候處本年度以降右等電話ニ關スル費用ハ總テ應費通信運搬費郵便電信料ヨリ支出ノコトニ決定相成候間此段及通牒候也

●電話使用料等後納ノ件

○東京電話交換局通牒 明治三十一年四月九日
電話使用料及附加使用料其ノ他電話線接続料機械移轉料等ハ官廳ニ對シテハ今般總テ後納ノ事ニ相成候條爲念此ノ段及御通知候也
追テ第一期分電話使用料未納ノ向ハ本文ニ據リ御了承ノ上當加入期末日迄ニ御拂込相成可然候此ノ段申添候也

(參照)

●應舎構内外撤水其他ノ費用支辨方

○内務省會計課通牒第百四十一號 明治三十四年五月四日 衛生試驗所

應舎構内外撤水其他ノ費用支辨方區々ニ相成候處本年度ヨリ左ノ區分ニ依リ整理可相成候此段及通牒候也

- 一 雜給及雜費、雜費、道路疏水等手當
應舎内外ノ撤水除雪ニシテ箇所若クハ度數ノ請負ニ付シタルモノ
- 一 同 諸手数料
電鈴手入、時計巻手間ニシテ箇數若クハ一ヶ年又ハ一ヶ月ノ請負ニ付シタルモノ

●廢棄物ヲ賣賣ニ附スル件

第三章 出納 第三節 支出

込者ト共同線加入トナリ得ヘキモノ
五 加入者所轄通信局長ノ指示スル所ニ依リ電話施設ニ要スル費用又ハ物件ヲ政府ニ寄附スル場合ノ申込

●電話電鈴ニ關スル費用支出科目ノ件

○司法省會計課長通牒會檢甲第六百號 明治二十七年六月十八日 裁 判 所

今般電話電鈴維持費及ヒ電話使用料ノ節新設相成候ニ付テハ右ヘ編入スヘキ費目及電話電鈴新設修繕等ノ費用支出科目ノ儀從來區々ニ相成居整理上不都合ニ付自今概テ別紙ノ類別ニ據リ支出相成度此段及通牒候也

(別紙)

- 一 一邸内各室ノ間ニ於ケル電話電鈴ノ新設及ヒ修繕ハ備品費
- 二 構外ニ渉ル電話電鈴ノ新設ハ新營費其修繕ハ修繕費
- 三 電話電鈴ニ要スル處ノ藥品其他精圓瓶、長平瓶、コップ、アブレトノ類ハ通信運搬費ノ目電話電鈴維持費ノ節
- 四 受負ニ保ルト否ト問ハス電話電鈴ノ保守及掃除費前同上
- 五 電話ノ使用料ハ通信運搬費ノ目電話使用料ノ節
- 六 豫備ノ爲メ電話電鈴器具ヲ買上ケ置キ補缺ニ備フルモノハ備品費

(參照)

●電話機移轉料電話線接続料等電話ニ關スル費用支辨方

○内務省會計課通牒會甲第九十一號 明治四十一年五月五日
電話機移轉料電話線接続料等支出科目ニ關シ義ニ通牒又ハ回答致置候

○會計課長通牒 明治三十六年二月十二日

本省各部長

本省ニ於ケル書類賃寫ノ儀ニ付テハ(十八年三月)決定及二十六手手續有之候處往々局課ニ於テ隨意ニ賃寫ヲ爲サシメ賃寫料ヲ請求スル向有之依リテ今回賃寫ニ關シテハ左ノ通改定相成候

- 一 各局課員ニシテ手廻リ兼ル賃寫物アルトキハ賃寫補助ヲ他ノ局課ニ協議スヘシ
- 二 他ノ局課員ニシテ手明ノモノアルトキハ判任官タルト職員タルトヲ問ハス前項ノ協議ニ應シ賃寫ノ補助ヲ爲サシムヘシ
- 三 各局課ノ賃寫物ニシテ自局課員及他ノ局課員ニテ手廻リ兼ル場合ニ於テハ各局課長ハ豫メ會計課長ノ同意ヲ得テ賃寫ニ付スルコトヲ得
判任官及職員ハ公務繁忙ノ際居殘勤務スルハ當然ノ儀ニ付規定ノ執務時間ニ賃寫ヲ了スルコト能ハサルノ理由ヲ以テ直ニ他局課員ノ補助ヲ求メ又ハ賃寫ニ付スルハ然ルヘカラサル儀ニ有之候
右總務長官ノ命令ニ依リ及通知候也

●官廳ニ於テ印刷局製造ノ物件買入ニ關スル件

○法律第五號 明治四十年三月一日
官廳ニ於テ印刷局製造ノ物件ヲ買入ルル場合ニ於テハ前金拂ヲ爲スコトヲ得

●印刷局發賣ノ官報、法令全書等代價納付

方ノ件

○内閣書記官長照會 大正二年十月十六日
印刷局發賣ノ官報法令全書等ノ代價ニ對シテハ從來納入告知書ヲ發送セサルコトニ相成居候處購讀廳ニ於テ代價納付方遲延ノ向多ク整理上不得止時ニ同局ヨリ代價納付通知書ヲ發送致來リ候處自分手數ト費用トヲ相省キ可申趣旨ヲ以テ該通知書ノ發送ヲ廢止可致ニ付購讀廳ハ三ヶ月ヲ越ヘサル範圍内ニ於テ隨時別紙様式ノ任譯書ニ(任拂命令)又ハ其ノ他ノ金券相添ヘ印刷局ヘ代價納付相成候様致度依テ貴管下各廳ヘ夫々通達相煩シ度
追テ明治四十年法律第五號ニ依リ前金拂込相成候ハ、可有之候

(別紙)

品名	金額	月別	部數	摘要	仕譯書	
					至自	號號
官報		至自				
法令全書		至自				

職員錄ハ後之
右納付ス

官廳名

(參考) ○官報其他代金前金納付方

○内務省會計課通課開會第一號 大正七年二月六日

經費ハ爾今雜費(目)諸謝金(節)中ヨリ支給相成可然

●現金又ハ有價證券ノ拂渡ニ要スル小切手
用紙・書類及印章ノ保管出納ニ關スル件

○會計課長移牒 昭和四年五月十三日
○大藏大臣通牒 昭和四年一月二十三日
預金制度採用ニ伴フ會計制度改正後現金又ハ有價證券ノ拂渡ニ要スル小切手用紙、書類及印章ノ保管出納及之カ取扱方ニ付テハ常ニ責任者ヲシテ之ニ當ラシメ嚴密ナル監査ヲ勵行セラレ居候儀ト被存候處爾來不正小切手等ニ因リ現金又ハ有價證券ノ詐取セラレタルモノ別紙添附ノ件數ニ上リ是カ原因ヲ考究スルニ大半ハ支出官又ハ出納官吏自ラ之カ執行ノ任ニ當ルヘキモノナルニ不拘部下ノ職員ニ之ヲ委嘱シ其ノ專行ニ委シタルニ基因スルモノ多ク甚ダ遺憾ニ存セラレ候因ヨリ是等事務ノ執行ニ關シ事實上ノ補助者ヲ使用スルハ勿論已ムヲ得サルモノモアルヘキモ小切手用紙其ノ他ノ書類及印章ノ保管出納並小切手其ノ他ノ書類ニ對スル署名又ハ捺印ノ事務ハ將來必ス責任者ヲシテ自ラ處理セシメ過誤ナキヲ期セラレ度尙一面之カ監査ヲ勵行シ會計事務取扱ニ付完壁ヲ期セラレ候様致度萬一不正事件發生ノ場合ハ別紙要項ニ依リ御處理相成度此段及通牒候也

(別紙)

○現金又ハ有價證券ノ拂渡ニ關スル不正事件處理要領
一、現金又ハ有價證券ノ拂渡ニ關シ小切手又ハ書類ノ偽造變造等ニ依ル不正事件アリタルトキハ直ニ之ヲ關係日本銀行其ノ他ノ拂渡場所ニ通知シ

官報其他代金納付方ノ義ニ付別紙寫ノ通印刷局ヨリ照會有之候間右ニ依リ御取計相成度候

(別紙)

○印刷局照會
當局ニ於テ作業資金運轉上ノ都合有之候間貴廳ニ於テ購讀セラルル官報及法令全書等代金ハ明治四十年法律第五號ニ依リ當該年度ニ屬スル分ハ前金ヲ以テ納付ヲセラレ度

●雇傭人扶助金支出科目ニ關スル件

○會計課長回答口高會二號 昭和九年十二月十日
十一月十二日付ヲ以テ傭人扶助金支出科目ニ關シ御照會ノ趣了承右ハ雇員扶助令ニ基キ支給スヘキ扶助金ハ凡テ諸支出金ノ項、死傷手當ノ目ヨリ支出相成様致度此段回答ス
○山口高等學校照會 昭和九年十一月十二日
本校傭人中ニ療治料支給スヘキ該當者有之候就テハ右ニ正當ナル支出科目御指示下サレ度候

●試驗監督員ニ對スル手當ノ支出科目ニ關スル件

○會計課長決定 大正十五年九月十七日
從來本省試驗監督員ニ對スル手當ヲ慰勞金ヨリ支出セシモノアルモ慰勞金ハ雇員、傭人ノ事務勉勵ノ爲支給セルモノナレハ本省他部局及直轄各部等ノ職員生徒ヲ試驗監督トシテ監督事務ヲ委嘱セル場合之カ手當ヲ支給スル

(文會例)

之カ拂渡ヲ停止セシメ同時ニ其ノ事件ノ概要ヲ大藏大臣ニ通知スルコト
二、前號ノ場合ニ於テ既ニ日本銀行其ノ他ノ拂渡場所ニ於テ現金又ハ有價證券ノ拂渡済ナルトキハ直ニ左ノ事項ヲ大藏大臣ニ通知スルコト此ノ場合ニ於テハ大正十一年十一月二十八日付藏第一三二〇二號ニ基ク通知ハ之ヲ爲スコトヲ要セサルコト

記

- 一 犯人ノ職業、住所、氏名(政府部内ニ勤務セル者ナルトキハ勤務局課及官職)
 - 二 被害ノ日時及場所
 - 三 被害金額又ハ被害有價證券面額(別紙調書添付ノコト)
 - 四 被害事實發見ノ動機
 - 五 現金又ハ有價證券拂渡ニ關スル小切手用紙、書類及印章盜用等ノ不正行爲ヨリ拂渡ニ關スル證據作成ニ至ル迄ノ經過
 - 六 偽造又ハ變造證書ヲ行使シテ現金又ハ有價證券詐取迄ノ狀況
 - 七 平素ニ於ケル小切手用紙、書類、印章等管守ノ狀況
 - 八 責任者處分濟ノ場合ニ於テハ其ノ要旨
 - 九 其ノ他參考ト爲ルヘキ事項
- 三、當該不正事件ニ對スル司法裁判所ノ豫審決定又ハ判決アリタルトキハ直ニ其ノ寫又ハ謄本ヲ送付スルコト
- 四、不正事件ニシテ日本銀行其ノ他ノ拂渡場所ヨリ現金又ハ有價證券ヲ詐取シタルモノニ對スル善後處理方ハ總テ大藏大臣ノ通知ニ基キ處理スルコト當該事件ニ對スル私訴ヲ提起スル場合ニ付亦同シ

(別紙調査)

被詐取金明細調査

小切手	通知書	小切手又は通知書面記載振出人又は發行名	受取人氏名	日本銀行ヨリ現金詐取		備考
				年月日	小切手又は通知書面記載受取人氏名	
振出年月日	香號	發行年月日	香號			

備考 小切手又は通知書ニ依ル現金詐取ノ場合以外ノ現金又は有價證券詐取ノ場合モ本書ニ準シタル調査ヲ添付スルコト

(別紙)

會計制度改正後現金又は有價證券被詐取調

(昭和三年九月二十五日現在)

一、會計事務補助者ニ於テ小切手用紙ヲ撈取シ支出官又は出納官吏(供託ヲ含ム以)ノ官印ヲ捺捺シ偽造シ小切手ヲ作成シ之ヲ日本銀行ニ呈示現金ヲ詐取シタルモノ

件数	金額	區分	歳出金	預託金	保管金	供託金	計
三	10,488.00		10,488.00				10,488.00
一	3,100.00			3,100.00			3,100.00
三	3,771.11					3,771.11	3,771.11
二	1,000.00					1,000.00	1,000.00
二							9,259.11

【文會例】

件数	金額	區分	歳出金	預託金	保管金	供託金	計
六	21,847.55		21,847.55				21,847.55
一	1,711.81			1,711.81			1,711.81
二	4,000.00					4,000.00	4,000.00
九							27,559.36

三、支出官又は出納官吏自ラ不正小切手ヲ作成行使シ現金ヲ詐取シタルモノ

件数	金額	區分	歳出金	預託金	保管金	供託金	計
一	2,237.37		2,237.37				2,237.37
一	1,100.00			1,100.00			1,100.00
三							1,637.37

【文會例】

件数	金額	合計	歳出金	預託金	保管金	供託金	計
三	3,337.37		3,337.37				3,337.37
一	1,100.00			1,100.00			1,100.00
三	1,100.00					1,100.00	1,100.00
三							5,537.37

四、政府外部ノ者ニ於テ關係書類ヲ偽造シ出納官吏ヲシテ小切手振出及拂渡認可ヲ爲サシメ現金ヲ詐取シタルモノ

件数	金額	區分	歳出金	預託金	保管金	供託金	計
一						1,898.90	1,898.90
						外利子 1,700.10 1,898.90	

五、歳出金支拂通知書郵送途中撈取セラレ之ニ依リ現金ヲ詐取シタルモノ

件数	金額	區分	歳出金	預託金	保管金	供託金	計
一	2,200.00		2,200.00				2,200.00

●保管金支拂ノ爲メ振出シタル小切手受取人ニ於テ喪失セシ場合等ノ取扱方

○會計課長移牒官會二百二十四號 大正十三年八月二十一日
 保管金支拂ノ爲振出シタル小切手ヲ受取人ニ於テ喪失セシ場合等ノ取扱方ニ關シ別紙甲號ノ通司法大臣官房會計課長ヨリ照會有之乙號ノ通回答ノ旨大藏省主計局長ヨリ通牒有之タルニ付此段移牒ス

(別紙)
 (甲號)
 ○司法大臣官房會計課長照會會甲第四千九十四號
 大正十二年十一月二十二日
 保管金支拂ノ爲メ振出シタル小切手受取人ニ於テ喪失セシ等左記事項ニ關

第三章 出納 第三節 支出

シ至急取扱方垂示相成度

一 小切手振出日附後一年ヲ經過セシ分ト否ラサル分トヲ問ハス喪失其他喪失毀損セシ分ニ付テハ債主ハ如何ナル方法ニ依リ現金支拂ヲ受ケ得ヘキヤ

二 喪失等ニ因リ公示償告、除權判決アリタル分ニ付テ同上

三 現實所持セル小切手ニシテ漫然一年ヲ經過シタル後ノ分ニ付テ同上

四 前各號ノ小切手ニシテ保管金規則第一條ニ依ル五年ノ期間ノ經過セサル中ハ何時ニテモ現金支拂ヲ受ケ得ラルルヤ

五 前各號ノ分ハ前キニ債權者ニ對シ小切手ヲ振出ス場合現金出納簿ノ拂ニ立テアルニ付若シ一年經過ノ事由ニ依リ一旦歳入ニ編入スヘキモノト假定セハ帳簿上ノ整理其ノ後現金支拂ヲ受クル場合ノ記帳ノ要否及歳入科目ヲ指定セラレ度

(乙號)

○大藏省主計局理財局長回答藏第九千二百七十八號

大正十三年七月二十四日

客年十一月二十二日附會甲第四〇九四號ヲ以テ保管金支拂ノ爲振出シタル小切手ニシテ受取人ニ於テ喪失セシ等ノ場合之カ支拂方ニ付御照會ノ趣了承右ハ左記ノ通御承知相成度此段及御回答候也

一 小切手振出後其ノ小切手カ喪失、紛失其他喪失毀損セシトキハ民法施行法第五十七條及民事訴訟法第七十七條以下ニ規定スル公示償告ノ手續ニ依リ當該小切手ヲ無効トスル除權判決ヲ受ケ其ノ小切手振出日附後未ダ一年ヲ經過セサル場合ニ在リテハ小切手ノ支拂店ニ其ノ判決原本ヲ提示シ現金ノ支拂ヲ求ムルコトヲ得ヘク若シ又振出日附後一年ヲ經過

シタル場合ニ在リテハ小切手ヲ振出シタル當該官廳ニ對シ償還ノ請求ヲ爲シ得ヘシ

二八四

二 前項ニ依ル

三 償還請求ニ必要ナル書類ヲ提出セシメ審査ノ上更ニ償還金トシテ之カ支拂ヲ受ケ得ヘシ

四 保管金規則第一條ニ所謂「五年」ノ時效ハ保管金支拂請求權行使ノ期間ニシテ此ノ期間内ニ於ケル其ノ請求ニ對シ現金ニ代ヘ小切手ヲ振出シタル場合ニ於テハ從來ノ保管金支拂義務ハ既ニ消滅シ爾後ハ單ニ小切手上ノ債務ヲ負擔スルニ過キササル次第ナレハ其ノ振出日附ヨリ一年ヲ經過シタルモノニ付テハ償還請求權ヲ行使シテ之カ支拂ヲ受クル外キモノトス

五 小切手振出日附後一年ヲ經過シタルモノニ付テハ之ヲ歳入ニ編入シ償還ノ請求アリタル場合ニ於テハ償還金ヨリ支出スルノ取扱ヲ探リ度保管金取扱規程改正方手續中ナリ

右ノ場合現金出納簿摘要欄ニ「何年何月何日何某渡小切手一年經過ノ爲減」トシ拂預金額ニ當該金額ヲ朱書シ同時ニ摘要欄ニ「同上事由ニ依リ歳入納付ノ爲拂」トシ拂預金額ニ當該金額ヲ墨書スルモノトス

小切手振出日附後一年ヲ經過セルモノヲ歳入ニ編入スル場合ニ於ケル歳入科目ハ雜收入(款)雜入(項)小切手支拂未済金收入(目)トス

●保管金隔地者拂ノ場合其ノ小切手振出日附ヨリ一年ヲ經過シタル爲該資金ヲ預金ニ受戻等ノ件

○司法省訓令會甲第五百三十九號 大正十四年三月二十日

保管金、前渡資金ニシテ小切手振出後日本銀行ニ於テ未支拂ノ儘一年經過ニ依ル歳入編入及償還請求手續左ノ通心得ヘシ

一 出納官吏事務規程第三十五條、第三十六條又ハ保管金取扱規程第七條ノ二ノ規定ニ依リ支拂未済金額ニ相當スル資金ヲ歳入ニ組入ル

ル場合ハ一般會計ニ係ルモノハ總テ大藏省所管取扱廳大藏大臣官房會計課歳入徵收官大藏大臣官房會計課長ノ取扱ヲ一般會計歳入ニ組入ルヘキモノナルニ往々當該出納官吏所屬廳歳入徵收官ノ納入告知書ニ依リ納入相成向有之候處右ハ必ス大藏大臣官房會計課歳入徵收官ノ納入告知書ニ依リ歳入納付相成度

(參考)

○司法省訓令會甲第五百三十九號 大正十四年三月二十日

保管金、前渡資金ニシテ小切手振出後日本銀行ニ於テ未支拂ノ儘一年經過ニ依ル歳入編入及償還請求手續左ノ通心得ヘシ

一 出納官吏事務規程第三十五條、第三十六條又ハ保管金取扱規程第七條ノ二ノ規定ニ依リ支拂未済金額ニ相當スル資金ヲ歳入ニ組入ル

ル場合ハ一般會計ニ係ルモノハ總テ大藏省所管取扱廳大藏大臣官房會計課歳入徵收官大藏大臣官房會計課長ノ取扱ヲ一般會計歳入ニ組入ルヘク當該支拂未済金ニ對スル償還金支拂ハ大藏省所管歳出諸支出金償還金ヨリ支出スヘク之カ償還順序ハ大正十三年七月五日會甲第二六六三號訓令小切手支拂未済金償還手續ニ依リ處理スヘシ

一 出納官吏事務規程第三十九條及第四十條ニ規定スル隔地ノ出納官吏ニ送金ノ爲預託金支拂通知書ヲ送付シタル場合又ハ保管金取扱規程第八條ニ規定スル保管金他店拂ノ爲保管金支拂通知書ヲ交付シタル場合ニ於テ其ノ小切手振出日附ヨリ一年ヲ經過シ當該資金ヲ歳入

二八五

○會計課長移牒官會二百二十八號 大正十四年六月五日

○大藏省主計局理財局長通牒藏計三百九十一號 大正十四年六月四日

保管金隔地者拂ノ場合其ノ小切手振出日附ヨリ一年ヲ經過シタル爲該資金ヲ預金ニ受戻等ノ件ニ關シ別紙甲號ノ通司法大臣官房會計課長ヨリ照會有之乙號ノ通回答致置候條御了知相成度此段及御通牒候也

(別紙)

(甲號)

保管金取扱規程第八條ニ依リ保管金支拂通知書ヲ交付シタル場合ニ於テ其ノ小切手振出日附ヨリ一年ヲ經過シタル爲該資金ヲ歳入ニ納付スル場合ノ手續ニ付テハ本年二月四日藏計第四八號一大藏大臣通牒ノ次第モ有之候處右金額ヲ一旦取扱廳預金ニ受戻ヲ要スヘキニ付之カ手續及之ニ對スル現金出納簿ノ記帳方至急御回示願度候

(乙號)

四月二十四日附會甲第一六九二號ヲ以テ照會ニ係ル保管金隔地者拂ノ場合其ノ小切手振出日附ヨリ一年ヲ經過シタル爲該資金ヲ預金ニ受戻等ノ件右ハ小切手ヲ交附シタル當該日本銀行ニ對シ當該資金ヲ預金ニ戻入方請求シ日本銀行ノ戻入済通知ヲ受ケタル後保管金取扱規程第七條ノ二ノ規定ニ依リ小切手ヲ振出スコトニ致度仍右ノ場合現金出納簿記帳方ニ付テハ客年七月十五日藏第九二七八號第五項通牒ノ通御處理相成度此段及御回答候也

(參考)

●保管金小切手振出後一年經過シ未ダ支拂ヲ了セサルモノノ歳入納付方ノ件

○司法省會計課長通牒會甲第二千七百五十八號

第三章 出納 第三節 支出

第三章 出納 第三節 支出

一 組入及償還請求ニ對スル支拂ヲ爲ス場合亦前項ニ準ス
保管金取扱規程第七條ノ二ニ依リ報告スヘキ支拂未済金ニ關スル
報告書ハ當該官廳ノ長ヲ經由スヘシ

●三種所得稅ニ關シ官廳ヨリ提出スル支拂調書ニ七年度末賞與揚上ノ件

○文部次官移譯官會百五十九號 大正十四年四月二十九日

直轄各部局長

第三種所得稅申告ニ關シ別紙寫ノ通大藏次官ヨリ通知有之タルニ付御了知
相成度此段移譯ス

(別紙)

○大藏次官通知藏稅第九百九號 大正十四年四月二十五日

官廳ニ於テ支給スル年度末賞與ニ對シテハ所得稅ヲ課セラルヘキモノニ有
之候處從來稅務署ニ對シテ之ヲ申告セサルモノアリ又所得稅法第五十六條
ニ依リ各官廳ノ提出スル支拂調書ニモ之ヲ揚上スルモノトセサルモノトア
ルカ爲ニ課稅上ノ統一ヲ缺キ甚ダ面白カラサルヲ以テ自今申告ヲ勵行スル
ト共ニ支拂調書ニモ之ヲ掲記スルコトニ次官會議ニ於テ決定セラレタル次
第ニ有之右ハ本年ヨリ必ス實行スルコトニ致度候ニ付右ノ趣旨ヲ以テ貴管
下關係各廳ニ對シ可然御通達相成候様御取計相煩度右及御依頼候也

第四節 出納官吏

●出納官吏事務規程

○大藏省令第二號 大正十一年一月十一日

改正 大正一五年第七號、昭和元年第二號、九年第八號、一五年第三四號

目次

第一章 總則	二八七
第二章 收入官吏	二八八
第一節 收入金ノ領收	二八八
第二節 收入金ノ拂込	二八八
第三節 現金拂込報告	二八九
第三章 資金前渡官吏	二八九
第一節 總則	二八九
第二節 前渡資金ノ受入、保管及引出	二八九
第三節 支拂	二九〇
第四節 拂込及返納	二九一
第五節 證明	二九一
第四章 歳入歳出外現金出納官吏	二九二
第五章 繰替拂出納官吏	二九二
第六章 事務引繼手續	二九三
第七章 雜則	二九三
第三章 出納 第四節 出納官吏	二九三

附則

出納官吏事務規程

第一章 總則

第一條 出納官吏ハ本令ノ定ムル所ニ依リ現金ノ出納保管ニ關スル事務ヲ
處理スヘシ

第二條 出納官吏法令ノ規定ニ依リ現金ニ代ヘ證券ヲ受領シタルトキハ現
金ニ準シ之カ取扱ヲ爲スヘシ

第三條 出納官吏其ノ手許ニ保管スル現金ハ之ヲ堅牢ナル容器中ニ藏置ス
ヘシ但シ特別ノ事由アルトキハ自己ノ責任ヲ以テ之ヲ郵便局若ハ確實ナ
ル銀行ニ預入レ又ハ資産信用アル者ニ其ノ保管ヲ託シ其ノ他適當ノ方法
ニ依リ之ヲ保管スルコトヲ得

第四條 出納官吏其ノ取扱ニ係ル現金ハ私金ト混同スルコトヲ得ス

第五條 出納官吏他ノ公金ノ出納保管ヲ兼掌スル場合ニ於テハ其ノ現金ハ
官金ト區分シ同一容器中ニ之ヲ保管スルコトヲ得

第六條 出納官吏本令ノ定ムル所ニ依リ振出す小切手ハ本令中別段ノ定ア
ル場合ヲ除ク外之ヲ記名式持參人拂込爲スヘシ

第七條 官廳、出納官吏又ハ日本銀行ヲ受取人トシテ振出す小切手ハ之ヲ
記名式トシ之ニ裏書禁止ノ旨ヲ記載スヘシ

前項ノ小切手金額ニシテ振替拂込ヲ要スルモノナルトキハ裏面餘白ニ
「要振替」ノ印ヲ捺捺スヘシ

第八條 現金出納簿ハ一人一冊トシ出納官吏ハ職務及所管廳ノ如何ヲ問ハ
ス其ノ取扱ニ係ル現金ノ出納ヲ總テ之ニ記入スヘシ

第九條 外國ニ於ケル出納官吏ノ事務取扱ニシテ本令ニ依リ難キモノニ付

第三章 出納 第四節 出納官吏

テハ特例ヲ設ケルコトヲ得

第十條 各省大臣ハ本令ニ定ムルモノヲ除クノ外其ノ所屬出納官吏ノ事務取扱ニ付大藏大臣ト協議シ之カ必要ナル事項ヲ定ムルコトヲ得

第十一條 本令ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外出納員ノ事務取扱ニ付之ヲ準用ス

第十二條 本令中各省大臣ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、關東州ニ在リテハ關東長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官之ヲ行フ

第二章 收入官吏

第一節 收入金ノ領收

第十三條 收入官吏納人ヨリ納稅告知書、納入告知書又ハ納付書ヲ添ヘ現金ノ納付ヲ受ケタルトキハ之ヲ收納シ領收證書ヲ納人ニ交付シ其ノ報告書ヲ歲入徵收官ニ送付スヘシ

第十四條 收入官吏納人ヨリ納稅告知書、納入告知書又ハ納付書ヲ添附セシテ現金ノ納付ヲ受ケタルトキ又ハ歲入徵收官ノ口頭告知ニ依リ現金ノ納付ヲ受ケタルトキハ之ヲ收納シ領收證書ヲ納人ニ交付シ其ノ報告書ヲ歲入徵收官ニ送付スヘシ

第十五條 收入官吏外國ニ於テ納人ヨリ邦貨ヲ基礎トスル收入金ヲ外國貨幣ヲ以テ收納セムトスルトキハ別ニ定ムル外國貨幣換算價格ニ依リ算出シタル金額ノ外國貨幣ヲ收納スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ歲入徵收官ニ送付スル報告書ニ記載スヘキ邦貨額ニ外國貨幣額及外國貨幣換算價格ヲ傍記スヘシ

〔文會例〕

三 領收金高五百圓以上ニ達シタルトキハ其ノ日ヨリ起算シテ五日以内

四 領收金高千圓以上ニ達シタルトキハ其ノ翌日限

第二十條 收入官吏其ノ在勤地外ニ於テ現金ヲ領收シタルトキハ第十八條ノ規定ニ準シ拂込ヲ爲シ得ル場合ヲ除クノ外前條ノ規定ニ準シ之カ拂込ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十一條 運輸交通ノ不便ナル地方ニ在勤スル收入官吏ニシテ第十九條ノ規定ニ依リ難キ場合ニ於テハ所管大臣大藏大臣ト協議シ之カ特例ヲ設ケルコトヲ得

第二十二條 收入官吏外國ニ於テ現金ヲ領收シタルトキハ前四條ノ規定ニ準シ之カ拂込ノ手續ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テ外國貨幣ノ拂込ヲ爲サムトスルトキハ現金拂込書ニ邦貨額ヲ記載シ外國貨幣額ヲ傍記スヘシ

第二十三條 收入官吏外國ニ於テ領收シタル現金ニシテ前條ノ規定ニ依リ拂込ヲ爲スコト能ハサルモノニ付テハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外一月分ヲ取置メ之ヲ爲替券ニ換ヘ現金拂込書ヲ添ヘ日本銀行本店ニ拂込ムヘシ

前項ノ現金拂込書ニハ邦貨額ヲ記載シ爲替券面額ヲ傍記スヘシ

第三節 現金拂込報告

第二十四條 收入官吏ハ現金出納簿ニ依リ毎月第二號書式ノ現金拂込仕譯書ヲ調製シ翌月五日迄ニ之ヲ歲入徵收官ニ送付スヘシ

分任收入官吏ノ調製シタル現金拂込仕譯書ハ主任收入官吏ニ於テ之ヲ取置メ歲入徵收官ニ送付スルモノトス但シ歲入徵收官ニ於テ必要アリト認

第三章 出納 第四節 出納官吏

第十六條 收入官吏外國ニ於テ納人ヨリ外國貨幣ヲ基礎トスル收入金ヲ邦貨ヲ以テ收納セムトスルトキハ別ニ定ムル外國貨幣換算價格ニ依リ換算シタル金額ノ邦貨ヲ收納スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ歲入徵收官ニ送付スル報告書ニ邦貨額ヲ記載シ外國貨幣額及外國貨幣換算價格ヲ傍記スヘシ

第十七條 收入官吏外國ニ於テ納人ヨリ外國貨幣ヲ基礎トスル收入金ヲ外國貨幣ヲ以テ收納シタルトキハ別ニ定ムル外國貨幣換算價格ニ依リ換算シタル邦貨額ヲ歲入徵收官ニ送付スル報告書ニ記載シ其ノ收納シタル外國貨幣額ヲ傍記スヘシ

第二節 收入金ノ拂込

第十八條 日本銀行(本店、支店又ハ代理店ヲ謂フ以下同シ)所在地ニ在勤スル收入官吏其ノ在勤地ニ於テ現金ヲ領收シタルトキハ第一號書式ノ現金拂込書ヲ添ヘ現金領收ノ日又ハ其ノ翌日日本銀行ニ拂込ムヘシ但シ領收金額百圓未満ナルトキハ毎十日分ヲ取置メ日本銀行ニ拂込ムコトヲ得

第十九條 日本銀行所在地外ニ在勤スル收入官吏其ノ在勤地ニ於テ現金ヲ領收シタルトキハ左記期限内ニ現金拂込書ヲ添ヘ日本銀行ニ拂込ムヘシ但シ第二號乃至第四號ノ場合ニ於テハ最初ノ現金領收ノ日ヨリ起算シテ十五日ヲ超ユルコトヲ得ス

一 領收金高百圓未満ナルトキハ最初ノ現金領收ノ日ヨリ起算シテ十五日以内
二 領收金高百圓以上ニ達シタルトキハ其ノ日ヨリ起算シテ十日以内

〔文會例〕

ムルトキハ分任收入官吏ヲシテ直接之カ送付ヲ爲サシムルコトヲ得

第三章 資金前渡官吏

第一節 總則

第二十五條 資金前渡官吏日本銀行ニ資金ヲ預託スル場合ニ於テハ該資金前渡官吏ヲ任命シタル者豫メ其ノ資格氏名ヲ當該日本銀行ニ通知スヘシ

第二十六條 資金前渡官吏ハ前條ノ場合ニ於テ照較ノ用ニ供スル爲其ノ印鑑ニ官職氏名ヲ記載シ之ヲ日本銀行ニ提出スヘシ

第二十七條 本章ノ規定ニ依リ資金前渡官吏ノ振出ス小切手ニハ其ノ表面餘白ニ「預託金」ノ印ヲ捺捺スヘシ

第二十八條 日本銀行所在地ニ在勤スル資金前渡官吏ハ其ノ在勤地又ハ出張地最寄ノ日本銀行ニ其ノ保管ニ屬スル現金ヲ預託スルコトヲ得日本銀行所在地ニ在勤スル資金前渡官吏在勤地外ニ於テ現金ヲ保管スルトキ亦同シ

第二十九條 資金前渡官吏前二條ノ規定ニ依リ其ノ現金ヲ日本銀行ニ預託セムトスルトキハ之ニ第三號書式ノ預託金拂込書ヲ添ヘ日本銀行ニ拂込ミ預託金領收證書及小切手用紙ノ交付ヲ受クヘシ

第三十條 資金前渡官吏日本銀行ニ預託シタル現金ヲ引出サムトスルトキハ自己ヲ受取人トスル小切手ヲ振出スヘシ

第三章 出納 第四節 出納官吏

第三節 支拂

第三十一條 資金前渡官吏債主ヨリ支拂ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ請求ハ正當ナルカ、資金交付ヲ受ケタル目的ニ違フコトナキカヲ調査シ之カ支拂ヲ爲シ領收證書ヲ發スヘシ

第三十二條 資金前渡官吏恩給法上ノ公務員(軍人ニ在リテハ下士官以上ノ軍人ニ限ル)ノ俸給又ハ給料ノ支拂ヲ爲サムトスルトキハ其ノ俸給又ハ給料額ヨリ國庫納金額ヲ控除シタル殘額ノ支拂ヲ爲シ其ノ領收證書ヲ發スヘシ

第三十三條 資金前渡官吏健康保險ノ被保險者ニ報酬ノ支拂ヲ爲サムトスルトキハ其ノ報酬額ヨリ被保險者ノ負擔スヘキ保險料ヲ控除シタル殘額ノ支拂ヲ爲シ其ノ領收證書ヲ發スヘシ

第三十四條 資金前渡官吏日本銀行預託金中ヨリ支拂ヲ爲サムトスルトキハ其ノ預託金ニ對シテ未タ支拂ヲ了セサルモノニ付テハ其ノ金額、年度、科目及債主名ヲ支出官ヲ經由シテ歳入徴收官ニ報告スヘシ

第三十五條 資金前渡官吏前條ノ金額ニ付歳入徴收官ヨリ納入ノ告知ヲ受ケタルトキハ該金額ヲ券面金額トシ當該官廳ヲ受取人トスル小切手ヲ振出ニ係ルモノナルトキハ該金額ヲ券面金額トシ當該官廳ヲ受取人トスル小切手ヲ振出ニ係ルモノナルトキハ其ノ領收證書ヲ發スヘシ

第三十六條 資金前渡官吏其ノ前渡ヲ受ケタル資金ニ付支出官又ハ歳入徴收官ヨリ返納又ハ納入ノ告知書ヲ受ケタルトキハ其ノ領收證書ヲ發スヘシ

第三十七條 第三十四條ノ小切手ニシテ其ノ振出日附ヨリ一年ヲ經過シ日本銀行ニ於テ支拂ヲ拒絶セラレタルカ爲其ノ所持人ヨリ償還ノ請求アリタルトキハ資金前渡官吏ハ之ヲ調査シ償還スヘキモノト認ムルトキハ事由ヲ詳ニシ證憑書類ヲ添ヘ支出官ヲ經由シ之ヲ所管大臣ニ具申シ所管大臣ハ審査ノ上之カ支拂ヲ大藏大臣ニ請求スヘシ

第三十八條 前二條ノ場合ニ於テ資金前渡官吏交替シタルトキハ後任官吏ニ於テ之カ手續ヲ爲スヘシ但シ後任官吏ナキ場合ニ於テハ其ノ殘務ヲ引繼キタル官吏其ノ手續ヲ爲スモノトス

第三十九條 資金前渡官吏資金ヲ隔地ノ出納官吏ニ送付スル必要アル場合ニ於テハ日本銀行ニ之カ送金ヲ請求スルコトヲ得

第四十條 資金前渡官吏前條ノ送金ヲ請求セムトスルトキハ送金額ヲ券面金額トシ日本銀行ヲ受取人トスル小切手ヲ振出シ其ノ裏面ニ受取人ノ資格氏名、支拂店名及送金ヲ要スル旨ヲ記載シ之ヲ預託金ヲ取扱フ日本銀行ニ交付シ領收證書ヲ發スヘシ

第四十一條 資金前渡官吏其ノ前渡ヲ受ケタル資金ニ付支出官又ハ歳入徴收官ヨリ返納又ハ納入ノ告知書ヲ受ケタルトキハ其ノ領收證書ヲ發スヘシ

第四十二條 資金前渡官吏其ノ前六條ノ場合ニ於テ日本銀行ニ預託シタル金額中ヨリ拂込ヲ爲サムトスルトキハ拂込金額ヲ券面金額トスル小切手ヲ振出スヘシ

第四十三條 前條ノ規定ニ依リ振出ス小切手ハ第四十五條ノ二ノ場合ニ於テハ歳入所屬ノ當該官廳ヲ、其ノ他ノ場合ニ於テハ當該官廳ヲ受取人トシ表面餘白ニ第四十三條ノ場合ニ於テハ「國庫納金」、第四十三條ノ二ノ場合ニ於テハ「健康保險料被保險者負擔金」、第四十四條及第四十五條ノ場合ニ於テハ「相殺額」、第四十五條ノ二ノ場合ニ於テハ「分類所得税」ノ印ヲ捺捺スヘシ

第四十四條 資金前渡官吏日本銀行統轄店又ハ特設代理店ヨリ預託金拂込書並支拂濟小切手ノ番號及金額ヲ記載シタル書類ヲ添ヘ預託金月計突合表ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ證明ノ上五日內ニ之ヲ統轄店又ハ特設代理店ニ返付スヘシ但シ相違アル點ニ付テハ其ノ事由ヲ附記スルモノトス

第四十五條 歳入歳出外現金出納官吏ニ於テハ小切手ノ支拂店ヲ經由スヘシ

第四十六條 歳入歳出外現金出納官吏ニ於テハ其ノ領收證書ヲ交付シ其ノ旨ヲ取扱官廳ニ報告スヘシ

第四十七條 歳入歳出外現金出納官吏ノ領收シタル現金ヲ大藏省預金部預

第四十一條 支出官事務規程中歳出金支拂通知書所載ノ支拂場所ノ變更ニ關スル規定ハ前條ノ預託金支拂通知書ノ支拂店變更ニ付之ヲ準用ス

第四十二條 毎年度ニ屬スル歳出金ノ支拂ヲ爲シ得ルハ翌年度四月三十日限トス

第四十三條 資金前渡官吏第三十二條ノ手續ヲ爲シタルトキハ國庫納金額ニ相當スル現金ニ第五號書式ノ國庫納金額表ヲ添ヘ歳入徴收官ノ指定シタル收入官吏ニ拂込ミ領收證書ヲ交付ヲ受ケヘシ

第四十四條 前條ノ規定ハ資金前渡官吏第三十二條ノ二ノ手續ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス但シ健康保險料被保險者負擔金表ハ第五號ノ二書式ニ依ル

第四十五條 資金前渡官吏第三十三條ノ手續ヲ爲シタルトキハ相殺金額ニ相當スル現金ニ第六號書式ノ相殺額表ヲ添ヘ歳入徴收官ノ指定シタル收入官吏ニ拂込ミ領收證書ヲ交付ヲ受ケヘシ

第四十六條 前項ノ場合ニ於テ政府ノ債權者資金前渡官吏所屬廳以外ノ官廳ニ對スル債務ヲ以テ相殺シタルトキハ該官廳ノ歳入徴收官ヨリ納入告知書ヲ受ケ拂込ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十七條 政府ノ收納スヘキ金額カ相殺額ト同額ナルトキ又ハ之ヲ超過スル場合ニ於テハ資金前渡官吏相殺金額ニ付前條ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十八條 前項ノ場合ニ於テ收納金額ノ相殺額ヲ超過シタルモノニ付テハ資金前渡官吏ハ相殺額ヲ超過シタル金額及相殺ノ相手方ノ氏名ヲ歳入徴收官ニ報告スヘシ

第四十九條 資金前渡官吏第三十三條ノ二ノ手續ヲ爲シタルトキハ分類所得税額ニ相當スル現金ニ所得税法施行細則第一條ニ定ムル拂込書、計算書及明細書ヲ添ヘ日本銀行ニ拂込ミ領收證書ヲ交付ヲ受ケヘシ

第三章 出納 第四節 出納官吏

ケタルトキハ該金額ヲ券面金額トシ當該官廳ヲ受取人トスル小切手ヲ振出シ該告知書ニ添ヘ日本銀行ニ拂込ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十七條 第三十四條ノ小切手ニシテ其ノ振出日附ヨリ一年ヲ經過シ日本銀行ニ於テ支拂ヲ拒絶セラレタルカ爲其ノ所持人ヨリ償還ノ請求アリタルトキハ資金前渡官吏ハ之ヲ調査シ償還スヘキモノト認ムルトキハ事由ヲ詳ニシ證憑書類ヲ添ヘ支出官ヲ經由シ之ヲ所管大臣ニ具申シ所管大臣ハ審査ノ上之カ支拂ヲ大藏大臣ニ請求スヘシ

第三十八條 前二條ノ場合ニ於テ資金前渡官吏交替シタルトキハ後任官吏ニ於テ之カ手續ヲ爲スヘシ但シ後任官吏ナキ場合ニ於テハ其ノ殘務ヲ引繼キタル官吏其ノ手續ヲ爲スモノトス

第三十九條 資金前渡官吏資金ヲ隔地ノ出納官吏ニ送付スル必要アル場合ニ於テハ日本銀行ニ之カ送金ヲ請求スルコトヲ得

第四十條 資金前渡官吏前條ノ送金ヲ請求セムトスルトキハ送金額ヲ券面金額トシ日本銀行ヲ受取人トスル小切手ヲ振出シ其ノ裏面ニ受取人ノ資格氏名、支拂店名及送金ヲ要スル旨ヲ記載シ之ヲ預託金ヲ取扱フ日本銀行ニ交付シ領收證書ヲ發スヘシ

第四十一條 資金前渡官吏其ノ前渡ヲ受ケタル資金ニ付支出官又ハ歳入徴收官ヨリ返納又ハ納入ノ告知書ヲ受ケタルトキハ其ノ領收證書ヲ發スヘシ

第四十二條 資金前渡官吏其ノ前六條ノ場合ニ於テ日本銀行ニ預託シタル金額中ヨリ拂込ヲ爲サムトスルトキハ拂込金額ヲ券面金額トスル小切手ヲ振出スヘシ

第四十三條 前條ノ規定ニ依リ振出ス小切手ハ第四十五條ノ二ノ場合ニ於テハ歳入所屬ノ當該官廳ヲ、其ノ他ノ場合ニ於テハ當該官廳ヲ受取人トシ表面餘白ニ第四十三條ノ場合ニ於テハ「國庫納金」、第四十三條ノ二ノ場合ニ於テハ「健康保險料被保險者負擔金」、第四十四條及第四十五條ノ場合ニ於テハ「相殺額」、第四十五條ノ二ノ場合ニ於テハ「分類所得税」ノ印ヲ捺捺スヘシ

第四十四條 資金前渡官吏日本銀行統轄店又ハ特設代理店ヨリ預託金拂込書並支拂濟小切手ノ番號及金額ヲ記載シタル書類ヲ添ヘ預託金月計突合表ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ證明ノ上五日內ニ之ヲ統轄店又ハ特設代理店ニ返付スヘシ但シ相違アル點ニ付テハ其ノ事由ヲ附記スルモノトス

第四十五條 歳入歳出外現金出納官吏ニ於テハ小切手ノ支拂店ヲ經由スヘシ

第四十六條 歳入歳出外現金出納官吏ニ於テハ其ノ領收證書ヲ交付シ其ノ旨ヲ取扱官廳ニ報告スヘシ

第四十七條 歳入歳出外現金出納官吏ノ領收シタル現金ヲ大藏省預金部預

第四十八條 歳入歳出外現金出納官吏ニ於テハ其ノ領收證書ヲ交付シ其ノ旨ヲ取扱官廳ニ報告スヘシ

第四十九條 歳入歳出外現金出納官吏ノ領收シタル現金ヲ大藏省預金部預

第五十條 歳入歳出外現金出納官吏ニ於テハ其ノ領收證書ヲ交付シ其ノ旨ヲ取扱官廳ニ報告スヘシ

第五十一條 歳入歳出外現金出納官吏ノ領收シタル現金ヲ大藏省預金部預

第三章 出納 第四節 出納官吏

二九一

第三章 出納 第四節 出納官吏

金ニ拂込ヲ爲ス場合ニ於テハ保管金取扱規程及預金部預金取扱規程ノ定
ムル所ニ依ルヘシ

第五十二條 歳入歳出外現金出納官吏其ノ保管ニ係ル現金ヲ拂渡シタルト
キハ受取人ヨリ領收證書ヲ徴シ其ノ旨ヲ取扱官廳ニ報告スヘシ

第五章 繰替拂出納官吏

第五十三條 本令ニ於テ繰替拂出納官吏ト稱スルハ會計規則第六十三條ノ
規定ニ依リ其ノ取扱ニ係ル現金ノ繰替使用ヲ爲ス出納官吏ヲ謂フ

第五十四條 繰替拂出納官吏ハ其ノ取扱ニ係ル歳入金、歳出金及歳入歳出
外現金ニ付交互振替及繰替計算ヲ以テ之カ受拂ヲ爲シ其ノ現金ハ之ヲ一
團トシテ取扱フヘシ

第五十五條 繰替拂出納官吏ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外其ノ保管ニ係
ル現金ヲ日本銀行ニ預託スヘシ

第五十六條 第三十九條乃至第四十一條ノ規定ハ帝國鐵道官署ニ於ケル繰
替拂出納官吏隔地ノ債主又ハ出納官吏ニ送金ヲ爲スノ必要アル場合ニ付
之ヲ準用ス但シ預託金支拂通知書ハ第七號書式ニ依ルモノトス

前項ノ場合ニ於テ運輸交通ノ不便ノ地ニ在ル債主又ハ出納官吏ヨリ其ノ
住所又ハ居所ニ送金ヲ求メタルトキハ其ノ住所又ハ居所ヲ支拂場所ニ指
定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ預託金支拂通知書ニ代ヘ適宜ノ通知書
ヲ受取人ニ送付スヘシ

第五十七條 第十三條乃至第十七條、第二十五條、第二十六條、第二十六
條ノ二、第二十九條、第三十條、第三十四條乃至第三十八條、第四十二

ハサルトキハ會計規則第四百六條ノ規定ニ依リ計算書ノ調製ヲ命セテ
レタル官吏本章ノ定ムル所ニ依リ之カ手續ヲ爲スヘシ

第七章 雜則

第六十五條 出納官吏其ノ保管ニ係ル現金ヲ亡失シタルトキハ遲滞ナク其
ノ事由ヲ具シ所屬官廳ニ報告スヘシ

第六十六條 出納官吏領收證書、現金拂込書又ハ預託金拂込書ノ記載
事項中誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ翌年度五月三十一日迄ニ歳入徴
收官又ハ日本銀行ニ之カ訂正ヲ請求スヘシ

第六十七條 出納官吏預託金支拂通知書ノ記載事項中金額以外ノモノニ付
誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ受取人ヲシテ該預託金支拂通知書ヲ提
出セシメ之カ訂正ヲ爲シ其ノ事由ヲ記入シ之ヲ受取人ニ返付スヘシ

第六十八條 出納官吏第四十條及第五十六條ノ規定スル小切手ノ裏面記載
事項ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ遲滞ナク日本銀行ニ之カ訂正ヲ
請求スヘシ

第六十九條 出納官吏現金拂込ニ係ル領收證書又ハ預託金領收證書ヲ亡失
又ハ毀損シタル場合ニ於テハ日本銀行ヨリ其ノ拂込済ノ證明ヲ受クヘシ

第七十條 支出官事務規程中歳出金支拂通知書ヲ亡失又ハ毀損シタル場合
ニ於ケル取扱ニ關スル規定ハ第四十條第二項及第五十六條第一項ニ規定
スル預託金支拂通知書ヲ亡失又ハ毀損シタル場合ニ於ケル取扱ニ付之ヲ
準用ス

第七十一條 出納官吏預託金月計合表ニ證明ヲ爲シタル後其ノ證明ニ誤
謬アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ事由ヲ記載シテ證明ヲ爲シ之ヲ日本

第三章 出納 第四節 出納官吏

條、第四十九條、第五十條及第五十二條ノ規定ハ繰替拂出納官吏ニ之ヲ
準用ス

第五十八條 本令ニ定ムルモノヲ除クノ外繰替拂出納官吏ノ事務取扱ニ關
シテハ別ニ定ムル所ニ依ルヘシ

第六章 事務引継手續

第五十九條 出納官吏交替ノ場合ニ於テハ前任出納官吏ハ現金出納簿ニ締
切ヲ爲シ引繼ノ年月日ヲ記入シ後任出納官吏ト共ニ記名捺印スヘシ

第六十條 日本銀行ニ預託金ヲ有スル前任出納官吏ハ前條ノ締切ヲ爲シタ
ル日ニ於ケル預託金現在高ノ證明ヲ日本銀行ニ對シ請求スヘシ

第六十一條 前任出納官吏ハ第八號書式ノ現金現在高書又ハ現金及預託金
現在高書並其ノ引繼クヘキ帳簿、證憑其ノ他ノ書類ノ目錄各二通ヲ調製
シ後任出納官吏立會ノ上現物ニ對照シ受授ヲ爲シタル後現在高書及目錄
ニ年月日及受授ヲ了シタル旨ヲ記入シ兩出納官吏ニ於テ記名捺印シ各一
通ヲ保存スヘシ

第六十二條 前條ノ手續ヲ了シタルトキハ前任出納官吏ハ後任出納官吏ト
共ニ記名捺印ノ上預託金現在高引繼通知書ヲ所屬官廳及日本銀行ニ送付
スヘシ

前項ノ通知書ニハ前任出納官吏ノ振出シタル小切手ニシテ日本銀行ニ於
テ未ダ支拂ヲ了セサル金額ヲ區分記載スヘシ

第六十三條 第二十四條ノ規定ニ依リ調製スヘキ現金拂込仕譯書ハ後任收
入官吏ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第六十四條 前任出納官吏死亡又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ引繼ヲ爲スコト能

銀行統轄店又ハ特設代理店ニ送付スヘシ
前項ノ規定ニ依リ統轄店ニ送付スル場合ニ於テハ小切手ノ支拂店ヲ經由
スヘシ

第七十二條 出納官吏第三十九條又ハ第五十六條ノ規定ニ依リ送金ヲ依頼
シタル後其ノ必要ナキニ至リタルトキハ支拂未了ナル場合ニ限リ日本銀
行ニ對シ預託金ニ戻入ヲ請求スヘシ其ノ小切手振出日附後一年ヲ經過シ
仍支拂ヲ了セサルモノニ付亦同シ

附則

第七十三條 本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第七十四條 左ノ大藏省令ハ之ヲ廢止ス

出納官吏現金取扱規則
明治三十年大藏省令第一號

帝國鐵道會計所屬出納官吏雜部保管金取扱手續

艦隊經費ヲ取扱フ出納官吏雜部保管金取扱手續

第七十五條 本令施行前金庫ニ寄託ヲ爲シタル現金ハ本令ニ依リ日本銀行
ニ預託シタルモノト看做ス

第七十六條 本令施行前發行シタル保管金引出切符又ハ雜部保管金仕拂通
知書ハ本令ニ依リ發行シタル小切手又ハ預託金支拂通知書ニ準シテ之ヲ
取扱フヘシ

第一號書式

現金拂込書

大正「何」年度

第「何」號

「所管廳」	「歳入徴收官官氏名」
「經常(臨時)」	「取扱」

金

上記ノ金額拂込候也

大正「何」年「何」月「何」日

「何廳主任收入官吏官氏名」
又、「何廳主任收入官吏官氏名所屬」
「何廳分任收入官吏官氏名」

日本銀行「何」店 印

通知書

大正「何」年度

第「何」號

「經常(臨時)」	「何廳主任收入官吏官氏名」氏名所屬」 「何廳主任收入官吏官氏名」 「何廳分任收入官吏官氏名」
----------	--

金

上記ノ金額領收済ニ付通知候也

大正「何」年「何」月「何」日

日本銀行「何」店 印

「歳入徴收官官氏名」宛

領收證書

大正「何」年度

第「何」號

「所管廳」	「歳入徴收官官氏名」
「經常(臨時)」	「何廳主任收入官吏官氏名」氏名所屬」 「何廳主任收入官吏官氏名」 「何廳分任收入官吏官氏名」

金

上記ノ金額領收候也

大正「何」年「何」月「何」日

日本銀行「何」店 印

第二號書式

大正「何」年度

大正「何」年「何」月「何」日

大正「何」年「何」月「何」日

摘要	金額	備考
前月迄拂込未済計		
本月中現金領收高		
本月中現金拂込高		
差引(翌月～越)		

「主任(又ハ分任)收入官吏官氏名」
「歳入徴收官官氏名宛」

備考

- 一 用紙寸法 縦 五寸六分 輪廓寸法 縦 四寸五分 横 三寸八分 三寸三分
 - 二 特別會計ノ歳入金ニ付テハ年度ノ次ニ特別會計名ヲ記載スルモノトス
 - 三 金額、番號、年度、特別會計名、所管廳名、歳入徴收官官氏名及經常臨時部名ハ收入官吏ニ於テ記入スルモノトス
- 田霧田霧 田霧田霧 田霧田霧

備考 用紙ハ美濃判四分ノ一トス

城川 田坂 兼四郎 田坂世貞

第三號書式

預託金抄込書

第「何」號

金

上記ノ金額預託候也

大正「何」年「何」月「何」日

「何」縣出納官吏官氏名「何」

日本銀行「何」店宛

備考
用紙 適宜
用紙寸法 美濃判四分ノ一
原符ハ適宜之ヲ設クモコトヲ得

二尺六

第四號書式

預託金支拂通知書

前記ノ金額領收候也

大正「何」年「何」月「何」日

「何」縣(又ハ)艦船
出納官吏官氏名「何」

前記ノ金額日本銀行本店(何)地支店又ハ代理
店ニ於テ受領セラレシ

大正「何」年「何」月「何」日

「何」縣出納官吏官氏名「何」

「何」縣(又ハ)艦船
出納官吏官氏名「何」

第「何」號

取扱總名

預託金取扱日本銀行名

金

備考
一用紙寸法 縱五寸二分 横六寸三分
輪廓寸法 縱四寸六分 横五寸四分
二本書ハ左方ニ設クハシ
八分ノ總代ヲ
三支拂指定日本
銀行ニ於テ支
拂ノ上ハ本書
ヲ預託金取扱
日本銀行ニ送
付スベシ

第五號書式

(一般會計)

國庫納金領表

收入取扱官廳

所管廳	年	度	現金又ハ小切手	國庫納金者氏名	俸給又ハ給料金	國庫納金額	備	考
		上	記ノ國庫 大正「何」 「何」縣資金 收入 備考 用紙ハ 美濃判半截トス	納金領拂 年「何」月「何」日 前官吏官氏 名「何」	達候也 氏名「何」			

第三章 田坂 兼四郎 田坂世貞

二九七

收入取扱官職

第五號ノ二書式
(一般會計)

健康保険料被保険者負擔金表

所管廳	年	度	現金又ハ小切手	健康保険被保険者氏名	報酬額	保険料負擔金	備考

上記ノ健康保険料被保険者負擔金拂込候也

昭和「何」年「何」月「何」日

「何」廳資金前渡官吏官氏名」

「何」廳收入官吏官氏名」宛

【外書】

第六號書式

收入取扱官職

【外書】

相殺額表

所管廳	年	度	現金又ハ小切手	相殺相手方氏名	相殺金額	備考
			現金又ハ小切手	相殺相手方氏名	相殺金額	備考

上記ノ相殺金額拂込候也

大正「何」年「何」月「何」日

「何」廳收入官吏官氏名」宛

備考 用紙ハ美濃判半成トス

第七號書式(表面) 預託金支拂通知書

前記ノ金額日本銀行本店(何地支店又ハ代理店)	小切手振出日附
於テ受領セラレシ	取振振名
大正「何」年「何」月「何」日	預託金支拂日本銀行名
「何某又ハ」	前記ノ金額領收候也
何處出納官吏氏名「號」	印紙入
	大正「何」年「何」月「何」日
	住所
	受取人
	又ハ「何」處出納官吏
	官氏
	名「某」

備考
一用紙寸法
二本費ハ左
三領收證書
モノハ其
ヲ要ス
紙ノ貼用
ノ貼用場
所ニ「要
印紙」ノ
印ヲ捺捺
スヘシ

注意事項

- 一受取人ハ表面領收證ノ部ニ年月日及住所ヲ記入シ諸名捺印スヘシ但シ官吏更ニ在リチハ官廳名又ハ公共團體名
- 二受取人ノ印章ハ請求書ニ捺捺シタルモノト同一ノモノニ捺印スルカ又ハ別ニ委任狀ヲ差出スヘシ此ノ場合ニ於テ
- 三受取人カ代理人ヲ以テ現金支拂ノ請求ヲ爲サトスルトキハ本人ニ於テ本書委任欄内ニ相當ノ事項ヲ記載シ記名
- 四受領金額五圓以上ノモノハ規定ノ收入印紙ヲ貼附消印スヘシ但シ營業ニ關セサルモノハ此ノ限ニ在ラズ銀行ハ
- 五小切手振出ノ日附ヨリ一箇年ヲ過ケルトキハ日本銀行ハ
- 六本書ヲ亡失シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ拂渡ヲ受クヘキ日

委任狀

表面金額ノ受取方ニ委任致候也

住所

何

大正「何」年「何」月「何」日

印紙入

某「某」

【本金要】

第八號書式甲

現金現在高書

種類	金額	備考
通引		上記ノ大正「何」年「何」月「何」日
出納		「前」任
出納		「後」任
出納		備考

第八號書式乙

現金及預託金現在高書

現金在高	預託金現在高	計	振出済小切手	備考
			支拂未済高	
通引	大正「何」年「何」月「何」日	繼テ了シ「何」日		
出納	「前」任	出納官吏		
出納	「後」任	出納官吏		
出納		備考		

●在外國收入官吏ノ現金拂込方ニ關スル特例ノ件

例ノ件

○會計課長移謀官會六百三號 大正十一年十月二十六日
今般大藏省ヨリ別記ノ通り通牒アリタルニ付爲念及移牒

(別記)

○大藏省主計局長通牒主計發第六十二號 大正十一年十月四日
在外國收入官吏ノ現金拂込方ニ關スル特例ニ付別紙甲號ノ如ク外務省ヨリ協議有之乙號ノ通同答致置候條貴省所管收入官吏ニシテ外國ニ於テ收入金ヲ取扱フ場合ハ右ノ例ニ準シ御取扱相成異存無之依命此段及御通牒候也

(別紙)

(甲號)

○外務省會計課長照會普通第三百八十七號 大正十一年六月十九日
從來本省所管在外公館收入官吏ノ領收シタル現金拂込方ニ關シテハ明治三十年勅令第五八號ニ依リ每三ヶ月一回拂込トナスコトヲ得、實際適當ナル取扱方ト認メラレタルカ令回會計法ノ改正ニ伴ヒ該規程廢止セラレタル結果本年度以來毎月現金拂込ヲ要スル次第ナル處之ヲ執務上ノ實狀ニ徴スルニ在外公館ハ收入ヲ目的トスル官廳ニ非サルヲ以テ其ノ收入取扱額ハ甚々僅少ニシテ從來每三ヶ月一回拂込ノ場合ニ於テスラ收入皆無ノ公館少カラズ之ヲ毎月拂込ニ改ムルニ於テハ皆無ノモノ愈々多キヲ加フルニ至ルヘタス之ヲ收入アルモ其ノ額ハ些少ナルヘシ又爲替取組ノ度數増加スルニ從ヒ取扱銀行ニ於テ徵セラルル手数料モ多少増加スルヲ免レス而シテ海外ヨリノ送金ニ當リテモ船便及經路等ノ關係ニヨリ數ヶ月分同時ニ到着スルノ場合

〔文會例〕

○文部大臣訓令 明治二十六年十二月二十二日

直轄各部

直轄各部ニ於テハ會計事務ヲ主掌セシムル爲(任拂豫算)ヲ異ニスル部分毎ニ會計主任ヲ置クヘシ

此訓令ハ明治二十七年一月一日ヨリ施行ス

●文部本省收入官吏、歳入歳出外現金出納官吏ノ件

○文部大臣訓令 明治二十六年十二月二十二日

大臣官房會計課

改正 明治四年一月一〇月

文部本省收入官吏歳入歳出外現金出納官吏ハ明治二十七年一月一日以降會計課出納掛長ノ職ニ在ル者ヲ以テ之ニ充ツ但必要アルトキハ局部ヲ限リ特ニ收入官吏歳入歳出外現金出納官吏又ハ分任官ヲ増置スルコトアルヘシ

●收入官吏ト歳入歳出外現金出納官吏ト兼掌スヘキ件

○大藏省訓令第三號 明治三十七年一月二十三日

收入官吏

收入官吏タルモノハ歳入歳出外現金出納官吏トシテ歳入歳出外現金出納ノ職務ヲ兼掌スヘシ但シ各廳長官ハ必要ト認ムルトキ官吏ヲ命スルコトヲ得

第三章 出納 第四節 出納官吏

モアリ又該拂込金ハ邦貨換算上違算ナキヲ期スル爲一旦事務監理廳タル本省ヲ經由スル取扱ナルニヨリ該拂込書通數多キニ從ヒ本省ニ於ケル検査ニモ日數ヲ要スル等諸般ノ事情ニヨリ事實上ハ數ヶ月分同時ニ國庫ニ拂込ムノ結果ヲ生スル場合尠ラズト存セラレ候要之毎月拂込ハ收入ノ點ヨリ見テ實益少キ而已ナラス在外各館ニ於テモ本省ニ於テモ事務上ノ繁雜ト手續ヲ來シ却而拂込事務澁滞ノ結果ニ陥ルノ懸念ナキヲ保シ難ク候條在外公館現金拂込ハ一般内國官廳ト異リ上記ノ如キ特殊ノ理由存スル事情ヲ御察ノ上出納官吏事務規程第二十一條ニヨリ特例ヲ設ケ收入金ニ限リ現金拂込期限ヲ每三ヶ月若クハ四ヶ月一回トナシ得ル様至急御詮議相成度此ノ段及御協議候也

(乙號)

○大藏省主計局長回答 大正十一年十月四日

六月十九日付會普通第三八七號ヲ以テ收入官吏ノ現金拂込方ニ關シ御協議有之候處右ハ左記ノ通り御取扱相成候様致度此ノ段及御回答候也

記

- 一 日本銀行代理店(一般的ニ國庫金ノ出納事務ヲ取扱ハサル倫敦、紐育、浦鹽斯德、哈爾濱、長春、亞港、各代理店ヲ除ク)ノ設アル地方ニ在動スル在外國收入官吏ノ現金拂込方ニ付テハ出納官吏事務規程第二章第二節ノ規定ニ依ルコト
- 二 日本銀行代理店ノ設ナキ地方ニ在動スル在外國收入官吏ノ取扱ニ係ル收入金ハ每三ヶ月一回若ハ數回ニ取纏メ拂込ミ得ルコト

●直轄各部ニ會計主任設置方ノ件

〔文會例〕

●出納官吏命免ノ件

○文部大臣訓令 明治三十五年十月四日

改正 昭和四年一四號

- 一 直轄各部ニ於ケル出納官吏ハ當該部局長之ヲ命スヘシ
- 二 出納官吏、物品會計官吏ノ異動アリタルトキハ其ノ都度其ノ年月日、部局、官氏名ヲ報告スヘシ

(參照)

○會計規則第二百五條

出納官吏ハ各省大臣又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏之ヲ命ス

○學校及圖書館出納事務取扱規程第二十五條

學校及圖書館ニ會計主任ヲ置キ書記中ヨリ之ヲ命スヘシ
會計主任ノ命免ハ其ノ都度文部省ニ報告スヘシ
收入官吏、歳入歳出外現金出納官吏、物品會計官吏ハ會計主任ヲ以テ之ニ充ツヘシ但シ物品會計官吏ハ他ノ官吏ニ之ヲ命シ若クハ二人以上ヲ設クルコトヲ得

●歳入歳出外現金出納官吏ト預金部預金取扱主任官ト同一人ニ命令ノ件

○會計課長通牒發會百七十五號 大正十一年六月二十三日

直轄部局長

保管ニ屬スル現金ノ取扱者タル歳入歳出外現金出納官吏ト預金部預金取扱規程第二條ノ取扱主任官トハ責任ノ關係上同一人ニ御命令相成方穩當ナル

第三章 出納 第四節 出納官吏

第一條 大藏大臣ノ指定スル地ニ在勤スル資金前渡官吏ハ其ノ保管ニ屬スル現金ヲ當分ノ内其ノ地ノ郵便局ニシテ大藏大臣ノ指定シタルモノニ預入ルヘシ但シ常時小口ノ現金支拂ヲ要スル場合ニ於テ支出官ノ定ムル所要金額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二條 大藏大臣ノ指定スル地又ハ其ノ最寄ノ地ニ在ル取扱官廳又ハ供託局ノ取扱ニ係ル保管金、供託金其ノ他ノ現金ハ當分ノ内當該取扱官廳又ハ供託局ノ出納官吏ヲシテ之カ保管ヲ爲サシムルコトヲ得

第三條 大藏大臣ノ指定スル地ニ在ル取扱官廳又ハ供託局ノ取扱ニ係ル政府ノ所有又ハ保管ノ有價證券ハ當分ノ内當該取扱官廳又ハ供託局ニ於テ之カ保管ヲ爲スコトヲ得

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●文部本省會計課金庫規定

○會計局長決定 明治二十二年十月十日

- 第一條 金庫ハ金銀公債證券其他ノ貴重品ヲ保管ス
第二條 金庫ノ鑰鑰ハ出納掛長之ヲ管守スヘシ
第三條 金庫主任ハ金庫保管品ノ出入ヲ金庫受授簿ニ登記シ其ノ出納ヲ明

- 一 被害ノ日時及場所
二 被害ノ原因タル事實ノ狀況
三 被害金額
四 被害事實發見ノ動機
五 平素ニ於ケル現金管守ノ方法
六 責任者處分濟ノ場合ニ於テハ其ノ要旨

●出納官吏保管金紛失ノトキ報告方

○大藏省訓令第十四號 明治二十四年三月九日

當省所屬出納官吏保管ノ金員ヲ紛失シタル節ハ大藏省ニ於テ臨時検査員派出ノ都合有之候條右事實發覺次第直ニ報告スヘシ

●會計検査院事務章程第三十三條ノ場合ニ於テ直ニ報告ヲ要スル件

○會計検査院長通牒第三百七十八號 明治三十三年六月十八日
會計検査院事務章程第三十三條ノ場合ニ於テ自今直ニ御報告相成度同條ノ規定ニ依リ此段及要求候也

第三章 出納 第四節 出納官吏

カニスヘシ

第四條 金庫ハ出納掛長交替ノトキハ新舊出納掛長及検査掛長立會ノ上之ヲ受授ス出納掛長出張其他ノ事故ニ依リ代理者ヲ置クトキ亦之ニ準ス受授ヲ了シタルトキハ立會官吏記名調印シテ其願未ヲ會計課長ニ申報スヘシ

第五條 検査掛長ハ毎月一回金庫ヲ検査ス但時宜ニ依リ會計課長自ラ臨時検査ヲ施行シ又ハ施行セシムルコトアルヘシ

検査掛長ノ職務ハ監査掛長ノ職務トナレリ

●出納官吏ノ現金ニ被害アリタル場合報告方ノ件

方ノ件

○會計課長移牒官會六百九十二號 大正十一年十二月四日

出納官吏又ハ出納員ノ保管現金亡失又ハ費消等ノ事故發生ノ場合ニ於ケル報告方ノ件ニ關シ別記ノ通大藏大臣ヨリ通知越シノ次第モ有之ニ付事故發生ノ場合ニハ速ニ當省ヘ御報告相成度此段申進ム

○大藏大臣通牒第一萬三千二百二號 大正十一年十一月二十八日

出納官吏又ハ出納員ノ保管現金亡失又ハ費消等ノ事故發生ノ場合ニ於テ會計規則第三百三十條ノ規定ニ依リ御通知ノ際ハ左記事項御取調ノ上詳細御通知相成候條致度此段申進候也

(參照)

○會計検査院事務章程第三十三條

- 會計検査院ハ左ノ場合ニ於テ本屬長官ヲシテ直ニ報告ヲ爲サシムルコトヲ得
一 出納官吏其ノ保管スル現金ヲ亡失シタルトキ
二 各省大臣出納官吏ニ對シ賠償ヲ命シタルトキ
三 出納官吏ニ對スル公訴ニ附帶シテ國ノ代表者私訴ヲ提起シタルトキ

(參考)

●盜難ニ罹リタル保管金ニ對スル私訴提起ノ件

○司法省會計課長回答 明治三十五年四月二十一日

出納官吏ノ賠償如何ニ關セス私訴提起スヘシ

○北海道集治監典獄照會 明治三十五年四月十九日

●出納官吏ノ賠償責任ノ免除ニ關スル件

○勅令第八十二號 昭和十三年二月十一日

出納官吏又ハ出納員ノ賠償責任ニ基ク債務ニシテ昭和十三年二月十一日前ニ於ケル事由ニ因ルモノハ將來ニ向テ之ヲ免除ス但シ犯罪行為ニ因ル本人ノ債務ハ此ノ限リニ在ラス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五節 帳簿

●會計規則及各特別會計規則ノ規定ニ依リ
調製スルコトヲ要スル帳簿ノ様式及記入
ノ方法並書類ノ様式(抄)

○大藏省令第二十號 大正十一年三月二十九日

改正

大正一三年第九號、一四年第一〇號、一五年第三八號、昭和元年第六號、二年第四號、
第二〇號、第三〇號、四年第三號、第五號、第一三號、第一八號、五年第一五號、六年
第三四號、七年第七號、八年第一一號、九年第一〇號、第一三號、一二年第三五號、一
三年第八號、第一〇號、第一四號、第四四號、第四五號、第四六號、一四年第九號、一
九號、第三〇號、第三四號、第四二號、第四九號、一五年第八號

會計規則及各特別會計規則ノ規定ニ依リ調製スルコトヲ要スル帳簿ノ様式
及記入ノ方法並書類ノ様式左ノ通之ヲ定ム

- 一 支拂豫算書 別表第一號書式ニ依ル
- 一 支拂豫算更正計算書 別表第二號書式ニ依ル
- 一 年度開始前支出計算書 別表第三號書式ニ依ル
- 一 徵收報告書 別表第四號書式ニ依ル
- 一 徵收總報告書 別表第五號書式ニ依ル
- 一 徵收簿 別表第六號書式ニ依ル
- 一 歲入簿 別表第七號書式ニ依ル
- 一 支出清額報告書 別表第八號書式ニ依ル
- 一 支出總報告書 別表第九號書式ニ依ル

第三章 出納 第五節 帳簿

- 一 繰越計算書 別表第十號書式ニ依ル
- 一 支出簿 別表第十一號書式ニ依ル
- 一 歲出簿 別表第十二號書式ニ依ル
- 一 現金領收證書 別表第十三號書式ニ依ル
- 一 現金出納簿 別表第十四號書式ニ依ル
- 一 特別會計支拂元受高差引簿 別表第十六號書式ニ依ル

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
左ノ大藏省令ハ之ヲ廢止ス

- 明治二十三年大藏省令第九號
 - 明治二十六年大藏省令第三十二號
 - 明治三十年大藏省令第五號
 - 明治四十年大藏省令第十七號
 - 明治四十二年大藏省令第十六號
 - 明治四十三年大藏省令第四十五號
 - 明治四十五年大藏省令第九號
 - 大正五年大藏省令第三號
 - 大正五年大藏省令第二十一號
 - 大正十年大藏省令第十一號
 - 大正十年大藏省令第十六號
- 本令施行ノ際現存スル帳簿及用紙ハ當分ノ内之ヲ取繕ヒ使用スルコトヲ
得
(別表)

第一號書式

支拂豫算書

何省所管 某年度歳出(何々會計歳出)經常部(臨時部)

支出官官氏名

日本銀行何店

款	項	金額
何	何何何	0 0 0 0

年 月 日
支拂豫算書ヲ調製スル官吏官氏名(宛)
大藏大臣(會計検査院長)宛

備考
一用紙ハ厚質罫砂引美濃紙トシ左方ニ約一寸ノ濶代ヲ設クヘシ第二號乃至第十號書式亦同シ
二本書式中日本銀行何店トアルハ支出官ノ振出ス小切手ノ支拂店名ヲ謂フ第二號、第三號及第十號書式亦同シ
三本書式ハ罫線其ノ他凡テ墨書スルモノトス第二號乃至第五號、第八號乃至第十號、第十三號、第二十七號乃至第三十三號書式亦同シ

第三章 出納 第五節 帳簿

第二號書式

支拂豫算更定計算書

何省所管 某年度歳出(何々會計歳出)經常部(臨時部)

支出官官氏名

日本銀行何店

款	項	増	減
何	何何	0 0	0 0

年 月 日
支拂豫算書ヲ調製スル官吏官氏名(宛)
大藏大臣(會計検査院長)宛

三〇

第三號書式

何省所管 支出官官氏名

某年度歳出(何々會計歳出)經常部(臨時部)

日本銀行何店

款	項	金額	預
何	何何	0 0 0	0

年度開始前支出計(會計検査院長)宛
年度開始前支出計(會計検査院長)宛

年 月 日

[文會部]

第七號書式

「某年度歳入(何々會計歳入)經常部(臨時部)歳入簿」

第三章 出納 第五節 帳簿

年月日	摘要	徴收報告年月	廳名	豫算額		調定済額		収入済額		不納損額		収入未済額		豫算額と調定済額との差	
				圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓
何何何	調定外誤納額	何何	何廳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
備考	一歳入簿ノ詳細ヲノトス 二大學特別會計規則第二十九條ノ歳入支簿ハ此書式ヲ準用ス	明ニスル爲要スル補助簿ハ適宜各廳ニ於テ設クルモ													

第八號書式

支出済額報告書

某年度歳出(何々會計歳出)經常部(臨時部)

何省所管

何年何月分

款	項	支出済額			備考
		本月分	前月迄累計	合計	
何	何	0	0	0	定額戻入0. 更正減額何々0.
備考	何	0	0	0	
		年 月 日 支出官 官氏名			
備考	定額戻入第九號特別會計テハ支日及本報告ルコト	入及更正第十一號、計ニ於テハ支氏名ハ所管ヲ得	減額第十二號、支出報告書シ必要アリ	ハ金額事第十二號報告書ハ必要アリ	由ト第及第二十六號書式ニ依リテ送付ノ順序ニ於テハ

三一七

第五號書式丁

徴收總報告書ト日本銀行月計突合表トノ差額仕譯書

第三章 出納 第五節 帳簿

某年度歳入(何々會計歳入)

何省所管

何年何月分

廳名	徴收報告書年月	差額		事由
		突合表ノ方超過	突合表ノ方不足	
何何	何何	0	0	何々々々
備考	年 月 日	廳名		
備考	本書ハ徴收總報告書ト日本銀行月計突合表トノ差額ノ内譯トシテ徴收總報告書ニ添付スルモノトス			

〔文會例〕

第六號書式

「某年度歳入(何々會計歳入)經常部(臨時部)徴收簿」

何々(款) 何々(項)何々(目)

年月日	摘要	調定済額	収入済額	不納損額	収入未済額
何何	調定外誤納額	0	0	0	0
備考	歳入徴收官ノ備フヘキ式ニ依ル	徴收簿ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外此ノ	入スヘキ額ノ確定シタルモノノ報告ヲ受ケタル額ヲ	ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外此ノ	納額トスルモ
備考	調定済額ノ欄内ニハ納額ノ詳細ヲ明ニス	誤納アル額ヲ要スル爲要	リタルトキハ摘要欄内ニ記入ス	ハ摘要欄内ニ記入ス	定額戻入ノ額ヲ得
備考	但シ便宜本簿中ニ統括シテ記入スルモノトス	又ハ款、項、目、節、別ノ格ヲ示ス	至第二十六號書式	之ヲ朱線トス	第七號、

三一六

第十一號書式

「某年度歳出(何々會計歳出)經常部(臨時部)支出簿」

何々(款)		何々(項)	
年月日	摘要	支拂 算額	支出 済額
何何	年何何	0	0
何何	定額戻入 更正減額何々	0	0
備考	支出簿ノ詳細ヲ明ニスル爲要 但シ便宜本簿中ニ統括又ハ款、 十二號書式亦同シ	スル補助簿ハ 項、目、節別	適宜各廳ニ於テ設クルモノ ノ口座ヲ設クルコトヲ得第

第十二號書式

「某年度歳出(何々會計歳出)經常部(臨時部)歳出簿」

何々(款)		何々(項)	
年月日	摘要	豫算額	支出 済額
何何	年何何	0	0
何何	前年度ヨリ越 入々充 定額戻入々 正減額何々 豫備費ヨリ補 翌年度へ	0	0
備考	歳出簿ノ詳細ヲ明ニスル爲要 スル補助簿ハ適宜各廳ニ於テ設クルモノト 大學特別會計規則第三十二條ノ歳出支簿ハ此ノ書式ヲ準用ス		

〔文會例〕

第九號書式

支出總報告書

某年度歳出(何々會計歳出)經常部(臨時部)

何省所管

何年何月分

款	項	支出 済額			備考
		本月分	前月迄累計	合計	
何	何何	0	0	0	定額戻入0.更正 減額何々0.
		0	0	0	
		0	0	0	
備考	支出總報告書ヲ調製スル官吏官氏名 大學特別會計規則第二十條ノ四ノ支出済額集計 ハ此ノ書式ヲ準用ス	年	月	日	

第十號書式

繰越計算書

某年度歳出(何々會計歳出)經常部(臨時部)

款	項	豫算 定額	小切手振 出額 振出額	手振及 振込額	豫算定 額不用 額	翌年度へ 繰越額		事由
						繰越承 認済額	要繰 越額	
何	何何	0	0	0	0	0	0	何々ノ事由ニ因リ會計法 第何條(何々會計規則第 何條)ニ依リ繰越ヲ要ス 何々
		0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	
備考	小切手振出額 振込額 手振及振込額 豫算定額不用額 繰越承認済額 要繰越額	年月日	所管大臣氏名	團	出スヘキ額ノ内ニハ既ニ支出スヘキ額ヲ揚 キ額ノ欄ノ内ニハ既ニ支出スヘキ額ヲ揚 スヘキ金額ハ本書小切手振 次ニ支出未済トシテ翌年度 スルモノトス			

〔文會例〕

第十三號書式

(原 符)

第何號 某年度(某年度何々會計)	何	某納
何郡市町村何番地	何	何
經常(臨時)	何々々	(款)
何々々(項)	何々々	(目)
金		
年月日 領收		
收入官 氏名 印		

「現金領收證書」

第何號 某年度(某年度何々會計)	何	某納
何郡市町村何番地	何	何
經常(臨時)	何々々	(款)
何々々(項)	何々々	(目)
金		
上記ノ金額領收済ニ付報告候也		
年月日		
何職主任收入官吏 氏名 印		
又ハ何職主任收入官吏 氏名 印		
何職主任收入官吏 氏名 印		
領收済報告書ハ原符ヲ以テ代用シ報告書ヲ省略スルコトヲ得		

領收證書

第何號 某年度(某年度何々會計)	何	某納
何郡市町村何番地	何	何
經常(臨時)	何々々	(款)
何々々(項)	何々々	(目)
金		
上記ノ金額領收候也		
年月日		
何職主任收入官吏 氏名 印		
又ハ何職主任收入官吏 氏名 印		
何職主任收入官吏 氏名 印		

備考
 一 用紙寸法 縦五寸六分 輪廓寸法 縦四寸五分 ノモノ三枚接続
 二 會計規則第三十三條ノ規定ニ依リ交付スルハキ領收證書ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外此ノ書式ニ依ル
 三 官廳間ノ收入金ニシテ歳出金支拂通知書ニ領收シテ收納シタルトキハ此ノ領收證書ヲ送付セズ
 四 領收證書郵送ノ必要アル場合ニ於テハ式ノ如ク記入シタル郵便葉書ヲ使用スルコトヲ得
 五 歳入歳收官ト同一官廳内ニ在ル收入官吏ノ收納済報告書ハ原符ヲ以テ代用シ報告書ヲ省略スルコトヲ得

【大令書】

【大令書】

第十四號書式 「現金出納簿」

年月日	摘要	受		拂		残	
		現金	預金	現金	預金	現金	預金
何何	何々金何某ヨリ收入(又ハ受入)	0				0	
何何	日本銀行何店へ拂込何々金支出官何某ヨリ受入	0		0			
何何	日本銀行店何へ預託何々金何某へ拂渡ノ爲小切手振出	0	0	0	0		
何何	何々金日本銀行何店ヨリ預金部預金振込濟ノ通知ヲ受ク	0	0			0	
何何	何々金何某へ拂渡ノ爲小切手振出	0		0			0

備考
 一 本簿ハ便宜式ト爲ス
 二 現金ヲ預託又ハ預入揚ケ同時ニ預金ニシテ入金取細區簿得
 三 現金又ハ預金ノ計ノ現金、預金、計ノスルモ妨ケナシ
 四 出納員ノ備フヘキ本簿式ヲ定ムルコトヲ得

第二十六號書式

「某年度何々會計支拂元受高差引簿」

年月日	摘要	支拂元受高	支出済額	残 額
何何	前年度ヨリ越歳入	0		0
何何	定額戻入	0	0	0
何何	更正減額何々	0	0	0
何何	翌年度へ越何々		0	0

●大藏省所管歳入及歳出ノ帳簿及計算書取扱方

○大藏省訓令第十四號 大正十一年四月一日
改正 大正一二年第七號

大藏省所管歳入徴收官
大藏省所管経費支出官

當省所管歳入及歳出ノ帳簿及計算書取扱方左ノ通相定メ大正十一年度ヨリ之ヲ施行ス

第一條 會計規則第五十六條ニ依リ支出官ニ於テ備フヘキ支出簿ハ款、項、目節ノ口座ヲ設クヘシ但シ別ニ補助簿ヲ備ヘ之ヲ整理スルコトモ妨ケナキモノトス

第二條 會計規則第六十六條ニ依リ支出官ノ送付スヘキ支出報告書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ
一 過年度支出ヲ爲シタルモノアルトキハ其ノ費途、金額、所屬年度及事由ヲ詳記シタル調書

二 三月分報告書ニハ四月ニ於テ支出スヘキ見込額、翌年度繰越見込額及不用見込額ヲ項別ニ区分シタル調書

三 四月分報告書ニハ支拂豫算額、流用増減額、支出済額、翌年度繰越額及不用トナリタル支拂豫算殘額ヲ目別ニ区分シ流用増減ノ科目金額並不用額ヲ生シタル事由ヲ詳記シタル調書但支出済額ハ過年度ニ屬スル分ト其ノ年度ニ屬スル分トヲ區別スヘシ

第三條 毎月支出済額報告書ハ翌月五日以内ニ發送スヘシ

〔文會例〕

〔第二號書式甲〕

〔ノ内朱〕

大	正	何	年	度
支	出	内	課	簿
文	部	省		

第四條 會計規則第七十三條ニ依リ歳入徴收官ニ於テ同第七十四條ニ依リ支出官ニ於テ計算證明ノ爲會計検査院ニ提出スル諸計算書ハ別ニ定アルモノヲ除ク外歳入徴收官及支出官タル當該官ヨリ直ニ同院ニ送付スヘシ但シ會計検査院ノ審理ニ對スル答辯書ハ當省ヲ經由スヘキモノトス

附則

左ノ訓令ハ大正十年度分限之ヲ廢止ス
明治二十六年大藏省訓令第五十二號
明治三十一年大藏省訓令第五十五號
明治三十一年大藏省訓令第六十一號
明治三十二年大藏省訓令第三號

●文部本省経費計算諸帳簿等様式

○會計課長通牒 明治二十六年十二月二十七日
改正 明治三六年一月

直轄各部

〔注意〕

支出簿及歳出簿等ノ書式ハ大正十一年三月大藏省令第二十號ヲ以テ定メラレタルニ付本件様式ハ廢止セラレタル次第ナルモ支出内課簿及概算整理簿ノ如キハ補助簿トシテ準用シ得ラルヘキニ付此ノ儘存シタリ
(補助簿ハ各官廳適宜之ヲ定ム)

〔文會例〕

年月日	摘	(項)		支出済額	支拂豫算額	支拂豫算殘額	備考
		支	拂				
大正年	受取人名	算	額	圖	圖	圖	一 本欄ニハ科目訂正、誤記取消、流用増減、定額戻入、支拂委任、支拂委任更正等特殊ノ事故ヲ掲記スルモノトス 一 支拂命令ニシテ各目、節ニ渉ルモノハ一仕拂命令ノ金額何程ノ内ト掲記スルモノトス
	小切手番						

〔第三號書式〕

大 正 何 年 度
支 出 概 算 渡 整 理 簿

文 部 省

〔備考〕
現金前渡アルトキハ別ニ整理簿ヲ置カス此帳簿ノ末ニ該部ヲ設ケ
本帳簿中「概算渡高」ノ欄ヲ「現金前渡高」ト改ムルコト

〔文會例〕

1. 何々(款) 何々(項) 何々(目) 1.

年月日	摘要	概算 渡高	精算高		未精 算高
			支出	定額 戻入	
大正 年 何 何	何官何某何處へ出張旅費概算渡	150,000			150,000
	何同上精算		143,800		6,200
	何同上精算剩餘額定額へ戻入			6,200	0
	何何々	30,000			30,000
	何何々	50,000			80,000
	何何々	20,000			100,000
	追次精高	250,000	143,800	6,200	

年月日	摘要	受取人名	小切手番號	精算事由	概算渡高	精算高		未精算高
						支出	定額戻入	
大正 年 何 何	前 業 越 高				250,000			
						143,800		
							6,200	
								100,000

〔文會例〕

● 出納官吏現金出納簿記帳方

○ 大藏省訓令第十號 明治三十五年三月二十四日

第三章 出納 第五節 帳簿

改正 大正四年第一五號

出納官吏現金出納簿ハ一人一冊トシ其ノ職務主管處ノ如何ヲ問ハス總テ混

出納官吏

記スヘキ管ノ處其ノ記帳方往々區々ニ相成居候向不都合ニ付自今左ノ通心得ヘシ

一 現金出納簿ハ一人一冊トシ其ノ職務主管職ノ如何ヲ問ハス總テ之ニ混記スヘシ(大正十一年一月大藏省令第二號第八條ニ依リ消滅)

一 現金出納簿ノ外別ニ補助簿ヲ設ケ其ノ職務並主管職ヲ區別整理スルハ妨ナシ

一 保管金收入金ヲ兼取扱フ出納官吏ニシテ保管金ヲ歳入ニ納付スル場合ニ於テハ特ニ收入トシテ受入ノ記帳ヲ爲サス直チニ金庫ヘ拂込ノ記帳ヲ爲スヘシ

一 現金ハ其ノ所屬年度ノ如何ニ拘ラス現ニ其ノ取扱ヲ爲シタル年度ノ帳簿ニ登記スヘシ

一 金種類ノ同一ナル數廉ノ受拂ハ毎日取攝メ記帳スルモ妨ナシ

一 誤記訂正ハ必ス朱書スヘシ

(參考)

●前渡資金出納計算書記帳方ノ件

○司法省會計課長通牒會甲第三千八百五十九號

大正十二年十一月八日

隔地ノ前金前渡官吏カ支出官ノ送付シタル前渡資金ノ延著其他ノ事由ニ因リ其月受入ヲ爲スニ至ラス翌月ニ於テ受入レタル場合ハ支出計算書ノ資金前渡本月支出額ト前渡資金出納計算書ノ本月領收額ト符合セサル事トナルヘキニ付此ノ場合ニ於テハ前渡資金出納計算書備考ニ不適合ノ事由ヲ明記シ被置度

[文會例]

●證書面金員數數等改作塗抹數字ノ書方帳簿ノ繼目綴目へ押印ノ件

○太政官達第七十七號 明治八年五月十二日

使 府 縣

金穀貸借證書面金員數數等ヲ改作塗抹シ又ハ一、二十等ノ數字ヨリ往々紛雜ヲ醸シ不都合ノ義不勝候間凡ソ他日ノ證據ヲ要スル書類ハ自今一、二十ノ數字ハ壹貳拾ノ字體ヲ用ヒ無餘義改作塗抹スル時ハ其處ニ押印シ且物品員數等一紙ニ書畫シ難ク又ハ帳簿ヲ爲スモノハ其繼目及ヒ綴目ニ押印シ總テ他日紛雜ノ基ヲ生セサル様深ク注意可致旨各管下ヘ可曉諭旨相達候事

●會計法規ニ基ク出納計算ノ數字及記載事項ノ訂正ニ關スル件

○大藏省令第四十三號 大正十一年五月三十日

第一條 會計法規ニ基ク出納計算ニ關スル諸書類帳簿ニ記載スル金額其ノ他ノ數單ニシテ「一」、「二」、「三」、「十」、「廿」、「卅」ノ數字ハ「壹」、「貳」、「參」、「拾」、「貳拾」、「參拾」ノ字體ヲ用ユヘシ

第二條 會計法規ニ基ク出納計算ニ關スル諸書類帳簿ノ記載事項ハ之ヲ改竄スルコトヲ得ス

前項ニ規定スル諸書類帳簿ノ記載事項ニ付訂正、挿入又ハ削除ヲ爲サムトスルトキハ二線ヲ劃シテ其ノ右側又ハ上位ニ正書シ其ノ削除ニ係ル文

[文會例]

[文會例]

字ハ仍明ニ讀得ヘキ爲字體ヲ存スルコトヲ要ス但シ金錢又ハ物品ノ受授ニ關スル諸證書ノ數字ハ之カ訂正ヲ爲スコトヲ得ス數字以外ノ事項ニ付訂正、挿入又ハ削除ヲ爲シタルトキハ其ノ字數ヲ欄外ニ記載シ作製者之ニ認印スルコトヲ要ス

附 則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(參照)

明治二十三年大藏省令第二十一號ハ之ヲ廢止ス

(參照)

明治二十三年九月四日大藏省令第二十一號ハ計算出納ニ關スル諸證書ニ記載スル金員ノ用字ヲ定ムルノ件ナリ

●證書整理方ノ件

○會計課長移牒 大正七年一月八日

直轄各部局長

○會計檢査院照會 大正六年十二月二十一日
貴省所管各官廳ノ提出ニ係ル證書ハ計算證明規程(第十一條)ニ依リ各目ニ區分編纂シタルモノヲ更ニ一括編纂シタルモノ多數有之右ノ場合ハ合本ノ表紙ニモ枚數ノ合計ヲ記載セシメラレ候様致度此段及照會候也

●諸證書ニ用ユル印章ノ件

○會計檢査院回答 明治十六年十二月十九日

○會計課長照會 明治十六年十一月二十九日

人民相互ノ諸證書面ニ實印ヲ用ユル等ノ儀ニ付テハ豫テ公布ノ趣モ有之候

處於當省金錢ノ領收及ヒ上納ノ爲其ノ本人ヨリ差出候證書面印章ノ儀ハ別ニ準據スヘキ成規モ無之ニ付從來人民ヨリ差出候分ハ實印商用印店判ノ内其ノ一ヲ定メ採用セシメ官吏備員等ニ在テハ實印又ハ花押小印ノ内便宜相用來候處右ニテ實際差支ノ有無問合ニ對シ檢査上差支無之旨回答アリ

(參考)

●領收證書ノ印紙貼用ニ關スル件

○司法省會計局通達會檢甲第七百九十六號

明治二十四年四月六日

裁判所會計部

會計檢査院ヘ差出候證明書類ノ内證書通信運搬費中郵便切手代受領證ニ受負人或ハ賣下人トノ肩書ニテ(五圓)以上ノ金額ニ對シ印紙無貼用ノモノ有之候得共郵便切手賣下所ハ郵便切手賣下人心得ニ依リ其賣下ヲ免許セラレタルモノニシテ一ノ營業ナリ反之(郵便受取所)ハ選信大臣之ヲ置キ其取扱人ハ同大臣ノ命スル所ノモノナレハ通常營業トハ大ニ其趣ヲ異ニスルモノナリ故ニ取扱人ヨリ差出ス受領書ニハ印紙ノ貼用ヲ要セサルモ受負人或ハ賣下人ヨリ差出ス受領書ニハ印紙ヲ貼用スヘキモノニ有之候條爲念及通達置候也

(參考)

●郵便切手購買ノ證書ニ關スル件

○司法省會計課長通達會檢甲第九百十六號

明治二十六年十二月二十五日

裁判所(仕拂命令官)

從來支出證明書類ノ内郵便切手購入ニ對シ郵便局ニ於テ領收證書ヲ提

出セサル場合ハ主任官吏ノ領收證書ニテ證明致來候向モ有之候處右ハ正當債主ノ領收證ニアラス又主任官吏ノ仕拂證ニモアラス證明規程ニ適セサル據アリトノ説ヲ以テ検査院ヨリ協議ノ旨有之候就テハ通信省ヘ問合せタルニ三等郵便局以下ハ代價領收證ヲ差出スモ差支ヘナシトノ事ニ付來ル二十七年一月一日以後ハ三等郵便局以下若クハ郵便切手賣下所ヨリ買收シ正當債主ノ領收證ヲ得テ證明相成度此段及御通牒候也

●帝國大學歲入中〔醫科大學〕附屬醫院ニ於ケル手術料等ニ係ル收入官吏領收證書式ノ件

○文部大臣訓令 明治三十六年三月
帝國大學歲入中〔醫科大學〕附屬醫院ニ於ケル手術料並療用品代等ニ對シ收入官吏ヨリ發スル領收證書式ハ〔明治二十六年大藏省令第三十七號ニ據ラス〕適宜之ヲ調製スルコトヲ得

●歲入歲出及物品等諸計算書類之儀二十箇年間保存ノ件

○會計検査院長通牒送第七十五號 明治四十四年十月二十日
歲入歲出及物品等諸計算書類之儀今般二十箇年間保存ノ事ニ決定致候就而ハ貴廳ヘ委託検査ニ係ルモノ有之候ニ付及御通知候尤モ右計算書ニ屬スル諸証憑書類ノ儀ハ是迄通り十箇年間ニテ廢棄處分可致候此段爲念申添候也

〔文會例〕

(備考)

●證明ノ爲メ提出シタル證憑書類廢棄ノ件

○内務省庶務課通牒檢甲第四號 明治三十三年三月十二日
今般會計検査院ヨリ當省所管各局部ヨリ計算證明ノ爲メ提出スル證憑書類ハ悉ク永遠ニ保存ヲ必要トスルモノノ外ハ當該會計年度十ヶ年後ニ至リ適當ノ方法ヲ以テ廢棄セントノ協議ニ對シ異存無之旨大臣ヨリ回答相成度候條依命此段及通牒候也
追テ廢棄處分執行ノ際ハ其ノ都度保存必要ノ有無同院ヨリ直接照會可相成管ニ付此段申添候也

第四章
決
算

第四章 決算

●經費決算報告書、特別會計決定計算書樣式改正並特別會計計算書ニ關スル件

○大藏大臣通達藏計第五百三十四號 昭和八年七月十一日

文部大臣

當省へ御送付可相成經費決算報告書、特別會計決定計算書並特別會計計算書ハ之ヲ別冊樣式ニ改正シ昭和七年度分ヨリ實施致候條此段及通達候也、(別冊)

○經費決算報告書樣式 (昭和八年七月藏計第五三四號) 大藏大臣通達ニ對スル分)

昭和何年度
何省所管經費決算報告書

昭和何年度何省所管經費決算報告書說明
第一 豫算決定後增加額

昭和何年度何省所管經費ノ

第四章 決算

[文會例]

豫算額ハ	歳出經常部	歳出臨時部	合計
ニシテ	豫算現額ハ	歳出經常部	歳出臨時部
ナリ	合計	歳出臨時部	合計
ナリ	ナリ故ニ豫算現額ノ豫算額ニ比シ増加スルコト	歳出經常部	歳出臨時部
ナリ	此ノ増加ヲ生シタルハ	合計	合計
ナリ	前年度ヨリ繰越シタル金額	豫備金支出	第一豫備金支出
ナリ	豫備金及豫備金外ニ於テ	第二豫備金支出	該當事項金額ナキ場合ハ
ナリ	豫備金支出	外臨時支出亦同シ	外臨時支出亦同シ
ナリ	豫備金外臨時支出		

第四章 決算

會計法第二十七條ニ依リ
ヲ繰越シタリ
歳出經常部合計(一款ノ場合ハ省略ス)
歳出臨時部
第何款 何々
第何項 何々ハ何年度ヨリ何年度ニ互ル繼續費(ノ内)ニシテ云々ヲ以テ
會計法第二十八條ニ依リ
第何項 何々ハ同上
會計法第二十八條ニ依リ

〇 〇 〇 〇 〇

項 目	款	何 省 所 管		備 考
		歳出經常部	歳出臨時部	
第一款 何々	〇円	〇円	〇円	項ニ於テ不用額ヲ生シタル事由ヲ説明スヘシ 目ニ於テ流用増減對應科目金額ヲ科目毎ニ掲記スヘシ 不用額ヲ生セシハ云々ニ依ル 流用増額 第何目ヨリ 〇円〇〇〇 流用減額 第何目ヘ 〇円〇〇〇 不用額ヲ生セシハ云々ニ依ル
二何	〇円	〇円	〇円	
一何	〇円	〇円	〇円	流用増額 第何目ヨリ 〇円〇〇〇 流用減額 第何目ヘ 〇円〇〇〇 不用額ヲ生セシハ云々ニ依ル
二何	〇円	〇円	〇円	
一何	〇円	〇円	〇円	流用増額 第何目ヨリ 〇円〇〇〇 流用減額 第何目ヘ 〇円〇〇〇 不用額ヲ生セシハ云々ニ依ル
二何	〇円	〇円	〇円	
歳出經常部	〇円	〇円	〇円	流用増額 第何目ヨリ 〇円〇〇〇 流用減額 第何目ヘ 〇円〇〇〇 不用額ヲ生セシハ云々ニ依ル
歳出臨時部	〇円	〇円	〇円	
項 目	款	預算額	前年度繰越額	預算決定後増加額 △増減額 △印ハ減額用
歳出經常部合計	〇	〇	〇	
歳出臨時部	〇	〇	〇	現豫算額 濟支額出 翌年度繰越額 不用額
第一款 何々	〇	〇	〇	
一何	〇	〇	〇	備 考
二何	〇	〇	〇	
第二款 何々	〇	〇	〇	備 考
一何	〇	〇	〇	
一何	〇	〇	〇	備 考
二何	〇	〇	〇	

〔文會例〕

〔文會例〕

項 目	款	何 省 所 管		備 考
		歳出經常部	歳出臨時部	
第一款 何々	〇円	〇円	〇円	流用増額 第何目ヨリ 〇円〇〇〇 流用減額 第何目ヘ 〇円〇〇〇 不用額ヲ生セシハ云々ニ依ル
二何	〇円	〇円	〇円	
一何	〇円	〇円	〇円	流用増額 第何目ヨリ 〇円〇〇〇 流用減額 第何目ヘ 〇円〇〇〇 不用額ヲ生セシハ云々ニ依ル
二何	〇円	〇円	〇円	
第二款 何々	〇円	〇円	〇円	流用増額 第何目ヨリ 〇円〇〇〇 流用減額 第何目ヘ 〇円〇〇〇 不用額ヲ生セシハ云々ニ依ル
一何	〇円	〇円	〇円	
一何	〇円	〇円	〇円	流用増額 第何目ヨリ 〇円〇〇〇 流用減額 第何目ヘ 〇円〇〇〇 不用額ヲ生セシハ云々ニ依ル
二何	〇円	〇円	〇円	
歳出經常部	〇円	〇円	〇円	流用増額 第何目ヨリ 〇円〇〇〇 流用減額 第何目ヘ 〇円〇〇〇 不用額ヲ生セシハ云々ニ依ル
歳出臨時部	〇円	〇円	〇円	
項 目	款	預算額	前年度繰越額	預算決定後増加額 △増減額 △印ハ減額用
歳出經常部合計	〇	〇	〇	
歳出臨時部	〇	〇	〇	現豫算額 濟支額出 翌年度繰越額 不用額
第一款 何々	〇	〇	〇	
一何	〇	〇	〇	備 考
二何	〇	〇	〇	
第二款 何々	〇	〇	〇	備 考
一何	〇	〇	〇	
一何	〇	〇	〇	備 考
二何	〇	〇	〇	

第四章 決算

第四章 決算

追テ本様式ニ據リ難キ事項又ハ將來新ニ設置セラル、會計ニ付テハ豫メ御協議相成度
各省經理局長又ハ會計課長宛大藏省主計局長通牒(司法省ヲ除ク)

(別冊)

○各特別會計決定計算書様式

(昭和八年七月歳計第五三四號ノ二)
大藏省主計局長通牒ニ對スル分)

營造物會計

- 一 帝國大學
- 二 帝國大學資金部
- 三 官立大學
- 四 官立大學資金部
- 五 學校及圖書館
- 六 學校及圖書館資金部

昭和何年度文部省所管帝國大學歳入歳出決定計

算書説明

昭和何年度帝國大學歳入歳出決定計算書ニ掲出スル所ノ

歳入ノ收入済額合計ハ

東京帝國大學

何々

合計

〇〇〇円

ニシテ

歳出ノ支出済額合計ハ

〔文會例〕

東京帝國大學
何々

〇〇〇

ナリ

トス

故ニ歳入ノ歳出ニ超過スルコト(次項ノ控除額ナキ場合ハ)歳入歳出差引

ナリト雖翌年度歳入ニ繰入スル

歳出ノ翌年度繰越財源ニ充ツヘキ金額

東京帝國大學

何々

合計

ヲ控除スレハ結局

東京帝國大學

何々

合計

〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

ノ殘餘ヲ生ス

該殘餘金ハ大正十年勅令第八十一號大學特別會計規則第二十七條ニ依リ維持資金ニ組入レ本年度ノ決算ヲ結了ス

後略

昭和何年度文部省所管帝國大學資金部歳入歳出決定計算書説明

〔文會例〕

ナリ

故ニ歳入ノ歳出ニ超過スルコト(次項ノ控除額ナキ場合ハ)歳入歳出差引トス

ナリト雖翌年度歳入ニ繰入スル

歳出ノ翌年度繰越財源ニ充ツヘキ金額

ヲ控除スレハ結局

ノ殘餘ヲ生ス

該殘餘金ハ大正十年勅令第八十一號大學特別會計規則第二十七條ニ依リ維持資金ニ組入レ本年度ノ決算ヲ結了ス

後略

昭和何年度文部省所管官立大學資金部歳入歳出決定計算書説明

昭和何年度官立大學資金部歳入歳出決定計算書ニ掲出スル所ノ

歳入ノ收入済額合計ハ

ニシテ

歳出ノ支出済額合計ハ

ナリ

故ニ歳入歳出差引

ノ歳入超過(不足)ヲ生ス

該超過金(不足金)ハ資金ノ現金増加額(現金減少額)トシテ本年度ノ決算ヲ結了ス

後略

昭和何年度文部省所管官立大學歳入歳出決定計

算書説明

昭和何年度官立大學歳入歳出決定計算書ニ掲出スル所ノ

歳入ノ收入済額合計ハ

ニシテ

歳出ノ支出済額合計ハ

〇 〇円

第四章 決算

第四章 決算

昭和何年度文部省所管學校及圖書館歳入歳出決定計算書説明

昭和何年度學校及圖書館歳入歳出決定計算書ニ掲出スル所ノ
 歳入ノ収入済額合計ハ
 ニシテ
 歳出ノ支出済額合計ハ
 ナリ
 故ニ歳入ノ歳出ニ超過スルコト(次項ノ控除額ナキ場合ハ「歳入歳出差引」トス)
 ナリト雖翌年度歳入ニ繰入スル
 歳出ノ翌年度繰越財源ニ充ツヘキ金額
 〇 〇 〇
 ノ控除スレハ結局
 〇 〇 〇
 ノ殘餘ヲ生ス

〇特別會計計算書改正ニ關スル件(昭和八年七月歳計第五三四號)大藏大臣通達ニ對スル分

何省所管

自昭和何年度 五箇年度間何々(特別會計ノ名稱)基金(資金又ハ積立金)増減表

至同 何年度

〔文會例〕

該殘餘金ハ明治四十年勅令第六十號學校及圖書館特別會計規則第二十二條ニ依リ維持資金ニ組入レ本年度ノ決算ヲ結了ス

昭和何年度文部省所管學校及圖書館資金部歳入歳出決定計算書説明

昭和何年度學校及圖書館資金部歳入歳出決定計算書ニ掲出スル所ノ
 歳入ノ収入済額合計ハ
 ニシテ
 歳出ノ支出済額合計ハ
 ナリ
 故ニ歳入歳出差引
 ノ歳入超過(不足)ヲ生ス
 該超過金ハ資金ノ現金増加額(現金減少額)トシテ本年度ノ決算ヲ結了ス
 後略

(其ノ一)

〔文會例〕

自昭和何年度 五箇年度間何々(特別會計ノ名稱)基金(資金又ハ積立金)増減表 (各年度末現在)

至同 何年度

名 稱	昭 和 何 年 度		昭 和 何 年 度		昭 和 何 年 度		昭 和 何 年 度		昭 和 何 年 度		比 較	差
	(本年)	(前年)	(本年)	(前年)	(本年)	(前年)	(本年)	(前年)	(本年)	(前年)		
(資金又ハ積立金)	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	増	減

本表ハ五箇年度ニ達セサル會計ト雖之ヲ調整スルモノトス

●決算報告書及特別會計決定計算書等二通 差出ノ件

〇大藏大臣通達 明治二十六年十一月十八日

文 部 大 臣

御省所管經費決算報告書特別會計歳入歳出決定計算書特別會計計算書ノ儀
 明治二十四年度以降帝國議會へ提出可相成ニ付一通ニテハ差支候間二十四
 年度分ハ來二十四日迄ニ寫一通御差出シ二十五年度以降ハ正副二通御送付
 可有之此段及御通達候也

●本省へ提出スヘキ一般會計經費決算報告書様式ノ件

第四章 決算

〇會計課長通牒發會第三百六號 昭和四年五月七日
 本省へ提出スヘキ一般會計經費決算報告書ハ昭和三年度分以降別紙様式ニ
 依リ御調整相成度右通牒ス

(用紙美濃判)

昭 和 何 年 度
一般會計經費決算報告書

部 局 名

収入總報告書調製後ニ到着シタル収入報告書ニ係ル収入總報告書ハ是迄當
該月ノ追加總報告書ヲ製シ御送付相成候處本年四月分以降右追加總報告書
ヲ製スルコトヲ止メ可成當該月ノ總報告書ニ編入スヘキ様收入報告書取
メ方御取計相成度若又距離遠隔通信不便ノ地ニアル收入官吏ニ係ルモノ
シテ當該月ノ總報告書調製後ニ到着シタルトキハ其到着セシ月ニ調製スヘ
キ總報告書ニ合算有之度但翌年度八月分總報告書調製後ニ收入報告書到着
シタルトキハ其都度八月分追加總報告書ヲ製シ御送付相成度此段及御通知
候也
(但書中八月分トアルハ會計規則ノ結果六月分トナレリ)

●三月末日以前ノ調定濟額ヲ四月分以降ノ
徴收總報告書へ編入スルトキ事由記載方
ノ件

○大藏省主計局長照會坤第千三百八十號 明治二十七年四月二日
三十六年度歳入本年三月末日以前ノ調定濟額ヲ四月分以降ノ収入總報告書
へ掲載報告スル場合(收入官吏ノ報告額ニシテ當該月ノ収入總報告書ニ編
入シ難ク四月以降ノ總報告書ニ編入報告スル場合ニ起ル分)ニハ同書事由
欄ニ三月末日以前ノ調定濟額ナルコトヲ附記相成候處此段及御照會候也
進テ三月以前ノ調定濟額ニシテ記載報告漏等ヲ發見シ四月以降ノ報告書
ニ掲載追報スル分並ニ四月一日以降誤テ調定ヲ爲シタル分等有之候節ハ
事由欄ニ其事由ヲ詳記相成度又二十七年歳入金ニシテ本文同様
ノ場合ニハ總テ同一ニ御取扱相成度爲念此段申添候也

〔文會例〕

〔文會例〕

令第二十號第一號書式備考参照)ニスルコト

- 一 定額戻入、科目更正等ノアル場合ハ本月分欄ニハ本月發行高ヨリ定額戻入、科目更正高ヲ控除シタル高ヲ計上シ備考ニ其ノ金額事項ヲ朱書スルコト
- 一 大正十一年五月十一日發會第一一二號照會ノ送付期日勵行ノコト
- 附記
- 一 徴收報告書、支出濟額報告書共ニ不備ノ爲付箋返戻ノ分再送ノ場合該付箋存置スルコト
- (注意)
- 大正十一年五月十日發會第一一二號ハ支出濟額報告書ノ提出期日(翌月七日迄)ノ件ナリ

●徴收報告書並支出濟額報告書提出方ニ關
スル件

○會計課長通牒發會百二十八號 大正十三年四月二十一日
從來徴收報告書並支出濟額報告書提出ノ際其ノ月ニ於テ使用セサリシ科目
或ハ徴收及支出ノナキ場合ニハ往々右報告ヲ省略セラルル向アリシモ斯ク
テハ當省ノ總報告書調製ニ際シ支障不尠且ツハ其ノ筋ヨリ申越ノ次第モ有
之ニ付タトヒ其ノ月ニ徴收、支出ナクトモ一度事項ノ生セシモノハ將來必
ス御報告ノ様致度此段通牒ス
進テ十二年度十三年三月分ニ於テ省略セラレアル向ハ折返シ御送付相成
度此旨申添フ
(參考)

●國有財産整理資金特別會計歳入徴收報告書副本送付ニ

●最終歳入徴收額計算書ニ證明記入及調査
添附方ノ件

○會計課長移牒 大正十三年八月二十七日
○會計検査院部長照會 大正十三年八月十六日
貴官所管各部署ヨリ提出スル計算書ノ内最終歳入徴收額計算書中計算證明
規程書式第一號收入官吏現金領收額及收入濟額ト日本銀行領收濟額トノ對
照欄ヲ脱漏シ又最終支出計算書ニ添附スヘキ資金調書歳入殘餘調書ヲ作成
セサルモノ多數有之銀行對照上支障甚シク其ノ都度審理照覆ヲ重ナル等繁
雜ヲ相極メ候間此ノ際特ニ御示達相成萬遺算ナキヲ期シ度候此段及照會候
也

●徴收報告書並支出濟額報告書調製ニ關ス
ル件

○會計課長通牒發會百六十八號 大正十一年六月五日
徴收報告書並支出濟額報告書ハ大要左記各項ニ御留意ノ上調製相成度
記
徴收報告書ノ部
一 目マテ記載スルコト
一 歳入金突合表ハ原本添附スルコト
一 學校及圖書館出納事務取扱規程第六條ノ送付期日勵行ノコト
支出濟額報告書ノ部
一 會計別ニ臨時經常別ニスルコト
一 用紙ハ美濃紙(美濃形ニアラス大正十一年三月二十九日官報大藏省

〔文會例〕

〔文會例〕

關スル件

○大藏省管轄管財局長官依頼管管國第千八百八十五號 昭和七年八月十五日
(商工省會計課長)
調査上必要有之候條國有財産整理資金特別會計歳入徴收報告書ハ昭和七年
八月分ヨリ大藏大臣ニ報告ノ都度其ノ副本ヲ當局ニ御送付相成度此段及御
依頼候也
(參考)

●歳入徴收報告書等現金拂込仕簿記載方

○内務省會計課通牒官第十九號 大正四年三月十二日
歳入徴收官ノ毎月提出スヘキ徴收報告書並歳入事務處理廳ノ毎月提出ス
ヘキ徴收總報告書中現金拂込仕簿ニ付テハ經常部臨時部各別ニ記載ス
ルコトニ相成居候(共「現金拂込仕簿」ノ上ニ「經常部及臨時部」ノ文字
ヲ附記シ便宜經常部ニ合算掲記スルモ差支無之旨大藏省主計局長ヨリ通
牒有之候
(參考)

●歳入トシテ一度調定シタル科目ニ付テハ翌月以降調
定若ハ收入ノナキ月モ徴收報告書ニ掲記スヘキ件

○商工省會計課長通牒乙發第九十二號 明治四十四年二月
各 部 局 長
歳入トシテ一度調定シタル科目ニ付テハ翌月以降ニ於テ其ノ月ノ調定
若ハ收入ノ有無ニ不拘徴收報告書中へ掲記スヘキ管ノ處往々調定若ハ
收入ノナキ月ニアリテハ之レヲ掲記セサル向有之候ニ付自今必ス掲記

セラルル事ニ御承相成度右通知ス

歳入金月計突合表送付ノ件

○會計課長移牒官會百三十四號 大正十五年七月六日

收支ヲ取扱フ部局長 歳入金月計突合表送付ノ件ニ關シ大藏省主計局長ヨリ別紙寫ノ通通牒有之タルニ付此段移牒ス

(別紙)

○大藏省主計局長通牒計第三百五十八號 大正十五年六月二十四日 日本銀行國庫金取扱規程改正ノ結果歳入金月計突合表(一般會計及)ハ日本銀行ニ於テ取扱ヒタル本月分收入額及其ノ累計額ヲ掲ケ毎月二通ヲ調製シ毎年度所屬歳入金出納ノ翌年度五月底ノ分(一般會計及)マテ之ヲ歳入徴收官ニ同行ヨリ送付スヘキニ付其ノ一通ハ本月分收入額ノ有無ニ不拘歳入徴收官ヨリ送付ヲ受ケ徴收報告書ヲ送付ヲ要セサル場合ニ於テモ月計突合表ハ必ス大藏省ニ送付相成様致度右ハ國庫金出納及政府有價證券受拂計算書並附屬歳入金及歳出金内譯表ト照合上必要ニ有之候ニ付夫々御管下當務者ヘ御示達相成度此段及御通牒候也

(參考)

歳入金月計突合表提出方ニ關スル件

○商工省會計課長通知發乙一第七百二十一號 大正十一年五月四日

各 部 局 長 歳入徴收額計算書及徴收報告書ニ添附提出可相成日本銀行月計突合表ハ徴收報告書ニ原本ヲ歳入徴收額計算書ニ其ノ謄本ヲ添附提出相成可然コトニ會計検査院並大藏省ノ回答ヲ得候ニ付右ニ御了知相成度此段及通知候也

〔文會例〕

ノ趣了承徴收額計算書ニハ日本銀行月計突合表ノ謄本ヲ提出スルコトニ會計検査院ト協議濟ニ付右ニ御了知相成度此段及回答候也

(參考)

歳入金月計突合表ニ關スル件

○司法省會計課長通牒會甲第四百三十五號

昭和四年十二月十四日

歳入徴收官ヨリ本省ニ毎月提出有之候標記突合表中歳入徴收官ノ證明ヲ附シタルモノ有之候處右ハ正副混同ノ虞アルニ付爾後大正十五年三月二十九日大藏省令第五號ノ規定ニ基キ證明ナキモノヲ提出有之度尙同突合表ニ受付年月日並取扱者ノ印ヲ押捺セサル様御留意相成度

徴收報告書ノ收入濟額ト月計突合表ト不

符合ノ場合ノ取扱ニ關スル件

○會計課長移牒官會四百十三號 大正十一年七月十二日

直轄部局長

大藏省ヨリ別記ノ通通牒アリタルニヨリ該趣旨ニ據リ整理相成度右移牒ス(別記)

○大藏省主計局長通牒 大正十一年七月八日 歳入金中年度誤謬其ノ他ノ事由ニヨリ徴收報告書ノ收入濟額ト銀行拂込高ノ歳入金月計突合表ト不適合ニシテ差額ヲ生シタル場合ニハ早速更正方取計ラヒ必ス次月分ノ報告書ニ於テ完結相成様致度夫々御管下當務者ニ御示達相成度此段及通牒候也

○會計検査院第一部長ヘ照會 大正十一年四月一日

本年四月一日ヨリ改正施行セラルヘキ計算證明規程第五條ニ依リ提出スル歳入徴收額計算書ニハ日本銀行月計突合表ヲ添附スヘキ旨同第七條ニ規定有之候モ右日本銀行月計突合表ハ會計規則第三十七條、第三十八條ノ規定ニ依リ徴收報告書並徴收總報告書ノ參照書類トシテ添附(大正十一年三月二十九日大藏省令第二十號帳簿其他ノ様式中第四號、第五號書式參照)シ大藏大臣ニ送付ヲ要シ候ニ付日本銀行ヨリ該突合表二通ヲ回付セラレサル以上ハ何レカ一方ニ添附スルノ外無之儀ニ付何レニ添附スヘキヤ大藏大臣ト御協議ノ上至急何分ノ儀御同示相煩度此段及照會候也

○會計検査院第一部長回答 大正十一年四月十四日 本月一日發乙一第七二一號御照會ノ趣了承歳入徴收額計算書ニ添附證明セラルヘキ日本銀行月計突合表ハ謄本ニテ差支無之候條此段及回答候也

○大藏省主計局長ヘ照會 大正十一年四月一日 改正會計規則第三十七條、第三十八條ニ依リ送付スヘキ徴收報告書並徴收總報告書ニハ參照書類トシテ日本銀行月計突合表ヲ添附ヲ要シ候處改正計算證明規程第五條ニ依リ提出スル徴收額計算書ニモ日本銀行月計突合表ヲ添附スヘキ旨同第七條ニ規定有之候就テハ日本銀行ヨリ該表二通回付セラレサルニ於テハ夫々添附難致候條毎月二通宛回付相成候若ハ會計検査院ト御協議ノ上何レカ一方ノミ提出スル様御取計相煩度此段及照會候也

○大藏省主計局長回答 大正十一年四月二十七日 四月一日附發乙一第七二一號ヲ以テ日本銀行月計突合表ニ關シ御照會

〔文會例〕

歳入徴收額計算書中記載方ノ件

○會計課長通牒官會百七十四號 大正十四年五月五日

大正十三年度以降歳入徴收額計算書中記載方ニ就キ會計検査院ヨリ左記ノ通照會アリタルニ付此段通牒ス

記

一、計算證明規程書式第一號歳入徴收額計算書(最終ノ分)中收入濟額ト日本銀行領收濟額トノ對照記載方ハ從來經常、臨時部歳入ト資金部歳入トノ合計ヲ掲記シ來リタルモ大正十三年度以降ノ計算書ニハ右二様ニ區分記載アリ度

二、最終ノ計算書ニシテ既ニ提出濟ノ分ニ對シテハ前項ノ區分申報書ヲ會計検査院ヘ提出アリ度

(參考)

歳入徴收額計算書ノ「收入濟額ト日本銀行領收濟額ト」ノ對照ノ部ノ證明ニ關スル件

○會計検査院部長照會普第三百一號 大正十三年九月五日

(商工大臣官房會計課長)

歳入徴收額計算書ハ大正十一年度分ヨリ改正書式ニ依リ調整セラルヘキ旨ニ候處計算證明規程第一號書式中「收入濟額ト日本銀行領收濟額ト」ノ對照ノ部證明漏ノ向有之日本銀行證明額ト對照上差支候條收入濟額ト日本銀行領收濟額トノ間ニ差異ナキ場合ト雖收入濟額及日本銀行領收濟通知總額並歳入金月計突合表作成店別ニ依ル(本店、支店、統轄代理店)内譯及金額ニ付所定ノ書式ニ依リ漏ナク證明相成候様各

第四章 決算

支部局へ通知方御取計相成度此段及照會候也

●徴收報告書ノ拂込未済額及収入済額ト日
本銀行月計突合表トノ差額ニ對シ事由附
記ノ件

○會計課長通牒發會百三十五號 昭和二年四月十五日
從來徴收報告書御提出ノ際現金拂込済仕譯欄中ノ差引翌月へ越高及収入済額ト日本銀行月計突合表トノ差額等ニ對スル説明省略セラルル向アルモ當省ニ於テハ總報告書調製上ノ確正ヲ期スル爲且又其筋ヨリノ申越シノ儀モ有之ニ付爾後御提出ノ分ニハ必ス其事由ヲ簡明ニ御記載報告相成様此段通牒ス
追而目下調製中ノ分ヨリ直ニ實行相成度申添フ

●徴收報告書、支出報告書ノ誤算謬記並期
日遅延ニ關スル件

○會計課長通牒發會百四十一號 昭和二年七月二十六日
定期御提出ニ係ル毎月分歳入徴收報告書及支出済額報告書中誤算謬記等ノ事項勘カラサルノミナラズ提出期限ニ著シク遅延ノ向アル爲之カ照會訂正等ニ徒ニ日子ヲ費シ從ツテ統轄上支障ヲ生スルハ遺憾ニ堪ヘサル所ナルヲ以テ以後報告書調製ニ際シテハ慎重御考慮ノ上斯ルコトナキ様篤ト御留意相成度右通牒ス
(參考)

○内務大臣官房會計課通牒三課發第四百六十一號 昭和四年一月十一日

〔文會例〕

●歳入増減計算書様式ノ件

○大藏大臣通牒第六千四百九十號 大正十二年七月五日
改正 昭和八年七月第五三六號

文部大臣

會計規則第七十一條ニ依リ御送附相成ルヘキ大正十一年度以降歳入増減計算書ハ別紙書式ニ依リ御調製相成度此段及通牒候也
(別紙書式)

大正何年度歳入増減計算書

(歳入事務管理廳)

何 省

大正何年度歳入増減計算書説明

歳入經常部

第一款 租 稅

第一項 地 租

第一目 田 租

大正何年一月一日現在有租地地價額(何々ニ依リ何收入金、納金、拂下代又ハ何々)ノ少カリシカ爲

一、五八四、五〇〇

第四章 決算

府北警 海視 縣道廳

歳入徴收額計算書附屬證據書ノ代用トシテ會計検査院ニ提出スル調定調書ハ官有物貸下料中地所及水面ノ貸下又ハ使用料ニシテ料金年額拾圓未満ノモノ並ニ物品拂下代ニシテ一廉拾圓未満ノモノニ限リ別紙記載例ニ準シ一括記載シ差支ナキコトニ同院ノ承認ヲ得候條御了知相成度(別紙)

合記數例

調定額	貸下(年)別	年 額	貸下別目	年 額	備 考
120.00	100.00	140.00	10 圓未満	20 圓	10 圓未満

備考 地所、水面使用料調定調書ニ準ス

○物品拂下代調定調書内課中一廉拾圓未満ノモノ一括ノ場合記載例

調定金額	品 目	数	量	單 價	持受人	備 考
60.00	砂	200.00	50 錢	20 錢	10 圓未満	10 圓未満

〔文會例〕

免租地成ノ多カリシカ爲

二、一五一六〇

地目變換ニ依リ租額ノ減少スルモノ多カリシカ爲

五、二六四四〇

滞納處分ノ末(納人無資力又ハ何々ニ依リ)缺損ニ歸シタルモノアリシカ爲

三、〇〇〇〇〇

滞納處分(又ハ督促)中年度經過ニ依リ翌年度へ繰越シタルモノアリシカ爲

一、五六一三五〇

合 計

四、一二一四五〇

ヲ減少セリト雖

五、三二一三五〇

有租地成(何々ニ依リ何收入金、納金、拂下又ハ何々)ノ多カリシカ爲

二、〇六七三三〇

開墾成功ニ依リ租額ノ増加スルモノ多カリシカ爲

一、五〇二〇〇

調定超過額(又ハ何々)ノ收入アリシカ爲

一、〇五〇〇〇〇

前年度ヨリ繰越ニ係ル既往年度未納金ノ徴收アリシカ爲

八、四五三七〇〇

ヲ増加セシニ依リ差引

三五九

科 目	前年度調 定繰越高	前々年度以前 調定繰越高	本年度 収入済額	本年度 欠損額	本年度 整理高	本年度 増減	差引翌年度 繰越高
第二款 何々	三、三五六〇〇	三、二七一〇〇	三、二七一〇〇	三、二七一〇〇	〇	〇	一、五五〇
一何々	三、三五六〇〇	三、二七一〇〇	三、二七一〇〇	三、二七一〇〇	〇	〇	〇
二何々	二、六六七〇〇	二、八八九〇	二、八八九〇	二、八八九〇	〇	〇	〇
歳入臨時部合計	五、四七七〇〇〇	三、八三三六〇	六、三三三六〇	六、三三三六〇	〇	〇	二〇六四〇〇
歳入総計	一、六三三、三七〇〇〇	一、六四四、〇三九八〇	一、六四四、一〇一、九八〇	一、六四四、一〇一、九八〇	三、六五六、四〇〇	三、〇八八、六六〇	〇

備考

一、実行豫算編成ノ年ニ於テハ「豫算額」欄ヲ「施行豫算額」ノ二欄ニ区分シ「豫算額ニ比シ収入済額ノ差」ノ欄「増」トアルヲ「施行豫算額ニ比シ」トシ減差額ハ△印ヲ附シ又「減」トアルヲ「実行豫算額ニ比シ」トシ減差額ハ△印ヲ附シ表示スルモノトス

大正何年度歳入増減計算書附屬繰越額整理表

科 目	前年度調 定繰越高	前々年度以前 調定繰越高	本年度整理高			本年度 増減	差引翌年度 繰越高
			収入済額	欠損額	計		
歳入經常部	四	四	四	四	四	四	四
租(款)	一、一〇九、〇〇〇	一、六二二、〇〇〇	七、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	△	七、三九〇
地租(項)	一、一〇九、〇〇〇	一、六二二、〇〇〇	七、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	△	七、三九〇
田租(目)	一、一〇九、〇〇〇	一、六二二、〇〇〇	七、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	△	七、三九〇
畑租(目)	〇	〇	〇	〇	〇	△	三、〇〇〇

〔文會例〕

〔文會例〕

何々(款)	前年度調 定繰越高	前々年度以前 調定繰越高	本年度整理高			本年度 増減	差引翌年度 繰越高
			収入済額	欠損額	計		
何々(項)	一、二〇〇	〇	〇	〇	〇	△	一、二〇〇
何々(目)	一、二〇〇	〇	〇	〇	〇	△	一、二〇〇
歳入經常部合計	一、一〇九、〇〇〇	一、六二二、〇〇〇	七、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	△	七、三九〇
歳入臨時部	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
何々(款)	三、六三〇	一、一〇〇	〇	〇	〇	〇	四、八三〇
何々(項)	三、六三〇	一、一〇〇	〇	〇	〇	〇	四、八三〇
何々(目)	三、六三〇	一、一〇〇	〇	〇	〇	〇	四、八三〇
歳入臨時部合計	三、六三〇	一、一〇〇	〇	〇	〇	〇	四、八三〇
歳入総計	一、一〇九、〇〇〇	一、六二二、〇〇〇	七、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	△	七、三九〇

●歳入歳出現計調提出ニ關スル件

○會計課長照會直照會七號 大正十三年三月十日

收支ヲ取扱フ直轄各部局長並支部長
北海道廳長官、府 縣 知 事

大正十二年度歳入歳出現計調提出方ニ關シ別紙寫ノ通大藏省主計局長ヨリ
照會ノ次第モ有之ニ付別紙様式ニ基キ御調製ノ上四月五日迄到達スル様御
送付相成度此段照會ス

(注意) 時ニヨリ様式ノ相違スルコトアルヘシ

(備考)

- 一 別紙寫添付ス
- 一 北海道廳長官、各府縣知事ニハ「歳入現計調」並「歳入収入見込額豫算比較内譯表」ノ添付ヲ要セス

(別紙)

○大藏省主計局長照會 大正十三年二月十四日
大正十二年度歳入歳出現計調ノ儀財政計畫調査ノ必要上差急キ別紙様式ニ
依リ御調製ノ上來ル四月十日迄ニ御送付相成度本件ニ付テハ從來御送付遲
延ノ向有之計畫上支障ヲ來タスコト妙カラス殊ニ本年ニ於テハ臨時議會開

第四章 決算

會ノ都合上特ニ差急候事情モ有之候ニ付其ノ邊篤ト御配慮ノ上期日迄ニハ必ス御送付相煩度此段及御照會候也

(注意)
本件調査ハ毎年提出ヲ要スル儀ト御承知ヲ請フ

(様式)

科目	大正十二年度歳入現計調				
	預算額	調定額	見込額	見込額	
經常部	何々(款)	何々(項)	何々(款)	何々(項)	不納收
					損未済
臨時部	何々(款)	何々(項)	何々(款)	何々(項)	入
					預算額ニ比シ
經常部合計	何々(款)	何々(項)	何々(款)	何々(項)	増
					減
歳出總計					

[文會例]

臨時部合計	歳入總計

●歳入歳出現計調送付ノ件

○會計課長通牒發會百四十二號 大正十五年四月十二日

直轄各部長
北海道廳長官
府縣知事

大正十四年度歳入歳出現計ニ付テハ目下御調製中ノコトト存スルモ可成別紙様式ニ依リ御調製ノ上來ル十六日迄ニ必ス到達スル様御提出相成度爲念右通牒ス

(別紙様式)

大正十四年度文部省所管歳出現計調

第四章 決算

[文會例]

科目	大正十二年度歳出現計調				備考
	預算額	決定額	計(現豫)	見込額	
經常部	何々(款)	何々(項)	何々(款)	何々(項)	增加額
臨時部	何々(款)	何々(項)	何々(款)	何々(項)	計(現豫)
歳入總計	何々(款)	何々(項)	何々(款)	何々(項)	見込額
經常部合計					
臨時部合計					
歳出總計					

科目	臨時部	經常部合計	何々(款)	何々(項)	支出		備考
					委任額	支出額	
經常部	何々(款)	何々(項)	何々(款)	何々(項)	三月三十一日迄	四月三十一日迄	全年度繰越見込額
					見込額	見込額	
臨時部	何々(款)	何々(項)	何々(款)	何々(項)	三月三十一日迄	四月三十一日迄	全年度繰越見込額
					見込額	見込額	
歳出總計	何々(款)	何々(項)	何々(款)	何々(項)	三月三十一日迄	四月三十一日迄	全年度繰越見込額
					見込額	見込額	

用紙ハ美濃紙ノコト

大正十四年度文部省主管歳入現計調

科目	目	調定額	収入済額	収入見込額	不納賦損見込額	収入未済見込額
經常部	何々(項)					
何々(項)						
何々(項)						
經常部合計						
臨時部	何々(項)					
何々(項)						
臨時部合計						
歳入總計						

備考

用紙ハ美濃紙ノコト

調定額ハ三月三十一日迄ニ調定ヲナシタル總額ヲ掲グルモノトス

(注意)

本調書ハ毎年提出ヲ要スルモノトス

提出期日ニ關シテハ特ニ通牒ナキ限リ四月十日迄トス

〔文會例〕

〔文會例〕

支出濟額報告書中科目更正ニ關スル件

○會計課長通牒發會二百六十二號 昭和三年六月五日 毎月提出スヘキ支出濟額報告書中科目更正ノ場合ニ於ケル記載方ニ關シテハ從來備考欄ニ金額ノミヲ記入ニ止マリタルモ爾今左記ノ例ニ依リ記載報告相成度右通牒ス

例

科目更正増(減)金額(何々會計)ヨリ 或ハ經常部(臨時部)ヨリ(但減額ノ場合ハ必ス朱記ノコト)

(參考)

○歳入歳出年度科目所管廳誤記訂正手續

○大藏省訓令第四十八號 明治三十一年七月六日 改正 明治三十九年九號

警視廳 北海道 府廳 稅關 印刷局 造幣局

明治二十七年五月 大藏省訓令第三十號 歳入歳出年度科目所管廳誤記訂正手續左ノ通改正ス

- 一 歳入徴收官ニ於テ納額告知書又ハ納額通知書發付ノ後科目所管廳ニ誤記アルヲ發見シ之カ訂正ヲ爲ストキハ徴收簿ニ訂正ノ記入ヲ爲シ其ノ記入ヲ爲シタルトキ既ニ其ノ月ノ計算締切後ナルトキハ訂正ヲ爲シタル月ノ徴收報告書ニ事由ヲ附シテ之ヲ掲記スル事
- 二 前項ノ歳入金ニシテ既ニ納額告知書又ハ送付書若クハ納付書ニ

支出濟額報告書添付書類ノ件

○會計課長通牒發會三百六十號 昭和八年九月三十日 支出濟額報告書審査上必要有之ニ付本年度本年九月分ヨリ支出濟額報告書御提出ノ場合ハ左記書類ハ必ス添付相成様致度右依命通牒ス

- 一、日本銀行ニ證明セル其月 一通
- 一、日本銀行ニ證明セル其月 一通
- 一、歳出金月計突合表寫 一通
- 一、支出官事務規程第三十七條ノ場合ハ其ノ證明書ノ寫 一通

支出濟額報告書提出方ニ關シ地方長官ニ通知ノ件

○會計課長通知發會百二十八號 大正十三年四月二十一日

從來本省所管經費ニ關スル支出濟額報告書御提出ニ際シ其ノ月ニ於テ支出ナカリシ場合ハ往々ニシテ右報告ヲ省略セラルル向アルモ斯クテハ當省ノ總報告書調製ニ際シ支障不尠且ツ其ノ筋ヨリ申越ノ次第モ有之ニ付タトヒ其ノ月ニ支出ナクトモ一度事項ノ生セシモノハ必ス御報告ノ様致度此段通知ス

道テ十二年度十三年三月分御省略ノ向ハ折返シ御送付相成度此旨申添フ

支出濟額報告書提出期日ノ件

○會計課長照會發會百十二號 大正十一年五月十一日 會計法、會計規則改正ノ結果報告可相成大正十一年度大正十一年四月分支出濟額報告書ハ總報告書調理ノ都合有之ニ付本月十五日迄ニ無相違報告相成度爲念一應照會ス

- 依リ(金庫)ニ於テ現金領收ノ後ナルトキハ歳入徴收官ヨリ又收入官吏ニ於テ現金拂込書ノ科目所管廳ニ誤記アルヲ發見シタルトキハ收入官吏ヨリ關係(金庫)ニ之カ訂正ヲ請求スル事
- 但シ科目ノ訂正ニシテ租稅ト租稅外收入トニ關聯セサルモノハ此限ニアラス
- 三 削除
- 四 (金庫)ニ於テ第二項ノ訂正請求若クハ明治二十四年大藏省令第十一號ニ依リ歳入年度ノ訂正請求ヲ受ケタルトキハ直ニ現金出納原簿歳入金各處内譯簿其ノ他關係帳簿ニ之レカ訂正ノ記入ヲ爲ス事
- 五 (仕拂命令官)ニ於テ(仕拂命令集合仕拂命令)ヲ發行シタル後年度科目所管廳ニ誤記アルヲ發見シタルトキハ年度科目所管廳訂正書ヲ(金庫)ニ送付スル事
- 六 (金庫)ニ於テ第五項訂正書ノ送付ヲ受ケタルトキハ直ニ支出簿其ノ他關係帳簿ニ訂正ノ記入ヲ爲ス事
- 七 歳入歳出ノ誤記ヲ訂正スルハ總テ翌年度(六月三十日)限リトス但(金庫)ニ於テ訂正ヲ爲スハ翌年度(六月三十日)以前訂正請求書ヲ受ケタルモノニ限ル
- 八 經常部ト臨時部トノ誤記モ本令ニ準シ訂正スルコト

●支出未済金及用途指定寄付支出残金整理

方ノ件

○會計課長通牒 明治二十六年四月二十六日

直轄各部長

官立學校及圖書館會計ニ屬スル支出未済金及用途指定寄付支出残金年度繰越ノ際ハ別記ノ通整理スヘキ儀ト御承知有之度此段及通牒候也

- 一 官立學校及圖書館會計ニ屬スル甲年度支出未済金ヲ乙年度ニ繰越シタルトキハ乙年度ニ於テハ歳入ノ決算ニ編入ヲ要スルモ右ハ收入官吏ニ於テ取扱ハサルヲ以テ收入簿及現金出納簿ニハ記入ヲ要セス歳入歳出決定計算書ニ於テ確定額、收入済額及決定額ノ欄ヘ記載スルモノトス
- 二 同上甲年度用途指定寄付支出残金(仕拂元)ヲ乙年度ニ繰越シタルトキハ乙年度ニ於テハ右繰越金ニ歳入豫算ノ有無並歳出ニ充用スルト否トニ拘ラス前項同一ニ整理スルモノトス但歳入豫算額アルモノハ歳入歳出決定計算書豫算定額ノ欄ヘ右豫算額ヲ記載スルハ勿論ナリトス

●官立學校及圖書館會計ニ係ル前年度繰入金及政府支出金證明方ノ件

○學校及圖書館會計監理官通牒 明治二十八年七月二十二日

直轄各部長

官立學校及圖書館會計ニ係ル前年度繰入金及政府支出金證明方ニ關シ別紙甲乙寫ノ通會計検査院ヘ照會ヲ送ケ候條右様御了承主任ヘ御示達有之度此

段及御通牒候也

(別紙)

(甲)

○會計検査院部長ヘ照會 明治二十八年五月十四日

【官立學校及圖書館會計規則第三十條第三十一條及第三十四條ニ據リ】繰越ヲ爲シタルトキ右ニ對スル仕拂元受金ヲ後年度歳入豫算ニ編入スルハ其ノ年度ニ於ケル歳出ニ對シ財源ヲ明ニスル爲便宜之ヲ計上スルモノニシテ決算ニ際シテモ亦同一ノ理由ニ依リ豫算ニ計上シタルモノタルト否トヲ問ハス決定計算書(會計規則第十四條)ニ於テハ之ヲ掲載スト雖トモ素該金ハ普通會計ニ於ケル前年度剩餘金等ノ繰入ト同シク一旦國庫ノ歳入トシテ決算ヲ了シタルモノニ付之ヲ後年度ニ繰入ルヲ其ノ年度ニ於テ納入ヨリ徵收スル歳入金トハ全ク種類ヲ異ニスルハ勿論會計法上歳入確定官ハ當該年度ニ於テ始メテ國庫ニ納入スヘキ歳入ノ金額ヲ確定シ又收入官吏ハ其ノ確定額ニ基キ納入ヨリ現金ヲ徵收シ及收入済金額等ニ對シ帳簿上ノ整理ヲナスヘキモノナルカ故ニ前記前年度繰入金ニ對シテハ歳入確定官又ハ收入官吏ノ職務トシテ整理スヘキ限リニアラサルヲ以テ當該官吏ノ帳簿ニハ登記セス職務トシテ整理スルニ據リ當該官吏ヨリ移替ノ上直ニ特別會計歳出仕拂元受金トナスノ順序ニ改定相成候ニ付同年度以降是亦前段同様ニ有之候ニ付テハ誤解ノ虞無之様當該官吏ヘ示達可致候條爲念一應及御照會候也

○會計検査院部長回答 明治二十八年七月十五日

官立學校及圖書館會計ニ係ル前年度繰入金及政府支出金ノ儀本年五月十四日附

〔文會例〕

(別紙)

ヲ以テ御照會之趣了承右前年度繰入金證明方ニ就テハ最前照覆ノ次第モ有之已ニ政府支出金ト同シク歳入確定額計算書上夫々證明相成居候處收支ノ手續上歳入確定官又ハ收入官吏ノ職務トシテ整理セサル上ハ御來意ノ如ク當該官吏ノ計算證明ヲ要セサル儀ニ有之候右主管ノ件ニ付本官ヨリ此段及御回答候也

●第二豫備金支出ニ係ル費途ノ計算書寫提出方

出方

○會計検査院部長照會 明治三十五年十月四日

御省所管明治三十四年度第二豫備金支出ニ係ル災害費其ノ他ノ費途ニ關シ會計規則第二十一條ニヨリ大藏省ヘ御送付相成候計算書寫検査上必要ニ付御送付相成度此段及照會候也

追テ本文ノ件ハ明治三十五年度以降其ノ都度御提出相成度此段申添候也

●第二豫備金支出調書及豫備金外支出調書

書式ノ件

○大藏大臣通牒第一萬二千八百三十九號

大正十一年十一月十八日

文部大臣

會計規則第二十五條ニ依リ御送付可有之貴省所管第二豫備金支出調書及豫備金外ニ於テ豫算超過並豫算外支出ヲ爲シタル調書ハ大正十一年度以降別紙書式ニ依リ御調製御送付相成度此段及御通知候也

第四章 決算

大正何年度何省第二豫備金支出調書

何省

何々費(事項、以下同シ)

大正何年度何々特別會計第二豫備金支出調書

何々費(事項、以下同シ)

何々ノ款何々ノ項

(一款一項ノ例)

說明

何々(豫算外ノ支出ヲ要シタル事由)ニ依リ大正何年何月何日第二豫備金ヨリ支出ノ儀勅裁ヲ經タリ

何々費

何々ノ款何々ノ項

何々ノ款何々ノ項

(一款二項以上ノ例)

第四章 決算

説明

何々(豫算外ノ支出ヲ要シタル事由)ニ依リ大正何年何月何日第二豫備金ヨリ支出ノ儀勅裁ヲ經タリ

圓

大正何年度何省所管
何々特別會計豫備金外支出調書

何省

大正何年度何々特別會計豫備金外支出調書

歲計剩餘金(又ハ歳入金)

豫算超過支出

何々(補充費途、以下同シ)

何々ノ款何々ノ項

(項ニテ補充費ノ例)

説明

何々(補充ヲ要シタル事由)ノ支出ヲ要スル多カリシカ爲豫算ニ不足ヲ生シタルニ依リ大正何年何月何日歲計剩餘金(又ハ歳入金)ヨリ支出ノ儀勅裁ヲ經タリ

〔文會例〕

計 (又ハ歳入金)ヨリ支出ノ儀勅裁ヲ經タリ

大正何年度何省所管

何々特別會計第二豫備金支出調書

何省

大正何年度何々特別會計第二豫備金支出調書

何々 費(事項、以下同シ)

何々ノ款何々ノ項

(一款一項ノ例)

説明

何々(豫算外ノ支出ヲ要シタル事由)ニ依リ大正何年何月何日第二豫備金ヨリ支出ノ儀勅裁ヲ經タリ

内

何々ノ款何々ノ項

何々ノ款何々ノ項

(一款二項以上ノ例)

第四章 決算

圓 圓 圓

何々

内

何々ノ款何々ノ項何々

何々ノ款何々ノ項何々

(目ニテ補充費ノ例)

説明

何々(補充ヲ要シタル事由)ノ支出ヲ要スル多カリシカ爲豫算ニ不足ヲ生シタルニ依リ左記ノ通り歲計剩餘金(又ハ歳入金)ヨリ支出ノ儀勅裁ヲ經タリ

大正何年何月何日

同 年何月何日

(一補充費途ニシテ二回以上支出ノ例)

(一款一項ノ例)

説明

何々(豫算外ノ支出ヲ要シタル事由)ニ依リ大正何年何月何日國庫剩餘金(又ハ歳入金)ヨリ支出ノ儀勅裁ヲ經タリ

何々 費

何々ノ款何々ノ項

何々ノ款何々ノ項

(一款二項ノ例)

説明

何々(豫算外ノ支出ヲ要シタル事由)ニ依リ大正何年何月何日國庫剩餘金

〔文會例〕

計 説明

何々(豫算外ノ支出ヲ要シタル事由)ニ依リ大正何年何月何日第二豫備金ヨリ支出ノ儀勅裁ヲ經タリ

圓

大正何年度何省所管

何々特別會計豫備金外支出調書

何省

大正何年度何々特別會計豫備金外支出調書

別紙様式ニ依リ御調製相成度右通様ス

(用紙美濃判)

昭和何年度

一般會計經費決算報告書

部 局 名

